

平成25年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

FD活動報告書



大妻女子大学人間関係学部FD委員会

平成 25 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 25 年度の人間関係学部 FD 活動報告書をお届けします。人間関係学部は平成 15 年から本格的に FD 活動に取り組み、平成 25 年度で 11 年目になります。これまでに蓄積した活動である「FD 研修会活動」「授業アンケート（学生による授業評価）」「学科・専攻における FD 活動」「保護者懇談会」「オフィスアワー」「クラス指導」「各教員の FD 活動」「非常勤講師との教育懇談会」などをもとに、さらに新しい工夫を加えた活動成果を報告します。

ところで、日本の大学を取り巻く環境は相変わらず厳しい状況です。平成 25 年 8 月の報道によると、私立大学全体の 40.3%が入学定員充足率 100%未満、いわゆる「定員割」になっているそうです。これは前の年の 45.8%よりも好転したとはいえ、厳しい状態であることに変わりありません。さらに、18 歳人口の減少、大学、学部、学科、専攻の新設が大学間の競争に拍車をかけています。その一方で、大学間競争は「教育力」ではなく「広報技術」によって行われており、インターネット上の掲示板情報は受験生に強い影響力を与えているとも言われています。しかし、個々の大学、学部、学科、専攻が生き残るためには、最終的には「教育力」の競争に勝つ必要があり、FD 活動に真剣に取り組み、最初に確立した教育理念を固持しながらも、時代の要請に応じた変革を続け、真に社会から必要不可欠なものと認められる必要があると信じています。

本学部の FD 活動の指針は、教育基本法、学校教育法はもとより、平成 24 年 8 月 28 日付けで、中央教育審議会大学分科会大学教育部会が発表した「新たな未来を築きくための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」、そして、学校法人大妻学院寄付行為の第 3 条に示された建学の精神とその目的です。さらに人間関係学部には学部創設以来の「共生」というミッションもあります。

FD 活動に本格的に取り組んでから 10 年が経過し、人間関係学部では FD 活動が日常化されつつある感を強くしています。今回の報告には詳しく触れておりませんが、今年度からは「教員の自己評価」を始めました。また、平成 26 年には 2 回目の第三者評価を受ける予定です。いくつもの機会を自己確認の契機とし、今後ともより良い教育に向けて教職員の総力をあげて努力する所存です。

人間関係学部長 町田 章一

目 次

平成 25 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって (町田 章一)

I	平成 25 年度人間関係学部 FD 活動について (小谷 敏)	1
II-1	授業に関するアンケート (福島 哲夫)	4
II-2	授業アンケートへの回答 (小谷 敏)	60
	(1) 前期授業アンケート結果への教員の主な回答	60
	(2) 後期授業アンケート結果への教員の主な回答	62
III	学科・専攻における平成 25 年度 FD 活動への取り組み	66
1	人間関係学科	66
	(1) 社会学専攻における FD 活動に関する取り組み (小谷 敏)	66
	(2) 社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み (福島 哲夫)	70
2	人間福祉学科	75
	(1) 人間福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み (丹野 眞紀子)	81
	(2) 介護福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み (佐々木 宰)	89
IV	保護者懇談会 (佐々木 宰)	97
V	オフィスアワー (小川 浩)	105
VI	平成 25 年度クラス指導について (西河 正行)	109
VII	平成 25 年度 FD 研修会報告 (佐々木 宰)	116
VIII	非常勤講師との教育懇談会 (丹野 眞紀子)	128
IX	人間関係学部 FD 活動の課題 (小谷 敏)	133
	資 料	135

I 平成25年度人間関係学部FD活動について

I-1. 人間関係学部FD活動の取り組み

人間関係学部では、全学共通フォーマットによる授業アンケートとともに、学部FD研修会、保護者懇談会の実施とその後のアンケート、オフィスアワー、学外FD関連セミナーへの参加を学部のFD活動として位置づけている。また個々の教員のFD活動の情報を集め、公開することにも心を砕いている。前年度からの継続性を重視し、かつ毎年あらたな基軸を打ち出すことを念頭に活動が続いている。

1) 学部FD研修会の実施

平成25年度のFD研修会報告は、平成25年12月6日(金)の教授会終了後、午後5時より行われた。今年度のテーマは、「学生たちの現在2」。教員たちが学生と接していて感じる問題点を吐露しあうという点では昨年と同趣旨である。昨年は「問題を抱える学生」・「学力低下」・「学生のポテンシャルティ」の3つの小部会に分かれて議論をしたが、どの部会も同じような議論をしていたという反省から、今年はテーマごとの小部会には分けず、FD委員が司会役と記録係を務める3つの部屋に、籤でふりわけるという方法をとった。このやり方は思いの他好評で、どの部屋でも議論が盛り上がっていたようである。研修会においては、荻上学長、伊藤副学長をはじめ、事務局や学生相談センターからもたくさんのご参加をいただいた。記して謝意を表したい。

2) 学生による授業評価(前期・後期各1回)

学生による授業評価を本学部では全学共通フォーマットに基づき、卒論ゼミと学外実習を除くすべての科目を対象に前期後期、各1度ずつ実施している。各教員はアンケート結果を受け取った後、改善策を報告することになっている。アンケート結果の全体的データと教員が呈示した改善策とは、FD報告書と学部HPで公開されている。FDアンケートの回答を分析し、教育環境を整備する試みも定着し、物理的にはかなりの改善がみられていると自負している。

3) 保護者懇談会の実施とアンケート

学生の大学での生活の実態を保護者の方々に知っていただき、かつ様々な要望をくみ上げていくことを目標として、平成14年度から多摩祭に際して、保護者懇談会を実施している。平成25年度も本来であれば例年通り、学部全体の懇談会を実施した後、学科ごとに分かれ模擬授業、そして4つの専攻に分かれ、懇談会を10月26日(土)に実施する予定であった。しかしながら台風の到来によって、3週間後の11月16日(土)に順延された。本年度は、事務局主催の就職説明会と同日開催となったが、懇談会においても、保護者からの質問が就職の問題に集中していた感がある。

4) オフィスアワーの設定

平成16年度よりFD活動の一環として、全教員が各研究室でアポイントメントをとることなく学業や学生生活の全般について自由に質問することのできるオフィスアワーを実施している。各教員は最低週一こまのオフィスアワーの時間を設けることが義務付けられている。オフ

ィスアワーの時間は、一覧表にして学生に対して示されている。本学部の教員と学生たちとの関係は極めて密接であり、頻繁に研究室を訪れているが、必ずしもオフィスアワーは活用されているとはいえず、その存在と意義の周知を徹底する必要を FD 委員の多くは感じている。

5) 学部内及び全学各種委員会との連携

FD 委員会単独では FD 活動を行えないため、各種委員会との連携に意識的に取り組んでいる。FD 活動の学部 HP への掲載に当たっては広報委員会に、そして保護者懇談会の実施に当たっては学生委員会に「糸車通信」発行の協力を仰いでいる。そして授業アンケートに対する回答を生かして、本学部の教育環境を改善していくためには、教務委員会や学生委員会とのさらなる連携が図られなければならない。また本年度社会学専攻に視覚障害学生が入学してきたが、FD 委員会は障害学生支援委員会や障害学生支援室と連携をとりあい、当該の学生に対する授業アンケート等の実施を行っている。

6) 各学科・専攻による FD 活動の学部内情報共有化への取り組み

FD 活動は個々の教員の努力によるところが大きい。また学科専攻ごとに独自の取り組みも行われている。様々な取り組みの情報を共有化する努力がはらわれるべきであろう。そのために FD 報告書において一つの章を設けている。

7) クラス指導による学生への学習支援の取り組み

本学の特徴としてクラス指導主任の制度がある。学生たち、とくに1年生にとってクラスの存在は、高校時代との連続性を感じさせ、好感をもって受け容れられている。しかし、3年生になると卒論ゼミが始まり、そちらの方が学生たちにとって学生生活の重要な単位となってくる。とくに上級学年においてクラス制度を空洞化させない工夫が求められている。

8) 今後の課題

本学部においては、創設当初から公開授業を行っていた。しかし、教員が多忙で他の教員の授業を聴講することが困難な状況があり、近年は実施されていない。しかし授業公開は FD 活動の重要な柱となりうるものであり、再開するとすればどのような形が望ましいのかが検討されなければならない。以前はなされていた多摩3学部での FD 委員会の連携の復活も重要な課題といえる。

そして、いま人間関係学部の教員たちを悩ませているのが、心理的な、あるいは発達上の問題を抱えた学生の増加であることに疑いはない。そうした学生たちにどのように対処していくのか。過去2年間取り組んで来たこのテーマの重要性が薄らぐことは、当面なさそうである。

I-2. 人間関係学部FD委員会の議事

第1回委員会 平成25年4月12日(金) 12時20分~12時50分

議事 平成25年度のFD委員会の活動予定が以下のとおり確認された。
i 5月25日 授業担当者懇談会
ii 7月1日~20日 前期授業に関するアンケート
iii 10月26日 保護者懇談会
iv 12月上旬 人間関係学部FD研修会
v 12月2日~21日 後期授業に関するアンケート
vi 3月末 平成25年度FD報告書原稿提出

第2回委員会 平成25年5月10日(金) 12時20分～40分

議事 i 平成25年授業担当者懇談会の進行の確認について。ii 本年度からの授業アンケートの質問の変更点の説明がなされた。この説明は同日の教授会でも行われた。

第3回委員会 平成25年6月14日(金) 12時20分～45分

議事 平成25年度FD研修会のアウトラインが論じられた i 12月教授会終了後、午後5時ぐらいから実施予定。ii 昨年度と同様の小グループに分かれてのディスカッション形式で行う。iii テーマも、昨年度と同じ「学生たちの現在(2?)」。iii 援助を必要としている学生は概ね「学業不振」・「就職活動(の不調)」・「家庭の経済的困難」という問題を抱えているという認識が委員のなかから示された。これらの問題を軸に議論を展開していく。iv 事務室の窓口での、またカウンセリングルームでみせる学生たちの顔についても知りたいので、事務職員の方、学生相談室の先生方の積極的なご参加とご発言とをいただきたい。v 進行の詳細については、今後のFD委員会で検討していく。

第4回委員会 平成25年7月12日(金) 12時30分～45分

議事

小谷委員長より、障害学生の授業アンケートについて。視覚障害をもつ学生は、他の学生のように質問紙を自分で読んで回答することができないため、アンケート実施の直後に彼女を障害学生支援室に赴かせ、そこで室員の助けを得ながら、回答用紙に記載させる方法をとることに、障害学生対策委員会とFD委員会の合議の上決した旨の報告があった。

第5回委員会 平成25年10月11日(金) 12時20分～50分

- i 資料に基づいて人間関係学部平成26年度FD研修会のアウトラインが了解された。
- ii 平成26年度後期受容評価アンケートの実施科目がいくつかの修正の後、承認された。

第6回FD委員会 平成25年12月6日(金) 12時20分～50分

議事 FD研修会の役割分担と進行についての相談が行われた。

第7回FD委員会 平成26年1月10日(金) 午後0時20分～40分

平成25年度FD報告書の執筆分担・提出期限・提出方法等が確認された。

第8回FD委員会 平成26年3月16日(月) 午後6時15分

平成26年度第1回FD委員会に際して、新しい年度の活動方針が議論されることが確認された。

Ⅱ－1 授業に関するアンケート（前期・後期）

1. はじめに

学部授業の充実化を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを 2 年に渡って実施するため、毎年度、担当科目の 2 分の 1 以上の授業アンケートを実施している。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

2. 調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

3. 調査概要

（1）実施時期および手続き

前期は、平成 25 年 7 月 1 日（月）～7 月 20 日（土）の 3 週間に実施し、後期は平成 25 年 12 月 2 日（土）～12 月 21 日（土）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、昨年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式を取っている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（2）調査対象と回答率

前期の調査は総科目数 204 科目中の 190 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 10,601 名であった。調査への回答者数は 8,248 名であり、回答率は 77.80%であった。なお、有効回答数は 7,931 件であり、無効回答が 317 件あった。

後期の調査は、総科目数 222 科目中の 178 科目で実施した。調査対象は、調査実施科目の履修者 9,927 名であった。調査への回答者数は 6,965 名であり、回答率は 70.16%であった。なお、有効回答数は 6,710 件であり、無効回答が 255 件あった。

（3）調査項目

授業アンケートにおける調査項目は、以下の 5 カテゴリー、21 項目あり、「そう思う」、「や

やそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の5段階評定によって回答を求める形式であった。その他、自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

- ① 教員の授業の進め方について（7項目）
- ② 授業の内容について（6項目）
- ③ 学生自身の授業への取り組みについて（5項目）
- ④ 総合的な印象（1項目）
- ⑤ 自由設定欄＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問＝（2項目）

自由記述欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良いと思う点
- ③ その他の意見や要望など

（4）授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等をFD委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、FD報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。
- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD委員会の責任において行った。また、自由回答欄の内容は、FD委員会の責任において、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の[自由記入欄]にはあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注意】

1. HBの黒鉛筆のみ。

2. 折り曲げ厳禁。

※右例のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)

良いマーク⇒ ●



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学	被服学科	②	社会情報学科	社会生活情報学専攻	⑩	学 年	組	
	食物学科	食物学専攻	①	環境情報学専攻	④			
		管理栄養士専攻	⑦	情報デザイン専攻	⑨			
	児童学科	児童学専攻	⑤	人間関係学科	社会学専攻			⑧
		児童教育専攻	⑥	社会・臨床心理学専攻	⑮			
	ライフデザイン学科		⑧	人間福祉学科	人間福祉学専攻			⑶
	日本文学科		④	介護福祉学専攻	⑷			
	英文学科		⑨	比較文化学科	1年生			⑴
	コミュニケーション文化学科		⑦		アジア文化コース			⑵
					アメリカ文化コース			⑴
短期大学部	家政科	家政専攻	①	ヨーロッパ文化コース	⑵			
		生活総合ビジネス専攻	③	国文科	③			
		食物栄養専攻	⑧	英文科	⑲			

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① 先生のこの授業の進め方について

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
1 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	⑤	④	③	②	①
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	⑤	④	③	②	①
3 私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)	⑤	④	③	②	①
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	⑤	④	③	②	①
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	⑤	④	③	②	①
6 先生の学生に対する接し方は公平だった	⑤	④	③	②	①
7 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	⑤	④	③	②	①

② この授業の内容について

8 授業は、学習の目標がはっきり示された	⑤	④	③	②	①
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	⑤	④	③	②	①
10 授業の内容は興味深いものだった	⑤	④	③	②	①
11 授業の内容はよく理解できるものであった	⑤	④	③	②	①
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	⑤	④	③	②	①
13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	⑤	④	③	②	①

③ この授業への取り組みとその成果について

	100% ⑤	90%以上 ④	80%以上 ③	70%以上 ②	70%未満 ①
14 この授業にどの程度出席しましたか	⑤	④	③	②	①
15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	3時間以上 ⑤	2時間以上 ④	1時間以上 ③	1時間未満 ②	していない ①
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	⑤	④	③	②	①
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	⑤	④	③	②	①
18 この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	⑤	④	③	②	①

④ 総合的な印象

19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	⑤	④	③	②	①
---------------------------	---	---	---	---	---

⑤ 自由設定欄 (学部独自:ex.担当教員がその場で設定する質問)

20	⑤	④	③	②	①
21	⑤	④	③	②	①

自由記入欄は裏面にあります

K86281 110kg

【自由記入欄】

①良かったと思う点

Handwriting practice area for the first section, featuring ten horizontal dashed lines.

②改善した方が良くと思う点

Handwriting practice area for the second section, featuring ten horizontal dashed lines.

③その他の意見や要望など

Handwriting practice area for the third section, featuring ten horizontal dashed lines.

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均値（5点満点）について、今年度の結果と過年度と比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度と比較しながら分析する。

① 「授業の総合的な印象」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5点満点）は4.27であり、後期は4.31であった。前期後期共に「総合的な印象」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010年度前期の評価平均値は4.19、2011年度前期は4.22であり、2012年度前期の評価平均値は4.18と過去2年間よりも若干低くなっていた。後期については、2010年度後期の評価平均値が4.27、2011年度後期が4.29であったのに対し、2012年度後期の評価平均値は4.27と2010年度と同じ水準となっていた。2013年は前期後期ともにそれらの中で最高の水準となったと言える。これまで十分に高い水準で安定して推移して来ていたが、2013年はさらに、本学部におけるこれまでの継続的なFD活動の成果が示されているといえるだろう。

② 「教員の授業の進め方」の評価

授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の7項目の評価平均値（5点満点）は前期が4.26であり、後期は4.33であった。後期の方が前期よりも0.07ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に4.2点を超えており、「教員の授業の進め方」が非常に高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010年度前期の評価平均値は4.17、2011年度前期も4.17であり、2012年度前期の評価平均値も全く同じ値であった。それに対して2013年前期は4.26とかなり高い数値となっている。後期については、2010年度後期の評価平均値が4.23、2011年度後期が4.25であったのに対し、2012年度後期の評価平均値は4.24と過去2年間とほぼ同じ水準であった。それに対して、2013年度後期は4.33と高い数値となった。

「教員の授業の進め方」を構成する7項目の中で、今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期が「先生の学生に対する接し方は公平だった」の4.45であり、後期が同じく「先生の学生に対する接し方は公平だった」と「授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」の4.47であった。

以上のことから、本学部の各教員の学生への接し方や担当授業に対して取り組む姿勢・熱意が学生にしっかりと伝わり、しかも高く評価されていることが理解できるだろう。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、過年度と同様に前期後期共に「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が4.01、後期が4.07であった。大講義室での授業などでは、対応が難しい項目ではあった。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」が前期4.33、後期4.44であった。また「教材資料提示は授業の理解に役立った」が前期4.30、後期4.34であった。その他、「私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置を

した」が前期 4.28、後期 4.36、「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」が前期 4.06、後期 4.15 となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高く、さらに全ての項目で 2012 年までより高い数値となっていた。

③ 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の 6 項目の評価平均値（5 点満点）は 4.15 であり、後期は 4.22 であった。前期後期共に 4 点を超えており、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期の評価平均値は 4.00、2011 年度前期は 4.04 であり、2012 年度前期の評価平均値は過去 2 年間とほぼ同水準であった。それに対して 2013 年度前期は 4.15 とかなり高い数値を示している。また、後期は 2010 年度後期の評価平均値が 4.09、2011 年度後期は 4.11 であり、2012 年度後期の評価平均値の方が過去 2 年間よりも若干高くなっていた。そして、さらに 2013 年度後期で 4.22 と大幅に上昇したと言える。

「授業の内容」を構成する 6 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期が 4.30、後期が 4.35 であった。なお、この「授業は、学習の目標がはっきり示された」は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が高い項目となっていたが、2013 年度は前後期ともにこれまでの最高点となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「授業科目の選択や学習時に、「授業内容」（シラバス）は役立った」であり、前期が 3.92、後期が 3.99 であった。なお、この項目は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていたが、その中では 2013 年度は前後期ともに過去よりも高い数値となっていた。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」が前期 4.19、後期 4.27 であった。また「授業の内容は興味深いものだった」が前期 4.19、後期 4.26 であった。その他、「授業の内容はよく理解できるものであった」が前期 4.07、後期 4.16、「授業は自分の将来にとって意味があると思う」が前期 4.23、後期 4.26 となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。

以上のことから、シラバスの活用については今後も引き続き工夫していく必要性が示されていると考えられるが、授業内容については概ね高評価を得ており、さらに 2013 年度はこれまでよりも全て高得点となっているため、学生のニーズに合った授業内容が展開されていると評価できよう。

④ 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の 5 項目の評価平均値（5 点満点）は 3.33 であり、後期は 3.35 であった。前期後期共に 4 点以下であり、「学生自身の授業への取り組み」に課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期の評価平均値は 3.71、2011 年度前期も 3.71 であり、2012 年度前期の評価平均値は過去 2 年よりも 0.02 ポイントとわずかであるが高くなっていた。ところが 2013 年度になってかなりこの数値が落ち込んでいる。後期については、2010 年度後期の評価平均値は 3.76、2011 年度後期は 3.77 であり、2012 年度後期の評価平均値の方が過

去 2 年間よりも若干高くなっていた。後期も同様に 2013 年度で大きく数値が下がっており、少なくとも学生の自己評価は下がっていると言える。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する 5 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が 4.35、後期が 4.26 であった。なお、この項目は、これまで「この授業にはつねに出席した」という質問内容だったが、今年度より文言を上記のように修正されて行われた。しかし、いずれの文言にしても、出席について質問しているこの項目は、昨年度までの過去 2 年間においても毎年、最も評価平均点が高かった。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」であり、前期が 1.87、後期が 1.85 であった。なお、この項目はこれまで「この授業のために予習または復習を欠かさなかった」という質問であったものが、今年度から改定されたものである。これは、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていたが、いずれも 3 点台であったものが、この質問内容になってさらに大きく低下した。この項目の平均点の大幅な低下が「学生自身の授業への取り組み」全体を例年よりも引き下げた大きな要因となっていると考えられる。

このように今年度、最も評価平均点が高かった項目、最も低かった項目は、いずれも過去 3 年間と類似のものであった。特に予習・復習に関する質問は昨今学内でテーマとなっている単位の実質化と関連する項目であるので、今後も引き続き学生に働きかけることで主体的な学習態度を身につけてもらう必要がある。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した」が前期 2.83、後期が 2.89 とやや低い値になっている。これは 2012 年度を見ると前期 3.30、後期 3.42、となっており、質問項目は全く同じであるにもかかわらず、かなり低下していると言える。さらに「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」という項目は、2013 年度前期は 3.68、後期は 3.75 であった。この項目はこれまで「この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった」という質問内容ではあったが、2012 年前期 3.98、後期 4.07 であった。このように多少文言は違っても類似の質問項目で得点が大きく下がっているということは看過できない深刻な問題であると言わざるを得ない。

以上の結果から、後期の方が前期よりも学生の授業への取り組み姿勢が積極的に変化したと読み取ることも可能であるが、後期は学生の出席率と本授業アンケートの回収率も下がっていることを鑑みると、授業に対して積極的な姿勢の学生が後期のアンケートに回答した、という調査対象の偏りを反映している可能性も否定できない。

そのこと以上に、教員への評価は高まりつつあり、学生の授業への出席率も高く維持されているものの、授業外の自習への取り組みに課題が多く、ここ数年その傾向はますます顕著になってきているとまとめることができる。学生の授業への取り組み姿勢をいかに改善していくかは、今後よりいっそう深刻に取り組まねばならない F D 上の大きな課題である。

5. 授業アンケート調査結果の活用

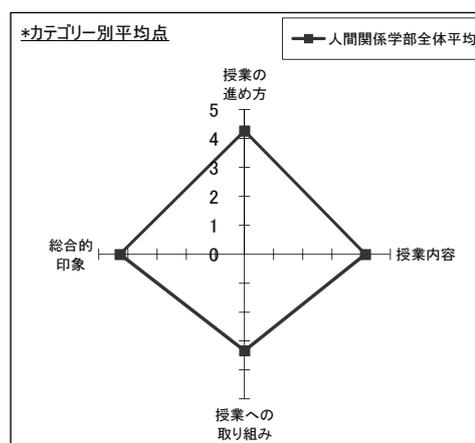
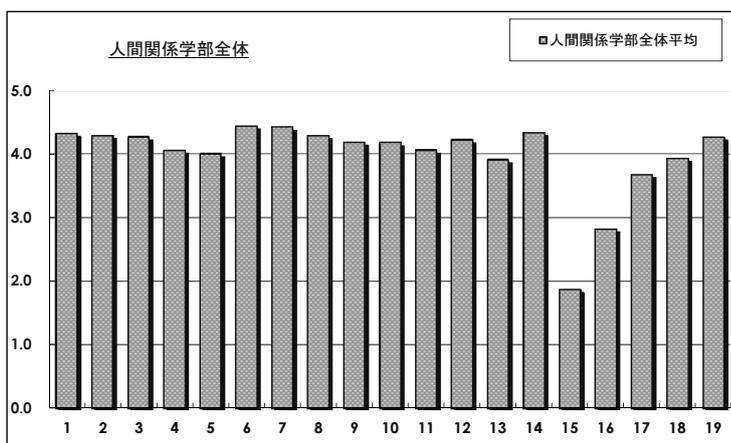
今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(① 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、② 施設・教室の

設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください) について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ－２において報告する。

人間関係学部全体	履修者数	10,601
	回答者数	8,248

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	55.2	29.0	10.3	4.4	1.2	8240	8	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.4	30.8	12.1	3.4	1.3	8234	14	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	52.5	28.6	14.2	3.3	1.4	8238	10	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	41.9	31.9	18.7	5.7	1.8	8234	14	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	41.1	29.2	21.3	6.1	2.3	8222	26	1.04
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.45	60.9	25.9	10.7	1.6	0.8	8221	27	0.81
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	58.0	29.3	10.6	1.5	0.6	8214	34	0.78
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	51.8	31.1	13.0	3.2	0.9	8230	18	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.19	46.9	32.3	15.3	4.1	1.5	8226	22	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	48.1	31.1	13.9	4.9	1.9	8227	21	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	42.0	32.8	17.2	5.8	2.1	8223	25	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	49.8	30.5	14.3	3.9	1.5	8213	35	0.94
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.92	35.1	30.7	27.0	5.0	2.2	8177	71	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	57.0	26.9	11.0	3.9	1.2	8193	55	0.91
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.87	5.2	4.9	11.6	28.9	49.4	8216	32	1.12
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.83	16.1	15.9	27.4	15.8	24.9	8159	89	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	29.1	30.6	25.5	9.3	5.5	8212	36	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	37.3	32.4	20.8	5.8	3.7	8194	54	1.07
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	53.5	27.4	13.7	3.4	2.0	7931	317	0.95

Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25

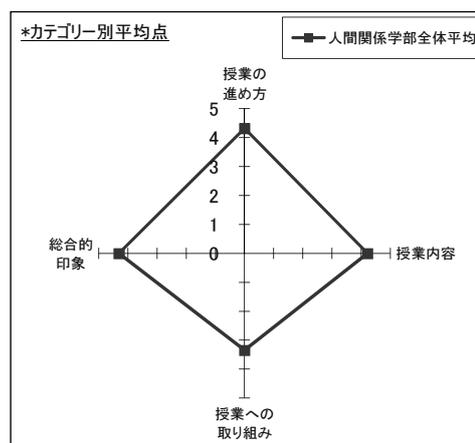
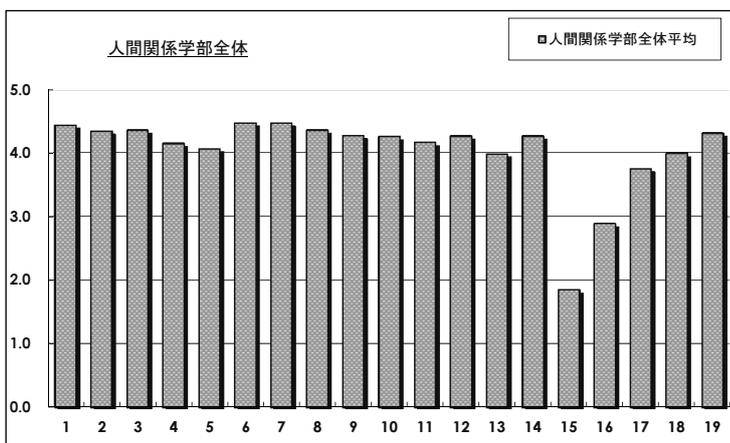


人間関係学部全体

履修者数	9,927
回答者数	6,965

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	60.6	27.7	7.5	3.2	1.0	6958	7	0.84
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	55.1	29.5	10.9	3.2	1.3	6952	13	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	56.8	27.5	11.5	3.2	1.1	6951	14	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	46.1	31.3	15.8	5.2	1.6	6949	16	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.07	44.5	28.5	18.6	5.8	2.6	6944	21	1.05
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.7	25.0	9.8	1.8	0.7	6947	18	0.80
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	61.4	26.9	9.2	1.8	0.7	6936	29	0.79
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	55.7	29.1	11.2	2.9	1.1	6952	13	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.27	52.2	29.7	12.5	4.0	1.6	6949	16	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.26	52.1	28.9	13.1	4.4	1.5	6945	20	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	46.8	31.2	15.3	5.0	1.7	6947	18	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	52.5	28.3	13.7	3.8	1.6	6944	21	0.94
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.99	39.4	28.9	24.8	4.8	2.1	6907	58	1.01
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	52.8	27.5	13.8	4.7	1.1	6924	41	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.85	5.8	5.3	12.2	21.3	55.4	6930	35	1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	18.1	16.9	26.0	13.8	25.2	6887	78	1.42
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.75	32.0	30.1	24.3	8.3	5.3	6927	38	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	39.4	32.4	19.3	5.4	3.4	6911	54	1.06
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	55.4	26.7	13.1	3.2	1.7	6710	255	0.93

Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

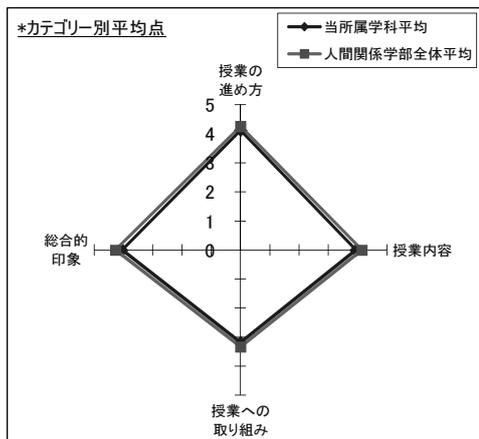
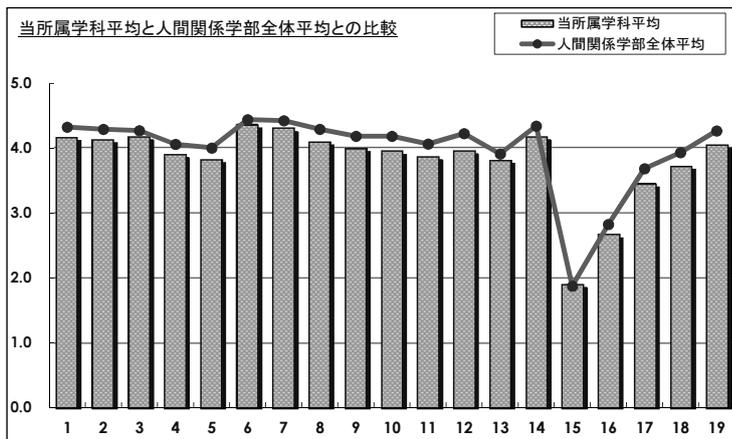
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会学専攻
------	--------------

履修者数	—
回答者数	1,851

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.16	47.2	31.3	13.7	6.1	1.7	1849	2	0.99
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.13	42.5	35.2	16.7	4.0	1.7	1848	3	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.17	47.1	29.8	17.8	3.7	1.5	1846	5	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	34.0	33.4	23.2	6.9	2.5	1848	3	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.82	33.6	29.2	26.2	7.7	3.3	1846	5	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.36	55.6	27.3	14.8	1.8	0.5	1846	5	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.30	50.2	32.3	15.0	2.0	0.4	1843	8	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.94	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.09	41.7	33.2	18.8	5.1	1.2	1845	6	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.99	38.0	32.9	21.1	6.3	1.7	1844	7	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	3.95	36.6	33.9	20.1	6.8	2.7	1846	5	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.87	32.7	33.8	23.5	7.5	2.5	1844	7	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.95	36.6	32.7	22.0	6.5	2.1	1842	9	1.02
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.81	29.5	31.6	31.1	5.8	2.0	1834	17	0.99
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	46.4	31.9	15.7	4.3	1.7	1830	21	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.91	4.6	6.7	12.6	27.2	49.0	1844	7	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.67	12.5	15.1	28.0	15.8	28.6	1827	24	1.36
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.45	20.4	30.3	30.4	11.5	7.4	1839	12	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.72	27.8	33.2	26.6	7.7	4.7	1839	12	1.09
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.04	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.04	42.9	29.3	20.2	4.8	2.8	1759	92	1.04

Q1-Q19の当区分平均値	3.81
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

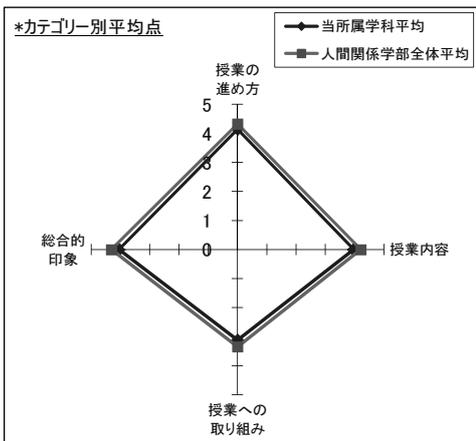
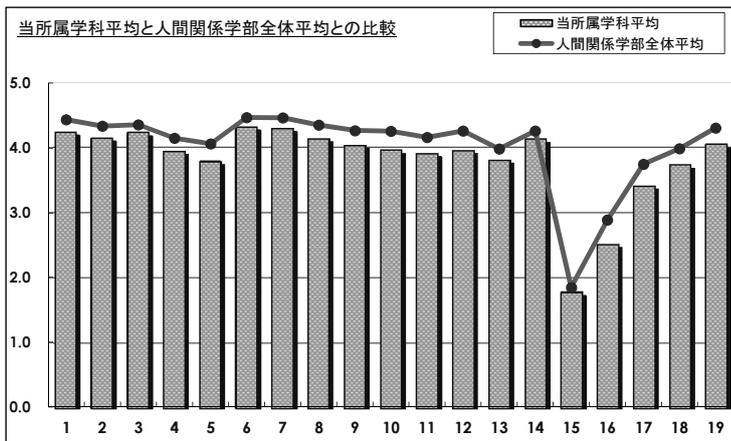
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会学専攻
------	--------------

履修者数	—
回答者数	1,345

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.14	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	50.5	31.5	10.9	5.2	1.9	1343	2	0.97
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.15	44.2	33.6	16.6	4.0	1.6	1341	4	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.23	50.4	29.2	15.0	4.1	1.3	1341	4	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.94	35.3	33.3	23.1	6.9	1.4	1342	3	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.79	33.0	29.6	24.6	8.7	4.0	1339	6	1.11
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.32	52.7	30.5	13.6	2.2	1.0	1341	4	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.29	51.4	31.5	13.1	2.9	1.0	1339	6	0.88
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		3.97	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.14	43.5	33.8	17.1	4.1	1.5	1342	3	0.94
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.04	40.2	33.7	17.8	6.1	2.2	1340	5	1.01
10	授業の内容は興味深いものだった	3.96	36.5	34.7	19.6	6.9	2.4	1340	5	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.91	33.7	35.7	20.3	8.4	1.9	1338	7	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.96	37.6	32.3	20.9	6.6	2.6	1339	6	1.04
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.81	30.5	30.8	29.9	6.9	2.0	1326	19	1.01
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.13	46.2	29.3	17.4	5.7	1.4	1333	12	0.99
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.78	5.3	3.8	12.3	21.1	57.5	1336	9	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.51	10.7	13.8	26.3	14.6	34.6	1330	15	1.36
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.41	19.7	28.5	32.3	12.1	7.4	1332	13	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.73	26.5	35.6	26.8	6.9	4.1	1328	17	1.06
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.05	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.05	41.8	31.1	20.2	4.3	2.6	1292	53	1.01

Q1-Q19の当区分平均値	3.81
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

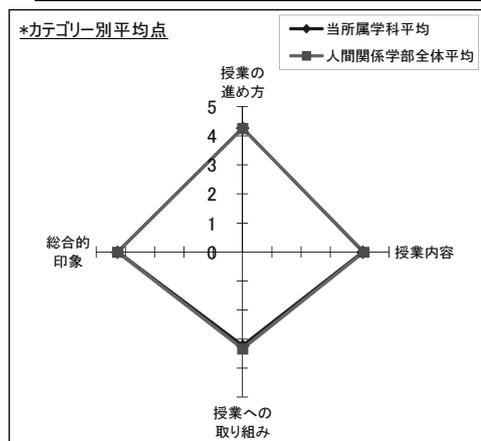
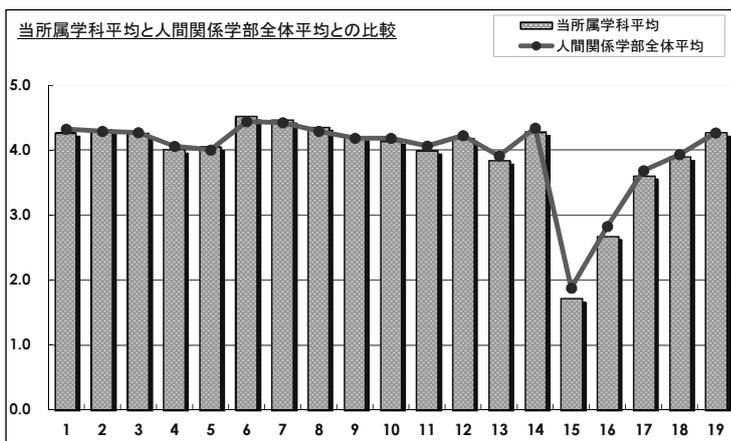
大妻女子大学

所属学科 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

履修者数	—
回答者数	1,922

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	53.0	29.3	9.9	6.7	1.0	1920	2	0.96
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	53.6	29.9	11.2	4.2	1.0	1918	4	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.26	52.5	28.1	14.0	4.1	1.4	1921	1	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.01	37.8	35.5	18.0	7.1	1.6	1920	2	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	41.7	31.5	18.7	6.4	1.7	1912	10	1.00
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.52	64.5	25.8	7.0	1.8	0.8	1915	7	0.77
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	60.2	29.0	8.5	1.8	0.6	1915	7	0.77
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	54.8	30.7	10.1	3.5	0.9	1920	2	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.20	46.9	33.9	13.0	4.5	1.7	1920	2	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	46.9	30.8	13.8	6.5	2.0	1921	1	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.99	38.3	34.7	17.1	7.5	2.4	1919	3	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	47.9	31.7	13.3	5.1	2.0	1918	4	0.98
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.84	31.2	32.1	27.9	6.8	2.0	1914	8	1.01
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	54.8	26.9	10.9	5.7	1.7	1913	9	0.98
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.72	3.5	2.9	8.9	31.3	53.4	1917	5	0.99
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.67	12.8	13.3	28.9	18.2	26.8	1899	23	1.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.60	26.6	29.6	26.6	11.7	5.4	1914	8	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.89	34.4	34.6	20.9	6.4	3.8	1911	11	1.07
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	51.2	31.5	11.9	3.7	1.8	1875	47	0.93

Q1-Q19の当区分平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

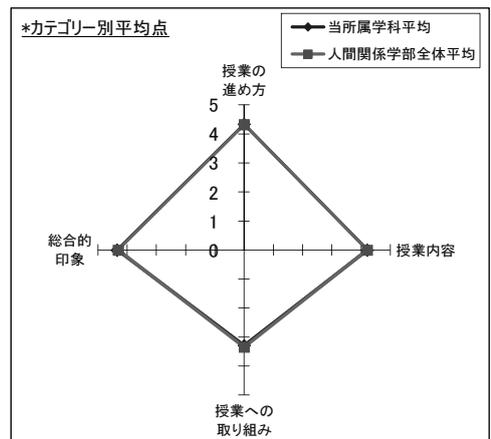
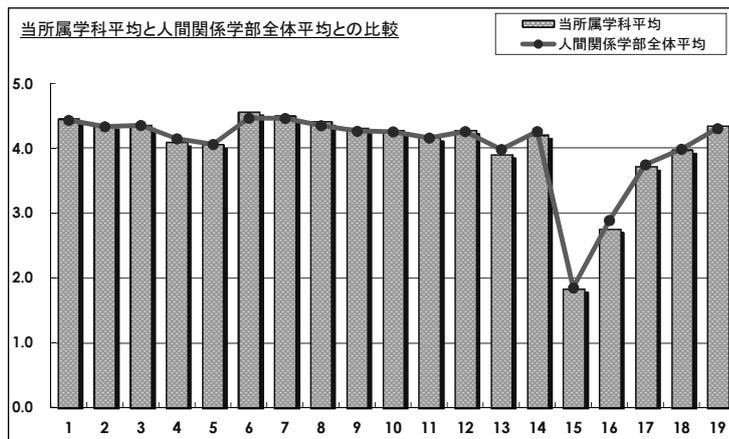
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻
------	-------------------

履修者数	—
回答者数	1,639

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	59.1	30.6	6.5	3.3	0.5	1637	2	0.80
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	54.3	32.2	8.6	3.9	1.0	1637	2	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.35	54.4	31.0	10.6	3.3	0.7	1636	3	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	41.6	35.1	15.5	6.2	1.6	1637	2	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	44.6	28.9	16.5	6.9	3.1	1635	4	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	66.5	24.9	7.0	1.3	0.3	1637	2	0.71
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	60.8	29.8	7.7	1.3	0.4	1633	6	0.73
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	57.4	30.3	8.6	2.8	1.0	1636	3	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.31	52.8	31.2	11.1	3.6	1.3	1637	2	0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	4.27	53.8	27.8	11.9	5.1	1.4	1635	4	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	44.2	34.9	14.9	4.5	1.5	1637	2	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	52.3	29.6	12.7	3.7	1.7	1633	6	0.94
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.90	33.1	33.6	25.5	5.5	2.4	1630	9	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	49.1	29.4	15.0	5.5	1.1	1632	7	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.84	4.2	6.7	12.7	20.9	55.4	1633	6	1.14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.75	13.7	18.0	24.4	17.2	26.6	1625	14	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.71	29.0	33.2	22.7	10.4	4.8	1628	11	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.97	37.2	34.9	19.1	5.6	3.3	1626	13	1.04
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	54.7	30.0	11.0	3.1	1.2	1588	51	0.88

Q1-Q19の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

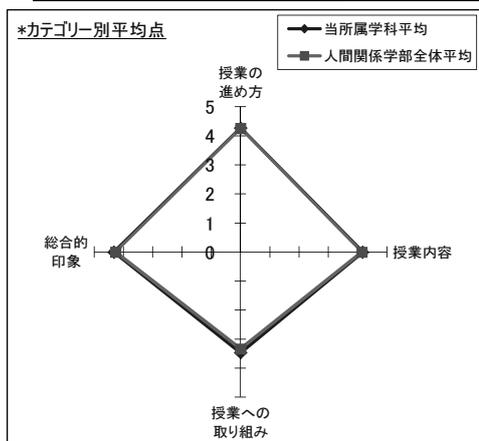
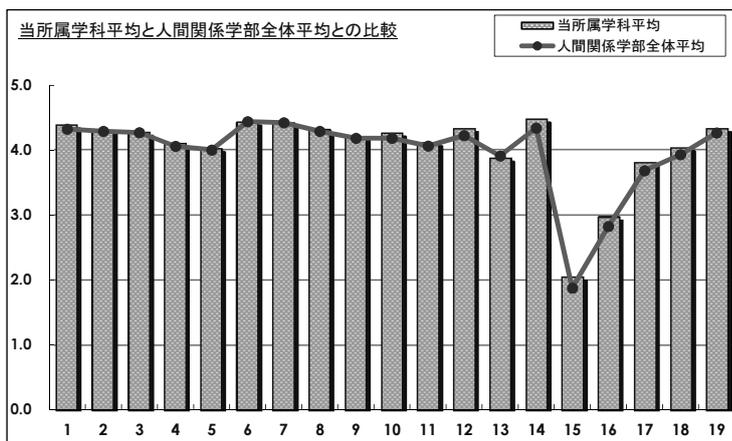
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 人間福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	2,177

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	58.2	27.7	9.8	3.1	1.3	2177	0	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	53.7	29.5	11.1	4.0	1.6	2173	4	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.27	52.5	28.6	13.9	3.5	1.5	2175	2	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	45.6	29.8	16.2	6.1	2.3	2173	4	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	43.2	28.0	19.2	6.7	2.9	2172	5	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	61.2	24.9	10.8	1.9	1.2	2169	8	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	58.4	28.8	10.1	1.7	1.0	2167	10	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	53.5	29.8	12.2	3.2	1.3	2173	4	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.20	48.7	30.9	14.2	4.2	2.0	2168	9	0.97
10	授業の内容は興味深いものだった	4.26	52.8	29.4	10.8	4.7	2.3	2169	8	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	45.9	30.8	14.9	5.6	2.8	2169	8	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	55.4	28.3	11.8	3.0	1.5	2164	13	0.91
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.87	35.7	28.9	26.3	5.5	3.7	2157	20	1.07
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.48	64.7	23.1	8.5	2.8	1.0	2167	10	0.84
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.05	7.2	5.3	14.1	32.7	40.8	2166	11	1.19
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.97	19.0	18.4	25.4	15.1	22.0	2155	22	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	33.5	32.8	20.1	7.8	5.8	2169	8	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	42.5	31.7	16.3	5.3	4.2	2158	19	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	57.8	25.1	11.6	3.0	2.4	2085	92	0.96

Q1-Q19の当区分平均値	4.04
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

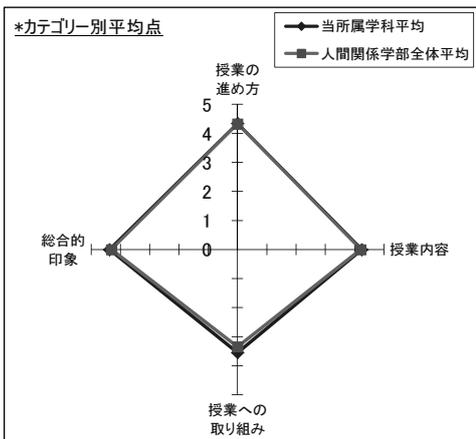
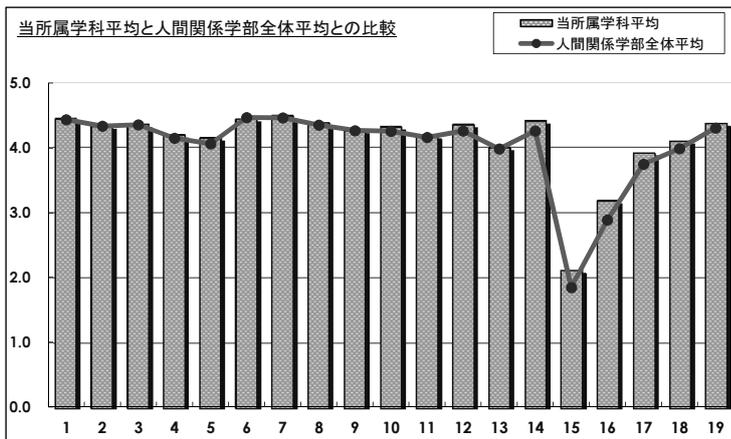
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 人間福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	1,639

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	63.1	25.2	6.5	3.5	1.7	1638	1	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	56.7	27.5	10.2	3.4	2.2	1636	3	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	57.8	26.2	11.4	3.5	1.2	1636	3	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	51.3	27.8	12.7	5.9	2.4	1632	7	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	48.8	27.7	15.7	5.6	2.3	1634	5	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	62.7	23.7	10.1	2.4	1.1	1634	5	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	64.0	24.9	8.3	1.8	0.9	1633	6	0.80
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.39	59.4	25.8	9.8	3.6	1.3	1637	2	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.26	54.6	26.2	12.5	4.2	2.5	1636	3	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.32	56.3	27.4	10.7	3.6	2.0	1636	3	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	50.9	27.6	13.2	5.6	2.7	1635	4	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	58.1	25.9	10.9	3.7	1.4	1636	3	0.92
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	43.8	24.0	24.3	4.8	3.1	1628	11	1.07
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.55	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	62.2	22.1	11.4	3.3	1.0	1628	11	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.12	9.3	6.4	14.2	26.9	43.1	1629	10	1.29
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.19	23.4	19.7	26.3	13.0	17.5	1617	22	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.92	38.8	30.8	18.8	6.5	5.1	1631	8	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.10	45.9	30.9	14.5	5.0	3.7	1631	8	1.06
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	61.5	22.1	10.9	3.8	1.8	1572	67	0.95

Q1-Q19の当区分平均値	4.11
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

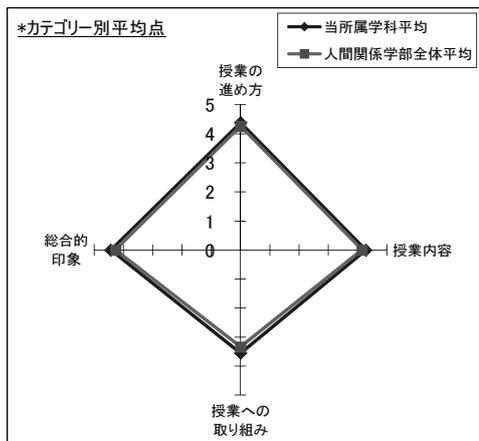
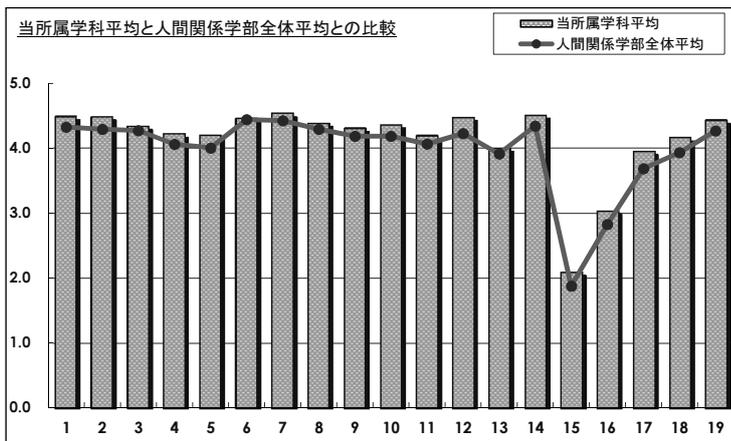
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	867

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	61.4	27.9	9.2	1.5	0.0	867	0	0.72
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.48	61.4	27.5	9.8	1.0	0.3	867	0	0.74
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	55.7	27.7	12.9	2.4	1.3	867	0	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.22	49.3	28.0	18.9	3.3	0.5	867	0	0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.20	50.1	25.2	20.3	3.6	0.8	866	1	0.94
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	61.2	25.5	12.3	0.6	0.3	867	0	0.76
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	65.0	24.8	9.5	0.6	0.1	866	1	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.39	55.3	30.3	12.8	1.4	0.2	866	1	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.31	53.3	27.8	16.3	2.0	0.7	867	0	0.86
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	55.4	29.8	11.8	2.3	0.8	867	0	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	47.2	30.7	17.3	3.9	0.8	866	1	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.47	61.8	26.3	10.2	1.0	0.7	864	3	0.77
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	40.8	22.7	33.1	2.6	0.8	860	7	0.96
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.55	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.51	67.1	21.3	7.6	3.6	0.3	863	4	0.81
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.10	5.3	6.8	17.7	32.8	37.4	866	1	1.14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	20.5	16.0	28.8	16.2	18.6	865	2	1.37
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.95	39.2	28.4	23.6	6.0	2.8	864	3	1.06
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.16	47.3	29.5	17.5	3.8	2.0	865	2	0.98
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.43	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	61.3	23.8	12.6	1.6	0.7	833	34	0.82

Q1-Q19の当区分平均値	4.14
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

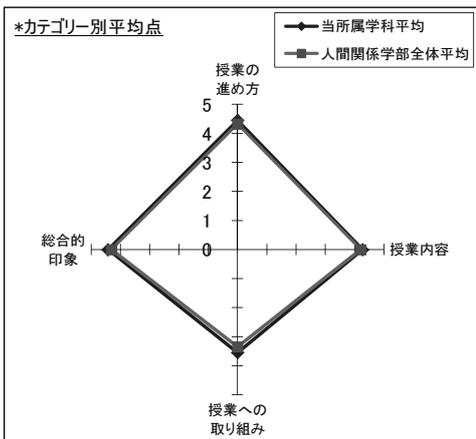
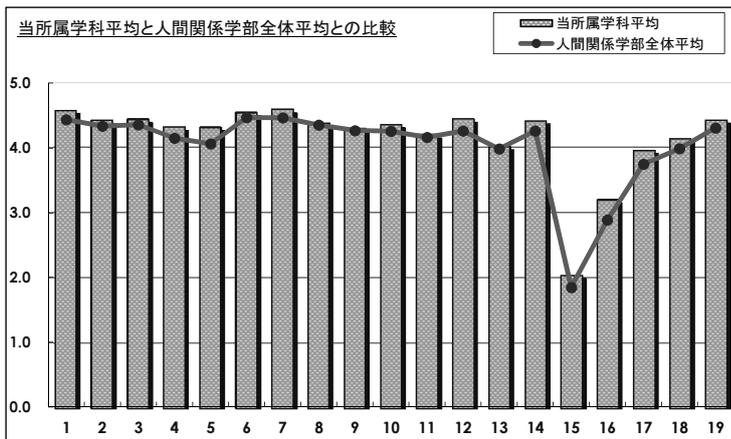
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	702

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.45	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.57	67.7	23.8	6.6	1.7	0.3	702	0	0.72
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	61.8	22.8	11.5	2.8	1.0	702	0	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.43	63.5	21.4	11.4	2.4	1.3	702	0	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	54.1	28.9	12.3	3.6	1.1	702	0	0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.31	54.3	26.9	15.4	2.4	1.0	702	0	0.89
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.54	68.0	20.3	9.4	1.9	0.4	701	1	0.77
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.59	70.2	20.7	6.7	1.9	0.4	699	3	0.74
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.28	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	58.1	26.9	10.8	2.6	1.6	702	0	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.29	54.4	27.6	12.0	4.6	1.4	702	0	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	57.4	25.9	12.0	3.6	1.1	702	0	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	51.4	25.1	17.4	4.3	1.9	702	0	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	64.0	21.1	11.3	2.3	1.4	702	0	0.88
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	41.5	26.0	26.8	4.0	1.7	697	5	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.55	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	61.6	23.8	10.0	3.1	1.4	701	1	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.04	6.7	5.4	18.3	24.3	45.4	701	1	1.21
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.20	24.4	15.6	31.4	12.9	15.8	692	10	1.36
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	40.3	27.8	22.6	5.8	3.4	702	0	1.08
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.14	46.1	29.8	17.6	4.4	2.0	698	4	0.99
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.42	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.42	62.6	23.2	9.8	2.6	1.8	682	20	0.90

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

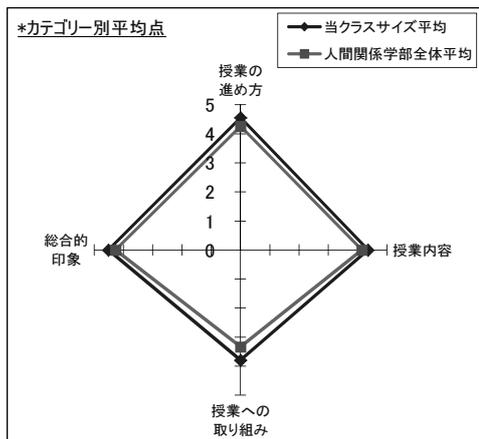
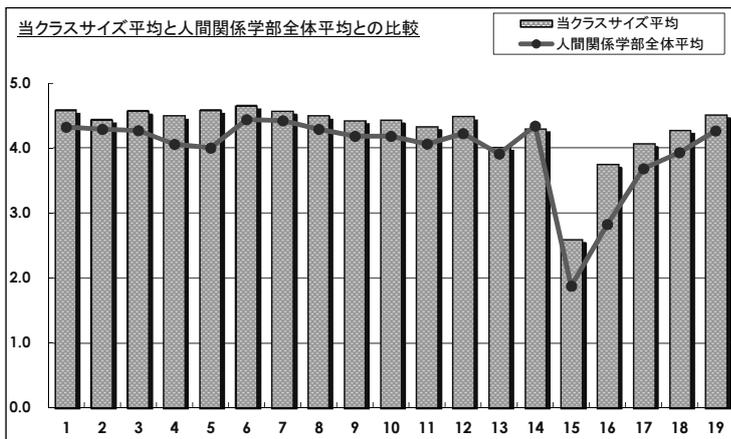
大妻女子大学

クラスサイズ	1~15名
--------	-------

履修者数	542
回答者数	475

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.56	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	69.1	23.4	5.3	1.5	0.8	475	0	0.73
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	59.5	26.2	12.9	1.3	0.2	474	1	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.57	70.9	17.7	9.5	1.5	0.4	474	1	0.76
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.49	62.9	25.7	9.9	0.8	0.6	475	0	0.76
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.58	70.0	20.3	8.2	1.1	0.4	474	1	0.72
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.65	73.5	19.6	5.9	0.6	0.4	475	0	0.66
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	66.5	25.5	6.7	0.8	0.4	475	0	0.69
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.36	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.49	63.8	24.9	8.5	2.3	0.4	473	2	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.42	59.2	27.4	10.9	1.7	0.8	475	0	0.82
10	授業の内容は興味深いものだった	4.43	59.6	27.4	10.5	1.5	1.1	475	0	0.82
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.33	51.9	33.5	11.0	3.0	0.6	474	1	0.83
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	63.8	25.0	8.5	1.3	1.5	472	3	0.82
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	43.1	24.0	25.9	5.1	1.9	471	4	1.03
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.80	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	51.5	31.4	13.1	3.4	0.6	474	1	0.87
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.59	12.9	11.4	20.7	32.3	22.8	474	1	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.75	33.5	26.7	26.1	8.3	5.3	468	7	1.16
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.07	39.6	35.4	18.9	4.2	1.9	475	0	0.96
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.27	52.7	28.3	14.3	3.0	1.7	474	1	0.93
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.51	63.8	25.8	8.6	1.4	0.5	442	33	0.75

Q1-Q19の当区分平均値	4.29
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

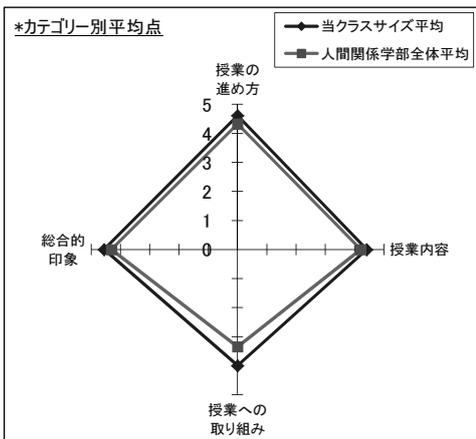
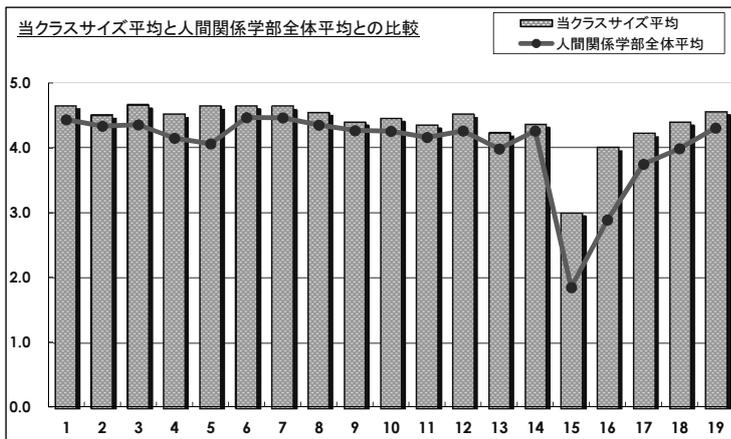
大妻女子大学

クラスサイズ	1~15名
--------	-------

履修者数	446
回答者数	369

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.61	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.65	75.5	16.0	6.3	1.9	0.3	368	1	0.71
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.51	64.1	24.2	9.8	1.9	0.0	368	1	0.75
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.66	75.5	15.8	8.2	0.5	0.0	368	1	0.65
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.52	68.2	20.1	7.6	3.3	0.8	368	1	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.64	72.6	19.8	7.1	0.3	0.3	368	1	0.65
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.64	74.5	17.7	6.0	1.6	0.3	368	1	0.69
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.64	74.2	17.4	7.1	1.1	0.3	368	1	0.69
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.41	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.54	68.8	19.0	10.1	2.2	0.0	368	1	0.76
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.39	60.3	23.6	12.2	2.7	1.1	368	1	0.88
10	授業の内容は興味深いものだった	4.45	62.0	24.5	10.9	2.4	0.3	368	1	0.80
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.35	59.0	23.6	12.0	4.3	1.1	368	1	0.93
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	66.8	20.4	10.4	2.5	0.0	367	2	0.78
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	52.2	23.0	20.8	4.1	0.0	366	3	0.92
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		4.00	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	58.5	23.9	14.0	2.5	1.1	364	5	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	3.00	23.4	13.1	22.9	21.5	19.1	367	2	1.43
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.01	42.5	27.1	21.3	6.9	2.2	362	7	1.06
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.22	49.6	28.5	18.1	2.2	1.6	365	4	0.93
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.39	57.0	28.5	12.3	1.4	0.8	365	4	0.82
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.56	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	68.2	21.0	9.4	1.1	0.3	352	17	0.73

Q1-Q19の当区分平均値	4.38
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

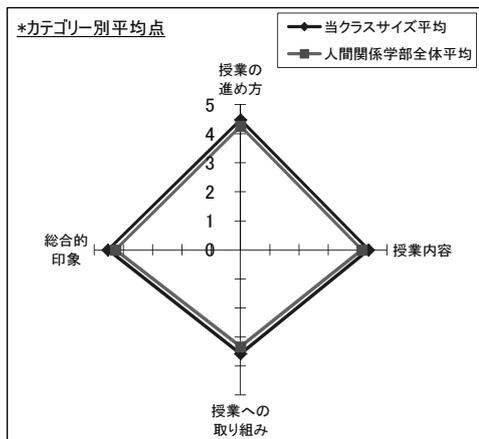
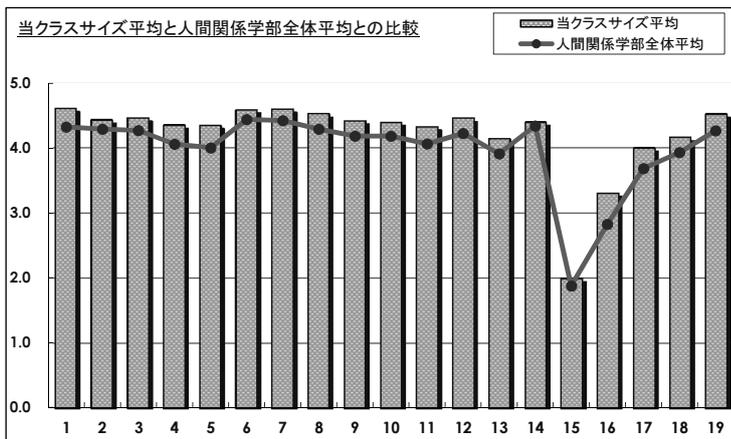
大妻女子大学

クラスサイズ	16~49名
--------	--------

履修者数	1,709
回答者数	1,407

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.49	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	68.6	25.1	5.3	0.6	0.4	1404	3	0.66
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	58.9	28.0	11.2	1.4	0.5	1405	2	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	61.0	26.5	11.0	1.2	0.4	1404	3	0.76
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	55.4	29.0	12.3	2.5	0.9	1405	2	0.85
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.35	54.9	28.4	14.1	2.1	0.6	1402	5	0.84
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	69.5	21.9	7.5	0.8	0.4	1405	2	0.69
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	68.0	24.9	6.4	0.5	0.2	1401	6	0.65
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.53	62.8	28.4	8.0	0.6	0.3	1406	1	0.69
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.42	56.5	31.4	10.4	1.4	0.4	1406	1	0.76
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	55.7	31.2	10.7	1.9	0.5	1405	2	0.79
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.33	52.7	31.5	12.7	2.5	0.7	1405	2	0.84
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.46	61.4	26.5	9.6	2.0	0.6	1406	1	0.79
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	43.9	31.2	21.5	2.5	0.9	1397	10	0.90
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.58	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.40	58.9	26.9	10.5	2.8	0.9	1398	9	0.85
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.00	6.2	6.5	14.5	26.9	45.9	1402	5	1.19
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.31	24.8	20.9	28.4	12.4	13.6	1392	15	1.33
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.00	39.3	31.9	21.0	5.2	2.5	1403	4	1.02
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.16	44.9	32.8	17.6	3.0	1.6	1400	7	0.93
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.53	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.53	65.6	23.8	8.6	1.6	0.4	1349	58	0.75

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

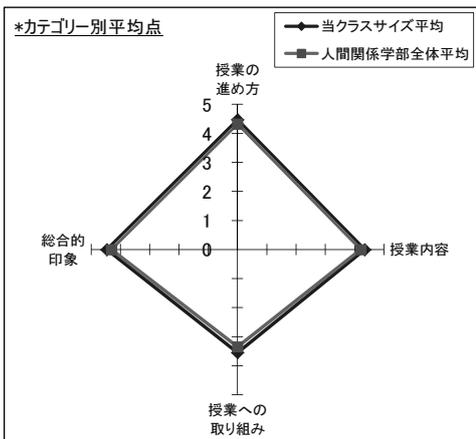
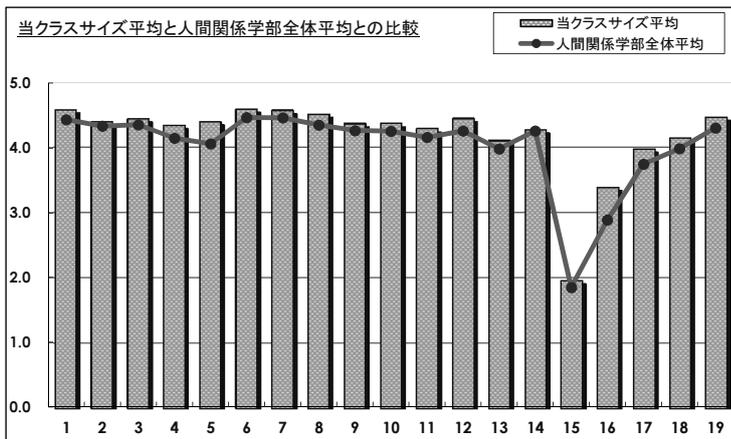
大妻女子大学

クラスサイズ	16~49名
--------	--------

履修者数	2,166
回答者数	1,683

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	67.8	24.3	6.1	1.7	0.1	1682	1	0.69
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	55.4	31.3	10.9	2.0	0.4	1679	4	0.79
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	61.6	24.0	12.0	2.1	0.4	1679	4	0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	53.9	30.2	12.2	3.3	0.4	1681	2	0.85
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.39	58.7	26.1	11.8	2.7	0.7	1678	5	0.85
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	69.6	21.6	7.0	1.5	0.2	1680	3	0.70
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	66.6	25.2	7.0	1.1	0.1	1681	2	0.68
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	63.1	27.3	7.8	1.5	0.4	1682	1	0.73
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.37	55.6	29.4	11.4	3.1	0.5	1681	2	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	56.9	27.7	11.5	3.3	0.6	1681	2	0.86
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	51.7	30.3	13.9	3.4	0.7	1680	3	0.88
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	61.0	26.5	9.7	1.9	0.9	1679	4	0.81
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	43.3	30.4	21.4	3.5	1.4	1670	13	0.95
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.55	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.0	27.5	14.3	4.1	1.1	1675	8	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.96	6.0	6.4	15.4	22.2	50.0	1677	6	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.39	27.5	21.6	26.3	11.5	13.0	1663	20	1.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.98	39.1	30.5	21.9	5.6	2.8	1677	6	1.04
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	44.8	32.9	16.8	3.7	1.9	1668	15	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	62.6	25.4	8.9	2.2	0.9	1623	60	0.82

Q1-Q19の当区分平均値	4.19
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

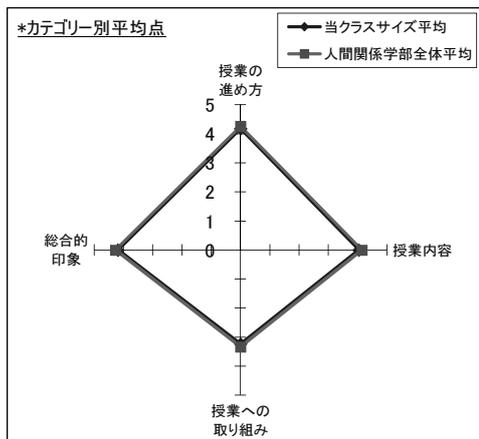
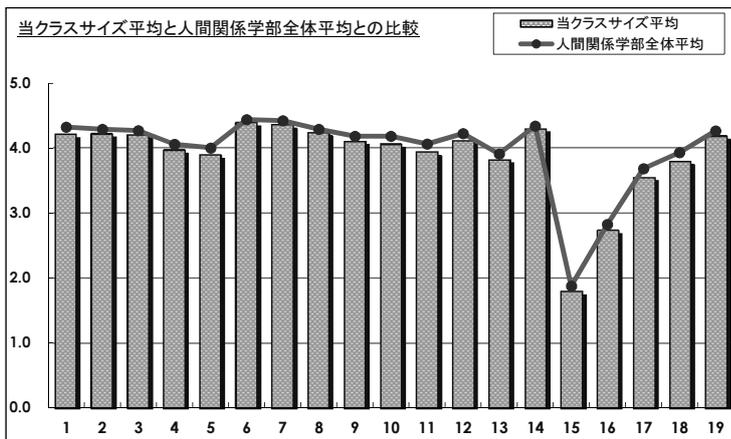
大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名
--------	---------

履修者数	3,364
回答者数	2,639

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.21	50.0	30.1	12.4	6.1	1.4	2636	3	0.97
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	49.2	31.8	12.7	4.3	2.1	2632	7	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.21	49.1	29.3	16.4	3.6	1.6	2636	3	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	38.3	33.0	18.6	7.4	2.6	2634	5	1.05
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	37.0	28.7	23.8	7.8	2.8	2629	10	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	59.1	26.3	10.5	2.6	1.4	2628	11	0.88
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.36	54.7	30.1	12.4	2.0	0.8	2623	16	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.05	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	49.9	30.9	13.5	4.4	1.3	2633	6	0.94
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.10	43.6	32.6	16.5	5.1	2.2	2630	9	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.06	43.0	31.8	16.1	6.5	2.6	2631	8	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.94	37.1	33.2	19.4	7.3	3.0	2628	11	1.06
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	44.0	32.4	16.5	5.1	1.9	2627	12	0.99
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.82	31.2	31.1	28.9	6.0	2.8	2620	19	1.03
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	55.3	27.2	11.0	4.7	1.8	2617	22	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.80	4.4	3.9	10.8	29.0	51.9	2627	12	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.74	14.3	14.5	27.7	17.4	26.1	2604	35	1.37
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.55	25.4	29.2	27.2	11.4	6.8	2626	13	1.18
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.80	32.1	32.6	22.9	7.7	4.7	2620	19	1.11
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	48.7	30.0	14.7	4.0	2.5	2546	93	0.99

Q1-Q19の当区分平均値	3.89
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

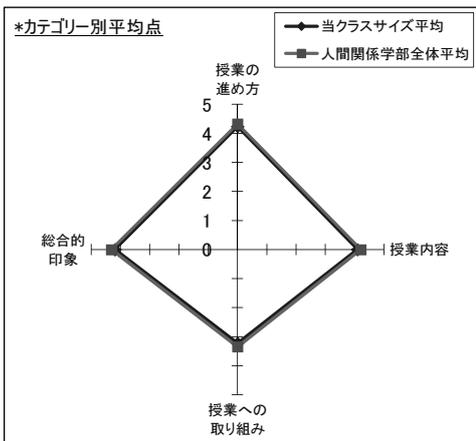
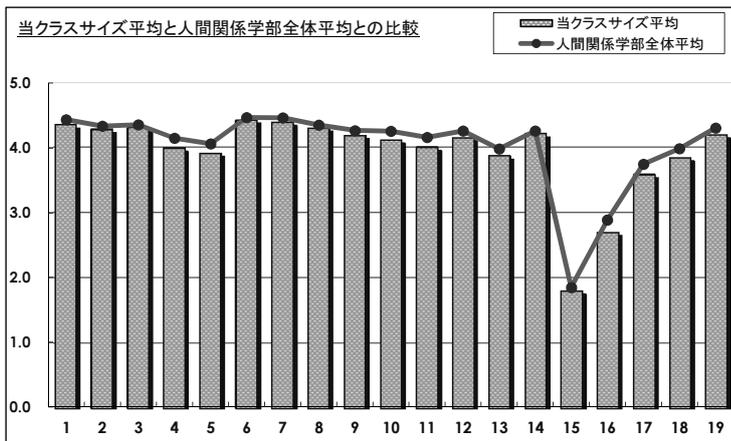
大妻女子大学

クラスサイズ	50~100名
--------	---------

履修者数	2,113
回答者数	1,462

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	55.0	31.2	8.6	4.0	1.2	1460	2	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	51.7	31.6	10.9	4.3	1.5	1457	5	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	51.6	32.2	11.9	3.4	0.8	1458	4	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	38.3	33.5	18.8	7.4	2.0	1456	6	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	36.2	32.4	21.0	7.1	3.3	1455	7	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	57.7	29.4	10.7	1.7	0.4	1457	5	0.78
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	54.8	32.2	10.4	2.0	0.5	1455	7	0.80
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.10	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	52.0	32.0	11.3	3.4	1.4	1457	5	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.18	48.3	31.0	13.1	5.6	1.9	1457	5	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	4.11	46.1	29.6	16.2	5.7	2.3	1454	8	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	39.2	33.7	17.8	7.1	2.2	1457	5	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.14	46.8	30.6	14.9	5.7	2.0	1454	8	1.00
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.87	34.4	29.5	27.5	6.1	2.5	1451	11	1.04
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	49.3	29.9	14.4	5.3	1.1	1449	13	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.80	5.4	4.8	10.6	22.6	56.5	1450	12	1.15
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.70	13.9	16.6	24.2	16.0	29.3	1446	16	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	26.6	30.0	25.6	11.0	6.8	1449	13	1.18
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.84	32.4	33.8	23.2	6.5	4.1	1451	11	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	48.6	29.7	15.9	3.7	2.1	1413	49	0.97

Q1-Q19の当区分平均値	3.93
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

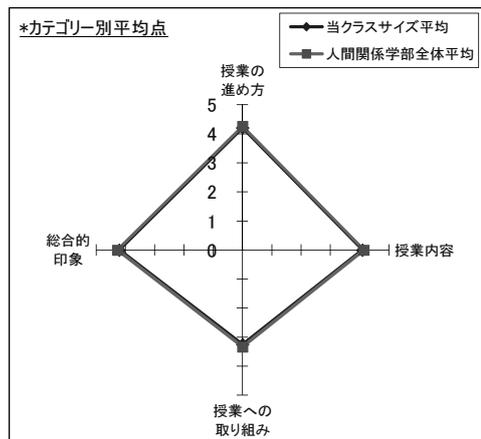
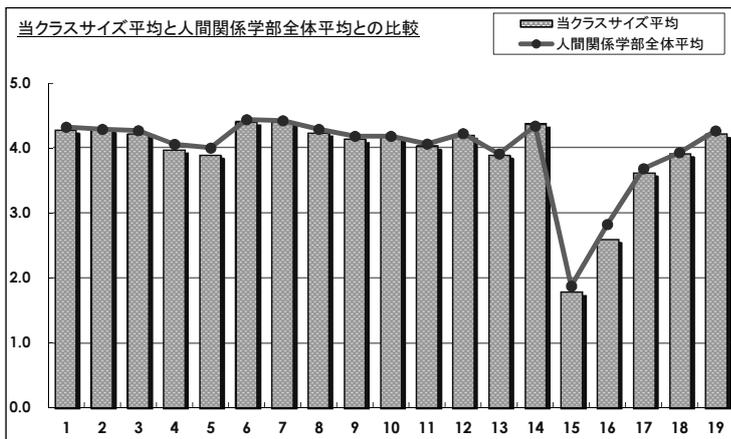
大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上
--------	--------

履修者数	4,986
回答者数	3,727

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.20	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	52.1	30.3	11.4	4.9	1.3	3725	2	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	51.3	31.8	12.0	3.8	1.1	3723	4	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	49.5	30.2	14.5	4.0	1.8	3724	3	0.96
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	36.7	33.1	22.2	6.3	1.8	3720	7	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	35.1	31.1	23.9	7.1	2.8	3717	10	1.06
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.40	57.4	28.0	12.7	1.3	0.6	3713	14	0.80
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	55.5	31.0	11.3	1.7	0.5	3715	12	0.79
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.11	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.23	47.5	33.1	15.1	3.4	0.9	3718	9	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.13	44.0	32.9	16.9	4.7	1.5	3715	12	0.96
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	47.4	31.1	14.0	5.4	2.1	3716	11	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.03	40.3	33.0	18.2	6.4	2.1	3716	11	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	47.7	31.4	15.2	4.1	1.6	3708	19	0.95
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.89	33.5	31.2	27.8	5.3	2.2	3689	38	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	58.1	26.2	10.9	3.8	1.0	3704	23	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.79	4.3	4.1	9.9	29.2	52.4	3713	14	1.06
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.59	12.0	13.6	26.9	16.9	30.7	3695	32	1.36
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.61	26.5	30.5	26.8	10.0	6.1	3708	19	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.91	36.1	32.8	21.2	5.9	4.1	3700	27	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	51.2	27.0	15.6	3.8	2.3	3594	133	0.99

Q1-Q19の当区分平均値	3.92
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

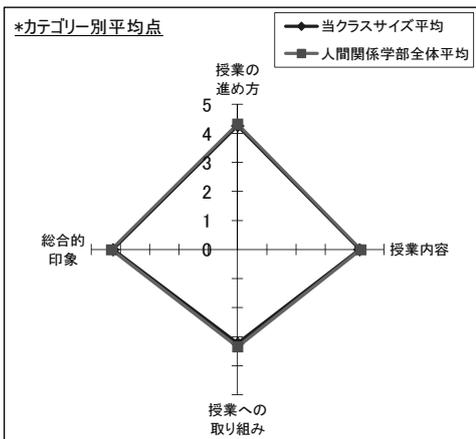
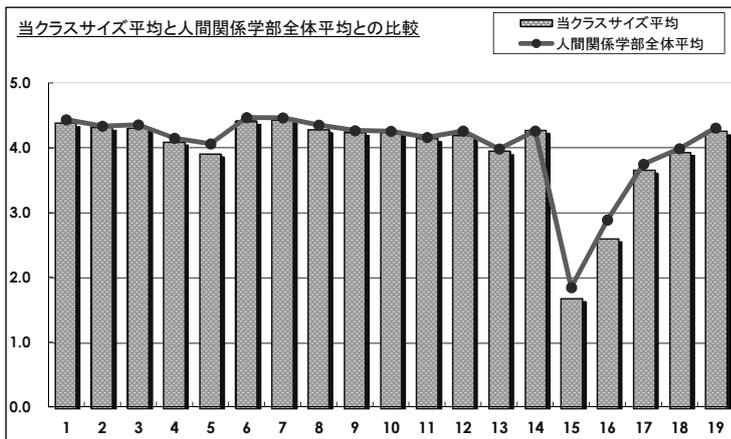
大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上
--------	--------

履修者数	5,202
回答者数	3,451

I. 先生のこの授業の進め方について		当カテゴリー平均点					4.26			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	57.9	29.1	7.8	3.8	1.4	3448	3	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	55.4	28.2	11.0	3.5	1.8	3448	3	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	54.6	28.4	11.4	3.9	1.6	3446	5	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	43.2	32.1	17.2	5.4	2.0	3444	7	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	38.1	29.0	22.1	7.2	3.6	3443	8	1.10
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	60.1	25.6	11.2	2.0	1.1	3442	9	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	60.4	26.5	10.0	2.1	1.0	3432	19	0.83
II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					4.18			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	52.3	29.9	13.0	3.5	1.4	3445	6	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	51.2	30.0	12.8	4.0	2.0	3443	8	0.96
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	51.3	29.6	12.8	4.5	1.8	3442	9	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	46.3	31.3	15.4	4.9	2.1	3442	9	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	49.4	29.1	15.6	4.0	2.0	3444	7	0.97
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.95	38.2	28.6	25.7	5.0	2.5	3420	31	1.03
III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					3.23			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.7	26.9	13.3	4.9	1.2	3436	15	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.69	4.0	4.1	10.1	20.4	61.4	3436	15	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	12.7	13.6	27.2	14.7	31.8	3416	35	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.66	28.9	30.0	25.5	9.2	6.4	3436	15	1.17
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.93	38.0	32.0	19.6	6.2	4.2	3427	24	1.09
IV. 総合的な印象		当カテゴリー平均点					4.25			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	53.3	26.6	14.3	3.8	2.0	3322	129	0.97

Q1-Q19の当区分平均値	3.97
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

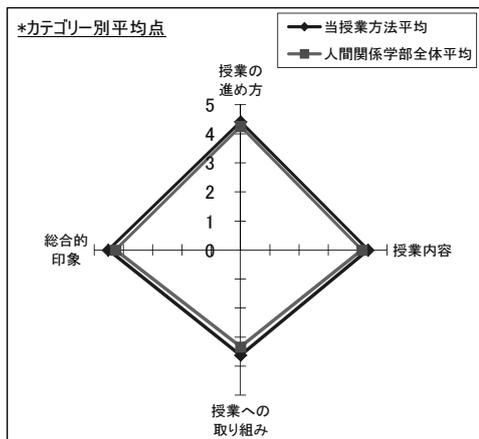
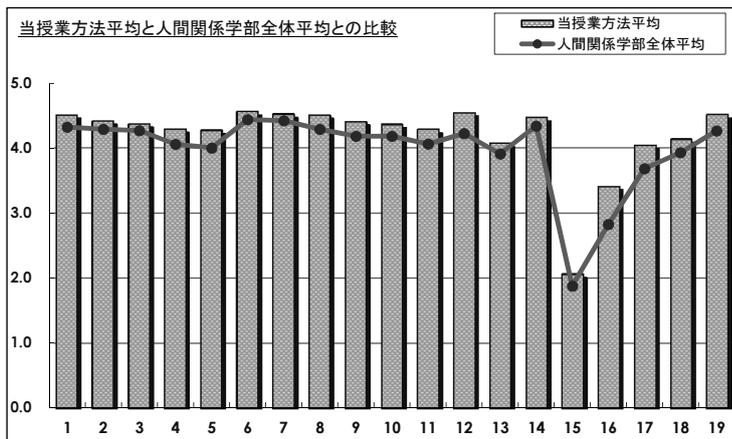
大妻女子大学

授業方法	演習
------	----

履修者数	1,716
回答者数	1,484

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.42	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.51	62.9	27.9	7.3	1.3	0.5	1483	1	0.73
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	56.3	30.8	11.5	1.0	0.3	1482	2	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	57.7	25.7	13.6	2.2	0.7	1482	2	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.29	53.0	28.6	14.0	3.4	1.0	1484	0	0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	53.0	26.2	16.9	3.0	0.9	1482	2	0.91
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	68.0	22.1	8.5	0.9	0.5	1480	4	0.73
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	63.1	27.3	8.8	0.7	0.2	1481	3	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.36	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	62.0	27.8	9.3	0.5	0.3	1480	4	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.41	55.0	32.3	11.2	1.0	0.4	1478	6	0.76
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	54.1	31.5	12.0	1.8	0.6	1481	3	0.81
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	49.1	34.2	13.5	2.8	0.3	1479	5	0.83
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.54	65.5	25.3	7.7	0.9	0.5	1477	7	0.72
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	41.7	29.8	24.3	3.1	1.2	1471	13	0.94
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.63	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.47	61.9	26.7	8.3	2.5	0.5	1474	10	0.79
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.06	7.6	7.0	15.0	24.7	45.6	1478	6	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.41	27.4	22.1	27.1	11.5	12.0	1473	11	1.32
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.05	38.6	34.8	20.8	4.0	1.8	1479	5	0.95
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.14	43.6	32.9	18.6	3.4	1.5	1480	4	0.93
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.52	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	64.3	25.5	8.2	1.4	0.6	1402	82	0.75

Q1-Q19の当区分平均値	4.20
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

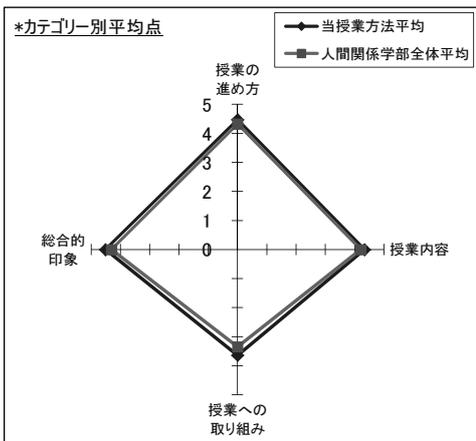
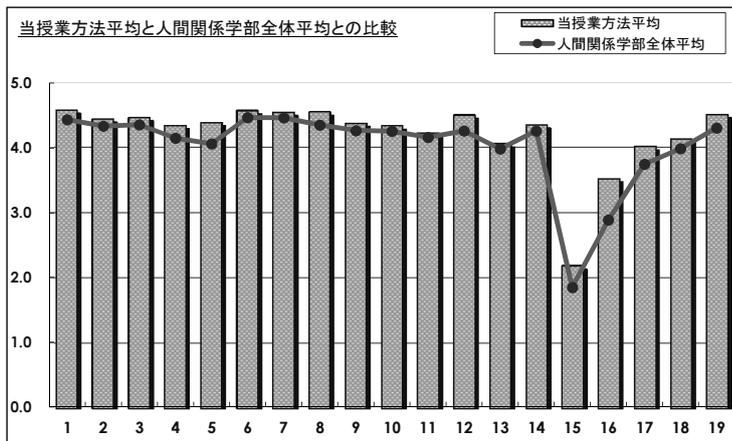
大妻女子大学

授業方法	演習
------	----

履修者数	1,737
回答者数	1,431

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.48	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	67.8	24.2	6.2	1.4	0.3	1430	1	0.70
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	57.9	30.4	9.7	1.8	0.2	1428	3	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.46	62.5	23.5	11.8	2.0	0.1	1428	3	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	55.6	28.6	10.9	4.1	0.8	1428	3	0.88
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.39	57.6	26.9	12.5	2.3	0.6	1426	5	0.84
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.57	68.4	22.2	8.0	1.1	0.3	1429	2	0.72
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	64.8	26.3	7.7	1.0	0.2	1428	3	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.55	64.7	26.8	7.3	1.2	0.1	1430	1	0.69
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.37	55.1	31.0	10.7	2.7	0.5	1429	2	0.82
10	授業の内容は興味深いものだった	4.34	53.7	30.0	12.9	3.1	0.3	1429	2	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	47.9	32.3	15.1	3.9	0.8	1428	3	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	63.6	25.5	8.9	1.8	0.2	1426	5	0.75
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.06	40.4	31.1	24.0	3.3	1.2	1420	11	0.94
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.64	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	57.3	26.0	12.1	3.6	1.0	1422	9	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.19	9.6	8.1	17.1	22.0	43.1	1426	5	1.33
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.53	28.9	25.8	24.4	10.7	10.2	1413	18	1.29
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.02	38.8	32.9	21.7	4.6	2.0	1421	10	0.98
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.13	43.2	33.9	17.5	3.7	1.7	1421	10	0.94
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.51	64.5	24.8	8.9	1.2	0.6	1383	48	0.76

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

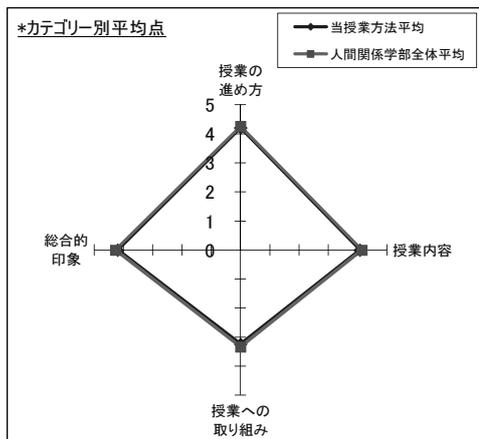
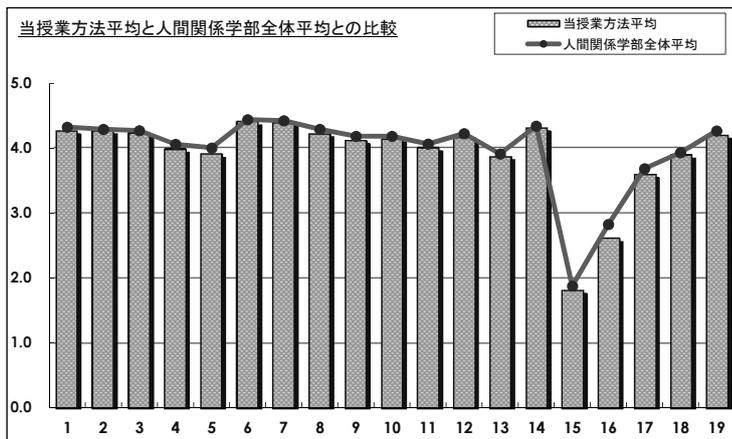
大妻女子大学

授業方法	講義
------	----

履修者数	7,903
回答者数	5,948

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.20	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.26	52.2	29.6	11.4	5.4	1.3	5941	7	0.95
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	51.2	31.1	11.9	4.3	1.5	5939	9	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.23	50.2	29.6	14.9	3.7	1.6	5940	8	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.98	37.9	33.0	20.6	6.4	2.1	5935	13	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	36.5	30.1	23.3	7.2	2.8	5924	24	1.06
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.40	58.3	27.3	11.9	1.7	0.9	5926	22	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	55.7	30.2	11.7	1.8	0.7	5919	29	0.81
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.08	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	47.8	32.2	14.7	4.2	1.1	5935	13	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.11	43.9	32.2	16.9	5.1	1.9	5932	16	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	46.3	31.3	14.4	5.8	2.2	5930	18	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.00	39.7	32.8	18.4	6.6	2.5	5928	20	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.16	46.3	31.4	16.0	4.6	1.8	5921	27	0.97
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.86	33.0	31.0	27.9	5.7	2.4	5893	55	1.02
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	55.3	26.9	12.1	4.3	1.4	5905	43	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.81	4.1	4.2	10.8	30.3	50.5	5924	24	1.06
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	11.9	13.8	27.5	17.5	29.3	5884	64	1.35
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	26.3	29.8	26.7	10.8	6.4	5920	28	1.17
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.89	35.5	32.7	21.1	6.5	4.1	5904	44	1.09
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	50.1	27.9	15.6	4.0	2.4	5731	217	1.00

Q1-Q19の当区分平均値	3.91
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



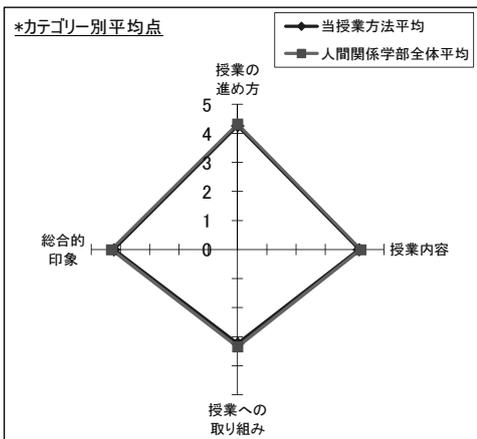
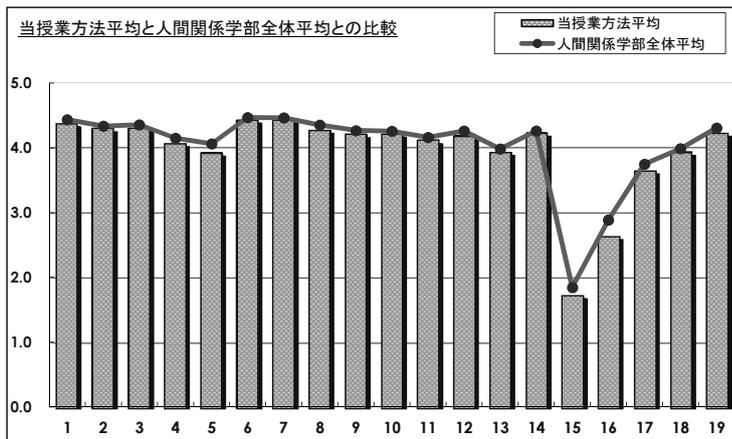
2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	7,346
		回答者数	4,929

I. 先生のこの授業の進め方について		当カテゴリ平均点		回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点		5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.37		57.3	29.4	8.0	4.1	1.3	4924	5	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30		54.0	29.2	11.1	3.9	1.7	4921	8	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31		54.5	28.4	11.8	3.8	1.4	4919	10	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07		42.1	32.4	17.7	5.9	1.9	4917	12	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93		38.9	29.2	21.1	7.3	3.5	4914	15	1.10
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43		60.7	25.7	10.6	2.1	0.9	4914	15	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43		59.8	27.5	9.6	2.2	0.9	4908	21	0.82
II. この授業の内容について		当カテゴリ平均点		回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点		5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27		51.8	30.3	12.9	3.6	1.5	4918	11	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.21		50.2	29.7	13.3	4.8	2.0	4916	13	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21		50.7	28.9	13.6	4.9	2.0	4914	15	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12		45.3	31.1	16.0	5.5	2.1	4915	14	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18		49.1	28.8	15.5	4.5	2.1	4914	15	0.99
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.93		37.7	28.5	25.9	5.4	2.5	4885	44	1.04
III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリ平均点		回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点		5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23		51.2	28.2	14.3	5.1	1.2	4903	26	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.73		4.4	4.2	10.7	21.9	58.9	4905	24	1.09
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.64		13.5	13.8	26.7	15.3	30.7	4880	49	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.65		29.2	29.5	25.1	9.8	6.4	4903	26	1.18
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94		37.8	32.3	19.9	6.0	4.0	4891	38	1.08
IV. 総合的な印象		当カテゴリ平均点		回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点		5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23		51.9	27.3	14.6	4.1	2.1	4752	177	0.98

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

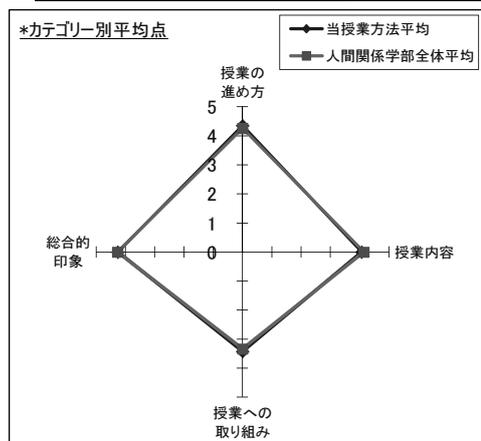
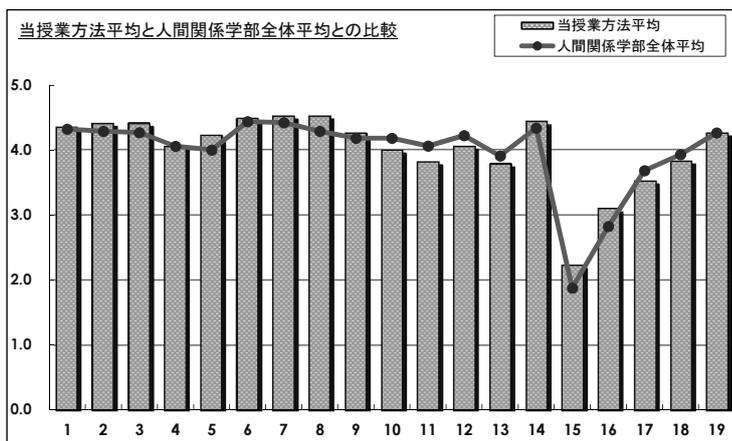
大妻女子大学

授業方法	講義・演習
------	-------

履修者数	509
回答者数	457

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	53.8	32.6	9.4	3.1	1.1	457	0	0.86
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	54.7	34.1	9.7	0.7	0.9	455	2	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.41	58.9	28.0	10.3	1.3	1.5	457	0	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	41.6	33.5	15.5	7.9	1.5	457	0	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	48.8	31.9	13.6	4.4	1.3	457	0	0.93
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.49	64.3	25.4	6.4	2.9	1.1	456	1	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	61.8	31.0	5.5	1.1	0.7	455	2	0.71
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.07	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.52	61.4	31.6	5.3	1.1	0.7	456	1	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.26	46.4	37.6	12.5	2.2	1.3	457	0	0.85
10	授業の内容は興味深いものだった	4.00	39.6	33.0	18.2	6.1	3.1	457	0	1.05
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.82	32.2	33.7	21.7	9.0	3.5	457	0	1.09
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.06	40.3	36.1	15.1	6.1	2.4	457	0	1.01
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.79	27.4	33.3	32.5	4.4	2.4	456	1	0.97
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.42	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	62.1	25.2	7.9	4.2	0.7	456	1	0.86
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.23	6.6	7.5	16.0	42.3	27.6	456	1	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.10	20.0	20.0	28.9	12.2	18.9	450	7	1.37
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.52	21.5	33.6	27.7	9.9	7.3	455	2	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.83	32.5	33.6	23.1	5.9	4.8	455	2	1.10
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	49.2	33.7	12.4	3.1	1.6	451	6	0.90

Q1-Q19の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

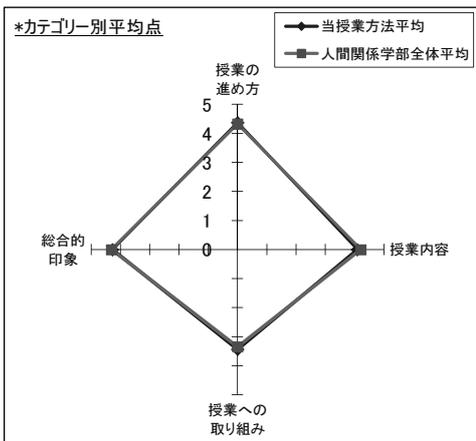
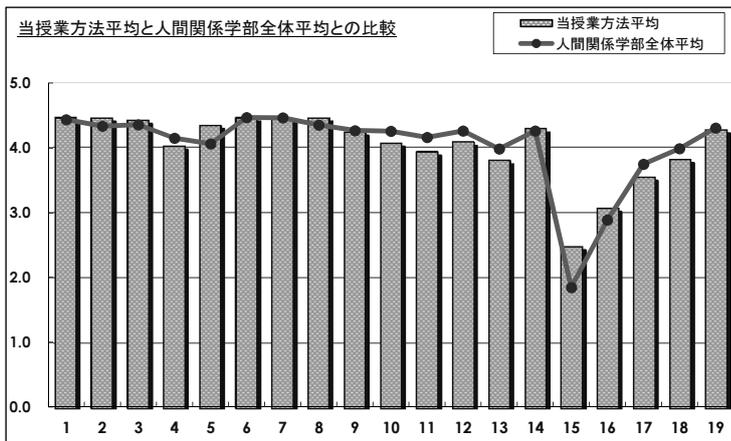
大妻女子大学

授業方法	講義・演習
------	-------

履修者数	223
回答者数	195

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.37	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.46	57.7	32.0	8.8	1.5	0.0	194	1	0.72
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.45	55.2	37.1	6.2	1.0	0.5	194	1	0.71
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	51.0	40.7	7.7	0.5	0.0	194	1	0.66
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	38.1	35.6	18.0	6.7	1.5	194	1	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.34	52.1	32.5	13.4	1.5	0.5	194	1	0.81
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	58.2	31.4	8.2	2.1	0.0	194	1	0.73
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	57.0	31.6	10.4	0.5	0.5	193	2	0.74
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.10	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.45	60.8	28.4	7.2	2.6	1.0	194	1	0.82
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	48.5	32.0	15.5	3.1	1.0	194	1	0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	4.07	43.5	31.1	16.1	7.3	2.1	193	2	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.94	32.0	41.8	16.5	7.7	2.1	194	1	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.09	40.2	39.2	12.4	5.7	2.6	194	1	0.99
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.80	28.4	34.5	27.8	7.7	1.5	194	1	0.99
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.44	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	56.5	23.6	13.1	5.8	1.0	191	4	0.97
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.48	8.3	13.0	25.9	24.4	28.5	193	2	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.07	13.1	26.2	30.4	15.2	15.2	191	4	1.24
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.54	20.7	32.6	33.2	7.3	6.2	193	2	1.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.82	26.0	41.1	25.0	4.2	3.6	192	3	0.99
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	47.6	34.8	16.0	0.5	1.1	187	8	0.83

Q1-Q19の当区分平均値	4.04
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

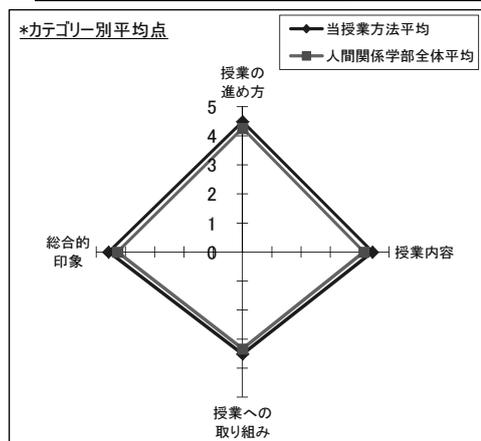
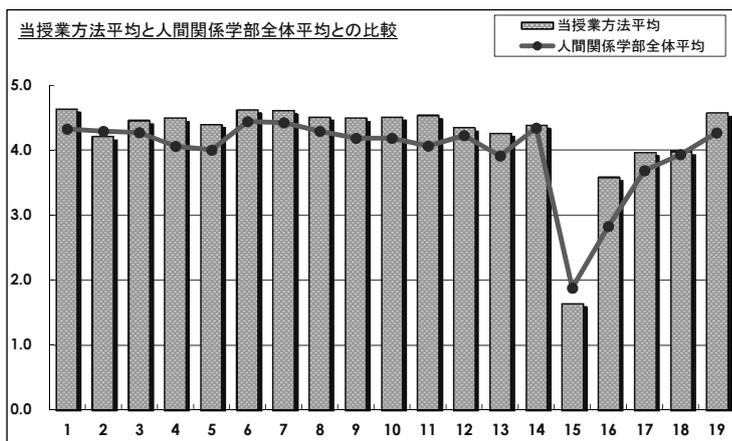
大妻女子大学

授業方法	実技
------	----

履修者数	443
回答者数	335

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.49	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.63	74.9	16.7	6.0	1.5	0.9	335	0	0.74
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.21	53.0	20.4	23.4	1.2	2.1	334	1	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.46	63.3	22.7	11.3	2.1	0.6	335	0	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.49	63.5	24.6	10.2	1.5	0.3	334	1	0.76
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.40	60.6	21.8	14.9	2.1	0.6	335	0	0.86
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.62	72.2	19.7	6.3	1.5	0.3	335	0	0.70
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	71.3	20.3	6.6	1.5	0.3	335	0	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.44	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	63.0	26.9	9.0	0.6	0.6	335	0	0.73
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.50	63.0	26.0	9.0	1.8	0.3	335	0	0.76
10	授業の内容は興味深いものだった	4.51	65.1	24.2	8.4	1.8	0.6	335	0	0.77
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.54	65.1	25.4	8.1	1.2	0.3	335	0	0.72
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	53.9	30.2	13.2	2.1	0.6	334	1	0.83
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	52.0	27.6	16.2	3.0	1.2	333	2	0.92
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	57.2	29.9	8.1	3.6	1.2	334	1	0.87
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.64	10.2	2.1	5.7	6.0	76.0	334	1	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.58	35.9	18.5	25.2	8.8	11.6	329	6	1.35
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	44.5	22.7	22.1	6.3	4.5	335	0	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	44.7	23.7	21.6	4.8	5.1	333	2	1.15
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.57	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	71.8	17.6	7.7	1.5	1.2	323	12	0.80

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25

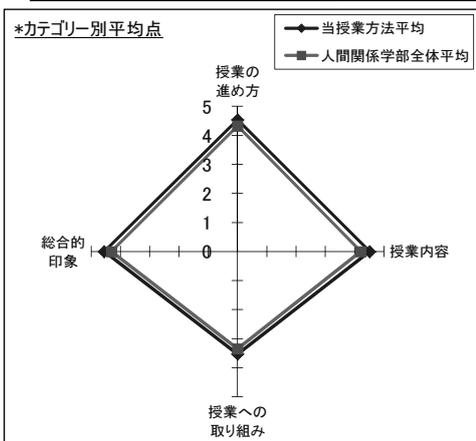
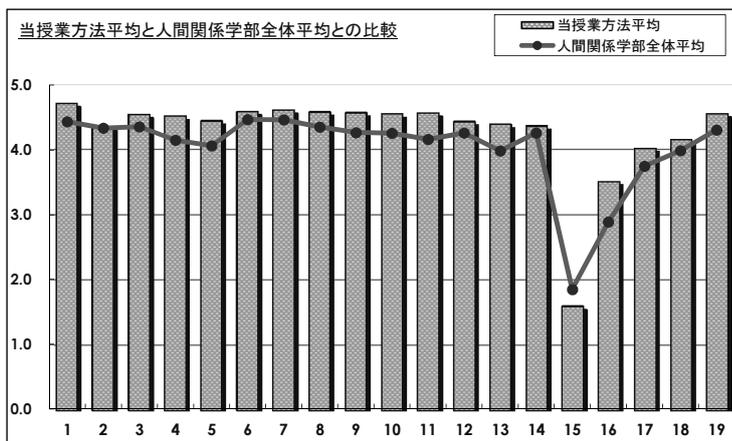


授業方法	実技
------	----

履修者数	573
回答者数	375

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.54	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.71	76.5	18.4	4.8	0.3	0.0	375	0	0.56
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	55.6	26.7	15.8	0.8	1.1	374	1	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.54	64.8	25.9	8.3	1.1	0.0	375	0	0.69
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.52	62.1	27.5	10.4	0.0	0.0	375	0	0.68
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.45	60.5	25.1	13.1	1.3	0.0	375	0	0.77
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	67.5	24.5	7.5	0.5	0.0	375	0	0.65
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	70.7	19.9	9.4	0.0	0.0	372	3	0.65
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.58	66.7	25.3	7.5	0.5	0.0	375	0	0.65
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.57	65.6	26.1	8.0	0.3	0.0	375	0	0.65
10	授業の内容は興味深いものだった	4.55	65.8	25.1	7.5	1.3	0.3	374	1	0.71
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.57	66.7	24.3	8.0	1.1	0.0	375	0	0.69
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	58.1	29.6	10.4	1.1	0.8	375	0	0.78
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.39	59.2	24.9	13.1	1.1	1.6	373	2	0.87
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.53	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	56.8	26.5	13.7	2.4	0.5	373	2	0.85
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.60	6.7	3.8	5.9	10.2	73.3	371	4	1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.52	36.8	17.8	22.2	6.8	16.5	370	5	1.45
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.02	45.1	25.3	20.8	4.5	4.3	375	0	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.16	50.8	24.5	17.5	4.6	2.7	372	3	1.04
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.55	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.55	67.3	22.8	8.2	1.4	0.3	355	20	0.73

Q1-Q19の当区分平均値	4.27
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

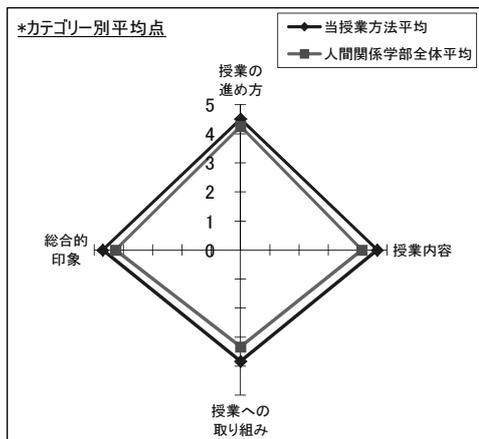
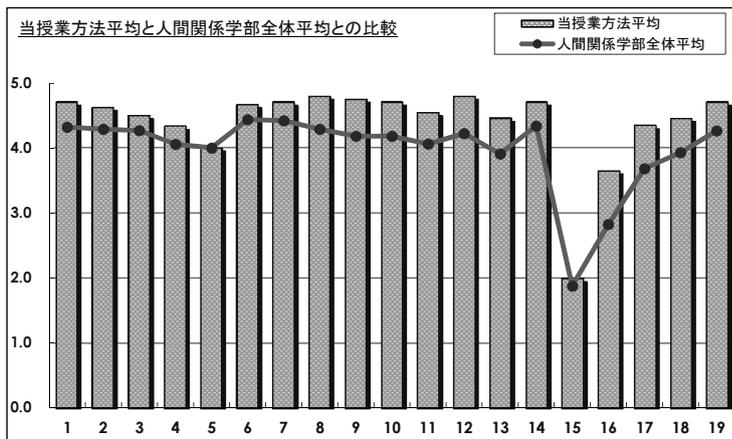
大妻女子大学

授業方法	講義・実習
------	-------

履修者数	30
回答者数	24

I. 先生のこの授業の進め方について								当カテゴリー平均点		4.51
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.71	70.8	29.2	0.0	0.0	0.0	24	0	0.46
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.63	66.7	29.2	4.2	0.0	0.0	24	0	0.58
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.50	58.3	37.5	0.0	4.2	0.0	24	0	0.72
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	41.7	50.0	8.3	0.0	0.0	24	0	0.64
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	33.3	41.7	16.7	8.3	0.0	24	0	0.93
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.67	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	24	0	0.48
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.71	70.8	29.2	0.0	0.0	0.0	24	0	0.46
II. この授業の内容について								当カテゴリー平均点		4.67
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.79	87.5	4.2	8.3	0.0	0.0	24	0	0.59
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.75	79.2	16.7	4.2	0.0	0.0	24	0	0.53
10	授業の内容は興味深いものだった	4.71	75.0	20.8	4.2	0.0	0.0	24	0	0.55
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.54	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0	24	0	0.59
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0	24	0	0.41
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.46	66.7	20.8	8.3	0.0	4.2	24	0	0.98
III. この授業への取り組みとその成果について								当カテゴリー平均点		3.83
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.71	70.8	29.2	0.0	0.0	0.0	24	0	0.46
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.00	12.5	12.5	0.0	12.5	62.5	24	0	1.53
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.65	34.8	30.4	13.0	8.7	13.0	23	1	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.35	52.2	30.4	17.4	0.0	0.0	23	1	0.78
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.45	59.1	27.3	13.6	0.0	0.0	22	2	0.74
IV. 総合的な印象								当カテゴリー平均点		4.71
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.71	75.0	20.8	4.2	0.0	0.0	24	0	0.55

Q1-Q19の当区分平均値	4.39
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



授業方法	講義・実習
------	-------

履修者数	48
回答者数	35

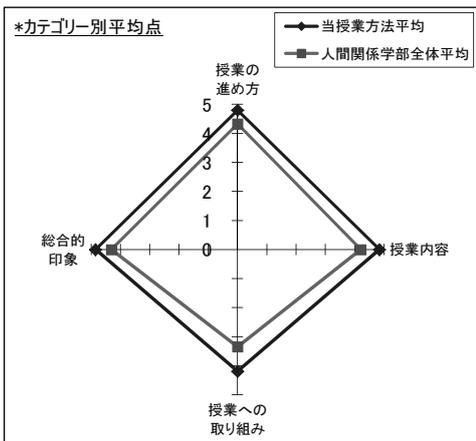
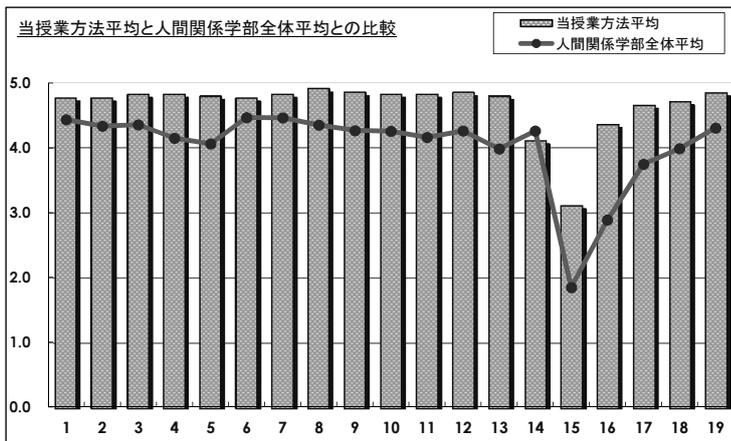
I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.80	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.77	82.9	11.4	5.7	0.0	0.0	35	0	0.55
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.77	82.9	11.4	5.7	0.0	0.0	35	0	0.55
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.83	88.6	5.7	5.7	0.0	0.0	35	0	0.51
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.83	88.6	5.7	5.7	0.0	0.0	35	0	0.51
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.80	85.7	8.6	5.7	0.0	0.0	35	0	0.53
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.77	82.9	11.4	5.7	0.0	0.0	35	0	0.55
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.83	88.6	5.7	5.7	0.0	0.0	35	0	0.51

II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.85	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.91	94.3	2.9	2.9	0.0	0.0	35	0	0.37
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.86	88.6	8.6	2.9	0.0	0.0	35	0	0.43
10	授業の内容は興味深いものだった	4.83	85.7	11.4	2.9	0.0	0.0	35	0	0.45
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.83	85.7	11.4	2.9	0.0	0.0	35	0	0.45
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.86	88.6	8.6	2.9	0.0	0.0	35	0	0.43
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.80	82.9	14.3	2.9	0.0	0.0	35	0	0.47

III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.11	42.9	28.6	25.7	2.9	0.0	35	0	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	3.11	31.4	14.3	11.4	20.0	22.9	35	0	1.60
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.36	60.6	21.2	12.1	6.1	0.0	33	2	0.93
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.66	71.4	22.9	5.7	0.0	0.0	35	0	0.59
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.71	74.3	22.9	2.9	0.0	0.0	35	0	0.52

IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.85	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.85	87.9	9.1	3.0	0.0	0.0	33	2	0.44

Q1-Q19の当区分平均値	4.66
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

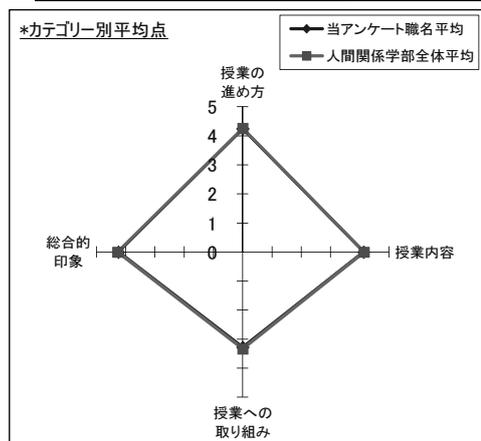
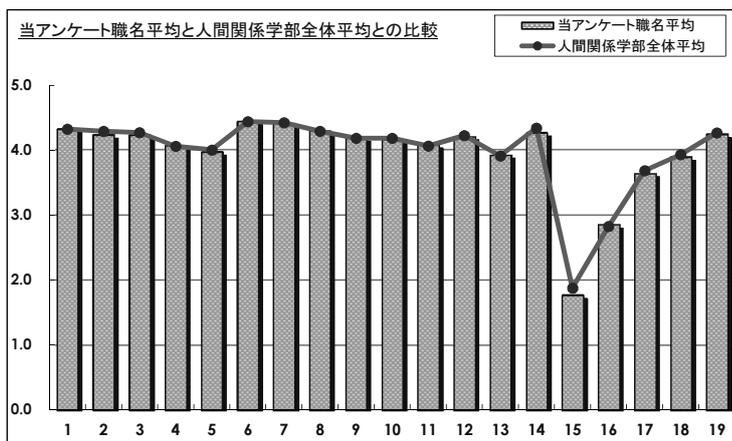
大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任
---------	------

履修者数	4,997
回答者数	3,873

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	56.5	27.3	9.5	5.1	1.5	3868	5	0.95
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	50.6	30.0	13.3	4.4	1.8	3865	8	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.23	50.3	29.1	15.4	3.8	1.4	3867	6	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	41.4	33.0	18.4	5.4	1.8	3864	9	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	39.0	29.9	22.5	6.3	2.2	3857	16	1.03
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	60.7	26.1	10.5	1.7	1.0	3859	14	0.82
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	57.6	29.1	10.7	2.0	0.6	3852	21	0.81
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.14	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	51.6	31.4	12.7	3.3	1.0	3866	7	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.18	46.9	32.9	13.8	4.6	1.8	3867	6	0.96
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	46.8	31.6	14.6	5.0	2.0	3866	7	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	42.7	33.1	16.2	5.8	2.3	3860	13	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	48.2	31.3	15.1	3.6	1.8	3856	17	0.95
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.92	35.3	32.0	24.7	5.4	2.5	3838	35	1.02
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.28	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	51.9	29.9	12.4	4.5	1.4	3844	29	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.77	4.8	4.2	9.9	25.6	55.5	3859	14	1.10
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.85	16.7	16.0	27.0	16.1	24.1	3833	40	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.64	28.0	29.3	27.2	9.6	5.9	3861	12	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.89	35.5	32.4	22.0	5.9	4.2	3849	24	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	52.1	28.3	13.8	3.7	2.2	3713	160	0.97

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

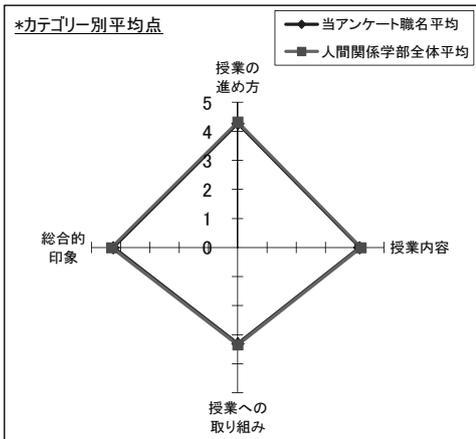
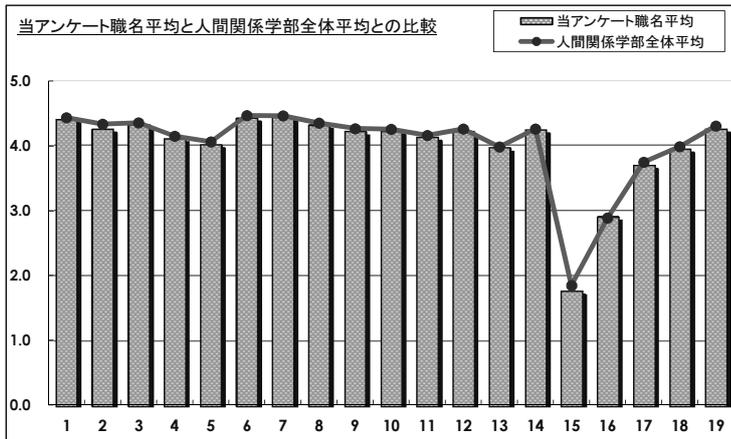
大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任
---------	------

履修者数	5,494
回答者数	3,659

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.39	59.4	27.3	8.0	4.1	1.3	3656	3	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	51.3	29.8	12.9	4.3	1.7	3652	7	0.95
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	54.9	27.8	12.5	4.0	0.9	3654	5	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	44.2	31.3	16.8	5.9	1.7	3653	6	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	41.9	28.5	20.6	6.7	2.4	3648	11	1.05
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	60.3	25.4	11.1	2.2	0.9	3652	7	0.84
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	59.8	26.9	10.4	2.1	0.9	3642	17	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.17	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	53.5	29.6	12.3	3.3	1.2	3653	6	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.21	49.5	30.2	13.9	4.7	1.8	3652	7	0.97
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	50.1	29.2	14.1	4.9	1.6	3648	11	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	46.1	30.0	16.5	5.6	1.9	3651	8	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	50.0	28.7	15.4	4.2	1.8	3649	10	0.97
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.96	38.7	28.4	25.4	5.2	2.3	3632	27	1.03
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	50.7	29.2	14.5	4.5	1.2	3638	21	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.77	5.5	4.5	10.7	19.6	59.7	3645	14	1.15
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.90	19.2	16.6	25.0	13.9	25.3	3622	37	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	30.8	29.0	25.1	9.0	6.2	3640	19	1.17
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	38.8	30.9	20.2	6.1	4.1	3632	27	1.09
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	52.7	27.1	14.4	4.0	1.8	3532	127	0.97

Q1-Q19の当区分平均値	3.99
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

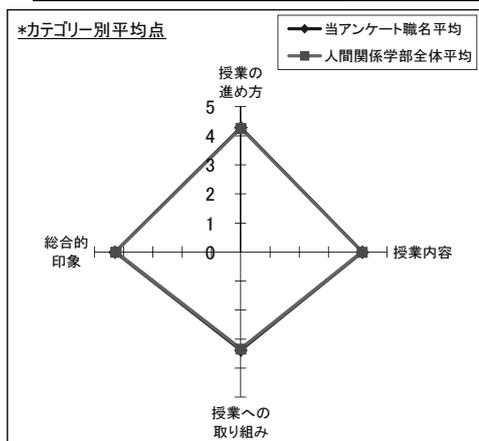
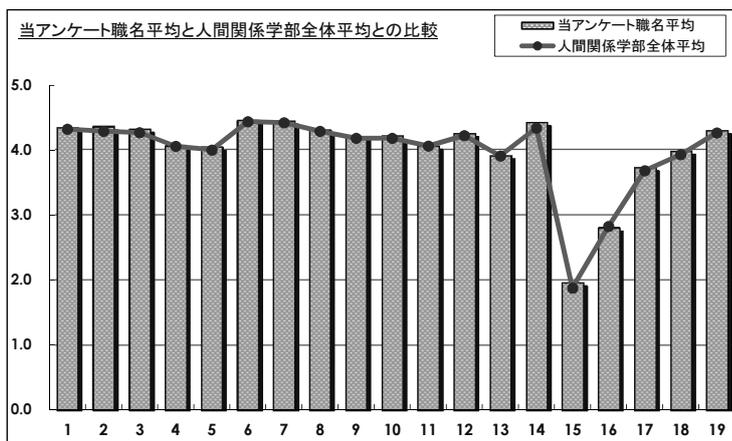
大妻女子大学

アンケート職名	1.専任
---------	------

履修者数	5,604
回答者数	4,375

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	54.1	30.4	11.0	3.7	0.8	4372	3	0.87
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	54.1	31.5	11.1	2.5	0.8	4369	6	0.84
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	54.5	28.1	13.1	2.8	1.4	4371	4	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	42.4	31.0	18.9	5.9	1.8	4370	5	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	43.0	28.6	20.2	5.9	2.3	4365	10	1.04
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.45	61.1	25.8	11.0	1.5	0.6	4362	13	0.80
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	58.4	29.6	10.4	1.1	0.5	4362	13	0.76
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	52.0	30.9	13.2	3.1	0.8	4364	11	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.19	46.9	31.7	16.6	3.6	1.2	4359	16	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	49.3	30.7	13.4	4.8	1.8	4361	14	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	41.5	32.6	18.1	5.9	1.9	4363	12	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	51.2	29.7	13.6	4.2	1.3	4357	18	0.93
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.91	34.9	29.6	28.9	4.7	1.8	4339	36	0.99
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	61.5	24.3	9.8	3.4	1.1	4349	26	0.88
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.96	5.5	5.4	13.1	31.9	44.1	4357	18	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	15.6	15.7	27.7	15.5	25.5	4326	49	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	30.0	31.9	23.9	9.0	5.2	4351	24	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	38.9	32.5	19.6	5.7	3.3	4345	30	1.05
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.30	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	54.9	26.6	13.7	3.1	1.8	4218	157	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

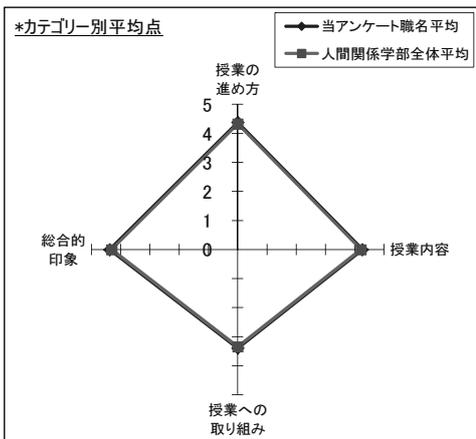
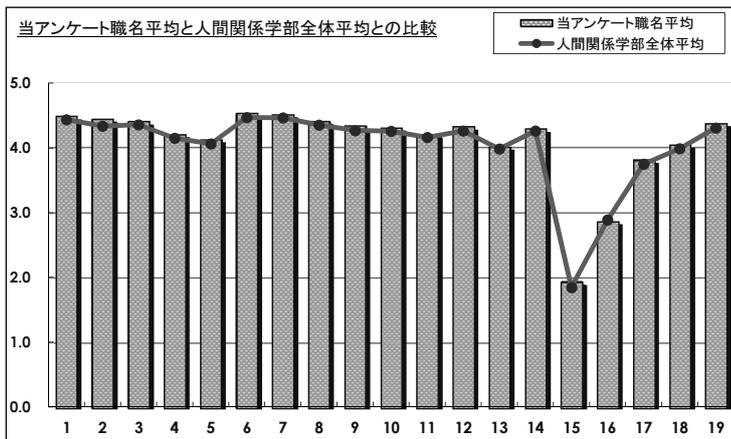
大妻女子大学

アンケート職名	1.専任
---------	------

履修者数	4,433
回答者数	3,306

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	62.0	28.2	6.9	2.3	0.7	3302	4	0.78
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	59.3	29.1	8.7	2.0	0.8	3300	6	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	58.9	27.1	10.4	2.3	1.2	3297	9	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	48.1	31.3	14.7	4.5	1.4	3296	10	0.94
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	47.4	28.6	16.4	4.8	2.9	3296	10	1.04
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.53	65.3	24.5	8.4	1.4	0.4	3295	11	0.74
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	63.3	26.8	7.9	1.5	0.4	3294	12	0.74
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	58.2	28.5	9.9	2.4	0.9	3299	7	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.33	55.1	29.3	11.0	3.3	1.3	3297	9	0.89
10	授業の内容は興味深いものだった	4.31	54.4	28.4	12.0	3.8	1.4	3297	9	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	47.6	32.5	14.1	4.4	1.5	3296	10	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	55.4	27.9	11.9	3.3	1.5	3295	11	0.91
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	40.1	29.5	24.1	4.4	2.0	3275	31	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリ平均点		3.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	55.3	25.7	13.1	4.8	1.1	3286	20	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.94	6.1	6.1	13.9	23.3	50.6	3285	21	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.87	16.8	17.2	27.2	13.7	25.1	3265	41	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.81	33.3	31.2	23.4	7.7	4.4	3287	19	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	40.1	34.1	18.3	4.7	2.7	3279	27	1.01
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.37	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	58.3	26.2	11.6	2.4	1.5	3178	128	0.89

Q1-Q19の当区分平均値	4.09
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

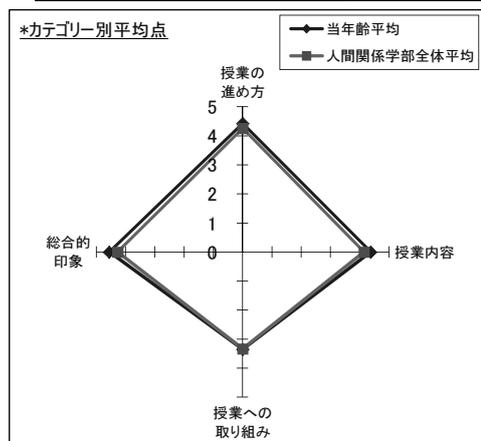
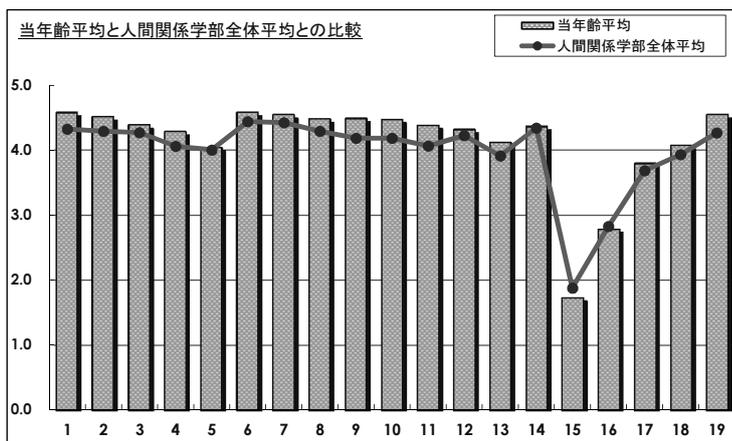
大妻女子大学

年齢	35歳以下
----	-------

履修者数	686
回答者数	532

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.42	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	67.9	24.6	6.0	0.9	0.6	532	0	0.70
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	65.9	22.6	9.8	0.6	1.1	531	1	0.79
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	57.0	28.6	11.7	2.3	0.6	532	0	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.29	49.4	33.6	14.3	1.9	0.8	530	2	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	38.9	35.3	18.9	5.3	1.7	530	2	0.97
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	68.4	23.4	6.6	1.3	0.2	529	3	0.69
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	64.7	27.7	5.8	1.3	0.4	530	2	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.48	59.5	30.7	8.9	0.6	0.4	531	1	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.49	60.3	30.3	8.1	0.9	0.4	531	1	0.72
10	授業の内容は興味深いものだった	4.48	60.1	29.4	9.0	1.1	0.4	531	1	0.74
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.39	53.2	34.3	10.8	1.3	0.4	530	2	0.76
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	51.6	32.6	13.0	2.3	0.6	525	7	0.83
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	40.2	36.0	20.5	2.1	1.1	522	10	0.88
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	58.7	25.4	10.7	4.2	1.0	523	9	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.73	4.4	3.4	9.3	26.9	56.0	527	5	1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.79	16.5	12.3	30.1	16.1	25.0	521	11	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	31.6	31.8	25.2	7.8	3.6	528	4	1.08
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.07	43.0	29.3	22.2	3.0	2.5	526	6	1.00
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.55	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.55	67.3	22.6	9.2	0.0	1.0	513	19	0.74

Q1-Q19の当区分平均値	4.14
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25

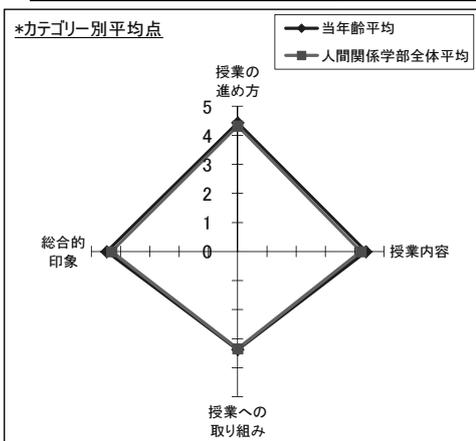
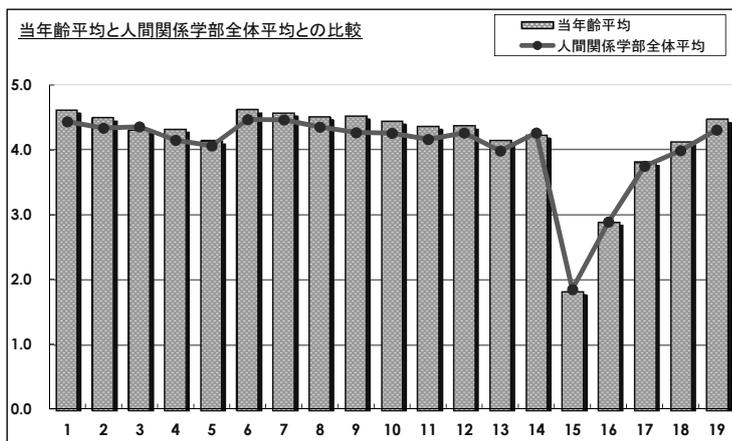


年齢	35歳以下
----	-------

履修者数	873
回答者数	547

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.44	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	69.1	24.5	4.8	1.6	0.0	547	0	0.66
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	62.5	26.9	8.6	1.6	0.4	547	0	0.75
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	51.4	31.4	13.7	3.1	0.4	547	0	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	48.4	37.2	12.6	1.6	0.2	546	1	0.77
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	44.5	31.4	18.6	4.6	0.9	544	3	0.94
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.62	70.3	22.0	7.0	0.7	0.0	546	1	0.65
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	65.5	26.1	8.1	0.4	0.0	545	2	0.66
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	61.8	29.1	7.5	1.5	0.2	547	0	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.52	63.0	27.3	8.6	0.9	0.2	546	1	0.71
10	授業の内容は興味深いものだった	4.44	58.9	29.0	9.7	2.0	0.4	545	2	0.78
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	53.0	33.1	11.7	1.6	0.5	547	0	0.79
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	53.7	32.4	11.7	1.6	0.5	546	1	0.80
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	43.4	31.1	23.1	1.8	0.5	546	1	0.88
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	47.3	33.7	13.8	4.6	0.6	543	4	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.82	5.0	6.4	11.4	20.2	57.0	544	3	1.17
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	18.0	19.1	22.5	14.3	26.0	538	9	1.45
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.81	30.1	33.6	26.4	6.8	3.0	541	6	1.04
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.13	43.2	32.7	19.7	2.8	1.7	542	5	0.94
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	59.2	30.4	9.0	0.8	0.6	520	27	0.74

Q1-Q19の当区分平均値	4.15
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

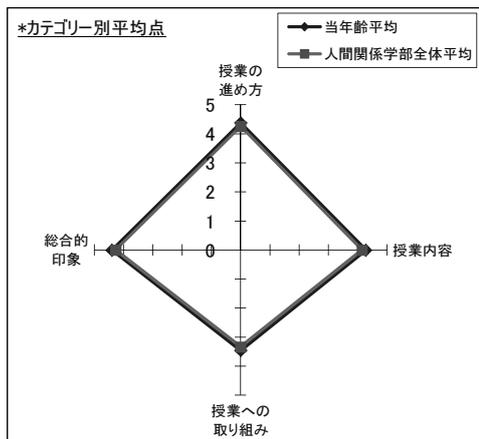
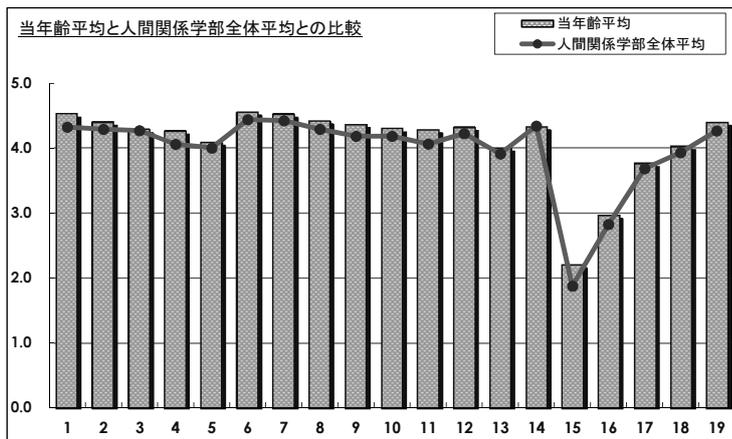
大妻女子大学

年齢	36～40歳
----	--------

履修者数	619
回答者数	477

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.53	63.5	27.3	8.0	1.0	0.2	477	0	0.71
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	56.4	30.4	10.3	2.7	0.2	477	0	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	52.2	27.9	16.8	2.7	0.4	477	0	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.26	48.5	34.0	14.1	2.1	1.3	476	1	0.87
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.2	28.3	21.1	4.9	1.5	473	4	0.99
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	66.5	24.1	8.2	1.0	0.2	477	0	0.71
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	63.7	25.9	9.5	0.8	0.0	474	3	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.28	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.42	57.2	30.0	10.5	1.9	0.4	477	0	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.36	52.8	34.0	10.5	2.3	0.4	477	0	0.79
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	51.6	32.0	12.2	3.4	0.8	475	2	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.28	49.4	35.7	9.9	4.0	1.1	476	1	0.88
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	52.5	31.5	12.6	2.5	0.8	476	1	0.85
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	38.7	31.4	23.4	4.2	2.3	475	2	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.46	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	56.4	27.7	10.1	4.2	1.7	477	0	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.21	9.6	6.5	17.2	28.3	38.4	477	0	1.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.97	19.3	16.7	27.1	15.0	21.8	472	5	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.77	30.7	30.5	28.4	5.5	4.8	475	2	1.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	40.0	33.3	18.9	5.1	2.7	475	2	1.02
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.40	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	55.8	31.8	9.3	2.4	0.7	453	24	0.81

Q1-Q19の当区分平均値	4.11
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

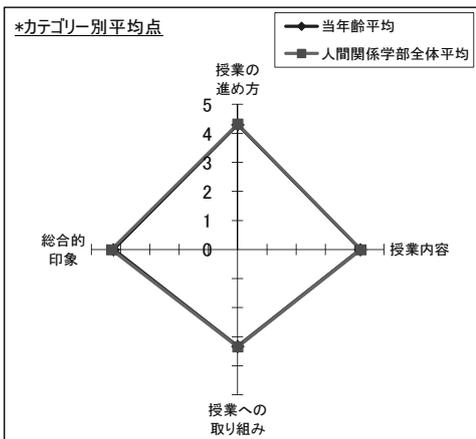
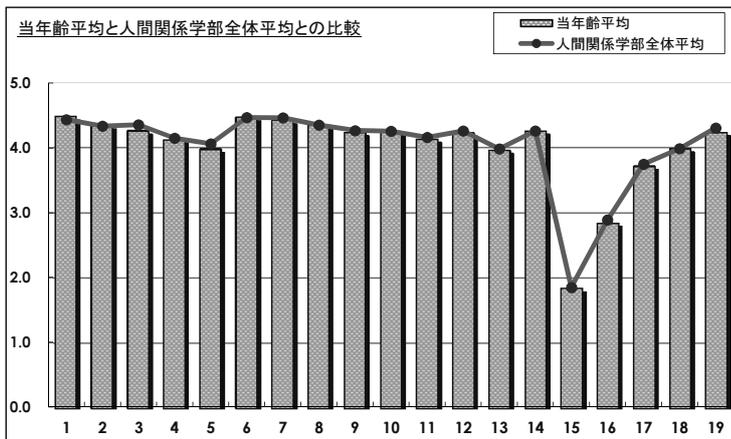
大妻女子大学

年齢	36～40歳
----	--------

履修者数	1,244
回答者数	884

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.30	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	63.8	25.7	6.3	3.1	1.0	882	2	0.83
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	57.4	27.1	9.7	4.1	1.7	883	1	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.27	54.0	26.8	12.7	5.0	1.6	882	2	0.97
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	44.5	33.0	14.7	6.2	1.6	883	1	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	41.0	29.0	19.7	7.6	2.6	882	2	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.9	24.5	10.0	1.9	0.7	882	2	0.80
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	59.6	27.4	9.8	2.4	0.8	878	6	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	55.9	27.9	12.6	2.7	0.9	883	1	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.24	51.5	28.7	13.4	4.9	1.6	882	2	0.97
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	52.0	28.3	13.6	4.3	1.7	880	4	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	46.2	30.4	16.1	5.4	1.8	881	3	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	50.8	28.8	14.3	4.9	1.2	883	1	0.95
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.96	39.5	27.1	25.5	5.9	1.9	878	6	1.03
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	52.2	28.2	14.3	4.3	1.0	880	4	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.84	7.7	4.4	10.0	20.1	57.8	881	3	1.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	16.6	16.0	27.8	14.4	25.2	874	10	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.72	30.1	31.5	24.5	8.4	5.5	878	6	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	40.5	31.1	18.7	6.2	3.5	876	8	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	52.4	27.4	14.0	4.1	2.1	858	26	0.98

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

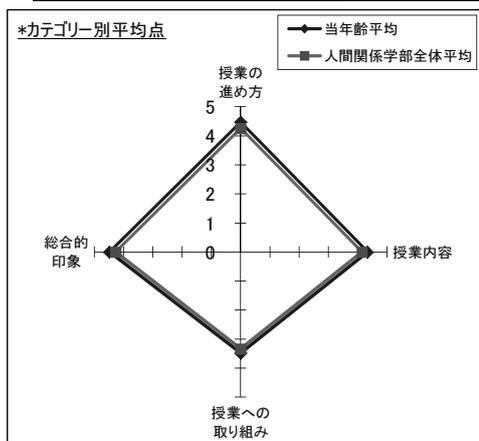
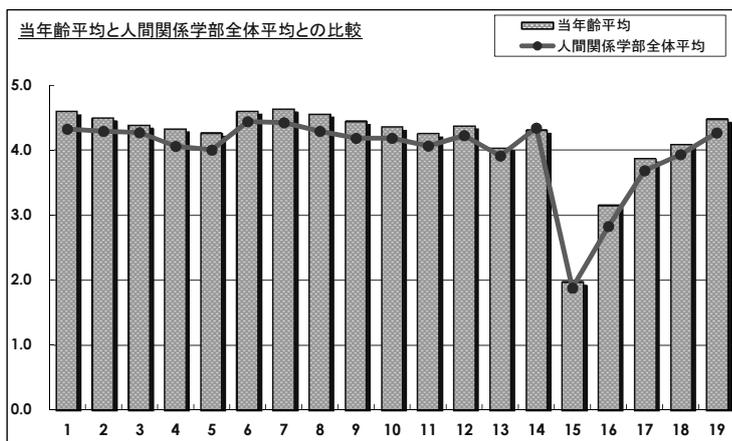
大妻女子大学

年齢	41～45歳
----	--------

履修者数	1,273
回答者数	1,008

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.59	68.8	23.9	5.5	1.4	0.4	1008	0	0.69
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	61.6	28.5	8.2	1.3	0.4	1006	2	0.73
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	58.9	25.6	11.9	2.5	1.1	1007	1	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	54.1	29.7	11.6	4.0	0.6	1007	1	0.87
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	53.2	25.8	16.3	3.7	1.0	1006	2	0.93
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.60	70.0	22.4	6.2	1.1	0.4	1006	2	0.69
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.64	69.6	25.2	4.8	0.3	0.2	1005	3	0.61
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.56	65.0	27.7	5.9	0.8	0.6	1007	1	0.70
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.44	58.1	31.1	8.5	1.7	0.6	1008	0	0.77
10	授業の内容は興味深いものだった	4.36	57.5	26.5	11.4	3.4	1.2	1008	0	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.26	52.7	28.0	13.2	4.5	1.6	1006	2	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	55.8	30.5	10.3	2.2	1.2	1007	1	0.85
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	41.8	27.4	24.9	4.2	1.7	1004	4	0.99
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.48	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	55.9	27.0	10.9	4.4	1.8	1002	6	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.98	7.5	5.8	12.7	25.1	48.9	1006	2	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.16	23.1	18.0	27.6	14.2	17.2	1002	6	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.87	35.0	31.0	24.2	6.0	3.9	1007	1	1.08
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	42.5	33.2	17.4	4.0	2.9	1005	3	1.01
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.48	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.48	62.5	27.0	7.7	1.8	1.0	979	29	0.80

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

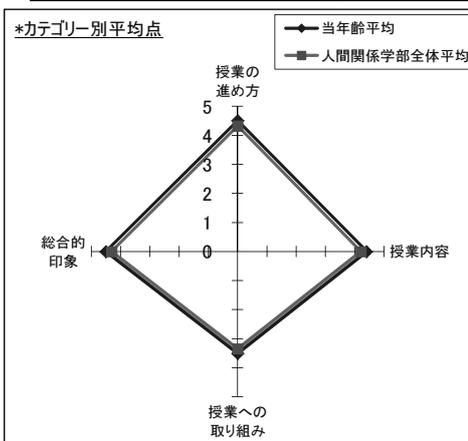
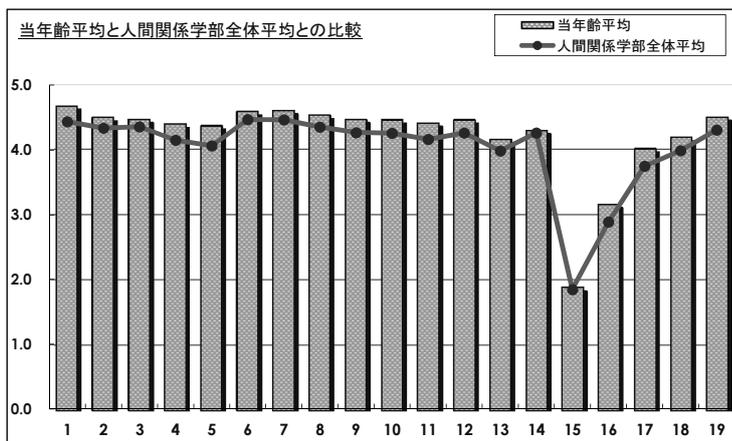
大妻女子大学

年齢	41～45歳
----	--------

履修者数	1,458
回答者数	1,060

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.67	73.4	21.8	3.5	0.9	0.4	1059	1	0.63
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	62.7	26.7	8.7	1.4	0.6	1058	2	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	62.1	25.7	9.4	2.3	0.5	1059	1	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.39	56.6	29.0	12.0	1.8	0.6	1055	5	0.81
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	56.0	28.2	12.9	2.1	0.8	1058	2	0.84
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	69.5	21.1	8.0	1.0	0.3	1057	3	0.71
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	69.6	22.7	6.5	1.0	0.2	1058	2	0.67
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.41	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.53	63.9	27.2	7.1	1.3	0.5	1059	1	0.73
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.46	60.5	28.1	9.1	1.6	0.7	1059	1	0.78
10	授業の内容は興味深いものだった	4.46	62.7	25.0	8.5	2.9	0.8	1059	1	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.41	58.8	27.4	10.5	2.5	0.8	1059	1	0.84
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.46	61.5	27.1	8.3	2.0	1.1	1057	3	0.82
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.16	46.8	28.0	21.0	2.5	1.7	1051	9	0.95
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	56.3	24.5	13.1	4.7	1.4	1054	6	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.89	5.8	5.6	12.0	24.9	51.8	1054	6	1.17
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.16	23.5	18.0	27.3	13.3	17.9	1046	14	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.02	41.1	31.1	19.6	4.9	3.3	1058	2	1.05
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	47.9	30.0	17.3	2.9	2.0	1055	5	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.50	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.50	66.8	21.3	8.5	2.1	1.3	1026	34	0.84

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

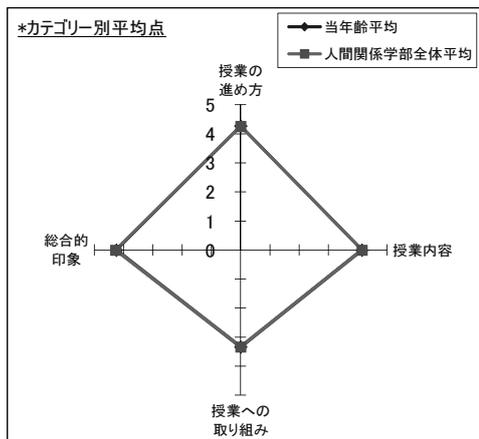
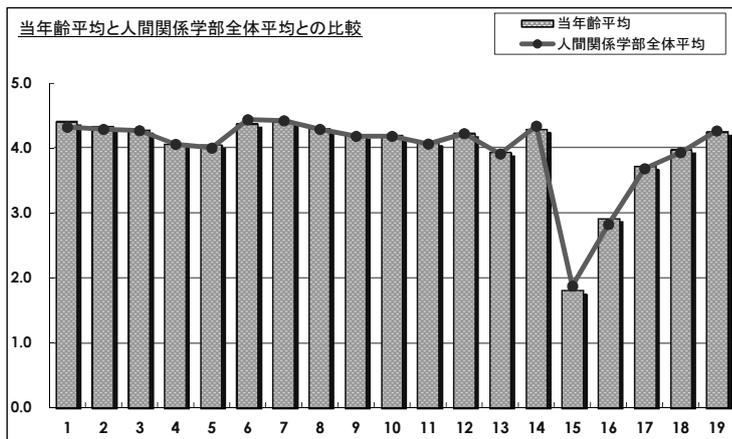
大妻女子大学

年齢	46～50歳
----	--------

履修者数	1,886
回答者数	1,501

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	56.2	31.3	9.2	2.9	0.4	1498	3	0.80
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	52.7	32.6	10.8	2.9	1.1	1499	2	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.27	50.6	30.9	14.5	3.1	0.9	1499	2	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	39.2	35.6	18.8	4.5	1.9	1498	3	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	40.9	30.1	22.9	4.5	1.5	1496	5	0.98
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.37	56.5	27.7	12.8	2.1	0.9	1498	3	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	55.5	30.7	11.8	1.5	0.5	1493	8	0.79
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	49.7	33.2	14.1	2.5	0.4	1498	3	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.18	44.4	34.9	16.5	3.1	1.1	1499	2	0.89
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	45.5	35.2	13.6	4.1	1.5	1499	2	0.93
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	39.5	37.0	17.0	4.7	1.7	1498	3	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	48.0	31.8	15.9	2.9	1.5	1495	6	0.92
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.93	33.9	31.8	28.9	3.9	1.5	1489	12	0.96
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	53.4	28.7	12.1	4.4	1.3	1491	10	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.81	4.0	4.8	10.9	28.6	51.7	1498	3	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.91	16.8	18.8	27.3	13.5	23.7	1485	16	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.72	27.9	33.2	25.6	9.0	4.3	1495	6	1.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.97	36.6	34.6	21.2	4.6	3.1	1493	8	1.02
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	50.1	31.1	14.0	2.7	2.1	1433	68	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

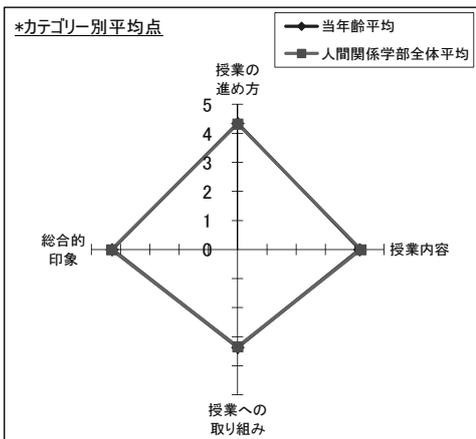
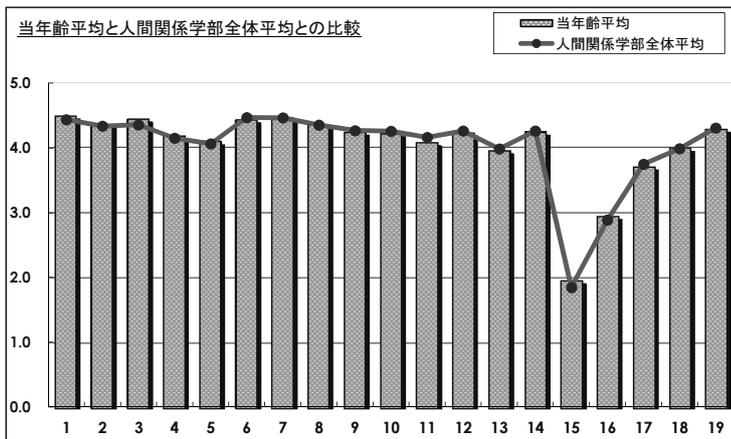
大妻女子大学

年齢	46～50歳
----	--------

履修者数	1,536
回答者数	1,163

I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.35
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	60.3	30.8	6.6	1.9	0.3	1160	3	0.73	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	54.0	30.7	12.0	2.8	0.5	1158	5	0.83	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	58.9	28.7	10.4	1.5	0.5	1159	4	0.78	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	45.4	33.0	16.7	3.8	1.1	1159	4	0.92	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	43.6	31.0	18.8	4.8	1.8	1157	6	0.98	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.6	27.0	10.6	2.1	0.7	1159	4	0.82	
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	60.6	27.8	9.0	2.2	0.4	1157	6	0.78	
II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.18
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	53.4	32.3	10.7	2.8	0.9	1160	3	0.84	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	48.6	33.3	12.3	4.8	0.9	1158	5	0.91	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.22	49.3	30.1	14.9	4.6	1.1	1159	4	0.94	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	41.3	34.3	16.6	6.6	1.3	1158	5	0.98	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	49.3	30.4	14.9	4.2	1.1	1158	5	0.93	
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.95	35.8	31.0	27.3	4.7	1.2	1152	11	0.96	
III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.37
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	52.2	27.5	13.8	5.4	1.0	1151	12	0.95	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.96	6.6	6.3	14.4	22.2	50.5	1152	11	1.22	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	18.4	18.7	25.6	13.6	23.6	1147	16	1.42	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.71	29.3	30.9	26.1	8.5	5.2	1155	8	1.13	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	37.5	35.1	19.5	5.2	2.7	1151	12	1.01	
IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.28
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	51.8	29.8	14.8	2.4	1.2	1128	35	0.89	

Q1-Q19の当区分平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

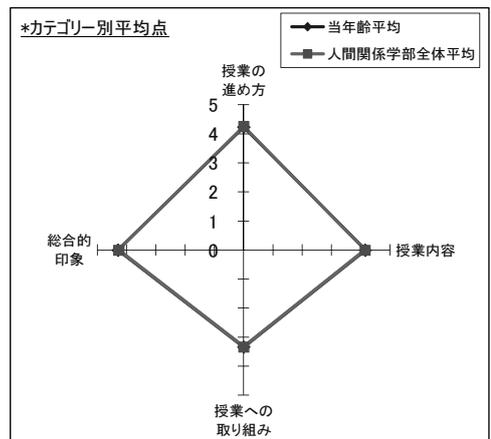
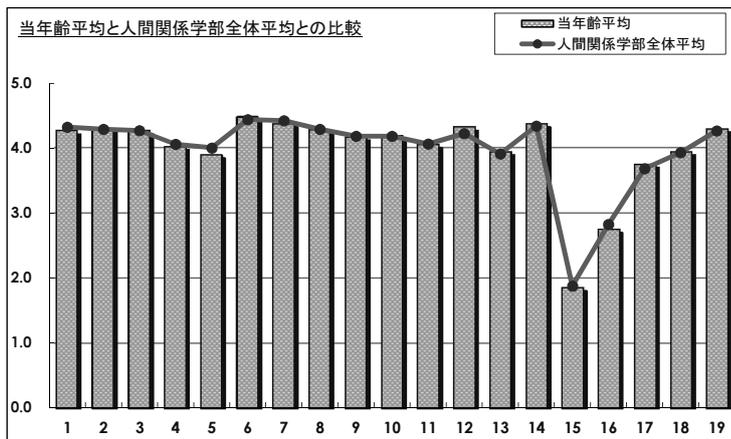
大妻女子大学

年齢	51～55歳
----	--------

履修者数	2,163
回答者数	1,762

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	54.5	27.1	10.9	5.7	1.8	1759	3	0.99
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.6	30.3	12.4	3.6	1.0	1757	5	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.27	53.3	26.5	15.5	3.2	1.5	1758	4	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	41.7	29.8	19.4	6.9	2.1	1759	3	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	37.3	28.5	23.8	7.2	3.2	1754	8	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.48	62.8	25.2	9.7	1.6	0.7	1754	8	0.79
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	56.0	28.8	12.7	1.9	0.6	1754	8	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.16	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	52.8	28.8	13.3	4.0	1.1	1753	9	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.18	47.4	30.1	16.6	4.2	1.7	1748	14	0.96
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	49.7	29.3	13.5	5.5	1.9	1752	10	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	42.7	30.9	17.9	6.6	1.9	1751	11	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	55.9	27.1	12.1	3.3	1.5	1749	13	0.92
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.94	36.7	30.6	25.3	5.3	2.1	1740	22	1.01
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	58.4	25.5	12.3	2.7	1.1	1748	14	0.88
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.86	4.8	4.3	12.2	29.3	49.4	1752	10	1.10
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.75	15.7	13.8	27.3	16.0	27.1	1741	21	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.75	33.1	29.4	22.4	9.8	5.3	1751	11	1.17
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.95	38.8	30.7	20.2	7.0	3.3	1750	12	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	56.4	23.8	14.4	3.5	1.9	1680	82	0.97

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

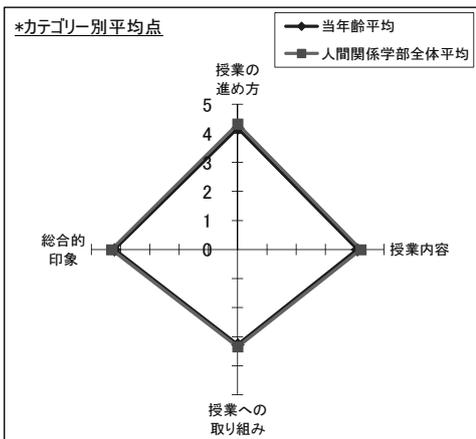
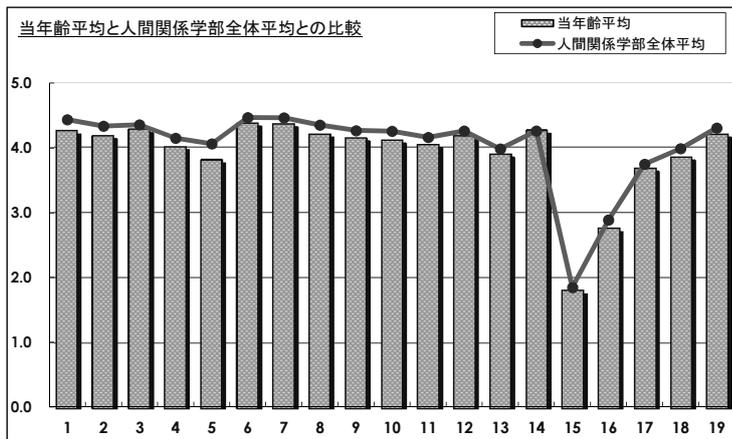
大妻女子大学

年齢	51～55歳
----	--------

履修者数	1,967
回答者数	1,334

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.25	52.9	28.9	10.8	5.6	1.8	1333	1	0.98
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.18	48.6	30.2	14.2	4.7	2.3	1333	1	0.99
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	54.5	26.1	14.0	3.6	1.8	1331	3	0.96
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.01	42.8	28.0	19.0	8.0	2.2	1330	4	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	37.5	25.4	23.3	8.5	5.3	1329	5	1.18
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.37	57.6	26.6	12.1	2.7	1.0	1329	5	0.87
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.36	57.5	26.1	12.5	2.8	1.1	1330	4	0.88
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.10	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	50.6	27.5	15.4	4.7	1.7	1330	4	0.98
9	授業の構成は体系的で把握しやすかつまっていた	4.15	47.4	30.1	14.9	5.0	2.6	1330	4	1.02
10	授業の内容は興味深いものだった	4.11	46.2	29.3	16.2	6.1	2.2	1328	6	1.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	42.5	30.2	18.6	6.3	2.3	1329	5	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	51.2	25.3	16.0	4.8	2.6	1329	5	1.04
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.90	36.8	27.6	26.9	5.8	2.9	1317	17	1.06
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.0	26.8	15.1	4.1	1.1	1327	7	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.81	5.9	4.2	12.6	19.6	57.7	1329	5	1.17
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.76	17.1	15.2	24.8	12.6	30.3	1323	11	1.46
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	30.9	28.5	24.8	9.4	6.3	1326	8	1.19
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.85	34.7	32.0	21.7	6.7	4.8	1321	13	1.11
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	51.9	25.6	15.8	4.7	2.0	1290	44	1.00

Q1-Q19の当区分平均値	3.92
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

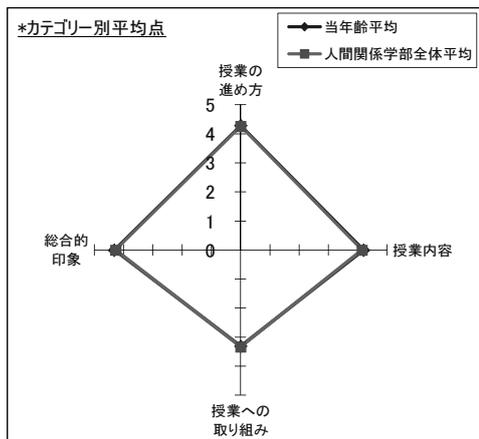
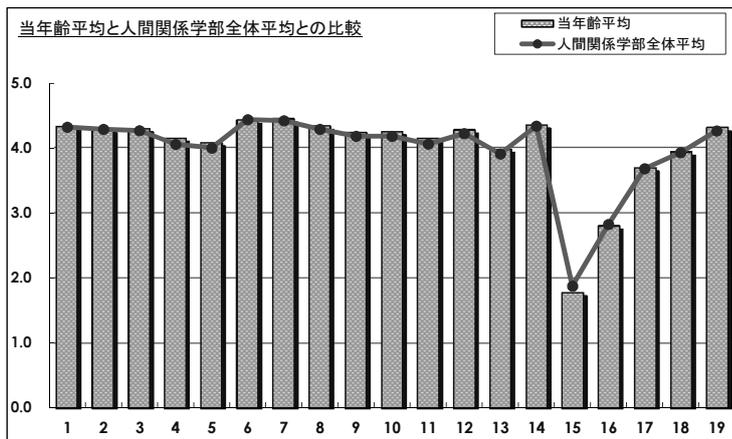
大妻女子大学

年齢	56～60歳
----	--------

履修者数	2,215
回答者数	1,555

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	55.4	28.8	10.4	4.5	1.0	1554	1	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	53.3	28.6	12.6	3.9	1.6	1554	1	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	53.1	29.6	12.3	3.7	1.4	1554	1	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	46.4	29.5	17.7	5.2	1.2	1555	0	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	43.9	29.5	19.1	5.6	1.9	1555	0	1.01
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.9	26.6	10.8	1.5	1.1	1550	5	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	59.0	29.4	9.7	1.4	0.6	1550	5	0.77
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.20	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	53.4	31.2	11.6	2.9	0.8	1553	2	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.24	50.3	30.5	13.6	4.0	1.7	1553	2	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	51.5	30.4	11.5	4.5	2.1	1554	1	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	46.4	31.3	15.3	4.8	2.2	1554	1	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	52.3	29.0	13.8	3.7	1.2	1553	2	0.92
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	37.9	30.8	24.5	4.7	2.1	1547	8	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	55.3	30.2	9.7	3.7	1.0	1549	6	0.88
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.78	4.3	3.7	9.7	30.2	52.1	1549	6	1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	15.8	15.5	26.3	18.2	24.2	1539	16	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	29.7	30.4	24.4	10.3	5.2	1548	7	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	38.1	31.3	20.6	6.2	3.8	1541	14	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	56.8	25.0	12.8	3.6	1.9	1503	52	0.95

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

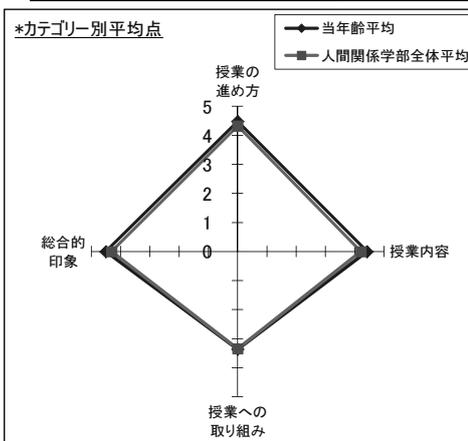
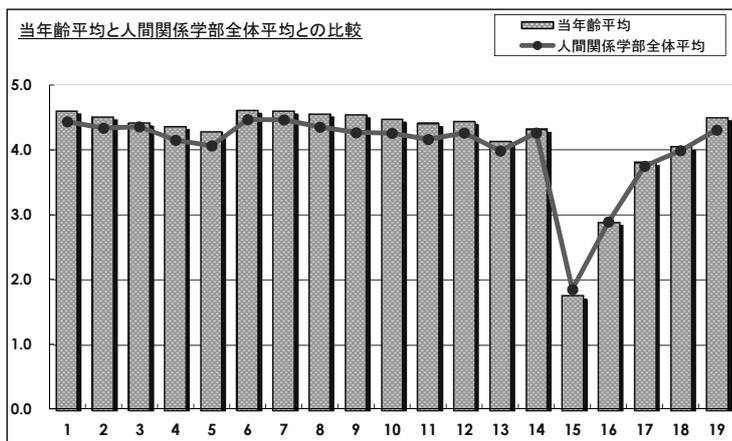
大妻女子大学

年齢	56～60歳
----	--------

履修者数	1,164
回答者数	803

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.48	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	68.1	25.8	5.0	0.7	0.4	803	0	0.65
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.51	63.3	27.6	7.0	1.4	0.7	802	1	0.75
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	62.3	23.2	9.7	3.2	1.5	802	1	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	58.4	25.0	12.2	3.4	1.0	803	0	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	54.4	26.1	14.3	3.6	1.6	802	1	0.95
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.61	70.5	21.4	6.8	1.0	0.2	803	0	0.68
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	69.1	23.7	6.0	0.8	0.5	799	4	0.68
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.43	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.56	67.0	24.1	7.2	1.1	0.6	802	1	0.73
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.54	66.0	24.7	7.6	1.0	0.7	803	0	0.74
10	授業の内容は興味深いものだった	4.47	61.9	27.3	8.0	2.1	0.7	803	0	0.79
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.41	58.8	28.0	10.2	1.9	1.1	803	0	0.83
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	60.3	27.0	10.0	1.9	0.9	803	0	0.81
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	46.8	27.3	20.5	3.5	2.0	800	3	0.99
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.37	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	56.3	27.3	10.1	5.3	1.1	800	3	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.76	5.6	3.5	11.1	21.0	58.8	800	3	1.14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	20.9	14.4	24.0	14.4	26.3	796	7	1.47
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.81	35.4	29.3	22.0	7.9	5.5	800	3	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.05	42.1	32.7	17.0	4.7	3.5	801	2	1.05
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.50	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.50	65.8	22.3	8.7	2.3	0.8	767	36	0.81

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

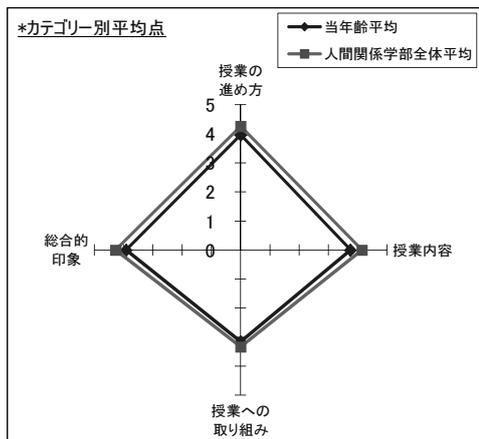
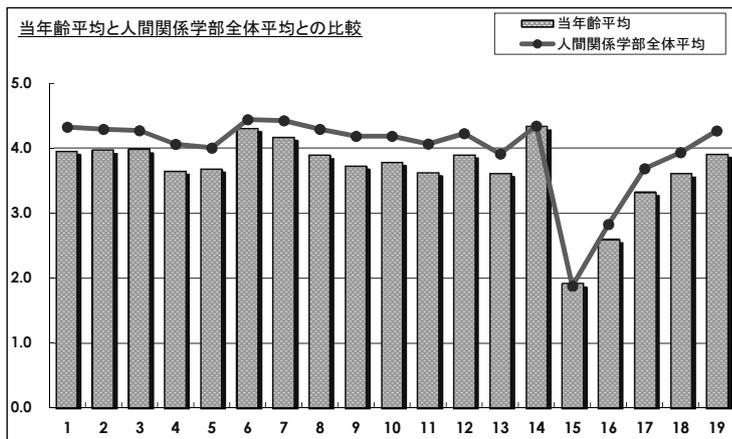
大妻女子大学

年齢	61～65歳
----	--------

履修者数	728
回答者数	549

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		3.96	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.95	37.9	35.0	15.7	7.7	3.8	549	0	1.09
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.97	37.3	36.4	16.5	6.0	3.8	547	2	1.06
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.99	39.8	31.9	19.2	5.3	3.8	548	1	1.07
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.65	27.4	31.0	26.1	10.4	5.1	548	1	1.14
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.68	30.3	29.0	24.3	11.3	5.1	548	1	1.17
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.31	52.6	30.0	14.1	2.0	1.3	546	3	0.88
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.17	44.3	36.3	13.9	3.5	2.0	546	3	0.94
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.76	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.89	35.0	34.4	18.8	8.7	3.1	549	0	1.08
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.73	30.0	31.6	24.3	9.1	4.9	547	2	1.13
10	授業の内容は興味深いものだった	3.78	30.6	35.5	20.5	8.2	5.1	546	3	1.12
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.63	25.0	34.7	23.9	10.4	5.9	547	2	1.14
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.90	34.9	34.9	18.8	7.7	3.7	547	2	1.08
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.61	26.4	27.3	32.8	7.9	5.5	545	4	1.12
III. この授業への取り組みとその成果について							当カテゴリー平均点		3.16	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	58.6	23.7	11.8	4.4	1.5	544	5	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.92	4.8	6.4	11.9	29.9	47.1	546	3	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.60	11.1	14.0	29.0	15.5	30.3	541	8	1.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.32	19.6	27.3	31.1	9.9	12.1	546	3	1.24
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.61	25.3	35.4	22.6	8.4	8.3	545	4	1.19
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		3.91	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.91	37.2	32.3	19.7	6.3	4.6	524	25	1.11

Q1-Q19の当区分平均値	3.68
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25



2013年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

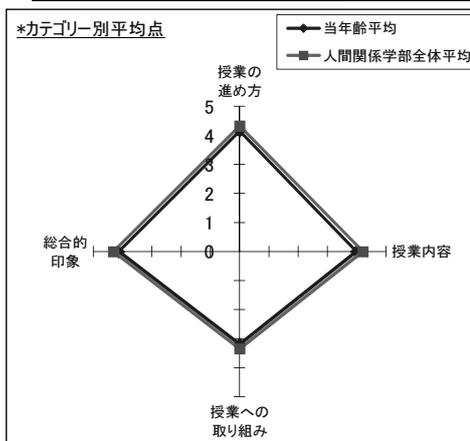
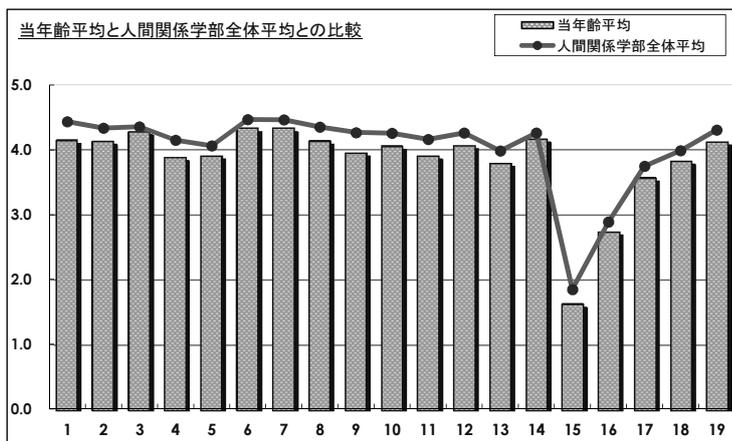
大妻女子大学

年齢	61～65歳
----	--------

履修者数	944
回答者数	690

I. 先生のこの授業の進め方について		当カテゴリ平均点					4.15			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.15	48.6	31.3	10.3	6.7	3.2	690	0	1.06
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.14	46.3	32.0	13.7	5.1	2.9	687	3	1.02
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	52.8	29.8	11.2	4.8	1.3	687	3	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.88	33.1	37.2	18.4	7.7	3.6	689	1	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	38.1	29.2	21.9	7.4	3.3	688	2	1.09
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	56.6	26.9	11.9	2.3	2.2	687	3	0.93
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	53.9	31.5	10.5	2.5	1.6	686	4	0.88
II. この授業の内容について		当カテゴリ平均点					3.99			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.14	45.1	33.4	14.4	4.8	2.3	688	2	0.99
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.96	39.2	32.0	17.9	7.1	3.8	688	2	1.09
10	授業の内容は興味深いものだった	4.06	43.2	31.3	17.3	5.2	3.1	688	2	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.91	36.2	33.8	18.9	7.3	3.8	687	3	1.09
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.07	45.3	27.7	18.8	5.5	2.8	687	3	1.05
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.80	32.5	30.7	25.6	6.7	4.5	684	6	1.10
III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリ平均点					3.19			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	47.9	29.0	16.9	4.7	1.6	687	3	0.98
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.64	2.9	3.8	9.3	21.9	62.1	688	2	1.00
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.74	12.6	17.1	29.5	13.7	27.2	685	5	1.35
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.57	27.8	27.4	26.9	10.2	7.7	687	3	1.21
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.83	34.8	32.2	19.6	7.5	5.9	683	7	1.16
IV. 総合的な印象		当カテゴリ平均点					4.13			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	46.9	29.7	15.9	4.3	3.2	653	37	1.04

Q1-Q19の当区分平均値	3.84
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



2013年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

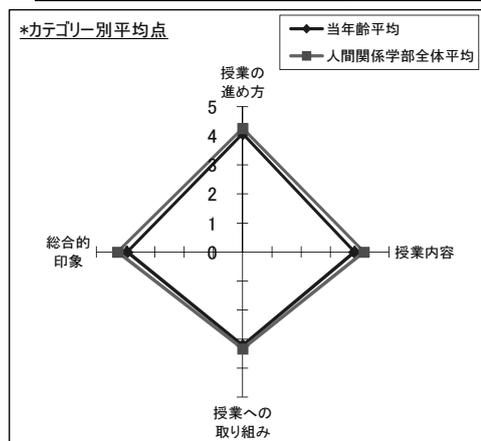
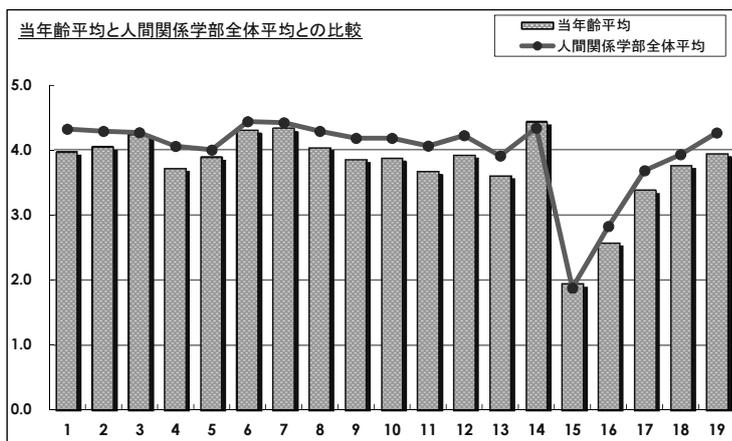
大妻女子大学

年齢	66歳以上
----	-------

履修者数	1,031
回答者数	864

I. 先生のこの授業の進め方について		当カテゴリー平均点					4.07			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.97	37.4	34.6	17.0	9.4	1.5	863	1	1.03
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.05	38.2	37.1	17.4	5.9	1.4	863	1	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.24	51.7	28.6	14.0	3.4	2.3	863	1	0.97
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.72	25.6	35.1	27.5	9.4	2.4	861	3	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	36.7	29.5	22.6	8.4	2.8	860	4	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.31	53.7	27.3	16.1	1.7	1.2	861	3	0.88
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.33	52.6	31.2	13.8	2.0	0.5	862	2	0.82
II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					3.83			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.04	38.1	34.7	21.3	4.6	1.3	862	2	0.95
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.86	30.0	37.2	22.9	8.0	1.9	863	1	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	3.87	34.5	32.1	22.4	8.4	2.7	862	2	1.06
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.67	24.6	33.8	28.3	10.6	2.7	861	3	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.92	35.9	33.1	20.4	8.5	2.1	861	3	1.04
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.60	21.3	31.6	36.0	8.5	2.6	855	9	1.00
III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					3.22			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	62.7	23.2	9.2	4.3	0.6	859	5	0.87
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.94	5.1	6.0	12.0	31.9	44.9	861	3	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.57	9.7	16.1	26.7	17.0	30.5	858	6	1.33
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.38	18.6	30.2	30.0	13.6	7.7	862	2	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.76	30.4	33.1	24.2	7.3	5.0	859	5	1.11
IV. 総合的な印象		当カテゴリー平均点					3.95			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.95	38.2	30.3	22.3	6.4	2.8	846	18	1.06

Q1-Q19の当区分平均値	3.76
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.25

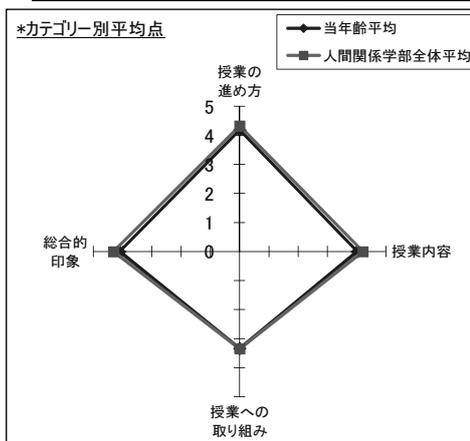
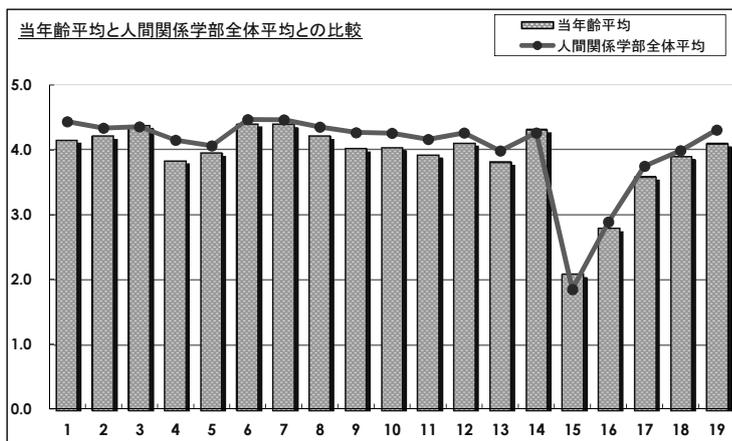


年齢	66歳以上
----	-------

履修者数	741
回答者数	484

I. 先生のこの授業の進め方について		当カテゴリー平均点								
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.15	43.8	35.1	14.0	6.2	0.8	484	0	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.21	45.2	37.4	11.6	4.8	1.0	484	0	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	53.9	32.6	10.5	2.7	0.2	484	0	0.80
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.83	32.4	33.5	21.3	10.3	2.5	484	0	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.95	40.1	30.6	17.6	7.9	3.9	484	0	1.12
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.40	55.4	31.8	10.3	2.3	0.2	484	0	0.78
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	53.4	34.6	10.4	1.2	0.4	483	1	0.76
II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点								
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	46.6	34.6	13.7	3.7	1.4	483	1	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.02	39.8	33.7	17.2	7.2	2.1	483	1	1.02
10	授業の内容は興味深いものだった	4.03	41.2	33.1	15.7	7.5	2.5	483	1	1.05
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.92	34.6	35.0	20.3	8.1	2.1	483	1	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.10	43.7	32.4	16.8	4.6	2.5	481	3	1.00
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.81	31.3	30.9	27.6	8.1	2.1	479	5	1.03
III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点								
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	55.4	26.8	12.7	3.9	1.2	482	2	0.92
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.09	5.8	10.6	17.2	19.5	46.9	482	2	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.79	14.4	17.2	27.0	16.3	25.1	478	6	1.37
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	27.4	28.4	25.7	12.2	6.2	482	2	1.19
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.90	34.4	34.4	20.7	7.3	3.1	482	2	1.06
IV. 総合的な印象		当カテゴリー平均点								
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.10	44.0	31.4	17.1	5.1	2.4	468	16	1.01

Q1-Q19の当区分平均値	3.90
Q1-Q19の学部全体平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.32



Ⅱ－２ 授業アンケートへの主な回答

(1) 前期授業アンケート結果への教員の主な回答

① 授業の改善点

i 低調な予習復習

授業にかける教員の労力たるや大変なものがある。

「出席カードの裏に学生が書いたコメントを1行データにして資料(A4版4~6枚)を作り、毎回、配布して、コメントをしている。大部分の学生には好評のようだが、これを実行するには1回の資料作成に2時間ずつ4回に分けて行っても8時間以上かかる。今年はそれを14回やり、全部で146頁になった」(福祉専任)。

これだけ努力すれば、授業に対して高い評価が得られるはずである。しかしどうしても評価が上がらない部分がある。学生の予習復習である。

「全体的に平均点が高い結果であったが、アンケートⅢNo15の学生自身の予習復習など自習の平均点が低い結果となった」(心理専任)。

「項目15の予習・復習については、学部の平均と差はないものの値としては低いと感じました」(介護専任)。

実に多くの教員が、学生の予習復習の項目については評価が低かったと回答していた。もちろんそれに対して対策を講じてはいる。

「昨年度来、自主学習の必要を認識し、今年度も引き続き、学生の興味を引き出し、できるだけ負担なく取り組めるよう、毎回小さな課題を出した」(福祉非常勤)。

もちろん学生に予習復習を促す教員の努力は必要だろう。しかし、大学に至るまでの過程で、自学自習の習慣が学生たちに根付いていないことにも大きな問題があると思う。

ii 学生の能動性をいかに引き出すか

大妻の学生はまじめだがおとなしく能動性に欠けるといわれる。そして、学問の本質を理解しようとするのではなく、安直に答えを求める傾向が顕著であるという厳しい指摘もあった。

「臨床の精神や理念を伝えたいと思うのですが、そのような精神には関心がない学生も多いようです。よく分かる図解方式の簡略な知識だけを学ぶという授業だけにはしたくないと思っています。学生の評価が高い授業というのは、本当の意味でよい授業なのかと考えてしまいます」(心理専任)。

しかし、積極的に授業のなかで役割を学生にふって、見事に能動性を引き出すことに成功した例もみられる。

「学生による報告とディスカッションを主としているため、どのように学生の積極参加を促すかが毎年の課題となる。昨年度からファシリテーターやコメンテーターなどの役割制を導入したが、それに加えて今年度からグループワークを導入してみた。フリーライダーを出すこともなく、うまく機能したように思われる」(福祉非常勤)。

だが能動性云々以前に、大人数の授業がとくに全学共通科目や学部共通科目では多く見られ、学生のやる気をそいでいる現実もある。

「大規模かつ講義系科目では私語等への対応が適切とのコメントもあった反面、授業の流れが中断したり個々の学生への対応が公平性を欠いたりするという指摘(評価、コメント)もあ

った」(心理非常勤)。

私語を減らすために、座席指定を求める声もあるが、教員の側にも、そして学生の側にもこれには葛藤があるようだ。

「大人数のクラスは私語がたえず、座席指定を求める声がいくつかありました。しかし座席指定については、『自分たちがダメ学生だと思われているようで屈辱的』と以前に書いていた学生もいて、私自身も好きにはなれず、当面採用する気はありません」(社会専任)。

iii 国家試験対策

人間福祉学科では各種国家試験対策が重要な部分を占めている。しかし、試験対策に力を入れると授業の本題がおろそかになる恐れがある。

「国家試験対策のために法制度に関する内容を増やし、その分、障害のある人の特性や支援の実際的な話を減らしたためかもしれない」(介護専任)

「国家試験指定科目故に求められる教授範囲もあり、そのバランスに苦慮している点が課題としてあげられます」(福祉専任)。

介護福祉学専攻の学生に対し、国家試験を強調するような態度が見られたらしく、福祉学専攻の学生と接し方に差があるという意見があったことは反省点である」(福祉専任)。

国家試験がらみでは、非常勤の先生から、次のような興味深い指摘があった。

「前回の社会福祉士国家試験では、電子化を進めていた大学の合格率が 15-20 ポイント下がっていた。

本務校は、教科書・資料・板書・小テストを実施して、全国的には厳しい合格率のなか、20 ポイント以上前年比合格率が上昇し、東洋大・明学大並みとなった。アナログと言われるが、授業の電子化は、学力向上に結びつくのだろうか」(福祉非常勤)。

② 施設等への要望

可動式の机を求める声が今回もあった。

「ぎっしり空き席がない状態で 100 人の学生が講義を受ける環境は、教育条件として良いとはいえないでしょう。固定式ではなく、稼動式の机の方が授業はやりやすいと思います。」(心理専任)。

授業行う場合、縦に長い教室は、後方に座る学生に対して声も目も届かないので非常に授業がやりにくいという声があった。

「今年の教室(6113)は縦長教室で、学生の授業理解状況や私語などについて把握しにくかった。学生の顔が見える教室(7127など)を要望したい」(社会非常勤)。

そして教員は、少ない人数で授業をすることを希望していることがよくわかる。

「毎年のお願いではありますが、現状の 100 人前後の定員設定を維持していただきたい」。(心理非常勤)

「できればクラスを 2 クラスに分割して、半分の学生数での授業が望ましい」(福祉非常勤)。

いろいろな注文は聞こえてくるが、施設設備については多くの教員が満足しているようにみえた。

「今年度からパソコンや AV 機器が一新されたので使いやすくなりました」(福祉専任)。

③ 学生たちへの要望

人間関係学部の学生は、まじめで純粋でよく努力しているという声が多く聞かれた。

「授業時間外に自ら学習を深めている学生も見受けられ、グループワークでは学生同士で教え合う姿も見られました。とても一生懸命取り組んでいるようでしたので、今後も頑張ってもらいたいと思います」(心理非常勤)。

しかし一部には「単位さえとればよい」という方向に走る学生も見られた。

「今年は学期末課題の提出内容をみると、真面目に取り組まれていないもの(いずれも書き方が似ている)が10本前後みられた。必修科目のため、1年生の一部にとっては単位だけとればよいという態度の表れなのだろうか」(社会専任)。

そして私語はやはり悩ましい問題である。

「おしゃべりへの注意は「沈黙」で行ないました。なぜ、あれほどまでにおしゃべりをするのかを自分に自身に問いかけてもらいたいと思います」(心理専任)。

(2) 後期授業アンケート結果への教員の主な回答

① 授業の改善点

i 予習復習および授業への積極的参加

後期においても目立ったのは、予習復習および授業への積極的参加という問題である。

「項目15の予習・復習については、学部の平均と差はないものの値としては低いと感じました。課題はかなり出していたのですが、自習という課題になっていなかったようです。自分で調べるような自習を促進するような課題の出し方を工夫したいと思います」(心理非常勤)

「講義形式ながら、多少演習形式も織り交ぜた授業を行ったが、学生から意見を積極的に引き出すに至らなかった」(心理非常勤)。

「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」の項目もやや低くなっているが、なかなか双方向授業の行うゆとりがない。リアクションペーパーなどで質問を引出し、次の授業で回答するなどの方法を試みていきたい」(福祉専任)。

「予習・復習を必要としない形式」だったからではないかと考えています。来年度は、「まとまった発表を各回数人おこなう形式」から、「小さな発表を毎回全員おこなう形式」に近づけることで、授業に緊張感をもたせたいとおもいます」(社会非常勤)

「毎回講読文献感想を前日に送付してもらっていましたが、予習ととらえられていないようなので、感想送付の意味が明確になるよう受講者に提示する」。(社会非常勤)

ii クラスサイズの適正化の好影響

人間関係学部では、受講者が200人を超える学部共通科目(各専攻におかれた概論、および人間関係総論)を二クラスに分割した。そのことが私語のない静粛な授業環境を生んだという意見がみられた。

「今年からクラスを社会学とそれ以外の二つに分けた結果、静粛な空気のなかで授業を行うことができたのは非常によかったです」。(社会専任)

「前年度に比較して受講生が約半数の100人程度になったので、教室も大講義室ではなくなり、学生の受講態度も良くなり、授業自体はやりやすくなった」。(心理専任)。

iii 授業を行う上での困難さ

データ整理の方法として **KJ** 法はとても便利である。しかし経験をカード化する以前に、そもそも経験を文章化できない学生の実態がある。

「**KJ** 法はデータをカード化することから始まるが、経験を文章化してデータ化することそのものが難しいという根本的な問題点がある。そこで、授業目標をやや修正して、経験を文章化すること、それを簡潔に要約することを丁寧にしていく必要があると思う」（心理専任）。

授業に熱心に取り組むことは、もちろん学生から歓迎されるが、一方で迷惑がられることも。

「介護に取り組む自らの基本姿勢（介護観）を含めて身につけ、そのために自身の態度、技術を自ら繰り返し振り返る必要があると繰り返し投げかけてきたため、学生からは「とても熱心」という声とともに「学生のためとはわかっているが、くどくど言われるとやる気が低下する」という声もあった。」（介護専任）

iv 国家試験

人間福祉学科の場合、各種国家試験は重要な課題であるが、必ずしもすべての受講生がそれらを受験するわけではないところから、様々な悩ましい問題が生じている。

「学生との双方向の授業を心がけていると、授業の進み方が遅くなることがあります。そのことを事前に学生に周知はしていますが、特に国家試験の指定科目については進めていくことも大切な要素です。今後もバランスを常に意識して授業に取り組んでいきたいと思います。（福祉専任）

「精神保健福祉士の受験資格取得を目指す3年生が主な受講生だったため、講義による知識学習を基本とした。（中略）一方で、受験資格取得を目指している訳でない学生もおり授業に対する主体的な取り組みに課題が残った」。（福祉非常勤）

v その他

人間福祉学科では、授業に社会人の **TA** ボランティアをお願いしている。それが授業にどのような影響を与えているのか。その評価にはしばらく時間がかかりそうである。

「この科目から **TA** ボランティアを導入しました。学生からは賛否両論の意見がありました。これを受け止めつつ、講義の質の向上を考えた授業に取り組んでいきたいと思います」。

また学生のアンケートへの心構えに対して苦言が呈せられた。

「こうしたアンケートは無記名ではいけないということです。学生は既に大人（しかもインテリ）なので、十分に責任を持って発言すべきでしょう。（社会非常勤）

② 施設等への要望

パワーポイントは便利だが、手元が暗くなる難点がある。

「ダウンライトがあると、プロジェクターの画面を鮮明に映しながら、手元も明るく筆記しやすくなります。現状は画面を鮮明に映すために、手元が暗くなって、学生への負担が大きいです」。（心理非常勤）

コンピュータはすぐに使えて、どこの教室でも使えることが理想である。

「**PC** の立ち上がりが遅いので、毎回講義が終わるために電源を切るのではなく、できれば一日中、**PC** は立ち上げたままにしていただけるとありがたいです」（心理専任）。

「必修授業のため、各自 1 台の PC を使用しての授業が出来ない状態であり、この点についての改善要望もありました。学生全員が各自の PC をどの教室でも使用でき、教員 PC と双方向で授業が行える環境が必要です」(心理専任)。

寒すぎる教室と、学生数の割に教室が狭すぎて、真冬でも暑すぎる教室が併存している。

「冬季には 1 限からのため、教室内で寒さを訴える学生が多数いた」(福祉非常勤)。

「教室寒いです」というコメントがあり、冬の 1 限は早めに当校してくる学生には寒く、授業後半になると暑く等、大きな部屋の室温調整は配慮が必要です」(福祉専任)。

「教室が狭くて苦労した。受講生が 36 名であり、教室のキャパシティも 36 名であった。秋は空調を最大パワーにしても猛烈に熱く、冬になっても空調をせずとも暑いと学生が言うくらいであった」(心理専任)。

可動式の机といすを求める声は今回もあった。

「机といすが固定式だと、学生同士で話し合う時に制限がある。ぜひ個別式の机といすに改善して欲しい」。(心理専任)

TA の認められる授業を増やしてほしいという要望。

「毎週の課題チェックには相当の労力が必要である。100 人程度の授業であっても、TA をつけていただきたい」。

③ 学生への要望

おおむね真面目な姿勢は教員に高く評価されていたようであった。しかし、以下のような苦言が寄せられていたことも事実である。

「私が一番驚いたのは(これも教務課には申し上げましたが)、講義中に堂々と食事をしている学生が(二人も)いたことでした。しかも一人は、怒られたことに驚いていたので、更に驚きました」(社会非常勤)

「相対的に出席してくださった学生さんの出席率と欠席しがちな学生さんがはっきりと分かれたように見受けられました」(心理非常勤)。

「授業に対する受け身的な姿勢を、是非能動的な姿勢に変えていただきたいと思います」(心理専任)。

(3) まとめ

授業アンケートの平均点は前期後期を通して高いものであることが示すように、常勤であると非常勤であるとを問わず、人間関係学部教員の授業は概ね好評であるが、そのなかでどうしても低い評価しかあらわれないのが、予習復習に関する項目と、学生の能動性に関する質問項目である。予習復習を促す工夫や積極性を引き出す工夫をどの教員も試みてはいるが、思わしい効果が出ていないのが現状である。だが考えてみるとこれらはまさに学生たちの自主性に委ねられるべき事柄であろう。興味のある授業に関しては、教員の指定する文献を渉猟し、読み漁ることが本来の大学生の姿であろう。いまの学生にはそれは望むべくもない。大学に入るまでの教育において、受け身の勉学に馴らされてきたつけが、いままわってきている感を禁じ得ないのである。

空調やコンピュータの数の不足、教室の明暗等々、細かな問題は指摘されているものの、施設設備の面での改善は進んでいて、そのことは評価されていた。私語が問題となるクラスサイ

ズにしても、学部共通科目の大人数クラスを分割するなどの努力がなされてきた。望むべくは全学共通科目のクラスサイズが小さくできれば、教員の授業のやりやすさはさらにますことであろう。

学生に対する要望においては、積極性の欠如や私語の多さ等々の問題点の指摘はみられたものの、総じてまじめに純真に学びに取り組む本学部学生の姿勢は高く評価されていた。学生のまじめさに教員も応えなければならないという思いを強くする次第である。

Ⅲ 学科・専攻における平成25年度FD活動への取り組み

1. 人間関係学科

(1) 社会学専攻におけるFD活動に関する取り組み

1) 専攻全体としての取り組み

i 社会学専攻としては大体隔週のペースで専攻会議を開いている。会議の内容で大きな比重を占めているのは問題を抱えた学生たちへの対応であろう。そうした学生たちについての対処の方法を検討している。

ii とりわけ本年度は重度の視覚障害をもつ学生が入学してきた。彼女が支障なく学生生活を送ることができるように、障害学生支援室や障害学生支援委員会と連携をとりながら、様々な問題を解決していった。教員の方も、レジュメを音声化するために、授業の実施1週間前には支援室の方に提出するといったルールによく従い、協力をしてくれた。

iii 残念ながら本年度の社会学専攻においては、学生同士のトラブル、学校外で学生が被害にあうケース、そして教員と学生とのトラブルが少なからず生じていた。その際には、ゼミやクラスの指導主任、専攻主任と学生相談室等が協力しあいながら、問題解決のために動いていた。

iv 5月末の非常勤講師懇談会においては非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻としての取り組むべき改善作業の参考に資した。毎年参加してくださる非常勤の先生も多く、有意義な会となっている。

v 社会学専攻では、基礎セミナーの平準化が他専攻に比して遅れているとの認識を抱き、平成25年度から「基礎セミナーⅠ」に限って平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施等、期末レポートの作成をすべての教員が行うことを決めたのである。

その結果のフィードバックが何度かの専攻会議でなされ、改善点が指摘された。教員が一致して指摘していたのは、内容が盛りだくさん過ぎて、消化不要に陥ったきらいがあるということである。そこで平成26年度においては、「基礎セミナーⅠ」においては、共通のテキストを用い、レジュメの作り方の指導と期末レポートを課すところまでをすべてのクラスにおいて必須のものとして、それ以外の図書館ガイダンス、グループワーク等は、教員の選択にゆだねることが確認された。そして「基礎セミナーⅡ」については、テキストの選択は従来どおり各教員の自由にゆだねるものの、アカデミックライティング（論文の執筆方法）の指導と、期末レポートはすべてのクラスにおいて必須のものとするようになった。平成26年度において、「基礎セミナーⅠ」だけではなく、「基礎セミナーⅡ」の授業内容も一部標準化されることになったのである。

また、これまで採点基準と評価の分布については教員の裁量に委ねてきたが、平成26年度からは、「基礎セミナーⅠ」・「基礎セミナーⅡ」とも、Sは全体の1割以内、AとSの合計は5割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ50パーセントとし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。

平成26年度は上記のような形で「基礎セミナーⅠ」・「基礎セミナーⅡ」の標準化を行いさらに問題点をフィードバックすることによって改善を目指していきたいと考えている。

2) 教員個々の取り組み

①荒井 芳廣

現在、担当している授業で国際支援に対する学生の貢献について話していますが、学生にできるだけ実践活動（ボランティアやファシリテーター、インターンシップなど）に参加するよう促すため、自ら支援活動（「ハイチの会セスラ」（ハイチの教育支援）、「日本イコモス」（文化財保護の国際組織）、Biblitheque du Soleil（ハイチにある子供の文化活動支援団体）に参加し、また「開発教育協会」や「横浜 NGO 連絡会」の研修会を受講するよう心掛けている。

②石田 光規

多摩市役所高齢者支援課の方々3名をお招きして、社会調査及び演習1・2履修者とワークショップを行った。議論を通じて多摩市にキャンパスを構える大妻女子大学がどのように地域貢献を図るべきか議論を深めた。

③伊藤 美登里

昨年度に引き続き、文章の書き方について、英語論文の入門的テキストを題材に、入門部分のわかりやすい教授法について、またそれを教えるのは何年生がふさわしいかについて、試行錯誤しました。

④大出 春江

2013年度に行ったFD活動は以下の通りである。

1. 社会調査および演習Ⅰ・Ⅱ： 地域に根ざした安全な食の提供の現場を探る

授業で食というフィールドを取り上げて4年目を迎えた。授業は、グローバル化する現代社会において、わたしたちの食生活がどのような社会環境のなかで成立しているのかを知ることが目的とする。生産・加工・流通・消費についてフィールドワークを通して理解を深め、現代の社会のあり方を現状肯定するだけでなく、批判的にとらえ、問題を明らかにし、どのような実践がありうるのかを考え、そのために今年度は訪問先をさらに広げた。

1) 多摩市に隣接する東京都町田市にあるワーカーズコレクティブとブルーベリー農園訪問
2) 低所得層の人びとをサポートする横浜市 NPO 法人さなぎ達の運営する食堂の訪問とインタビュー、は昨年にも引き続き実施した。これに加え2013年度は3) 立川市の NPO 法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会が運営するレストラン、デイサービスの訪問見学を実施した。高齢化する団地における高齢者の生活支援と取り組みを、食というフィールドを中心に学生は実際に見学し、深く理解することができた。また4) 川崎市多摩区商店街にある小規模醸造所を訪問し、大量生産・大量消費に対抗する、地域に根ざしたビール生産活動と商店街活性化の試みについても学ぶことができた。

2. 社会学基礎セミナーⅡ： 自立生活支援をおこなう障がい者団体との交流

障がいをもつ当事者が代表を務める「自立ステーション つばさ」との交流は2013年度で3年目を迎えた。この団体は身体的あるいは知的障がいをもつ人びとが地域で生活を行うことを支援する。障がいをもつ当事者が地域で自立生活をするということについて具体的な状況を知り、疑問を予め用意してもらっている。

障がいをもつ当事者が地域で自立生活を営むとはどういうことか。なぜ施設生活ではなく困

難を抱えつつ自立がめざされるのか。そう問うことが翻って自分たちの自立生活の内実を考える契機となる。他者の援助なしに一日たりとも自分の生活が成り立たない人びととの対話は、否応なく自分たちの生きている生活の基盤を反省的に問うことになる。ボランティアとして自主的に交流を深める学生はなかなか登場しないが、社会学を学ぶ1年目の学生にとって、自己・他者・社会を知るうえでの重要なきっかけを与えてくれる。

⑤久保田 滋

- ・身体に障害のある学生への授業対応等について
- ・初年次教育における、リテラシーの習得について
- ・学生間、教員学生間等におけるトラブル時の対応について

⑥小谷 敏

法政大学鈴木小林ゼミ、日本大学左幸ゼミナールとの社会学合同ゼミに、2006年以來参加している。3年生が参加して、6月のゼミ訪問、7月の3、4年合同合宿、10月の中間報告会、12月の大学セミナーハウスにおける本報告会と行事は目白押しである。例年、他大の学生の報告のレベルの高さと、先生方の指導の力量に圧倒されている。非常に私自身の勉強にもなっている。ただ合同ゼミにおいても、それぞれの大学の個別のゼミの時間においても、学生たちの自発的な討議が盛り上がらないことへの悩みは、どの先生も共通に抱えているものと感じられた

⑦齊藤 豊

就職支援活動について

「企業と産業」授業の延長線上の取り組みとして、エントリーシートの添削、就活相談を実施中。今年度は、現在までにのべ50人を超える学生に対して、エントリーシートの添削、志望動機の書き方、その他就活相談を実施。社会人の基礎的な文章の書き方を中心に指導したが、多くの学生は2-3回の指導により、文章力が大きく改善している。これは能力はあるが書き方（Howto）を知らない、という、ことだと考えられる。このあたりの改善を行う事で就職率の向上につながるのではないか。

⑧鄭 暎恵

2月13日(木)、「新たな時代の生き方と働き方 ―誰もが社会起業家になる時代―」と題し、社会起業大学の特別公開講座を聞きに行きました。「就職」というより「就社」が実態となっている働き方を見直し、ビジネスの手法により事業性を確保し、自らの活動に寄り収益が生まれる仕組みを作り、効果的・持続的に社会的課題の解決を図ることができる起業家、ソーシャルアントレプレナー（社会起業家）という生き方が、(特に女性に)今求められている。就職難と言われる現代にあって、そうした新たな時代の生き方と働き方を、大妻の学生にも紹介したくて、この公開講座に参加してみた。女性はもちろんのこと、社会貢献したい、脱サラしたい男性の参加者も予想以上に多く驚いた。

⑨干川 剛史

- ・講義形式の授業では、私語がなく静かに授業を行うことができるように、同じクラスの学籍

番号の近い学生が隣合わないようななどの工夫をして座席表を作成し、指定された席に学生が座るようにしている。また、リアクションペーパーを毎回配付し、出欠を確認するだけでなく、記述内容から学生一人一人の授業の理解度を判定し、それを成績評価に反映させている。

- 社会学基礎セミナーにおいては、グループワークを取り入れ、司会者の学生を中心にグループの学生たちの意見を集約しながら、議論ができるように工夫している。
- オフィスアワーについては、指定してある曜日・時間帯以外に学生が来ても、随時、対応している。

(2) 社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する取り組み

社会・臨床心理学専攻は、心理学教育を通して科学的思考力と共感能力を育てるべく、積み上げ型カリキュラムによって、卒業研究に向けて一貫した教育を行っている。そのために、専攻開設以来、基幹科目は全てチームティーチングの体制を取っている。また、さらにわかりやすかつ効果的な授業の実施に向けて、教員個々が独自に取り組みをするとともに、専攻内でその工夫を共有してきている。これらを実現するために、基幹科目担当教員間で、毎週、授業の振り返りと事前打ち合わせを実施している。さらに、毎週金曜日に開催される専攻会議の際に、FD 会議のための時間を取り、教育実践上の課題について継続的に検討を行うなど、一貫して綿密な授業改善を進めている。

以下に、社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する具体的な取り組みとして、1)平成25年度の専攻単位でのFD活動、2)平成25年度の各教員のFD活動の順に記す。

1) 平成25年度の専攻単位でのFD活動

・授業担当者懇談会(5月25日)

9名の非常勤教員と8名の専任教員が授業の進め方や近年の学生像について情報交換を行った。専攻からは以下のような説明を行った。

① カリキュラムの体系化と専攻での学びのねらいに関する説明

古田教務委員よりスライドならびに配布資料をもとに、単位の実質化、カリキュラムの体系化について説明がなされた。具体的には1年次の基礎セミナーⅠ・Ⅱから2年生の実験研究法、調査研究法、各種セミナー等、そして3年次のゼミと研究法から4年次の卒論にいたるまでの積み上げ式のカリキュラムの説明がなされた。これは、基幹科目の構成を非常勤、特に新任の先生方に説明することで、全体のカリキュラムの中で、各科目がどのように位置づけられるか、理解していただくための説明であった。

さらに平成25年度入学生からの専門科目の変更と、新カリキュラムとしての「社会・臨床心理学基礎セミナーⅢ」(2年次)および「キャリア心理学セミナー」(3年次)の新設についても説明された。

② 授業評価アンケートについて

福島FD委員より、授業評価アンケートご協力のお願いと、その結果の活かし方、授業改善策の回答の書き方のお願いについて説明された。

・継続的にプロジェクトチームを組んで検討を重ねてきた「新入生オリエンテーション・プログラムに関する研究」と、新科目「キャリア心理学セミナー」開講のための準備研究である一連の研究成果を、以下のような形で学会発表ならびに論文発表した。

【学会発表】

日本心理学会発表(9月)北海道医療大学で開催された第77回大会において、以下の2題を専攻教員ならびに助手全員の連名でポスター発表した。

・新入生オリエンテーション・プログラムの作成とその効果—新入生の円滑な大学適応を目指して

八城薫・古田雅明・香月菜々子・加藤美智子・神庭直子・田中優・千田紗織・西河正行・福島哲夫・堀洋元・向井敦子, 日本心理学会第 77 回大会発表論文集 1103, 2013.

・大学生のジェネリック・スキル習得認知と社会心理学的個人差との関連 ―日常生活スキル・大学適応・キャリア選択の動機づけ―

八城薫・西河正行・向井敦子・古田雅明・香月菜々子・加藤美智子・神庭直子・田中優・千田紗織・福島哲夫・堀洋元, 日本心理学会第 77 回大会発表論文集 180, 2013.

【論文発表】

・「キャリア心理学セミナー」に関する授業研究 第一報 ―専攻カリキュラムにおける位置づけと授業の目的―

西河正行・向井敦子・八城薫・古田雅明・香月菜々子・福島哲夫・加藤美智子・田中優・堀洋元, 大妻女子大学人間関係学部紀要人間関係学研究 14, 35-42, 2013.

・「キャリア心理学セミナー」に関する授業研究 第二報 ―学生評価から見た専攻コア・カリキュラムの教育効果―

西河正行・向井敦子・八城薫・古田雅明・香月菜々子・福島哲夫・加藤美智子・田中優・堀洋元, 大妻女子大学人間生活文化研究 24, 144-150, 2013.

今後は、これらの成果を生かして、具体的な新入生オリエンテーション改善と、新設科目「キャリア心理学セミナー」の実施に移行していく予定である。

2) 平成 25 年度の各教員の FD 活動

ここでは、平成 25 年度の各教員の特記すべき FD 上の取り組みを簡潔に記述し、その成果を記録する。

○香月菜々子

大人数（100 名規模）の講義において（例：キャンパスライフとメンタルヘルス）、学生と講師の双方向のやりとりを意識した授業形式の積極的な導入を試みた。受講者人数が大規模になればなるほど、講師から学生にむけてという一方向での情報の流れが顕著になるため、こうした状況を打開するための取り組みとして位置づけた。具体的には、授業後にリアクションペーパーを実施し（自由記述）、学生の感想、疑問点、授業への要望などを講師に伝えるかたちを取り、次回の授業のはじめに、学生の意見を紹介するほか、疑問点に対する講師の考えを伝えるなど、講師から全体に向けてのフィードバックを毎回試みた。

回を重ねるごとに、自らの意見をはっきりと伝えてくる学生が増え、講師のフィードバックに対する学生からの更なる意見や感想が寄せられるなど、大人数でありながら興味深い“対話”が成立し、集団の凝集性が高まるなど、各学生の意欲的な取り組みを促したと考えている。

○加藤美智子

臨床心理学概論の授業においては、学生の関心をどのように保ち、どの程度の知識を教える

か、どのような演習を講義の中に組み込むかに苦心した。さまざまな学生が存在するため、単純に興味を惹かせる臨床テーマについて話すことはできない。一人ひとりの学生を傷つけることなく、臨床の醍醐味を教示するためには更なる試行錯誤が必要であると考えている。現在のところ、絵本を題材に、臨床心理学を語ることを試みているが、まだまだ未完成である。

3年生、4年生のゼミについては、個別に話に来る学生との時間はできる限り調整して相談に乗った。また、メールでのやり取りについても、それぞれの個性を見立てて、文面にいろいろ工夫をし、配慮をした。総じて、かなりの時間をつかって、個別の学生理解に努めた。しかし、うまくかかわりを持てなかった学生が1名おり、反省している。

○田中 優

3月に、2年生（次年度のゼミ生）、3年生、4年生の学生の合同のゼミ合宿を行っている。この合宿では、2、3、4年生の学年内、および、学年間の、いわば、縦の繋がりと横の繋がりを強化させることが主目的であるが、ゼミでの対人関係だけでなく、4年生は卒業論文、就職活動についての情報提供、3年生は卒業論文の計画発表と、卒業論文、就職活動の情報収集、2年生は次年度のゼミ、卒論、就職活動に関する情報収集を目標としている。

大学院生に学部生のゼミの活動に参加してもらうことにより、大学院生と学部生の双方による、教えることと教えられることによる、教育的な相乗効果を得ている。

○西河正行

3、4年次のゼミ（社会・臨床心理学セミナーⅠ～Ⅳ）では、交流を図ることも含め、卒論指導の4年生のゼミに3年生も出席させている。また、全員に対して学びのマップ・ポートフォリオシステムの利用を促進するように指導している。なお、例年、卒論のための3、4年の合同ゼミ（大学）、夏休みの合宿（東京）を行っており、特に、今年度末には、ゼミの二（新3年生）も含めて、3、4年生合同の懇親会を実施した。

また、町田市西部地区の小学校ボランティア活動を社会・臨床心理学専攻の学生を対象に紹介し、現在、3名の学生（現3年生）が活動に参加している。小学校側と連携を取り、要所で指導をするようにしている。

○福島哲夫

3、4年次のゼミ（社会・臨床心理学セミナーⅠ～Ⅳ）の受講生の中での、大学院進学希望者への進学支援に特に力を入れて取り組んだ。平成25年度は、ゼミ生の多くが大学院進学希望者だった。このこともあり、ゼミの授業外の時間を使って進学先の選び方や勉強への取り組み方、さらには研究計画書の作成についてなど、個別指導をはさみながらきめ細かく指導した。その結果、本学大学院臨床心理学専攻に1名、他大学院4名、学卒者対象の専門学校に2名の進学を果たした。

なお、就職希望者への相談と支援は例年通り行い、就職希望者全員が内定を獲得した。そのうちの1名は、自らの就職活動をきっかけに、その活動の持つ成長促進的な側面に注目し、卒業研究のテーマとして希望したので丁寧な指導した結果、優れた卒業論文として結実した。

○古田雅明

今年度も、初年次教育の中でも前期の導入教育である新入生オリエンテーションとそれに続く社会・臨床心理学基礎セミナー I において、心理学に対する関心を高めると同時に円滑な大学適応をサポートする教育方法について担当教員間（福島・加藤両教授）で実践的に検討を重ねた。

また、3, 4 年生対象のカウンセリング A（傾聴訓練）は、今年度から 2 コマ開講とし、学生の多様なニーズに応じつつ、カウンセリングの実習を通じて社会人基礎力の一つである傾聴力を身に付けてもらうことに注力した。具体的には、1 コマを臨床心理士や対人援助職を希望する学生向けとして、密に連絡を取ることができる非常勤講師に担当を依頼した。そして私は、就職希望の学生向けに産業場面で役立つ傾聴訓練の授業を担当し、本専攻出身であり学生にとって最も身近な社会人モデルである専攻助手の協力も得ながら様々な産業場面のロールプレイを実施した。

○堀 洋元

専攻のコア科目である「心理統計学」では、授業時間外学習をするための授業展開を行い、次回分の資料やデータを配布した上で、各自で予習することを促した。学生間で理解度に格差がある科目であるため、あらかじめ内容を読んだ上で不明な点を調べる素地を与えることができた。

同じくコア科目の「社会心理学実験研究法」において、授業後のリアクションペーパーを web で実施できるよう、外部システムを活用した。新しい取り組みであるため、活用する学生から多種多様な要望もあったが、学生の主体的な取り組みを記録に残し、それらを今後の教育活動や学生指導・支援活動に活かしていくためのデータベース作りに有益だった。その取り組みにおいて、学生の情報リテラシーやコンピュータ利用環境を推察できた点も、専攻・学科・学部を問わず、今後の FD 活動に活かされると考えている。

○向井敦子

今年度は、新入生が入学時から授業時間外学習を行うくせをつけるための工夫を、「心理学概論 I・II」の授業で通年かけて行った。予習と復習を習慣的に自己学習させるためである。復習は、その日の授業のポイントをまとめること、予習は前の週に指示した单元について、キーワードとその意味を調べるものである。予習・復習を合わせて A4 用紙 1 枚にまとめ、次の授業時に TA がチェックし、单元ごとのレポートと一緒に提出させて、授業担当者がチェックした。これにより、学生は予習したことで学習内容がスムーズに身につくこと、復習により曖昧な知識が明確になることを授業後の感想用紙に記述してきた。

○八城 薫

今年度から、基礎統計学 I の習熟度を高めるための取り組みとして、能力別 3 クラスに分け、少人数制で授業を行うこととした。その結果、受講学生の力に合わせた授業の進み方や内容となり、習熟度とともに学習意欲や自信も高まったのではないかと考えられる。基礎統計学 II では、主体的な学びを実践的に身につけていけるように、教科書も自学自習が可能なワークブックを使用していくかたちに変更した。その結果、各自で教科書をしっかり読み、取り組む力と

自信をある程度身に付けることが出来たのではないかと評価している。

また、大学への不適応が出現しやすい2年生向けに課外プログラム（教職員とのランチ会）を提案し、実施した。これにより、2年生の直面している問題として、大学生としての目標・課題の存在を明確に再提示する必要が感じられた。

さらに前年度に引き続き、平成 27 年度から開講する「キャリア心理学セミナー」に向けた研究と教材準備に取り組んだ。

2. 人間福祉学科

人間福祉学科では、社会福祉士、精神保健福祉士及び介護福祉士資格取得を柱とした体系的なカリキュラム編成を組んでいる。社会福祉士国家試験受験資格取得課程は、人間福祉学、介護福祉学の両専攻の学生が履修可能で、例年 70～90 名の学生が履修している。精神保健福祉士課程は人間福祉学専攻で例年 10～20 名が、介護福祉士課程は介護福祉学専攻の学生 30 名程度が学んでいる。社会福祉士、介護福祉士養成カリキュラムは平成 21 年度から、精神保健福祉士養成カリキュラムは平成 24 年度から改正され、新たな科目編成を実施している。

国家試験受験や卒業後の進路は学生によってさまざまだが、どのような進路を歩む学生にも、本学科での学びを通して確かな倫理、知識、技術に根差した実践力を涵養し、福祉現場や就職先の企業等で生かせるよう、国家資格取得を希望するかしないかにかかわらず、個々の学生の意向に応じた専門性の涵養を目標に教育体制を組んでいる。そのため、講義科目はもちろん、演習科目や実習の進め方においても工夫をこらしているほか、養成カリキュラム以外では 1 年次からゼミ形式の授業を取り入れ、大学での学びや卒業研究に向けた素地づくりに力を入れている。

1) 科目担当者打ち合わせ会議

本項では、少人数クラスで複数教員が各クラスを担当する演習系科目について報告する。厚生労働省の占めず社会福祉士養成カリキュラムでは、応用力と実践力を高め、個別指導をより充実するため、実習・演習系科目は 1 クラス 20 人以下で進めることとされている。

①の相談援助実習指導（Ⅰ・Ⅱ）は 2 年前期及び後期、相談援助実習事前指導・事後指導は、3 年次の夏期休暇か春期休暇に実施する相談援助実習の事前準備と事後学習の時間であり、実習に出る時期によって開講時期は異なる。実習先は障害児・者施設、児童施設、高齢者施設、行政機関や民間の相談援助機関など多種多様だが、いずれの施設・機関においても利用者の個別ニーズに専門職として応え得る資質を身につけることが前提であり、実習に向けた少人数制の事前・事後指導を通じた学生への個別指導がもつ意味は大きい。

このことは、資格取得課程とは別に開講している社会福祉学基礎セミナーⅠ・Ⅱ（1 年次前期・後期）、介護福祉学専攻における介護技術系科目、さらに介護実習や精神保健福祉実習の指導科目にも言える。

少人数制の授業はこのようなメリットがある反面、複数教員が共通認識をもって各クラスで授業に当たる必要があり、授業担当者間での打ち合わせが欠かせない。各教員の個性を生かして個々の学生との交流にもとづいた授業展開が期待できる反面、各回の進行、成績評価等の点でバラつきが生じる可能性もあるため、授業期間開始前や終了後だけでなく、期間中であってもこまめな情報交換や打ち合わせを実施しながら実施している。

①相談援助実習指導及び事前・事後指導【井上 修一】

相談援助実習指導Ⅰ（2 年次前期）は、1 年次終了時期に社会福祉士国家試験受験資格取得課程の履修説明を受け、履修を希望した学生が初めて受ける科目である。相談援助実習に出るのは 3 年次だが、2 年次の指導を通して社会福祉士の実践現場や実践形態の多様性や、その中で自ら何を学び取ろうとするのかという「姿勢」を自ら作り上げることが 2 年次前期・後期の目標である。厚生労働省の規定では、本学における「相談援助実習指導」と「相談援助実習事

前・事後指導」を120時間で実施することとされているが、本学では2年前期の「相談援助実習指導Ⅰ」を規定外に加えて150時間確保し、実習に向けた細やかな指導を目指している。

その中で「Ⅰ」では、障害、児童、高齢のほか民間、行政機関など多様な現場で実践に当たる社会福祉士をゲスト講師として招き、また学生が現場に見学に行くなどして、生の福祉現場を肌身で感じ取り、そこでの専門職のあり方を考察しながら、1年後の実習に向けた心構えを形成する。

「相談援助実習指導Ⅱ」（2年次後期）からは、先の規定にもとづく少人数体制になり、15回分のシラバスを共有し、全教員が同じ内容で授業を行っている。

3年次の「相談援助実習事前指導」「相談援助実習事後」においても、様々な方法で教員・助教間で情報を共有し、学生指導に役立てている。実習巡回指導においては非常勤の巡回指導講師をお願いしている関係上、学生指導の過程、結果、フォローが大事になってくる。事前指導の時間で巡回教員との面接を行い、学生の事前学習の達成状況、実習中の目標を確認する。巡回後は、学生の様子を記録し、web上のHDで情報共有と引き継ぎを行うとともに、フォローアップに活用している。事後学習の一環である実習発表会でも、巡回に関わった非常勤講師を招いて、実習後の学びの深まりが確認できる機会を持っている。今後も、非常勤講師との対話を重ねながら、より効果的な授業展開について深めていければと考えている。

②相談援助演習【佐々木 幸】

今年度の相談援助演習は「Ⅰ」「Ⅱ」（2年次）「Ⅲ」「Ⅳ」（3年次）「Ⅴ」（4年次）の5段階で、それぞれケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、総合演習を中心に実施された。これらの科目はすべて、社会福祉士国家試験受験資格取得課程の指定科目になっており、さまざまな事例を検討し、これまで学んだ知識を事例に即して統合しつつ、現場実践に通じる応用力や実践力を養うことを目的としている。

演習・実習科目は1クラス20人以下の少人数制をとっている。各段階とも6クラス構成で実施された。少人数のグループで行う討議やグループワークは、大人数制に比べて討議が活性化しやすく、個々の学生にとっても自らの個性や能力を発揮しやすかったと思われる。

反面、複数教員が同一のシラバス、各回の資料を用いて授業を展開するには視点や意識の共有が必要である。そのため授業期間開始前には1～複数回の打ち合わせの機会をもったほか、各回授業時間の前にも簡単な申し合わせを行った。同じ内容で実施しても、クラスによって学生の反応や雰囲気微妙に違っていったことなどから、各教員の工夫について情報交換するきっかけになるなど、少なからず担当教員のスキルアップにもつながったとの声があった。

また、成績評価は筆記試験のほかグループ単位の成果物や個人のレポート等の質的な側面から行うため、各クラスである程度の評価視点の統一が求められ、授業期間終了時期が近づいた時に再度の検討と申し合わせを行ったケースもある。各科目のねらい、学生にとっての達成課題やその評価方法を、教員間だけでなく学生とも共有した上で共に授業を展開できるようにするために、さらなる検討と準備が必要と思われる。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【佐々木 幸】

本科目は、入学直後の1年次前期に開講されている。入学して間もない新入生に、専門科目の授業とは違った点から現場や福祉実践の多様な捉え方を養ったり、大学での学びに必ず求め

られる言語表現、文章作成能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。「I」は7名の教員が担当し、1クラス20人以下の少人数制をとっており、学生が個性を発揮しやすい。

内容は、おおむね3つに大別することができる。まず担当教員がそれぞれの専門領域の現場について概説する。次に、車椅子や白杖などを用いた要支援者の体験をする。最後は学生自身が選択した施設に見学に行き、現場の様子をクラス内で発表する、というものである。学生の全般的な学力低下やさまざまな資質に開きが大きくなり、レポート作成やプレゼンテーションの前段階として、文章作成のルールや文献の活用、文章構成など基本的な部分の指導に力を入れる必要性が生じている。そのため今年度は、上記3つのテーマそれぞれに対して「仮説」「検証」「結果」「考察」という点でコメントやレポートを書かせ、回を追うごとに文献活用や考察視点を深めていけるよう工夫した。

進め方においては、複数教員による授業運営のため、教員間の情報共有が重要である。いずれの科目において授業期間開始前、期間中も複数回、最終評価時に担当者打ち合わせの場をもち、クラス間で大きな差が出ないように配慮した。

課題等については、入学後間もない1年生にとっては負担も大きいですが、反対に達成感もあったようだ。専門科目以上に学生間や教員との相互のコミュニケーションが図れることで、入学当初以上に福祉のイメージが広がったり、大学生活全体への不安が軽減したり、その後の生活に希望を見出す機会にもなっていると思われる。

④社会福祉学基礎セミナーⅡ【藏野 ともみ】

本セミナーは、主として人間福祉学科1年生を対象に後期に開講されている。授業は少人数制で行い、大学で学ぶ基本として専門分野の文献と検索方法、レポートの書き方、研究課題の見つけ方等の基礎を身につけるとともに、各自が実際に社会福祉や介護福祉の研究課題を見出し、それに取り組む方法を学ぶことを目的としている。

今年度も昨年度と同じ6名の専任教員と1名の非常勤講師が担当し、授業目標及び授業展開方法等について共通理解の下で進めた。当該科目は後期に配当されているが、開始前の5月25日「非常勤講師との教育懇談会」で担当者会議を持つことができた。

授業の目標が「グループ討議・作業を通して、一つの研究課題を見出し、各グループでまとめ、プレゼンテーションを行うこと」であったため、セミナーⅡのまとめとして研究発表会を合同授業として実施した。プレゼンテーションの際のツールについても教員間での合意を持ち、各授業の中で指導を行った。

⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

介護実習は4段階に分けて実施している。平成21年度より新しい介護福祉士養成カリキュラムに移行したが、これに合わせて介護実習の種別が「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「同（Ⅱ）」に分類され、前者の目的は多様な施設で利用者のくらしを理解すること、後者は全実習時間（450時間）の1/3以上を占め、介護過程を展開することを目的としている。本専攻では介護実習2年次に「介護実習Ⅰ」介護老人保健施設で12日間、3年次に「Ⅱ」を障害児・者施設で12日間、「Ⅲ」を特別養護老人ホームで28日間、4年次に「Ⅳ」を居宅介護サービス事業所で5日間、計57日、456時間実施し、本専攻では実習の組み立て自体は変更せず、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅳ」

を「実習施設・事業等（Ⅰ）」に、「Ⅲ」を「（Ⅱ）」に位置づけた。これに伴い、従来以上に実習の目的を明確化したため、各段階の実習目標を達成できるように実習関連の科目の連携を重視した組み立てを行い、5年が経過した。

実習の事前及び事後指導として「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」を2年次前期～3年次後期に担当している。この科目では、グループ演習等を通じて実習先施設の利用者の状態像やサービスの内容、目的などの理解を目指すほか、実習後のフィードバックを行う。介護過程の展開を行う「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、展開した介護過程をもとにケーススタディを行い、担当した利用者の状態に応じて学問的な根拠にもとづく介護のあり方について研究視点を養う。この成果は「介護実習報告書」とは別に「ケーススタディ報告書」としてまとめている。

このほか、「介護実習」と演習科目「生活支援技術」の関連は次項にて報告する。

⑥介護技術科目【壬生 尚美】

生活支援技術（介護・家政）は、介護福祉士養成カリキュラムの中でも実践力をつけるための中核となる科目である。「尊厳の保持」「自立・自律の支援」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援技術を用いて、利用者が安全・安楽・安心できる技術・知識を習得することをねらいとしている。1年次から3年次までの配当年次に、介護実習時期（2年次夏季・春季、3年次夏季）との関連性や他教科との関連も含め、何をどのように教授していくかが重要となる。

1年次は、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、介護動作の基本となる移動に関する支援方法を中心に学び、2年次は、食事・排泄・清潔等に関する日常生活支援方法、3年次は、心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアを中心に学んでいる。授業担当教員間でズレのないように教授内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。授業では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から技術を実施・評価し、実践力を高めている。

2) TAボランティア【井上 修一】

本学科では、人間生活文化研究所共同研究プロジェクトの助成を受け、授業の質と教育効果の向上、及び地域の重要な社会資源である高学歴高齢者の活用と世代間交流を目的に、TAV（ティーチング・アシスタント・ボランティア）を導入して4年が経過した。

今年度、TA ボランティア導入の効果（改善点）について複数回答で学生に印象を尋ねたところ、「授業中の配布物がスムーズに手元に届いた」（377名）が最も多く、次いで、「授業の理解が深まった」（110名）、「私語が減った」（87名）という順であった。TAVの活動の成果として、授業理解が深まったという回答が多いことをあげることができる。TAV導入から5年経過し、TAVの方の経験を授業内で披露することが、授業内容を掘り下げたり、一つの実体験として語られていることが学生に良い影響を及ぼしていると推察できた。

これまでも学年ごとのTAV導入の満足度（平均）を調べてみると、学年が低いほど平均値が高いことがわかった。学年とTAV導入の満足度の関係を見るために、相関分析を行った。その結果、学年とTAV導入の満足度の間には、高い正の相関が認められた（ $r = .183, p < .001$ ）。さらに、学年とTAV導入の満足度について関連性をみるために χ^2 検定を行ったところ有意で

あった ($\chi^2=94.658$, $df=12$, $p<.001$)。この結果から、低い学年の方が TAV 導入に対して満足度が高かったと解釈できる。これは、授業の規模による人数のばらつきはあるものの、導入教育や初年次教育における TAV の有効性を示していると理解できた。TAV 導入の効果は、授業規模によって差があることもわかった。

「私語の注意」等を TAV 導入の効果としてあげている科目群は、比較的大規模(121名以上)の科目が多く、反対に消極的に捉えている科目は、小規模(60名以下)や中規模(61~120名)の科目に現れていた。昨年度のデータをみると、大規模授業(180名以上の受講者)で70%を越える満足度がみられた「福祉の思想と実践」は、「私語の注意等」の効果が高かった(井上 2010: 25)。昨年度は「私語の注意等」授業のスムーズな運営へのサポートが TAV 導入の満足度を高めた一方、今年度は、満足度を低めた授業があった。両者を比較した結果、授業規模に差があることがわかった。

3) 福祉実習の実習発表会、福祉実習教育懇談会【実習委員長 井上 修一】

2014年1月29日(水)の午後1時から人間関係学部棟において「福祉実習発表会・教育懇談会」を開催した。実習機関・施設からの実習指導者36名、在校生299名、教職員21名の参加が得られた。今年度の学生からの実習報告として、社会福祉士実習、介護福祉士実習、精神保健福祉士実習から計9名が実習成果と今後の課題を発表した。実習生、教員、実習指導者が一堂に会して、分野や実習課程を超えて情報共有ができ、有意義な会となった。

午後2時半からは、それぞれの資格課程に別れ、分科会を開催した。社会福祉士実習分科会では、社会福祉士を深く理解できるプログラム内容や工夫、契約書の実態等について意見交換を行った。介護福祉士分科会では、学生の様子、実習の各段階の展開、記録の電子化、医療的ケア等について意見交換を行った。また、精神保健福祉士分科会では、帰校日や巡回指導等について意見交換を行った。さらに、学生を交えた対話の機会を設けている。

こうした取り組みは、人間福祉学科が、学部開設から10年以上を経過した現在、定着してきた感があるが、今後は養成課程で示されてくるミニマムスタンダードの情報を共有しながらも、本学の教育ポリシーを盛り込んだ人材養成の方向性を示し、実習機関との協働体制をさらに大切にしていくことが求められると考えている。

4) 国家試験対応及び受験対策講座【国家試験対応委員 佐々木 幸】

本学科では、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験受験に向けた事務手続き、年4回の模擬試験実施と学習指導を行っている。模擬試験は、種別に応じて4年生だけでなく1~3年生にも受験をすすめ、各学年の学習進度に応じた力試しや復習に役立てさせている。1年次は、本学科での学びの概要を理解し、授業や自己学習の動機づけを高めること、2~3年次は専門科目(国家試験受験資格取得のための指定科目)がもっとも多く配属されていることで、日ごろの学習がどのように出題されるかを結びつけながら国家試験受験に備えること、さらに相談援助実習や精神保健福祉実習を経て相談援助実践に必要な知識を、模擬試験を活用して確実に身につけることを目的としている。4年次は、国家試験のための知識の確認だけでなく、本学科での学びを総括することが目的である。学科での学びの全体像からすると、受験直前対策としての4年次の学習支援と同様に、2~3年次で授業と模擬試験を連動させて学びを深めることも特に重要である。そのため3年次には、模試の事後学習ノートを提出させ、当該学年のクラス指

導主任と国家試験対応委員からコメントを記載して返却している。このことは、個々の学生の学習進度や理解の状況を把握し、各学生に対する個別指導にも役立てている。

また昨年度からは4年生を対象に本学科専任教員及び助教（実習担当）による社会福祉士主要科目の「受験対策講座」を授業外に開催している。各回、正答率の低い6～7科目に絞って、5～6月には基礎編、10～11月には直前対策としての応用編を実施している。各教員が担当科目の過去問題を分析し、それぞれが作成した資料にもとづいてポイントをしばった講義を行った。今後も科目の選定や学生が受講しやすいスケジュールなどの環境を調整しながら実施していく予定である。

介護福祉士に関しては、平成19年の法改正により養成施設卒業者も国家試験受験が義務化されたが、資格取得方法の実施先送りのため現在のところ実施に至っていない。従来、卒業前の2月に介護福祉士養成施設協会が主催する「卒業時共通試験」を実施しており、これを国家試験と同様に位置づけ、学習を促してきた。介護福祉学専攻の学生は、国家試験免除の学年も、国家試験を受験する可能性のある学年も、国家試験の過去問題を活用した学内模試と業者主催の模擬試験を学内で計3回実施し、各模試の自己学習ノートを提出させるなど、個別指導に力を入れた。今後も継続していく予定である。

(1) 人間福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

①町田 章一

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 2013 KDTA International DMT Conference

日時：2013（平成25）年6月27日（木）～7月2日（日）（パネリストとして参加）

場所：Seoul Olympic Parktel, Seoul, Korea

主催：Korean Dance Therapy Association

2) 第23回 健康運動指導士会埼玉県支部 研修会（監事として参加）

日時：2013（平成25）年7月7日（日）

場所：さいたま共済会館

主催：NPO法人 日本健康運動指導士会 埼玉県支部

3) 芸術療法研修セミナー2012（研修委員会委員長として参加）

日時：2013（平成25）年8月10日（土）～11日（日）

場所：上智大学（東京都千代田区）四谷キャンパス

主催：日本芸術療法学会

4) 第22回 日本ダンス・セラピー協会学術研究大会（事務局長として参加）

日時：2013（平成25）年8月29日（木）～30日（金）

場所：東京有明医療大学

主催：日本ダンス・セラピー協会

5) 第30回 JAVET 研究大会（理事として参加）

日時：2013（平成25）年9月14日（土）

場所：甲南大学

主催：言調聴覚論研究会

6) 第21回 JADTA 研修講座（事務局長、講師として参加）

日時：2013（平成25）年11月23日（土）～24日（日）

場所：プラウド・武蔵浦和テラス

主催：日本ダンス・セラピー協会

7) 第45回 日本芸術療法学会大会（理事、研修委員会委員長として参加）

日時：2013（平成25）年11月30日（土）～12月1日（日）

場所：金沢医科大学

主催：日本芸術療法学会

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「人間関係総論Ⅲ」の授業で使用するスライド等の加筆訂正をした。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

「人間関係総論Ⅲ」の授業は教養に関することが比較的多いので、学生からの質問や希望に

応じ、多岐に渡る情報収集に努めている。今年度は特に日本文化、マナー、宗教に関することに力点を置いた。また、大妻女子大学多摩校の図書館が所有しているビデオ、DVD、また、you-tube 等で公開されている動画を検討し、授業で使えるような部分を収集、編集している。

②松山 博光

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「相談援助実習」において、要介護（支援）高齢者に対するケアプラン作成に使用できる教材を開発して、実習生に提供した。

端的に言えば、ICF（国際生活機能分類）に基づく「アセスメントシート」、「人体図」、「エコマップ」等を独自に作成し、実践現場に取り入れた。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

本年度は、TA ボランティアを担当する 3 科目の講義に導入した。まず大講義室で受講する学生に快適な学習環境を提供することができた。

また「おしゃべり等のない静かな教育環境」づくりと共に、90 分の時間を有効に使用するため講義開始前の「資料配布」や「学習課題」の回収整理が円滑に行われた。

③小川 浩

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

「障害体験の授業を開発するためのワークショップ」

日時：平成 26 年 1 月 14 日

場所：大妻女子大学人間関係学部棟

内容：NTT の特例子会社である NTT クラルティと協働で、学生に聴覚障害者を理解してもらうための体験型授業を開発するためのワークショップを行った。NTT クラルティの聴覚障害のある社員が講師・ファシリテーターとなり、人間福祉学科学生 8 人に対して模擬的授業を実施し、その後、修正点等について学生を交えてのディスカッションを行った。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業では毎回パワーポイントを活用しており、その内容は毎年修正を加えている。また、障害特性等を紹介するための DVD も、障害福祉現場等の協力を得て、適宜、新しい内容のものを取り入れるようにしている。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

「障害者支援と障害者自立支援制度 I・II」及び「障害特性の理解 B」では、様々な障害特性について学生が理解し易いように、多くの視覚的教材を取り入れるようにしている。また、全盲の方をゲスト講師に招いて、生活上の困難について説明して頂いたり、福祉施設で働く先輩を招いて実際の仕事の様子について話をしてもらうなど、学生が障害児者福祉に興味を持ちやすいように工夫している。

「社会福祉学セミナー I」では、特例子会社 3 ヶ所、福祉施設 2 ヶ所の見学に出かけ、実際の障害者雇用・就労支援、福祉施設における支援の実際を学習した。また、地域連携プロジェクトの一環として、地域の社会福法人と連携した「学内カフェ」の実施に取り組み、学生が日常的に障害のある人と触れ合い、共に働く機会を提供できるようにした。

④嶋貫 真人

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 例年同様、授業の概要をまとめたレジюмеを、毎回授業の最初に配布しました。該当科目は、「社会保障Ⅰ」、「同Ⅱ」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」、「更生保護制度」、「福祉行財政と福祉計画 A」の 5 科目です。これらの科目については、統計データの更新や頻繁に行われる法令の改廃への対応など、常に改訂を行ってアップトゥーデートな内容を保持しなければならないため、25 年度においても従来から使用してきた資料に多くの修正・加筆を行いました。

このレジюмеの使用目的は、第一義的には毎回の授業の進行の柱を提示することによって、受講生が話の全体像を見通せるようにするという点にあります。しかし同時に、教科書では詳しく触れられていない新しい問題や、教科書の記述だけではわかりにくい（しかも授業中の教師による口頭説明を聞いても、即座に理解することが難しい）やや高度で複雑な問題について、ていねいな解説を試みることも目指しています。したがって、単に項目だけを列記しただけのものではなく、一定の長さの文章で説明する形式をとっています（その意味では、サブ・テキスト的な性格を持つものともいえます）。受講生は、このレジюмеの余白部分に、教師が授業中に解説した内容や板書した事項を書き込むという形で活用しているようです。このようなレジюмеの活用は、学生が授業内容の復習を行う際に有用であるだけでなく、社会福祉士国家試験対策の教材ともなることを意識して、毎年少しずつ内容に修正を加えてきています。

(2) 「社会福学セミナー」（3・4）年で使用する資料について、例年同様、最近議論になっている社会保障の各領域のトピックを盛り込むべく、加筆・修正を行いました。25 年度に新たに追加した項目としては、「無年金障害者の救済策」、「福祉施設における利用者の身体拘束」等があります。これは最近出された裁判例や学説の議論の状況を、初学者向けにわかりやすくまとめたワークブック形式の教材となっています。この教材は、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

・例年同様、「社会保障Ⅱ」、「福祉行財政と福祉計画 A」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」、「更生保護制度」の 4 科目については、TA ボランティアを導入し、資料配布の補助や私語への注意などの業務をお願いしました。これによって、授業進行の効率化を一定程度図ることができたと考えています。

・「社会福学セミナーⅡ」（3 年後期）においては、「就職活動に必要な労働法の基礎知識」と銘打って、東京弁護士会から 3 名の弁護士を呼んで、他ゼミとの合同形式で講演およびトークセッションの会を開催しました。これから本格的な就職活動に入る 3 年生にとって、ともすれば誤った常識にとらわれがちな労働法に関する基本的な知識（たとえば「内定の法的性格」等）を学ぶことができた、と受講生の間では好評でした。

⑤丹野 眞紀子

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 日本社会福祉教育学会第 9 回大会への参加

開催日：2013 年 8 月 31・9 月 1 日

場 所：丸紅多摩センター研修所

内 容：この大会では、大会テーマが「社会福祉士養成課程の改正について検証する（2）ルーブリックを活用した教育課程開発の試みー」というテーマで行われた。専門職養成を目指す教育ではどのような養成教育が必要なのか、ルーブリックを作ってみるといふ共同作業を通して検討された。

2) 第3回「スーパービジョン教育の理論と方法」の講座に参加

開催日：2014年1月12日

場 所：東洋大学 白山キャンパス

内 容：スーパービジョンは、効果的で質の高いサービスを提供するためには必要不可欠なものとなっている。しかし、スーパービジョンが社会福祉実践現場並びに社会福祉教育現場でどのような点に主眼を置き、どのような方策によりスキルを高めていかについての具体的方法についてはなかなか整備されていない現状にある。このよう中で、スーパービジョンの基本的な概念と実践的な教育方法を学ぶことのできる研修講座であった。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「社会福祉援助技術論Ⅱ-A」「社会福祉援助技術論Ⅱ-B」「社会福祉援助技術論Ⅲ-A」「社会福祉援助技術論Ⅲ-B」「保健医療サービス」の5科目である。社会福祉援助技術論の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加えたり、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。

レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。特に、ソーシャルワークの理論を理解するためには事例は不可欠であり、また、レジメには、理論に必要な考えをまとめた後、事例で考えるために空欄箇所を作り、自ら考えて書き込めるようにした。それにより、学生は事前学習がしやすくなり、また授業中にも積極的に書き込む様子を見受けられる。またソーシャルワークの理論が違えば、支援に対する考え方を変化をすることを身を以て考えることで、理解できているようである。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識して作成している。

2) すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。また、授業が関連を以て進められていることに気付く効果もある。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 今年度、「社会福祉援助技術論Ⅱ-B」でTAボランティアを導入し、資料配布の補助や私語への注意などの業務をお願いした。これにより、個別課題の配布等の時間短縮が可能となり、授業時間の確保がゆとりを持って行われたので、学生の理解不足の項目に時間を割いて説明することができ、学生の理解を深めることができたと考えている。

2) 学生に課した個別課題に関しては、全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。

3) 社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞ

れの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。

4) 相談援助演習Ⅲでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。

5) 相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと言っていたので教育的効果は高かったと思われる。

⑥藏野 ともみ

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 平成 25 年度社会福祉士実習演習教員講習会「相談援助演習方法論Ⅱ」講師として参加

日時：①平成 25 年 8 月 7 日(水)、②平成 25 年 8 月 28 日(水)

場所：日本社会福祉士養成校協会事務局(東京都品川)

内容：本事業は、社会福祉士及び介護福祉士法に則り、厚生労働省より日本社会福祉士養成校協会が委託を受けている社会福祉士養成に関わる相談援助演習担当教員及び相談援助実習担当教員の講習会である。今年度も「相談援助演習方法論Ⅱ」の講師を担当した。各回 40 名程度の受講者に対して、「演習方法の概要」について講義形式を取りながら、受講者と双方向で議論を行った。また、演習形式の「相談事例を活用した総合的かつ包括的な相談援助実践の実際」では、医療機関の事例を用い、6 回(90 分×6 回)の授業シラバスを提案し具体的な教材を提示し、演習の展開方法や学生指導の工夫点とポイントについて提示した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 授業のレジメを数回分あるいは全部を初回の授業で配布している。科目は、「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉学セミナーⅠ・Ⅱ」である。それらに加え、新しい制度の動向、学生からの質問の対応については必要に応じて別途プリントを配布した。事前に授業レジメを配布することで授業目的とその内容の全体像を把握させ、予習・復習及びレポート作成等の学習の進め方の指示を行うことをねらっている。さらに、授業が進んでも以前の内容に戻る際、資料を分かりやすくすること等の効果をねらっている。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 精神保健福祉援助実習における実習先主催の打合せ参加、及び個別打ち合わせ

今年度も精神保健福祉援助実習における配属実習に先駆け、全実習指導者と実習生の大学での指導状況について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。また、実習先主催の打合せに参加し(6 月 8 日：社会福祉法人 豊心会事務所)、他大学の教員及び学生、施設職員及び当事者の 4 者での打ち合わせ・見学を行った。

上記の取り組みを通して、学生の実習内容だけでなく、キャリア指導をする機会も得ることが出来ている。本実習は 4 年次の 5 月から 10 月にかけて実施するため、就職活動と同時進行で行うことになり、実習体験が学生のキャリア選択に大きな影響を与えている。そのことも踏

まえ、実習指導者との意思疎通は重要であると認識している。

⑦上野 優子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 課程認定校研究連絡会議「平成 23 年度全国研究集会・総会」
日時；平成 25 年 6 月 1 日（土）～2 日（日）
場所；東京都 日本レクリエーション協会
内容；福祉レクリエーション・ワーカー課程認定校としての研修会
カリキュラムの一部変更に関する問題点と改善点、
他大学との情報交換など行ってきた。
- 2) 平成 25 年度 第 60 回 日本学校保健学会
日時；平成 25 年 11 月 16 日（土）
場所；聖心女子大学
内容；「連携と協調の時代の学校保健」をメインテーマとし、学生指導においても保健分野に重点を置いてのシンポジウム、口頭発表、ならびに意見交換や情報の収集にあたった。
- 3) 第 10 回 東京都レクリエーション研究大会参加
日時；平成 25 年 12 月 8 日（日）
場所；国立オリンピック記念青少年総合センター
内容；運動教育学を専門領域としての、幼児から高齢者までの幅広い「運動によるからだと心の健康づくり」についての基調講演に参加した。また、5 ブロックに分かれての具体的なレクリエーション活動の技法の講習を受講した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・体力テストの実施に関する資料作成（平成 24 年度からの継続）
オリジナルの測定結果記入用紙と総合評価表の作成
- ・科目「シーズンスポーツ」（高尾山トレッキング）
簡易型 HR メモリーの装着を全員に行い、安全に且つ体力の向上につなげられるトレッキングが出来るように HR に関する資料作成を行った。
- ・「スポーツ A～D」および「レクリエーション実技」の授業については、カリキュラムが一部変更になったため、それに伴っての資料の作成を行った。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・スポーツの実技科目については、特に前期から後期の初めまでは、猛暑に伴い、体力のない学生は授業についてこれない学生も想定できたので、温湿度計を必ず設置し、一定の数値を超過する場合などは、授業内容の一部変更などを行った（昨年度からの継続）。
- ・科目「スポーツと健康」は、受講者多人数のため、授業の進行具合とそれに対する理解度を見るために、定期的に、オリジナルのアンケート調査を行い、特に内容の理解度については、5 段階評価で答えてもらった。理解度が低い学生については、希望者のみ学期末に再度説明する時間を設けた（H23 年度から継続）。
- ・近年は、特に個性的な学生がいる中で、集団での授業などがなじめないといったことがあり、それらの学生については、再度個別に指導を行った。

⑧井上 修一

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

①2013年度 中井町、中井町教育委員会主催／「中井町人権教育・啓発講演会」に参加

i 日時：平成25年12月7日（土）13：30～15：30

ii 場所：神奈川県中井町農村環境改善センター

iii 内容：橋本昌彦氏を講師に招き、一人ひとりが生まれてくることができた尊いのちであること、子育てや学校での子どもの育ち、親子関係についての講演を拝聴した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

i. テキスト：『介護福祉士国家試験解説集』中央法規、2013年

執筆担当：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。

授業名：本学科では当該科目なし。

内 容：担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。

「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。

また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法の第4章に定める義務と日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

i. 相談援助演習Ⅰ・Ⅱ（2年生：後期）についての打ち合わせ

相談援助演習Ⅰ・Ⅱにおいては、共通シラバスづくりを行い、教育内容の共通化、授業展開の工夫の共有化を試みた。

ii. 社会福祉援助技術現場実習・非常勤巡回指導講師との打ち合わせ

社会福祉援助技術現場実習事前・事後指導場面において、2人の非常勤巡回指導講師と連携しながら学生指導を行った。担当学生が所属するクラスへの参加、事前面接、巡回指導、実習発表会への参加など、一貫して関わる機会を持ったことが充実した指導につながった。

iii. TAV活動導入による教員間の打ち合わせ

大妻女子大学人間生活文化研究所共同研究プロジェクト「高学歴・高齢者のTAボランティアによる学生支援の可能性に関する研究」（代表者氏名：松山博光教授）への参加とTAVの導入。TAV導入にあたって、授業の状況、導入後の効果などを協議した。TAV導入の満足度の測定においては、72.3%が比較的高い評価をしていることが明らかになるとともに、導入による効果として「授業の理解が深まった」（18.5%：複数回答）とする回答も見られた。

⑨小林 哲也

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 平成25年度 第9回日本福祉教育学会大会への参加

開催日：平成25年8月31日～9月1日

場所：丸紅多摩研修センター

テーマ：社会福祉士養成課程の改正について検証する（2）－全員参加で創る教育課程開発の試み－

内容：合宿形式で、社会福祉士養成課程に対する教育評価法として、ルーブリックを作成した。

2) 平成 25 年度 第 61 回日本社会福祉学会大会への参加

開催日：平成 25 年 9 月 21 日～22 日

場所：北星学園大学

テーマ：貧困と社会福祉－貧困問題への創造的実践を考える－

内容：「相談援助実習指導における授業の標準化と評価方法に関する研究－ルーブリックによる評価方法の活用について－」のテーマでルーブリックについて報告をおこなった。

3) 第 9 回 社会福祉士実習教育推進大会への参加

開催日：平成 25 年 12 月 9 日

場所：大正大学

テーマ：実習施設機関と養成校の連携～新カリキュラム体制におけるあり方～

内容：社会福祉士養成校協会関東甲信越ブロック主催でおこなわれた第 9 回社会福祉士実習教育推進大会に参加した。内容はテーマのとおり養成校と実習施設機関との連携のありかたについてである。午前はシンポジウム、午後は参加者によるグループディスカッションがおこなわれた。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 中央法規出版「2014 介護福祉士国家試験過去問題集」（介護福祉士国家試験受験対策研究編集）のうち、「社会の理解」を担当した。

2) 日総研「誤文で学ぶ！出題パターン見極めトレーニング」のうち、「高齢者と介護保険制度」を担当した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 相談援助実習障害分野の連携の取り組み

小川教授のご指導のもと、分担で学生の実習計画の作成をおこなった。先生の意向に沿う計画内容にするため、綿密に話し合いの機会を持つようにした。また、最終確認を先生が行うこととし、計画の質を保てるような体系づくりをおこなった。

2) 学生の興味・関心を引き出す相談援助実習計画の作成

相談援助実習に取り組むための実習計画の作成をおこなった。計画作成の上で、学生が具体的に実習で何を取り組みたいのか、初歩の段階ではイメージすることが難しいことに気が付いた。そこで、福祉に興味を持ったきっかけや今までの授業の中で興味を持ったことなどを自由に話してもらい、そこから実習に結び付けるように工夫した。また、計画作成のプロセスの中で、学生の実習へのイメージが具体化するよう、簡単な実習の事例を用いながら計画の作成をおこなった。

(2) 介護福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

①佐藤 富士子

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 介護福祉士養成大学連絡協議会主催研修会の企画運営
(介護福祉士養成大学連絡協議会会長校として企画)

日 時：2013年7月13日

場 所：大妻女子大大学多摩キャンパス

テーマ：「介護福祉士養成校の卒業生に期待されるソーシャルビジネス」

内 容：大学で福祉を学び、現在NPO法人で地域で活躍している伊藤英樹氏（千葉県NPO法人戸端介護代表理事）と中島康晴氏（広島県NPO法人地域の絆代表理事）から、世の中に必要とされる職業の重要性と必要なことを続けていくための制度の内容、人材の確保、事業の継続性、地域で必要とされる支援のズレ等現実、および、職業の素晴らしさを語ってもらった。

- 2) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会全国教員職員研修会

日 時：2013年11月20日～22日

場 所：ANAクラウンプラザホテル広島

テーマ：「生きる」を支える介護の視点～生活支援を担う介護福祉士に求められるもの～

内 容：地域包括ケアが叫ばれ、少子高齢化時代に入り介護福祉士養成施設の求められるものは何か、を視点として、分科会やワークショップが開催された。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 生活支援技術で使用するテキスト（中央法規出版）の改訂

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 今年度は特にありません。

②川廷 宗之

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

①日本社会福祉教育学会第9回大会・学会長として総括（8月31～9月1日・丸紅多摩センター研修所）

②日本社会福祉教育学会第4回春季研修会・学会長として（2月23日・大妻女子大学）

③日本ソーシャルワーク学会第30回大会・学会長として総括（6月29日～30日・仙台白百合女子学院大学）

④日本ソーシャルワーク学会第2回公開セミナー・学会長として総括（10月13日・大妻女子大学）

⑤日本介護福祉学会第21回大会・研究報告（介護福祉士養成教育）（10月20日・熊本学園大学）

- ⑥日本社会福祉学校連盟社会福祉教育セミナー・第4分科会・パネリスト（11月3日・長崎純心大学）
- ⑦高校福祉科教員講習会（文部科学省主催）における講義（8月20日・日本福祉大学）
- ⑧聖隷クリストファー大学・教員研修会講師（10月30日・浜松・聖霊クリストファー大学）
- ⑨福島県介護福祉士会総会時講演「介護福祉における記録の重要性」（4月27日・郡山市）
- ⑩社会福祉主事講習（国立教育会館主催）における講義（2月17日・国立教育会館社会教育研修所）
- ⑪介護福祉士養成校教員講習会の講義（「教育学」30時間・「介護教育方法」30時間・「教育評価」15時間・「介護研究方法」30時間）（臨床福祉専門学校）
- ⑫介護福祉教育実践研究会・第29回から第34回まで主宰（述べ参加者数約150人）

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

A. 教科書

- ①『地域コミュニティを対象としたメゾ・マクロ・ソーシャルワーク演習』研究室刊

B. 教材（学生と共同制作）

- ①社会福祉援助技術論ⅠA用教材（授業通信）14号（174頁）作成
- ②児童福祉論Ⅱ用教材（授業通信）14号（234頁）作成
- ③社会福祉学セミナーⅠ・Ⅱ用教材（授業資料）31号（495頁）作成
- ④社会福祉学セミナーⅢ・社会調査演習用教材（授業資料）31号（352頁）作成
- ⑤その他、担当授業科目での資料作成など

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ①TAVの受け入れ・TAVに関する研究
- ②クラス指導による低学力学生の学習支援プログラムの実施
- ③低学力学生の学習力量に関する調査研究
- ④相談援助実習指導Ⅱの授業内容に関する担当教員協働の研究の実施
- ⑤各授業におけるポートフォリオ評価法の開発研究
- ⑥一部授業でのルーブリック評価法の開発研究
- ⑦大学教育推進機構併任教員としての活動

③壬生 尚美

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 第20回日本介護福祉教育学会の参加

日時：2013年8月29日（木）・30日（金）

場所：ヒルトン福岡シーホーク

テーマ：『未来を拓く介護福祉教育～社会への発信～』

内容：介護福祉士養成課程に、「医療的ケア」の領域が追加され、他校の講義・演習のカリキュラム実施現状について情報収集する機会となった。基調講演、教育講演、シンポジウム等を通し、今後求められる介護福祉士教育の方向性について考えさせられた。

- 2) 全国教職員研修会の参加

日時：平成25年11月20日（水）～22日（金）

場所：ANAクラウンプラザホテル広島

テーマ：『生きる』を支える介護の視点～生活支援を担う介護福祉士に求められるもの

内 容：記念講演「胃ろうの過去・現在・未来」では経口摂取の意義について、特別講演『生きる』を支え介護の視点』では、生活支援を担う介護福祉士の専門性について再認識した。2日目の分科会やワークショップから具体的な生活支援の方法について今後の教授内容の参考になった。

3) 介護福祉士養成大学連絡協議会研修会の企画・運営

日 時：平成 25 年 7 月 13 日（土）13:30～15:30

場 所：大妻女子大学 多摩キャンパス

テーマ：『介護福祉士養成校の卒業生に期待されるソーシャルビジネス』

内 容：介護福祉士養成大学連絡協議会の研修会として、伊藤 英樹 氏（千葉県・NPO 法人 井戸端介護 代表理事）、中島 康晴 氏（広島県・NPO 法人 地域の絆 代表理事）を講師にお招きし、会員校の先生や学生に対し、介護福祉士によるソーシャルビジネスについて講演をいただいた。介護専門職として卒業後に活躍できる新たな可能性についての示唆につながった。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 特になし。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 担当科目の目的や対象者に合せて、講義形態や教授内容を踏まえた教授育方法について昨年度の経験を踏まえて見直しを行った。特に、授業内容の組み立て方や発表方法など変更することによって、より内容を深めることができた。

④金 美辰

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第 21 回日本介護福祉学会

日 時：2013 年 10 月 19 日（土）・20（日）

場 所：熊本学園大学

テーマ：現在から未来への「ケア」のあり方を問う

内 容：日本の総人口に占める、高齢者の割合が 24.1%に達し、高齢者に対する介護や医療サービスを中心とした社会保障制度のあり方が問われている。このことから、介護現場での介護職の質や人材不足、介護人材の養成を担う教育機関の役割など、現在から未来へのケアのあり方について探ることを目的とした内容である。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「介護福祉学辞典」ミネルヴァ書房

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業を行っている。

生活支援技術の授業では、学生が利用者・介護者・観察者の立場で、講義で習った介護の理論に基づいて、根拠を考えながら取り組めるようにしている。また、教員間で教える内容にズレがないように事前に打ち合わせを行い、授業後にも教員間で振り返ることで連携しながら授業の質向上に努めている。

社会福祉学基礎セミナーⅡでは、授業が始まる前に、担当教員間で打ち合わせを行い、授業の調整を行った。

社会福祉学セミナーⅠ・Ⅱでは、在日外国人の集住地域で住民と交流し、多文化共生のあり方について理解を深めている。また、学生が一日デイサービスを企画・実施することで、地域の高齢者と交流し高齢者の現状を把握するとともに、企画力・実践力を身につけられるように努めている。

⑤佐々木 宰

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会への参加

日 時：平成 25 年 11 月 20 日（水）～22 日（金）

場 所：ANA クラウンプラザホテル広島

テーマ：『生きる』を支える介護の視点～生活支援を担う介護福祉士に求められるもの

内 容：現在介護福祉士養成教育の中心的な課題となっている医療的ケアの中でも、胃ろうを始めとする経管栄養について長尾和弘医師による記念講演「胃ろうの過去・現在・未来」では、経口摂取の重要性や、生活を支えるために必要な視点について再確認することができた。ほか、分科会、ワークショップともに介護福祉士養成教育だけでなく介護現場でも活用できる知識や技術、さまざまな意見が紹介され、より実践力の高い専門職を育てる教育や授業展開をする上で多くの学びを得ることができた。

2) 介護福祉士養成大学連絡協議会研修会の企画・運営

日 時：平成 25 年 7 月 13 日（土）13:30～15:30

場 所：大妻女子大学 多摩キャンパス

テーマ：『介護福祉士養成校の卒業生に期待されるソーシャルビジネス』

内 容：本学が 2 年間の任期で介護福祉士養成大学連絡協議会の幹事校を務めており、総会との併催という形で本研修会を企画した。伊藤英樹 氏（NPO 法人井戸端介護 代表理事）、中島 康晴 氏（NPO 法人地域の絆 代表理事）のお 2 人を招き、介護福祉士が展開する社会貢献とビジネス、その可能性についてお話しいただいた。会員校の教員や学生から多数の参加を得、学生からの質問も相次いだ。学生にとっては、資格取得後のビジョンが広がり、さらに学ぶ意欲が向上したという声が多かった。

3) 日本社会福祉教育学会第 9 回大会の企画・運営

日 時：平成 25 年 8 月 31 日（土）～9 月 1 日（日）

場 所：丸紅多摩センター研修所

テーマ：社会福祉士養成課程の改正について検証する（2）

ーループリックを活用した教育課程開発の取り組みー

内 容：社会福祉士養成カリキュラムが改正されて 5 年目に当たる本年、より質の高い専門職を養成する教育内容となっているのか、今後の課題は何かといった点からワークショップ、分科会等を企画・運営した。中でも、各科目分科会を設定、教員と学生が目標を共有し、学生にとっての到達目標、教員にとっての評価基準となりうるループリックの作成に取り組んだ。夜間も含めて熱心に議論を繰り返し、2 日目に発表するという実践的な取り組みは、参加者にもおおむね満足されたようだ。

4) 東京都介護福祉士会教育部会の主催

日 時：おおむね隔月

場 所：東京都介護福祉士会事務所、都内会議室等

内 容：介護福祉士養成施設の教員をしている会の理事を中心に、養成教育のあり方について議論したり情報交換をしたりしている。近年は養成校教育だけでなく職場内教育や実習生への指導も含めた総合的な教育のあり方や体系づくりが重視されており、特に実習教育の問題点や実習施設独自の取り組みなどを取り上げて、養成校と施設の連携のあり方、施設においては職場内教育との連携とからめながら議論を進めている。ほか、今年度19年ぶりに改訂された厚生労働省「職場における腰痛予防対策指針」を受け、移動用リフトなどの介護機器の活用が重視されている。介護職員自身の健康管理（腰痛防止）だけでなく、利用者にとっても日常生活動作や生活の質を向上させる機器活用のあり方を議論している。年度内に、機器の導入を積極的に進めている都内近郊の施設を取材しているほか、次年度には研究活動を実施する予定である。

4) 東京都介護福祉士会国際協力委員会の主催

日 時：おおむね隔月

場 所：大妻女子大学千代田キャンパス等

内 容：アジアを中心とした諸外国から来日した外国人介護福祉士や介護職員を招いてお話をうかがい、外国人の目から見た日本の介護のあり方や、外国人介護職員としての苦労や問題点について意見交換を行っている。今年度は会の理事がスウェーデンに研修に行き、その報告会を行ったところ、これまでで最高の参加者数になった。日本はいち早く介護の専門職化に取り組んだが、多職種と違って専門性が見えにくい。日本で暮らしていると見えづらい日本の介護の特性（専門性にもつながる）を、外国出身者の声や外国での研修体験を通じて浮き彫りにしつつ、今後ますます増加する介護職員をサポートするためのヒントを得、近い将来は何らかの形で社会に提言できるようまとめていきたい。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

以前執筆した中央法規出版新・介護福祉士養成講座『生活支援技術Ⅱ』の改訂、介護労働安定センター、中央法規出版の『介護職員初任者研修テキスト』の執筆のほか、ナツメ社『介護用語ハンディ辞典』（2013）に執筆協力した。

授業では毎回レジュメを作成し、配布しているほか、レジュメには新聞記事を掲載するなどして生の社会情勢とリンクさせた授業内容に配慮している。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

前項のようなレジュメ作成を始めとする授業内容改善・向上への取り組みのほか、上記①3)の教育部会では、メンバーどうしのほか介護現場の職員とも意見交換をすることができ、実践に直結する指導や教育のあり方について多くの示唆を得ている。このことで、養成校教育が理論先行にならず、「理論と実践の融合」にも役立っていると思われる。

⑥菅野 衣美

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 平成25年度 社会福祉士実習・演習担当教員講習会（演習分野講習）

日 時：平成25年8月6日～8月9日

場 所：都漁連水産会館

内 容：社会福祉士実習演習担当教員講習会の演習分野講習に参加した。

2) 第 21 回日本介護福祉学会大会への参加

日 時：平成 25 年 10 月 19 日～20 日

場 所：熊本学園大学

内 容：テーマ「現在から未来へのケアのあり方を問う」

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳへの取り組み

実習前に必要とされるスキルと個々の学生の習得状況について教員間で情報の共有を図り、ひとりひとりの習得状況に合わせて補足が必要と思われるマナー、技術、知識等の個別指導をおこなった。

また今年度は介護実習Ⅱ・Ⅲで使用する介護過程展開用紙（情報収集シート）の刷新を行ったため、学生と実習指導者に対してシートの使用にあたっての意見をヒヤリングした。次年度の参考として活用したい。

⑦村田 真弓

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 日本社会福祉学会大会

日 時：2013 年 9 月 21 日・22 日

場 所：北星学園大学

テーマ：貧困と社会福祉 ―貧困問題への創造的実践を考える―

内 容：「看取り期の死生観に関する研究動向と今後の課題」と題してポスター発表を行った。発表に対していただいた質疑や感想を踏まえて論文化し、「人間関係学研究」に投稿した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 相談援助実習（高齢分野）における教員と実習助教の連携

事前学習及び実習中の巡回訪問指導において、各場面において指導内容に齟齬が生じないよう担当教員と意思疎通を図りながら学生指導にあたった。結果として、今年度は高齢分野の実習予定学生全員が予定通り実習を修了するに至った。

⑧小野内 智子

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 平成 25 年度 社会福祉士実習・演習担当教員講習会

日 時：平成 25 年 8 月 6 日～9 日

場 所：社団法人日本社会福祉士養成校協会

内 容：社会福祉士実習演習担当教員講習会「演習分野講習」に参加した。演習指導において必要な知識を学んだ。

2) 第 21 回日本介護福祉学会大会への参加

日 時：平成 25 年 10 月 19 日・20 日

場 所：熊本学園大学

内 容：テーマ「現在から未来への「ケア」のあり方を問う」

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 実技演習授業の補助

実習環境に近い演習授業において、介護福祉学専攻の先生の講義方針、教員、助言のもとで、実際に実技演習グループの中に入り、学生が介護行為を「なぜこうするのか」と科学的根拠に基づく介護を実践できるようにサポートした。

2) 効果的な介護実習を行うために

実習の限られた時間の中で、効果的な実習が行えるよう、介護総合演習の講義方針、教員の指導、助言のもとで、実習計画作成や介護過程の展開、実習報告書作成について、サポートした。巡回時や実習終了時に学生自身の思いや気づきを聞き、そこから何を考えたのかを大切にしました。

また、日本介護福祉士養成施設協会東京部会の実習検討委員会に定期的に参加し、東京都の他養成校教員と一緒に学生が効果的な実習を行うために、実習施設や実習指導方法、評価方法、課題等の情報共有を行った。

⑨宮元 預羽

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 「第7回浴風会実習懇談会」への参加。

日 時：平成25年6月17日（月）

場 所：浴風会 認知症介護研究・研修東京センター2F 大会議室。

内 容：社会福祉士実習グループ、介護福祉士実習グループ、その他グループ、に分かれて意見交換が行われた。介護福祉士実習グループに参加。近年の学生の特徴に対する指導方法や記録の取り決め、学校との連携方法等が議論された。その他、他校との教員と意見交換を行った。

2) 日本介護福祉士養成校協会東京部会への参加。

日 時：平成25年7月12日（金）

場 所：日本福祉教育専門学校高田校舎

内 容：介護福祉士養成校における職業訓練生導入について、東京都への維持要望についてと、修学資金についての報告と議論がなされた。

3) 平成25年社会福祉士実習・演習担当教員講習会『演習分野』への参加

日 時：平成25年8月6日（火）～8月9日（金）。

場 所：都漁連水産会館5階「会議室」

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 「相談援助実習事前指導」相談援助実習児童・地域分野の連携の取り組み

嶋貫教授、井上准教授のご指導のもと、実習生個人票、実習計画書等、実習先に提出する書類の調整を行った。実習先の指導者より、個人票や計画書の加筆修正や指摘があった場合は、嶋貫教授、井上准教授に連絡を行い、先生方が学生指導を行った。その後、施設へ修正あるいは訂正した箇所の確認を依頼した。

2) 学生の興味・関心を引き出す「生活支援技術E」の取り組み

佐々木先生のご指導のもと、介護技術のデモンストレーションの打ち合わせを行い、学生の視点で検討し、授業の段取り、必要物品などを取り決めた。授業当日は佐々木先生がデモンス

トレーションを行った後、各ベッドでの演習時に介護技術の指導を行った。特に男性指導員が入れる授業に参加した。

IV 保護者懇談会

今年度も、保護者懇談会は前期に千代田キャンパスで開催される千鳥会総会及び演奏会後に、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭（大学祭）の1日目に実施した。

千鳥会総会後には各学科に分かれて教員からの報告に引き続き学年別・専攻別の懇談を、大妻多摩祭時には、学部全体の懇談会、学科・専攻ごとの模擬授業に続き、各学科・専攻・学年に分かれて懇談を行った。各学科・専攻とも、おおむね学科及び専攻からの報告と質疑応答の後、クラス別、ゼミ別といった小グループでの懇談の場を設けている。

以下、懇談会の実施状況と、参加者アンケートに記載された保護者からの声をまとめ、報告する。

I. 千鳥会総会終了後の保護者懇談会

1. 学部別参加保護者数の状況

千鳥会総会は、平成25年6月1日（土）に千代田キャンパスで行われた。人間関係学部の保護者の参加者数は以下の通りである。

	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	短期大学部
総会	119	84	62	54	30	75
演奏会	137	95	71	64	35	74
懇談会	126	92	70	63	32	63

2. 参加者アンケートから

総会、演奏会、懇談会参加された保護者に対してアンケートを行った。ここでは本学部の保護者懇談会に関する回答結果を報告する。

(1) 懇談会の時間、内容について

時間	適当	長い	短い	その他	未記入	合計
人間関係学部	38	0	0	0	1	39

時間について「適当」「長い」「短い」「その他」の4段階で問うたところ、38名（97.4%）の保護者が「適当」と回答している。各学科・専攻ともに1時間～1時間半で行われており、教員からの説明のほか保護者からの質問にもほぼ適切に対応できる時間だったことが評価されたと解釈し、今後の参考としたい。

内容	適当	不適当	未記入	合計
人間関係学部	32	0	7	39

内容については32名（82.1%）が「適当」と回答した。未記入が7名（17.9%）いた。各学科・専攻とも、教育活動や委員からの報告や学年ごとの状況などについて、なるべく詳細に情報提供し、保護者からの声に耳を傾けるよう工夫しているが、先の「時間」について未記入

者が1名、本項目では7名いたことから、おおむね時間や内容に満足が得られたものの、何らかの形で発言や質問がしにくかったり消化不良な点があったと考えることができる。未記入者への対応は難しいが、このことも念頭に置きつつ、今後一層の改善に努めたい。

(2) 懇親会に関する意見（自由記述。人間関係学部保護者より寄せられた主なご意見）

1) 全体について

- ・大妻に入ることが出来、たくさんの人と出会い学ぶことが出来ていることに感謝しております。
- ・年1回ですが、千代田キャンパスで行われる会を楽しみにしております。演奏会もあり、何より先生方のお話を伺うことができるので安心です。
- ・千代田は多摩に行く身には近くて便利で参加しやすいです。
- ・子供は学校の様子をあまり話してくれないので、懇談会を開催していただけて助かります。
- ・いろいろ教えてくださりありがとうございました。
- ・先生方とじっくりお話ができ、充実した時間でした。
- ・来年も参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・親しみがあがり、個人個人に目配りがある雰囲気がいい感じでした。
- ・昨年の疑問点に対して詳しい資料もあり理解できました。よろしく願いいたします。
- ・ゼミの先生とお話が出来、娘の様子や今後の方向性等を聞け、有難く思っております。
- ・参加者が少なかったのが残念ですが、学年をこえての保護者の方のお話が聞くことができ良かったです。
- ・担任の先生とお話が出来、心配事などを聞けました。他の同学年の方と前回は話せましたが、今回はいらっしゃらず残念です。

2) 今後の懇談会への要望

- ・終了時間が遅い。スタート時間をもう少し早くして終了時間を早くして欲しい。せめて3時か4時まで。
- ・父母の自己紹介は不要だと思います。何かテーマを決めて双方向からのディスカッションなどができる場であれば良いと思います。
- ・他にも講演会、シンポジウム等あればありがたいです。

II. 多摩キャンパスでの保護者懇談会

1. プログラム

今年度の人間関係学部保護者懇談会は、当初平成 25 年 10 月 26 日（土）に、大妻多摩祭に合わせて多摩キャンパス人間関係学部棟にて行う予定だったが、台風接近により延期となった。同年 11 月 16 日（土）に日を改め、懇談会を実施した。プログラムは以下のとおりである。

13：30～	全体懇談会	1階	7127 教室
	人間関係学部長挨拶	町田 章一	
	人間関係学科長挨拶	西河 正行	
	人間福祉学科長挨拶	小川 浩	
14：00～	模擬授業		
人間関係学科	2階	7214 教室	
人間福祉学科	1階	7114 教室	
15：00～	専攻別懇談会		
社会学	-----	2階	7247 教室
社会・臨床心理学	-----	2階	7214 教室
人間福祉学 1年	-----	3階	7338 教室
人間福祉学 2、3、4年	-----	3階	7318 教室
介護福祉学	-----	3階	7315 教室

2. 専攻別参加保護者数とその推移

今年度及び過去 5 年間の保護者懇談会参加者数の推移は以下のとおりである。

	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
社会学専攻	35	29	20	42	42
社会・臨床心理学専攻	43	41	50	42	32
人間福祉学専攻	48	47	38	45	51
介護福祉学専攻	12	17	16	17	15
人間関係学部計	138	134	124	146	142

専攻により差はあるが、一時期減少した学部全体の懇談会参加者数が、昨年度より増加に転じている。参加者数が減少した昨年度の報告では、学生が主体的に企画・参加する多摩祭と同時開催していることのメリットを生かし切れていないことが一因と考えられる。従来の懇談会の案内だけでなく、多摩祭と連動した企画としてより一層の広報に努めていく必要があると思われる。

3. 参加者アンケートから

(1) 全体懇親会について

「子どもの置かれている現状がわかりました」

「説明がわかりやすく、良い機会でした」

「今の学生に見られる問題点と、それに対する大学側の取り組みがわかって良かった」

「各先生の教育に対する取り組み、大学の教育に対する姿勢がよく分かりました。映像等を使ってお話しいただくと良いと思うものもありました」

「初めての参加でしたが、大学の姿勢と先生方のお考えを、落ち着いた雰囲気の中で拝聴させていただき、娘が日々の学生生活を見守られながら送らせてもらっていると感ずることができました」

「学生の中でも大学生活に対する一生懸命度が上位～下位まで差があるとわかりました。わが子ががんばっていましたが、どの程度の位置かはわかりませんが…」

「各大学が定員割れの時代を迎え、教育の内容等、品質改善に取り組み、さらなる女子大学の発展に取り組んでいる様子がかがえた」

「大妻が、卒業生が気軽に来校できる学校であるということで、娘の一生の宝物になる学校であるということが実感でき、ありがたいと思いました」

「あらためて、大妻コタカ先生の言葉、教育方針が理解できました」

「伝統ある大妻女子大学が、子どもたちが年をとっても“ああ大妻ね”と皆が知っている大学として存続することを願っています」

わずか 30 分の全体会であるが、学部長、各学科長より大学が置かれている現状や学生生活の概要についての説明があることが保護者の安心感につながっているようである。高校までと違い大学は専門分野を中心とした教育を行っている上に、学生が自己のサイクルで送る場であり、保護者には大学の実像が見えにくいようである。少子化に伴う大学全入化、基礎学力の低下や学生のニーズの多様化などを背景に、大学が抱える問題に注目が集まる昨今、わが子を通して大学がそれらをどのように把握し、どのように対応しようとしているのかという点に保護者の関心が集まるのは当然である。このような会を形式的なものに済ませず、保護者のニーズに的確に答えられる積極的な情報発信を今後も継続していく必要がある。

(2) 模擬授業について

模擬授業は、学科別に以下のテーマで実施された。

人間関係学科

【社会学専攻】

久保田 滋「都市と音楽—社会学的アプローチ」

【社会・臨床心理学専攻】

八城 薫「キャリア教育を考える—キャリア心理学セミナー開講に向けて—」

人間福祉学科

【人間福祉学専攻】

藏野 ともみ「『見えていること』と『見えない事実』～精神障害の特性と生活のしづらさ～」

【介護福祉学専攻】

佐藤 富士子「あなたは認知症をどのようにとらえていますか」

1) 人間関係学科

「社会学というのは色々な切り口がある学問だなあと思いました」

「各テーマについて深く掘り下げられた内容でわかりやすかったと思います」

「普段何気なく聞いたりしていることが、学問として考えるといろいろな方向に利用できたり、成果として出てくるのだと感じました」

「保護者の年齢層に合わせた授業を開催していただき、ありがとうございました。興味深く、楽しい授業でした。作り込まれた資料に感心しました」

「学生に戻ったような気持ちで受講することができました。何につけても教養とは大切なものだとしみじみ感じました。そこからキャリア形成にもつながるのが理想だと思いました。」

「このような授業を親も今後機会があれば受講して、娘と共有したいなと思いました」

「わかりやすかった。パワーポイントでいったん聞いている側に考えさせてから話をしていて、子どもが大学で学び、身につけていることが具体的にわかりました」

2) 人間福祉学科

「家族や友人に精神障害があったり、病気を抱えた老人であったりするので、少しでも理解の入り口に立てたかと思う」

「子どもと学校でどんなことを勉強しているかを話す機会があまりないので、とても良い機会になりました。将来のためにどんな資格を取るか、これから話していこうと思います」

「私自身にとってとても身近な話題だったので、身になるものでした」

「とてもわかりやすく、学生たちと考えながらの授業と言う者がうらやましくなりました。また、私自身も学生時代を思い出し、久しぶりの授業と言う者を受けることができ、うれしかったです」

「今社会にある問題で、娘も授業で真剣に向き合っているのだなということがよく分かり、大変勉強になりました。内容的にはかなり深く難しいお話も含まれ、勉強内容の深さがわかりました」

模擬授業もおおむね好評だったようである。アンケートに記載された内容は、わが子が受けている実際の授業を体験できたことによる安心感と、保護者自身が身近な問題として学ぶことができたという2つの傾向に分かれた。

大学は専門領域に特化した教育を行っているため、「社会」「心理」「福祉」「介護」というテーマに関して漠然とした知識や情報があっても、実際にどのような授業が行われているのか、実際に通っていない保護者にはイメージしづらい。近い将来の就職に不安を持ち、保護者としてわが子に助言したくても「大学で何を学んできたか」という側面を理解できていないと難しいかもしれない。その点でも、保護者自身が本学部の教員から模擬授業を受けることで実際の内容を少しでもイメージしやすくなっているようである。

本学部の教育内容は、社会で暮らす誰にとっても身近で欠かせないテーマばかりである。一見「当たり前」に見えることも、掘り下げると複雑で深刻な問題をはらんでいることも多い。人間関係学の面白みはこの「身近さ」と「深さ」であるといえる。その点で、この模擬授業から保護者自身も何かしらの実感をつかみ、この学問の面白みに気付いてもらえれば、わが子を本学で学ばせることへの満足感の向上につながるだけでなく、保護者自身の今後の生活にも役立つと思われる。

(3) 参加した専攻別懇談会に関する意見・感想

1) 社会学専攻

「就職活動の話が中心で、いろいろと話が聞けました」

「就職関係のことなど、いろいろおうかがいできて良かったです」

「先生方との身近な話し合いが、実に参考になりました」

「他の親御さんのお話も聞いて安心いたしました」

「具体的な話を聞くことができました。ありがとうございました」

「忌憚のない意見交換ができました」

「毎年参加させていただいていますが、今年で最後になりました。大学が身近に感じられる良い機会なので、今後も続けていってほしいと思います」

2) 社会・臨床心理学専攻

「大学は、直接先生にお会いしてお話ができる機会はほとんどないので、今回参加して良かったです」

「少人数でいろいろと説明を聞いて良かったです」

「普段の疑問点などが理解できました」

「参加される方が少ないので、いろいろ聞いて良かったです」

3) 人間福祉学専攻 2・3・4年

「ゼミの先生とお話しして、子どもの様子が聞いて良かったです」

「学年別でのお話、担任の先生とお話ができ、本当に良かったです。大学で担任の先生とお話できるのはありがたいです」

「実習や就職活動についてよくわかりました」

「よく理解できました。資格取得、就職へのご指導ありがとうございます」

「福祉学科の就活に関しては、内定率が良いようなので安心しております」

4) 人間福祉学専攻 1年

「今後の日程等がわかり、大変参考になった」

「気になっていたことを直接おうかがいして、安心しました」

「国家試験対策、就職状況について、大まかにわかりました」

5) 介護福祉学専攻

「短かった」

「情報共有できました」

「席が隣りになった方とお話ししたり、同じような娘の問題点で笑い、ストレス(?)も減少というか、楽しい時間を過ごせました」

「時間がなく、十分にお話を聞くことができなかつた。保護者懇談会の時間が最も重要な機会だと思うので、次回は全体の時間配分をご配慮いただけるとありがたいです」

保護者懇談会は、日頃あまり接点のない教員から直接説明を受けたり、意見交換をしたりすることのできる年2回の貴重な場である。参加された保護者からは、この点に関する満足や好感の意見がもっとも多く書かれている。ただし春・秋ともに時間は1時間～1時間半であり、この時間設定を適切と思う保護者がいる一方で、短いと感じる保護者もいる。今後の反応もみながら適宜調整していく必要がある。

参加する保護者数は例年 130～150 名程度で推移しており、特に昨年度からは再び増加に転じているが、在籍している学生数に比べるとほんの 1 割程度であり、決して多いとは言えない。科目履修方法や成績評価、ゼミや卒業論文作成の手続き、就職活動など、大学ごとのシステムや社会情勢に対する対応を気に掛ける保護者も多いと思われ、今後はもっと参加者数を増やす方策を考えても良いかもしれない。ただし、「参加される方が少ないので、いろいろ聞いて良かったです」という意見もある通り、参加者が多ければその分だけ、内容や進行方法をよりきめ細やかにしなければならなくなるという点も肝に銘じておかなければならない。

(4) その他ご意見、ご感想など

「樺並木の紅葉の美しさが印象的でした。全ての行事の中で、教職員の方々がきめ細やかな対応を下さり、良かったです」

「移動が多くて疲れました。電車を降りてから階段が多くて、運動不足なのできつかったです」

「毎年 2 回、春・秋とこのように先生方と直接お話しをさせていただく機会を設定していただき、ありがたく存じます。今後ともこのような場の継続的な設定をお願いします」

「今年が 4 年生、最後の出席です。毎年考えて模擬授業などが受けられ、子どもの視線なども知れて良かったです。4 年間でアクション+シンキング+チームワークが本当に身につき、成長が感じられました。ありがとうございました。この学部で勉強して、自分も理解して他人も理解でき、今後の生活に役立つ考え方となりました」

「のんびりした娘ですので、家庭でもよく話したいと思いますが、学校でもどうぞ気になりましたら、ご意見・ご指導お願いいたします。今日はありがとうございました」

Ⅲ. 総評

年に 2 回の保護者懇談会は、わが子を本学に通わせる保護者にとって、大学の生の姿を見られる貴重な機会である。特に、よほど問題がない限り教員と保護者が直接かつ密に連絡を取り合うことも少ないため、教員側としても、限られた時間の中で学部・学科・専攻の状況や今後の方向性、そして大学からみた学生の状況を漏れなく伝えたいと考えている。より内容の濃い懇談会にするためには、理想論や良い点、綺麗事だけでなく、改善の必要な点、教員側の反省点、学生が抱える問題なども開示し、保護者とともに知恵を出し合う場としていく必要がある。

大学という場所は、義務教育や高校の教育と違って標準化されたカリキュラムはなく、学生が自己の判断において時間割を作成し、毎日の生活を管理していくため、保護者はわが子の状況を把握しづらい面がある。その反面、大学生活を終えると一人の社会人として責任ある行動が求められるわけであり、その点では「これまで受けてきた教育の総仕上げ」という重要な時期でもある。つまり、学生自身が自らの生活や人生を自らの責任において切り開いていけるかどうかは、この大学生活のあり方にかかっているとも言えるのである。

そのため、教員は過保護になり過ぎない範囲で学生と程よい距離を保ちながら、学生の自己責任による行動を見守り、適宜助言をしている。大学教育においては、先述の専門分野に関する教授と並んでこの点は特に重要である。また大学の在り方、社会に求められる大学の役割などはその時々社会情勢によって刻々と変化しているため、この点でも保護者は本学、本学部の置かれた状況や教育活動の実際を把握しづらいのだと思われる。そのためにも教員側からの

きめ細やかな情報発信は重要であり、今後もより内容と進行方法を吟味して、さらに内容の濃い懇談会となるべく検討を重ねていく必要がある。

以上のことから、FD 活動にとって保護者への積極的な情報発信、あるいは問題提起による有機的な連携、建設的な意見交換などは今後ますます重要となると考えられる。私たちは専門知識や技術を伝える学術上の教育者として、またもう一方で学生の社会人としての自立を支援する人生の先輩である教育者として個々の学生とかかわり、その経過や成果あるいは課題などを、学生自身、学部組織や大学組織にフィードバックし、同時にこの懇談会のような機会を活用して保護者にもフィードバックしていくよう、努めていかなければならない。

V オフィスアワー

オフィスアワーは、本学部の FD 活動の一環として、平成 16 年度より全専任教員が行っている。学生が研究室を訪問しやすいよう、新年度のガイダンス時期にオフィスアワーの実施を周知し、更に個々の研究室にオフィスアワーの時間帯を明示するなどの工夫を行っている。平成 25 年度は、以下の実施要綱に基づいて実施した。

表 1 平成 25 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がよりよいキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対象者	本学の学生個人またはグループとする（学部・学科・専攻は問わない）。
担当者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く。）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限から 5 時限、土曜日の 1 時限から 2 時限のうち、原則として 1 コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は、事前予約により相談できる。
相談場所	原則として、各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員は、オフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行い、特別な事がない限り、他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年、講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配布及び、学部掲示板（1 階）や各共同研究室掲示板（4 階）に掲示する。 ③学部ホームページに実施要綱とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配布）を提出する。

1. オフィスアワーの結果

1) 上野優子

通年金曜日の 2 時限目としたが、特にその時間に集中することはありませんでしたが、体育館棟に在室する時間が長く、他学部の学生やクラブ活動の学生からも相談や要望は多くありました。

2) 大出春江

水曜日の昼休みの時間帯は会議で不在になることが多かったため、実際に学生が訪問してきたのは少なかった。金曜日の昼休みはクラス指導主任をしていた関係で 1 年生の訪問が多かった。1 年生の必修科目を担当しているときに、オフィスアワーの意義と活用については説明をし、学生の中に浸透しているという印象をもつが、利用する学生の偏りはある。次年度は昼休

みではない時間帯に設定することを考えている。

3) 小川 浩

水曜日 2 限に設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。簡単な要件であればその場で対応しているが、一定の時間を要する相談等は、その場でアポを取る必要性を教え、別に時間を約束して対応するようにしている。今後も、オフィスアワーに限定することなく、そのように対応していくつもりである。

4) 川延宗之

学生はオフィスアワーに関係なく、どんどん研究室に来てしまう。オフィスアワーの本来の意味からすれば、オフィスアワー以外に研究室を尋ねる場合は、予約をしてから来なさいということになるのだが、現実的に来る学生を断るのは、来る学生が切羽詰まってきているので難しい。また、こちらもオフィスアワーの指定時間に会議などがぶつかり、必ずしも研究室にいない場合もあるので、一概に彼らを責めることもできない。しかし、いずれにせよ、社会人のマナーとして訪問時の事前予約等の習慣をつけさせる必要はあるだろう。また、オフィスアワーとぶつかる時間帯の会議については、開催時間の再検討が必要であろう。

5) 金 美辰

オフィスアワーの時間だけではなく、学生がいつでも研究室を訪問し、相談しやすいように工夫しました。オフィスアワーの時間に相談内容を聞き、面談の時間を新たに設けて、学生が落ち着いてゆっくり相談できるようにしました。

6) 藏野ともみ

今年度は、他学科、他学部からのオフィスアワー利用者はいなかったが、学科内の日頃の関わりの少ない学生が「オフィスアワーですよね」というアプローチで訪ねてくれることが多かった。時期的には、国家試験受験に迷っている夏から秋にかけての時期や、卒業論文作成にあたって、ゼミではないが大局的に話しがしてみたいということで後期開始後が多かった。また、心身の健康面での相談では、話しを聴いた後、保護者に相談することや学生相談センター・保健センターに行くことを促すことも複数回あった。いずれもオフィスアワーの時間に限定せず話しをさせて頂くことになったが、教員としては日頃関わりが少ないと思っている学生については、きっかけをオフィスアワーに持って貰えたことはお互いにすんなりと話しができる状況だったと考える。

7) 小谷 敏

月曜日の 4 限に設置しておりましたが、後期の卒論指導以外訪れた学生はいませんでした。

8) 佐々木宰

オフィスアワーの時間は在室するようにしているが、設定した時間が多くの学生の必修科目の時間と重なっていて、別時間に訪室した学生から「活用したくてもできない」と指摘された。もともと他時間でも訪室した学生には随時対応しているので、オフィスアワーであるかどうか

にかかわらずこまめに対応していきたい。クラスやゼミ、学科、専攻に関係なく、さまざまなきっかけ、さまざまな内容で訪室する学生が例年になく多かった。他学科の学生が就職先に介護施設を希望しているという相談を受けたこともあったが、所属先のクラス指導主任やゼミ担当教員との連携が必要な場面もあった。個別対応だけでなく、教員間の連携も重視しながら各学生への対応をしていきたい。

9) 佐藤富士子

オフィスアワーで学生が問題や相談に来るのは、介護実習や福祉実習等、実習に関連することが多い。実習中に職員から受けた言葉で自信を失ったり、褒められたことで自信を持ったり等様々であるが、実習における巡回教員の役割が重要であることを感じる。

10) 嶋貫真人

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。

11) 田中 優

オフィスアワーを利用して来る学生のほとんどが、授業の内容に対する質問であった。質問できる時間があることは、学生にとって安心材料なのかもしれない。

12) 丹野真紀子

金曜日 2 限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。簡単な要件であればその場で対応している。中には、時間を要する学生もあり、オフィスアワーとは別の時間に個別対応をしている。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

13) 西河正行

毎年、数人の来室がある。担任に学生生活のことを相談にくることもあり、数は少なくても貴重な機会を提供していると思う。また、学園祭時のクラブからの案内や質問紙配布の依頼など、個人的な相談でない場合も多い。

14) 福島哲夫

1, 2 年生の来訪はほとんどなかったが、3, 4 年生は数名が数回来訪した。主に進路の相談や勉学に関する相談、資料探しなどであった。

15) 古田雅明

学部ゼミ生と大学院生の利用が大半を占めた。利用者数も昨年度とほぼ同様であった。相談の内容は、進路や学業、卒論に関することがメインであった。また担任している3年Aクラスの学生やゼミ選びを考えている2年生の利用も多かった。2限と3限に授業を担当している火曜日の昼休みに設定したためか、授業の流れで相談に来る学生が多かった。気軽に来室しやすい雰囲気を作れたようである。その他には教務委員だったためか、履修相談も多かった。以上の状況から、オフィスアワーを学生が有効に活用していると考えています。

16) 干川剛史

平成 25 年度は、オフィスアワーを火曜・木曜日の昼休みに設定しているが、それ以外の曜日時間帯に学生が訪ねて来ても、随時対応していた。また、次年度以降も、そのようにするつもりである。

17) 堀 洋元

今年度も昨年度と同様に木曜日昼休みに実施した。訪問内容は、レポート作成に関する質問や欠席回の配布資料の受け取り、卒論に関する質問、クラス学生からの進路に関する報告であった。担当科目の受講学生や専攻の学生の多くが利用しやすい時間帯に設定した。また、全学共通科目では、ほぼ毎回オフィスアワーについて告知を行い周知させた結果、一定の利用効果が得られたと感じている。

18) 町田章一

毎年、月曜日の 1 時限に設定しているが、学生が来たことは一度も無い。しかし、学部の教員のオフィスアワーが程良く分散していて、いつでも、教員の誰かが相談を受けることができる態勢を整えて置く必要があると思うので今年もそうするつもりである。勿論、オフィスアワー以外の時間に学生が予約なしで研究室に来たとしても、時間が許せばいつでも対応している。

19) 壬生尚美

面談を希望する学生はオフィスアワーに限らず、必要な時は空き時間を学生指導に当てている。

20) 向井敦子

オフィスアワーでは、クラス指導の仕事と学生指導が中心でした。他ゼミの卒論指導などもこの時間に行いました。オフィスアワーを知らないで来る学生もいますので、さらなる周知徹底が必要かと思います。

2. 今後に向けて

オフィスアワーがどのように活用されているかは、教員によって大きく異なっている。訪問する学生がいなかったという意見、オフィスアワーが有効に活用されているという意見、オフィスアワーに限らず学生の相談は多いとする意見など、現状は様々である。オフィスアワーの狙いは、学生生活全体について学生が教員に気軽に相談できる機会を設けることにあるが、オフィスアワーでさえも敷居が高く、自ら相談に来られない学生が増えている。また、オフィスアワーを頻繁に利用している学生の中には、メンタルな問題や学業上の困難を抱える者も増えてきており、オフィスアワーでの対応だけでは問題解決が難しいことが多い。クラス担任、ゼミ担当教員、学生相談室、健康管理室など、学生の相談を受け止める複数のアンテナとそれらの関係者の連携がますます重要になってきている。

VI 平成25年度クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、いわゆる“クラス担任”が「学習」「学生生活」全般にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は、全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。

実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。また、昨今の学生は非常に繊細で傷つきやすく、友人関係を作ることの困難を抱える学生も少なからず見受けられる。本稿は各教員から寄せられたアンケート結果を元に作成されているが、アンケートには教員から見た現代学生の様子がにじみ出ている。その意味でも、本制度の担う現代的な意義は大きい。

なお、各教員はそれぞれ特色あるクラス指導を行っており、学生指導の質を担保するために、相互に研修する機会を設けている。一つは、FD活動の一環として行われる研修会であり、今一つは、本報告書である。本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web上で教員同士が即時に閲覧できるようにメール配信されている。

以下、平成25年度クラス指導について、「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成25年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻

- *4年生ということもあり、GPAの低い学生への対応以外は、仕事はありませんでした
- *聴覚障害の学生をはじめ受け入れたことで、クラス指導上、配慮した点は、入学時のオリエンテーション期間中と前期の1年生必修科目の講義の際である。入学動機に関するヒアリングをインフォーマルに実施した際にもクラスの何人かの学生が快く引き受けてくれ、全体としては協力的なクラスだという印象をもつ。大きな問題もなく経過した1年である。
- *GPAが1.5未満のクラスの学生については、学期初めに成績表を返す際に、履修指導を行っている。それ以外は、学生が忌引き届や住所変更届などの各種書類を持ってきた際に、署名捺印することが、今年度の学生指導の主な内容であった。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- *今年度は、出席不足の学生や単位不足の学生指導が中心でした。また、住所変更や学生個人の諸届けに関する業務が行われました。
- *研究室への来訪はほとんどが住所変更等のためだったが、1件、他の教員の授業の進行に関する複数の学生からの相談があり、現実的に対応した。
- *4年生ということもあり、クラス指導と言っても、住所変更などの事務的な対応がほとんどであった。1,2名の学生については、履修指導、生活面での相談に乗ったが、メールでのやり取りを何度も繰り返し、相談時間の直前にキャンセルされることもあり、なかなか難しい

と感じた。

- *4年生でゼミに所属していることもあり、接する機会が少なかったが、推薦書の作成や諸提出書類の承認を依頼された際に、近況や卒論の進捗状況について話を聞いたり、必要があれば助言を行った。
- *今年は心理的な問題で出席に困難をきたす学生がおり、話を聞いて励ましつつ方向性を一緒に考えた。
- *オフィスアワー以外にも、3年Aクラスの学生から依頼があれば、大学院進学や就職の方向性、あるいは卒論の進め方などの進路学業関係の相談を行った。その他にも必要に応じて、学生の心理的なサポートのために複数回お会いしたり、保護者の方と連絡を取るなど、昨年同様の対応を複数名に対して行った。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *4年生のクラス指導主任です。国家試験の受験学年ですので、かなり神経を使っている学生もいました。とにかく国家試験に全力投球で取り組むように申しましたが、このような励ましは難しいと感じました。就職活動に伴い、結果を報告するなど指導致しました。
- *1年生の担任となった今年度は、まず前期5月から6月末にかけて各学生と個別面接を行った。内容は高校までのこと、大学の授業の受け方、交友関係、未成年者にはサークルやバイトでの飲酒や喫煙についての注意喚起等である。また、5月には学科2専攻の担任3人で学年会を開催し、春の遠足として多摩動物公園に行くなどの交流を試みた。クラスに拘らず友達を作ることに、担任に限らず複数の身近な教員がいることを感じて貰うことがねらいである。その他、成績票の配布、模擬試験結果の配布等、各自で研究室を訪ねてきて貰う機会を設けて個別に話しをする等の機会を持つように心がけた。また保護者からの連絡等に対しては、他の1年担任に相談しながら自分の判断だけでなく客観的に対応するように意識した1年間であった。
- *成績配布時に、個別面接を取り入れながら、学生の学習状況のみならず、生活状況等を知る機会を持つようにした。学生が3年生になり、ゼミも始まったこともあり、ゼミの教員と担任とを学生が使い分けているような様子も見られる。就職に関して、ゼミ教員とは違う視点で話を聞きたいと来る学生、また、ゼミ内での人間関係の相談など、クラス担任だからと話に来る学生も多くいた。実習、就職、また、資格取得に関する相談なども多く、じっくり話を聞いた方がいい学生については、個別に時間をとるよう心掛けた。
- *今年度はクラス担任が2年生であったため、来年度のゼミ選択や実習先選びに関する相談が多く寄せられました。
- *3年次になり、就職・進路に関する相談が増えた。特に、一般企業への就職と福祉系への就職で迷っているという相談が多い。メンタル面で学校に来られなくなった学生もおり、メールや電話で本人や家族と連絡を取って関係を維持している。千鳥会からの補助金を活用して大学内でランチパーティーを行い、クラスでの親睦を深めた。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- *気持ちも新たに介護福祉学専攻1年生を担当した。24名の学生は、卒業時に介護福祉士国家試験の受験が必須となっている。さらに社会福祉士課程を併修希望している学生は19人も

いて、今後相当な苦勞が予測される。しかし 4 年間を受験のための期間と考えるのではなく、当たり前に見える介護福祉実践をさまざまな側面から捉え直したり、知識や技術ひとつで多様な工夫ができることなど、現場実践の奥深さに興味を持ってもらい、その延長線上に国家試験があると考えたい。そのためには個々の授業はもちろん、各科目で学んだことの「意味づけ」が重要であると考え。授業での学びや日常生活で感じた何気ないことが、福祉や介護の視点で見るとどのような捉え方ができるよう、クラス指導主任としては個別の対話を通じてフィードバックしたり、学生の視野を広げる手助けをしていきたい。一方、学生のモチベーションや基礎学力には大きな差がある。幸い、学生同士のグループの枠を超えて互いに助け合う雰囲気を作られており、孤立する学生はいないが、指導主任としても今後の個別指導が重要になってくると考えている。

- * ①ガイダンス期間以外に、クラス全体で 2 回のそれぞれ 1 時間ほど 2 回の指導を行った。②クラスの有志と食事会を持った③食事会に先立って、クラス役員との懇談会を行った。④クラスメンバー全員との個別面接を 2 回行った。但し、2 回目は対応しない学生が若干名いた。⑤成績の良くない学生の学習指導を、4~5 人についてそれぞれ 3~6 回程度行った。
- * 退学理由はさまざまであるが、その後も人間関係を継続し、退学者を含めたクラス行事を行っている。クラス指導教員の私には声がかからないが、後日、報告が来る。介護学専攻は 30 名という少人数とうことも要因なのか、一人ひとりを大切に作る心が育っているように感じる。
- * 卒業年次のクラス指導主任なので、履修登録や単位に関する指導から、進路や就職に関する面談と支援を行ってきました。また、卒業時共通試験の対策などを行い、卒業に向けての指導を中心に行いました。
- * 2 年生になり、週 2 コマの専門科目に関する授業を担当しているため、クラス全体の雰囲気や、個々の様子など把握できるようになってきた。全体的には明るく真面目で他者思いのクラスである。5 月にはクラス皆でピザパーティーをするなど親睦を深めた。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 4 月から 1 年生の担任になりますので新鮮な気持ちで望めると思います。
- * 「クラス指導の状況」で述べたように、入学時と前期の 1 年次必修科目のなかで、障害をもつ学生が授業を円滑に受けられるよう、障害をもつ学生がいることを紹介し、とくに授業の折に必要な支援を呼びかけ、個別にも声をかけるようにした。その他には学内ではクラスに関係なく、会うと挨拶をしたり声をかけることが基本的なことだと考えている。
 - * 学期初めに成績表がクラス指導主任に配付される際に、クラスの学生一人一人の成績の良否を確認し、GPA が 1.5 未満でなくても、必要があれば、履修指導を行うようにしている。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 学生の要望を最大限尊重し、学習環境を整えるよう努力している。
- * 所属するゼミの教員との方が、相談等しやすい学生もいれば、そうでない学生もいるので、学生の希望を考えながら接するようになっている。
- * 学内で見かけたら挨拶程度でも声をかけるようになっている。

- *オリエンテーションで、社会的スキルを身に付ける機会として、大学（つまり、教員）と関わる仕事をするように勧めている。
- *ゼミの先生との連絡を密にして連携しながら対応するように工夫しています。心理的な課題を抱えていて苦しんでいる学生の場合は、臨床心理学的な視点からの助言も行うようにしていますが、カウンセリング関係にならないように気を付け、適宜学生相談室の利用を学生に勧めています。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *積極的に来室する学生は安心な面もありますが、ほとんど話ができない学生については、ゼミの先生を通じて情報を聞くなど、なるべくこちらからの働きかけをするようにしました。
 - *学科内に同学年の担任が複数いると、クラス毎に関わりが異なることがあり、学生間の不満や不安に繋がることもある。したがって、同学年の担任で情報交換することと、クラス独自の取り組みについてもお互いに参考にすることを心がけている。また、個別の対応が必要な学生や保護者からの連絡等については、担任一人で抱えることがないように同学年だけでなく、学科会議等で報告と相談をするようにしている。
- *不安を抱えた学生に対する対応については、ゼミ教員と連携を取りながら、学生が大学に居場所を見つけられるよう支援している。また、GPAの低い学生や、メンタルに不安を抱える学生、就職等将来に不安を抱える学生など、学生の悩みは個々それぞれなので、学生の個性に合わせた対応を心がけている。
- *込みいった内容の相談事については、次回以降の面談に発展させられるよう、その都度内容のメモをとるようにしました。
- *GPAが低い学生への個別対応、メンタル面で調子を崩している学生への個別対応など、学生の状況に応じた個別対応をできるだけ行うようにしている。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- *この学年から、2か月に1回程度昼休みを活用したホームルームのような時間を設定している。事務連絡のほか学生が気になっているであろう話題を提示して、できるだけ迷いや不安を軽減できるよう努めている。その際、個別指導が必要な学生には声をかけ、授業への臨み方、ノートのとおり方から友人づきあいなど、こまめに話を聞きながら、穏やかな学生生活を送れるように個別サポートにも力を入れている。
- *①クラスの中での、小グループが出来ているので、その関係を調整すること。②クラス内の人間関係で、不登校現象を起こしかけている学生をサポートすること。
- *3年生になると学生自ら行なう姿勢が育ち、さらにゼミ単位での行動も増えてくるため、クラス運営に工夫をしているものは特に無い。
- *履修指導や大学生活に指導が必要な学生に関しては、学生とこまめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも大学生活が充実できるように工夫しました。
- *クラスの学生については、廊下などですれ違う時に声を掛けたり、授業終了時に少し話をするなど常に気にしながら接している。気になる学生に関しては、個別で面談している。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻

- *今年 1 年を振り返って、特にとりあげるような問題はなかった。ただ、学生-教員との関係ということで一般化していえば、学生間関係で問題が生じた場合、ラインなど情報メディアの影響により、関係の変化のスピードにクラス指導主任が追いつけず、適宜に介入することが難しくなっているのかもしれないという印象をもつ。
- *現時点では、深刻な問題を抱えたクラスの学生がいないように見えるが、問題が発生すれば、社会学専攻の教員の協力を得て、的確に対応したい。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- *本年度は 3 年生担任だったので、ほとんどのことはゼミの先生が指導なさいましたため、クラス指導主任としては、たいした問題はありませんでした。
- *2 月のハラスメント研修会では、「自分で考えなさい」という発言はハラスメントに相当するとのことだったが、文脈や雰囲気をも十分考慮したうえで「ここから先は自分で考えなさい」という主体性を尊重する指導は、時に必要であると考えている。
それをいかに、ハラスメントとならないように適正な指導とするかは、もちろん工夫と配慮が必要だと考えている。
- *最終学年の 4 年生であったので、ほとんど履修については指導することはなく、少数の卒業が危ない学生に対する指導であった。学生自身も、履修について計画的に考えていることもあり、特に問題はなかった。
- *4 年次ではゼミ内での交流が中心ではあるが、クラスというゼミとは異なる所属で学生同士が交流する機会があってもよいと感じた。
- *ゼミとクラス指導と複数の教員が学生に関与することがとても重要なのだと思います。これまで 3, 4 年生の担任の必要性がよく分かりませんでした。自分が 3 年生を担当するようになって、複数指導の意義を実感しました。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *50 名ほどの学生をクラス単位で指導することは、非常に難しく思います。しかし、今現在おかれている自分のやるべき内容や、他人と共通認識を周知することは、「自分だけじゃないんだ」というように感じてくれた学生もいましたので、クラスに所属しているという連帯感のようなものを感じてもらいたいと思いました。
- *少人数制を謳っていることから保護者の中には高校までのような関わりを期待される方もおられ、一方、その学生ほど放任を求めているというずれの違いに、両者との距離の持ち方に戸惑うことも多い。教員自身も一人で抱えることがないようにしなければならないと考える。
- *学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。また聞くと、学生相談室も使っている学生も多く、学生相談室との連携も今後より重要になるのではないかと考える。
- *クラス担任 2 年目なので、昨年よりは踏み込んだ内容の問題にも応じられたように思います。
- *クラス担任だけでは対応が困難なケースもあり、学生相談室の機能が一層重要になってきているように思う。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- *上記(2)にあるように、クラス内にはいくつかのグループがあるものの、互いに壁を作ることなく、授業中のグループワーク場面などでもこだわりなく共同作業やディスカッションをしているようである。クラス内に率先して交流会を企画するメンバーもいて、どの学生も「居心地が良い」と言っている。クラス指導主任としては、このような自発的な雰囲気を維持できるよう陰からサポートしていきたいと思っている。
- *①4年前、8年前にくらべて、クラス指導や、学習力のない学生の指導に多大な時間を取られるようになってきている。②今後、クラス指導の関しても、TAVなどの導入を考える必要があるだろう。
- *介護福祉学専攻の3年を受け持っている。入学時は32名で始まり、1年次で1名、2年次で1名、3年次で2名の退学者がでた。3年次の退学者の1名は、身体的な病気によるもので、1名は学業に興味を持てなくなったことを理由になっている。しかし、この学生は、親元を離れ寮に入っていたが、親離れができないままに上京し、家に帰りたい気持ちが強くあっても親に理解されず、大学を休みがちになり結果退学となった。学生だけではなく、親を交えた指導が近年増えているように感じる。
- *はじめて持つクラスの為、大学4年間かけてどのように成長していくのかが大変楽しみである。その成長過程でクラス指導担当としてどのように介入していくことが望ましいかを常に考えていきたい。

2. まとめと課題

ここでは、上記の報告を元に概要をまとめ、現在の課題を整理する。

(1) クラス指導の状況

人間関係学科では、GPAの低い学生、出席不足、単位不足の学生の指導などが多く報告され、学年の違いとして高学年では就職推薦書の作成、卒論の進捗状況の相談などが見られた。

人間福祉学科では、国家試験に絡む指導が一つの特徴であった。人間福祉学専攻では学年ごとの違いも見られ、1年ではクラス交流会の企画、2年ではゼミ選択、実習先選びなどの指導、3年次では就職・進路相談など、4年次は国家試験指導であった。他に成績配布時の個別指導に工夫が見られた。介護福祉学専攻では、学生数が30名と少ないこともあり、教員がクラス交流を促進する働き掛けをする一方で、学生同士の助け合いも見られた。また、学生のモチベーションや基礎学力に差があり、成績の振るわない学生に対する指導も行われている。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

人間関係学科では、成績に関わる指導、日常的な関わりを通しての指導、オリエンテーションでの働きかけなどの工夫が報告された。

人間福祉学科については、人間福祉学専攻では、話ができない学生や不安を抱えた学生、メンタル面で不調な学生への対応、学科として学生を抱える工夫などが報告された。介護福祉学専攻では、ホームルームの開催、学生の人間関係の調整などに工夫が見られた。

(3) クラス指導に関する意見・感想

人間関係学科では、学生間のトラブルにおけるラインなどの情報メディアの進展の影響をコ

ントロールしにくいこと、アカデミックハラスメントにならないよう学生の主体性を尊重する指導などが報告され、学生間、教員学生間の人間関係に目が向けられていた。

人間福祉学科では、人間福祉学専攻は、50名ほどのクラスに連帯感を醸成すること、メンタル面で問題を抱えた学生に対する学生相談室の役割の重要性、指導に関する保護者と学生本人の期待のズレなどが問題意識として見られた。介護福祉学専攻では、退学者に見られた親と学生の意識のズレ、親を交えた指導の必要性、学習力のない学生などが意見・感想として取り上げられた。

クラス指導における今後の課題として、平成23年度FD報告書では「オフィスアワーの時間だけでなく、定期的にも、不定期的にも時間を費やす必要があること」「時間がどれほどあっても足りないこと」、平成24年度では「クラス担任制からゼミ担任制への移行」「学生支援の各層間の交流・情報交換の強化」「人間関係学部には未だない、あるいは十分整備されていない制度」が指摘された。

平成25年度については、クラス指導に関するアンケート結果から、学科による違いはあるものの、総じて、低学力学生、学生間・教員と学生間・保護者と学生間の人間関係にまつわる問題、メンタル面で問題を持つ学生などが、クラス指導上の課題として浮き彫りになったと考える。

学生指導には、オフィスアワーが一つの窓口として機能しているが、問題の性質によっては、学生相談室との連携、あるいは、学科・専攻が学生を抱えるなどの対策が必要と考えられる。平成24年度で指摘された「学生支援の各層間の交流・情報交換の強化」と同じであろう。また、平成23年度の「定期的にも、不定期的にも時間を費やしている」という報告も同様の傾向を指摘したものと思われる。そこで、将来的には平成24年度で指摘された新たな制度化も本格的に視野に入れて検討する必要があるのかもしれない。

Ⅶ 平成25年度FD研修会報告

平成25年12月6日(金)の教授会終了後、平成24年度人間関係学部FD研修会を実施した。

本学部においても、本学の課題の一つである「主体的な学修」を実現するために、学部及び各教職員がどのような取り組みを行っていくかについて検討する段階に入っている。

大学生活に何らかの援助を必要としている学生は「学業不振」「就職活動の不調」「家庭の経済的困難」に直面している場合が多く、私たちは、学修以前にそういった学生が直面している問題を適切に把握する必要がある。

昨年度は、教職員混合で3つのグループを作り、それぞれ大まかなテーマに分かれて自由討議を行うという新たな形式で実施し、今年度もこれを継続する形式・内容となった。それまでの数年間は、学部共通科目の学科・専攻ごとの教授法、専攻ごとの特色を生かした基礎セミナー(初年次教育、導入教育)の効果的な展開方法の紹介などを行ってきたが、教員の工夫とともに「学生の現状、ニーズを多面的に把握したい」「座談会形式で自由な意見交換をしてみたい」という声が上がって来たことで、立場や視点の違う教職員同士が学生の実像を多面的に理解しあう機会を持つことになった。結果としておおむね好評を得て、次年度以降の継続を希望する声も多かったことを受け、今回は「学生たちの現在2」というテーマで実施した。

1. テーマ 『学生たちの現在2』

2. 趣旨

学生が直面しているさまざまな問題を、職種の壁を超えたさまざまな視点から報告し共有し合うことで、学生の実像を多面的に把握する。

今回は「特別な配慮が必要な学生の現状」「学力格差」「学生のパワー(ポテンシャル)」という3つのテーマを設定し、各教員はもっとも関心のある分科会を自由に選んで参加したが、結果的に学生が抱えるニーズの共通性や、教職員が個々の学生とどう向き合うかという点で、同じような結論に至った。そこで今回は、前回以上に自由に学生の現状について話し合えるよう、特にテーマは定めず、分科会もくじ引き形式でアトラダムに配置する形式で実施した。

また前回に続いて、個々の教員の多様な視点や各教員が抱える課題を共有し、学生のありのままの実態を把握するために、まとめや結論を出すのではなく、「今の」本学部学生の姿を多面的に捉え、主体的な学修を実現するための方法を考える土台を作ることに主眼を置いた。

3. 日時・場所

平成24年12月6日(金) 16:30~18:00

場所：全体会：人間関係学部棟3階 7348教室

分科会人間関係学部棟3階 7384教室(第1分科会)

7385教室(第2分科会)

7386教室(第3分科会)

4. 内容

(1) 全体会

- ・開会の挨拶
- ・趣旨説明

(2) 分科会(座談会)=60分程度

分科会 A 進行：西川 FD 委員、記録：佐々木 FD 委員

分科会 B 進行：小谷 FD 委員、記録：丹野 FD 委員

分科会 C 進行：小川 FD 委員、記録：福島 FD 委員

(3) 全体会=30分程度

- ・各分科会報告
- ・コメント
- ・閉会の挨拶

5. 各分科会の内容

初めの全体会のあと、各教員が希望する分科会会場に参加した。荻上学長と伊藤副学長は分科会 C に同席し、意見交換の様子を見守った。ほか、各分科会に事務職員からの参加もあった。

(1) 分科会 A



1) 学部教員の参加者数内訳

人間関係学科		人間福祉学科		学部 教員計	教員外 職員	合計
社会学専攻	社会・臨床心理学専攻	人間福祉学専攻	介護福祉学専攻			
2	3	2	2	9	2	11

2) おもな内容

学力が極端に低い学生が増えてきている。意欲だけは高いがそれを学習や将来設計につなげていくだけの学力やスキルが低いので、「このままで卒論を書けるのだろうか」「就職できるのだろうか」という心配を抱える学生が多い。特に就職活動の解禁が遅くなり、短期集中型で活動しなければならない状況の中で、いかにして必要な学力やスキルを身につけさせるかという点で心配が多い。日頃のコミュニケーションの中で学生のもつさまざまな背景に気づき、アプローチする必要があるが、教員側にその力を高めていく必要があると考えられる。

ゼミの運営（ゼミ内での学生同士の人間関係、教員と学生との人間関係）に悩みを抱えている教員もいる。ソーシャルスキル、たとえば「おふざけ」をするにも限度が必要だが、どこまでやれば行き過ぎなのかがわからない学生が多い。

ある専攻では、学生の退学が増えている。早い時期に自分の進路の違いに気づいて辞めていく学生はこれまでもいたが、比較的高い学年まで在籍して辞める学生も少しずつ増えている。退学の要因は経済的問題や持病の関係、学内の人間関係などさまざまだが、学生支援グループでは、奨学金を借りるほどではないがかなりギリギリの生活を送っている学生や、学生生活に悩みを持っているがどのように解決すればよいのかわからず相談に来られない学生もいるようで、以前以上に学生へのアプローチの仕方に難しさを感じる。

学生が大学生活を送る上で、学生同士や教職員との関係を作り、必要な情報を得てその時々状況に対応する能力（ソーシャルスキル）が必要である。

表面上は明るく楽しく人間関係を作っているように見えても、裏ではさまざまな悩みを抱えていて、それを誰にも相談できずにいる学生は多い。友人関係も不安定に思え、誰かと一緒にいても孤独を抱えているように見える。必要な手続きや科目の履修で困ったことがあっても、友人に相談できず、時期が過ぎてから事務を訪れる学生も増えている。そのような学生は「どこに相談すればよいかわからなかった」と言っている。また教員以外の参加者から、清掃業者がたまたまトイレの個室で昼食を摂っている学生を見かけたと報告を受けたとの話があった。いわゆる「トイレめし」であるが、一緒に食事をする友達がおらず、かと言って一人で食べているところを見られたくないということから個室で食べているらしい。

このように、表面化していないところで学生のソーシャルスキルの低下と、それに伴うニーズの多様化が進んでいるが、自己の成長や社会生活の自立のために、学生にとって大学がいかにして魅力的な存在であるべきか、そのような動機づけをどう高めるかという点が重要な課題であると考えられる。教員、事務職員、カウンセラーなどさまざまな職種が日頃から情報を共有し、連携する必要性がますます高まっているという点で多くの共感を得た。ソフトとしての連携と、ハードとして連携できるシステムを構築することの両面から検討していく必要があるのではないか。

(2) 分科会B



1) 教職員の参加者数内訳

人間関係学科		人間福祉学科		学部 教員計	教員外 職員	合計
社会学専攻	社会・臨床心理学専攻	人間福祉学専攻	介護福祉学専攻			
2	3	2	2	8	2	11

2) おもな内容

教職員は、学生が授業や学生生活において抱える問題や課題を主体的に解決するためにヒントを提示したり、自ら考えるための促しを行っているが、その問題を前に思考停止し、大人からの指示を待つだけになっている学生が多い。学生相談の場でも、自分の置かれた現状や抱える悩み、その経緯などについて語るができない学生が増えているように思われる。その割りに焦って「答え」を求めるため、その状況を整理することから始めることが多い。教えてあげれば早い、自ら問題解決をするためには、本来自ら考える必要がある。

教員との距離感や友人同士の距離感がとれず、他者のプライベートスペースに無遠慮に踏み込もうとしたり、スタスタと近づいてきて黙って立っていたり、相手の反応を確認しないまま自分の話だけを始めてしまったりすることもあるため、その点を根気よく理解してもらえないように関わることから始めなければならないことが多い。極端な言い方をすれば、社会性の点では非常に幼い。

質問や相談を受けた時、どの教職員もそれを念頭に置いて、自ら考えることから始められるようさまざまな形で間接的に促すのだが、授業に関する質問なら、専任教員が答えを出してくれないとなると、すぐ非常勤の教員に聞きに行ってしまうというような「すぐ答えを欲しがる学生」「我慢ができない学生」が多くなっているようだ。携帯メールやショートメッセージが普及したため、本人は短い言葉で他者とコミュニケーションをとっているつもりだが、実は互いの立場や心情を考慮せず表面的なやり取りをしているだけなのかもしれない。全体的にコミュニケーションスキルが低下しているといえることができる。

学生の価値観の変化に関しては、学業の優先順位も変化してきている。教員側は「学業が一番」と思っているし、昔の学生もそう思っていたはずだが、現在の学生は学業よりも他のことが優先されてしまっているので、そのあたりをFD活動にも反映させて、学生にとって学業の価値観を高めることが課題と言えるのではないかと。

その一つは、自分に自信が持てなくなっている傾向にあるので、学生ががんばっていることを認めるとか、その人ががんばっているところを見つけて伸ばしてあげることも大事なのではないかと。これまでのFD報告や学生の授業アンケート結果にも表れているように、予習・復習のモチベーションが低いので、それを伸ばしていくことなどである。1年生、2年生で工夫したが難しい、しかし大学にとってもっとも専門的でこれまで積み上げてきた学習をもっとも発揮できる3年生の時期が重要なのではないかと意見が出た。

ほか、「学生がやっているLINEに入るか入らないか」という話も興味深かった。積極的に入る先生もいれば、そうでない先生もいる。それぞれの先生の考えや思いを聞くことができた。

「結論を出す」というよりも、普段思っていることを思い切り言い合えた1時間であった。

(3) 分科会C



1) 学部教員の参加者数内訳

人間関係学科		人間福祉学科		学部 教員計	教員外 職員	合計
社会学専攻	社会・臨床心理学専攻	人間福祉学専攻	介護福祉学専攻			
3	2	4	0	9	3	12

荻上学長、伊藤副学長も同席した。

2) 内容

さまざまな点から学生間の格差について話し合った。それは学力の差でもあるし、もっと基本的なリテラシーの差、意欲の差、スキルの差などでもあり、幅広い。スキルの差はたとえば就活における情報収集やエントリーの仕方、面接での対応などの「器用さ」なども含めて考えることができる。上の方の学生と下の方の学生がいるが、上の学生をさらに向上させるシステムはある程度できているので、話題の中心は下の方の学生を底上げし、いかにして伸ばしていくかという点であった。

リテラシーや学力の点で言えば、全学共通科目や学部共通科目のようなものをうまく活用して、たとえば「コンピュータ基礎」に併置されている日本語教育を両方履修できるようにしてはどうかという意見が上がった。ほかには OMA（大妻マネジメントアカデミー）で社会教育的な面、常識的な面をかなり教えているので、我々も OMA の履修をもっと勧めていってはどうかという声も出た。

就活に関しては、他大学も含めて誰もが一部上場企業を目指す傾向にあるが、それだけではなくもっと地道で堅実な経営をしている企業、これから伸びていく福祉施設や団体を勧めていってはどうか、特に求人票が来ている企業、OG がいる企業にこれまで以上に積極的にアプローチし、トライさせると良いのではないだろうか。特に「OG がいるところは大妻生を積極的に採ってくれるところなんだよ」と売り込むことも大事だと考えられる。

また、多くの大妻生、大学生が「舗装された道を歩いていけば良い」と考える風潮がある。学生が自ら目的意識をもって自分の人生を切り開けるような大学生活であるにはどうしたらよいかという意見も出た。たとえば、ゼミや卒論を必修でなく選択制にして「がんばって勉強しないとゼミに入れない、卒論を書けない」という意識、「ゼミで卒論を書かないと就職に有利にならない」というような、学内競争原理を作っていたほうが学生たちのためにならないので

はないか、というような意見も出た。

6. 研修会終了後に行ったアンケートに対する回答の概要

研修会終了後、以下の3項目についてアンケートをとった。今回の研修会への評価はおおむね良好であり、学生が抱える問題、あるいはパワーについてと同時に各教員が自らを振り返り、他教員の視点を取り入れつつ今後の方向性を考えるきっかけになったようだ。今回のテーマを継続あるいはさらに深めたいという意見も多かった。アンケート結果のうち、おもなものを紹介する。

(1) 学部 FD 研修会のテーマ「学生たちは今」について、懇談会での意見交換を踏まえて、ご意見、ご感想や思いをお聞かせ下さい。

①教職員間の立場を超えた意見や情報交換の意義

- ・それぞれの現場での出来事が、先生方・事務の方々のご苦勞とともに、生々しく語られたことで、参加メンバーとともに足並みをそろえてテーマの検討に入ることができたと感じています。
- ・分科会で出席された教職員の方たちの率直な意見が聞けたことと、それに対する学長、副学長、学部長の考えを知ることができ、有意義でした。
- ・教職員との意見交換の場が設けられたことはとてもよかったです。
- ・日頃、他学科の先生とはどうしても目先に差し迫った話題に関する情報交換が多くなりがちですが、たとえ1時間でも自由に意見を出し合うと、普段は一面的にしか見えていない学生の新たな側面が見えてきて、刺激を受けたりリフレッシュしたりすることができます。さらに各先生の学生や教育に対する深い思いが垣間見えるので、普段以上に身近に感じることができ、とても貴重な時間だと思います。
- ・他専攻・他学科の先生方および事務の方の問題意識やとられている方法について知ることができてとても勉強になりました。
- ・去年よりもより深くディスカッションしたり、情報共有ができたと感じます。去年はFD委員として司会に専念しておりましたが、今回は一教員として、日頃悩んでいることなど話して共有していただけたことが良かったです。
- ・専攻、職種を超えて、現代の学生に対して共通の見解（価値観の変化、質の変化、学力の低下、受け身姿勢、対人関係力の低下）があることを認識できました。その上でどのような対策や対応を取っているのかについて、先生方の多様な取り組みや考え方、工夫を話し合うことができ、大変に有意義な時間を過ごしました。
- ・事務や学生相談の視点での学生像に気付かされたり、自分のクラスやゼミの学生と保護者について考える時間を頂きました。顔を合わせてフラットに話せたので、他部署の方々に相談してみようという考えがより身近になったと思います。
- ・分科会の後の全体会では、他の分科会の意見交換の様子がわかり、本学部の直面している学生に関する問題点や課題がよくわかりました。
- ・さまざまな具体例をお聞きする中で、専攻を超えて共通した問題にみな直面していると感じ、先生方がそれぞれに工夫をこらしながら指導を行っている姿を拝見することが私自身の励みになり、また深く勉強させていただきました。貴重な時間をありがとうございました。

- ・この会が教員だけではなく、事務、カウンセラーの方々も交えて行われていることが重要だと、今年も改めて思いました。
- ・参加したグループ A では、ブレインストーミングのような形式で、自己紹介とともに、昨今の学生をめぐる気になっていることを紹介しあうところから、和やかにセッションが始まりました。

②学生の実情と大学生活におけるニーズの多様性

- ・大妻女子大における「学生の多様性」について様々な具体的なお話しをお聞きすることが出来、大変参考になりました。
- ・日頃、学生さんと接する機会が少なく、先生方のご苦勞がよくわかり勉強になりました。大学の全入時代をむかえ「質」の変化については、否定できない状況ではあると思いますが、学生一人一人のパーソナリティを尊重し、個性を伸ばしてあげる先生方の苦勞を感じました。
- ・トイレでご飯を食べているトイレ飯といわれる学生がいたり、中学での（いじめ、引きこもり経験）から通信制の高校へ、大学ではリベンジの気持ちで入学したのに大学に来なくなる学生がいたり、購買部では毎日 30 分うろうろ（決断が付かない）、事務では文書では理解できない学生で、項目毎に順番と箇条書きで手続きを済ませるように工夫している等、他職種との連携の重要性を感じました。
- ・昨今の学生たちは周りへの心配りがある部分において極端に発揮されるせいか、自分から積極的に必要な情報を入手するすべを知らず、孤立化しやすい姿がメンバーの語りの随所に表れていました。また、大人との関係だけでなく、学生同士の間でも適当なコミュニケーションが難しく、その結果、“便所飯”のような現象が見られるといった彼女たちの過酷な日常も紹介されました。
- ・「学生たちは現在」というテーマで先生方と職員でいろいろと意見交換をさせていただき、印象に残ったのは「現在の学生は人との距離感が取れない人が多くなっている」とことと、関連して「コミュニケーション力が低下している」ということでした。コミュニケーション力については学生対応をしている中で感じていることでしたが、距離感については、それほど感じる事がなかったのも、先生方との意見交換の場で知ることができ、どのように対応していけばよいのか、先生方が日頃努力されている事柄を伺うことができ、事務としてもサポートできることを考えていきたいと思いました。
- ・今回の懇談会を通して、大学での専門教育の前に、基礎的な学力・語学(国語)・マナーの向上を第一に考えなければいけないと思った。今までは高校までで教えていた内容や親が教えていた内容を最終学歴である大学でしなければいけない時代であると感じた。しかし、本学の現状として入試の倍率が低く、学生のレベル・意識の差も大きくなっている為、学生の満足度向上の為には、より細分化した指導が授業についても就職指導・その他についても必要になるとも感じた。
- ・パワーレスの学生はもちろん、ポテンシャルの高い学生への指導と支援にもこれまで以上に力を入れたいと思いました。
- ・入学してくる学生たちの「実力」がどの程度なのか、最近どの程度落ち込んでしまっているのかなど、切実な状況を改めて認識することができました。学部・学科・専攻により事情は異なると思いますが、これらの学生に対して、ここでもやはり組織的な対応が必要と強く感

じました。

- ・迷っている学生、パワーレスではないが大学生らしい迷いや悩みを持っている学生の存在に「大学」という場所でどのように彼女たちを捉えていけば良いか、「何をして、何をすべきではないのか」をもう一度考えていきたいと思います。

③教職員間の連携と学生を多面的に支援するシステム構築の必要性

- ・座談会では連携について話題になりました。ソフトとハードという切り口で整理して話していくことになりましたが、今回出された意見はより具体的なものとして学部内だけでなく、大学にも提案できるアイデアがたくさんありました。
- ・私はクラス指導を担当している学生や科目履修している学生に目を向けやすく、全体の傾向が見えないことがあります。今回のように相談担当の職員や事務職員等他職種の職員と話す機会ができたのは、大変有意義なものであった。
- ・私が参加させていただいた A グループでは「連携」がキーワードになりました。教員、事務に限らず様々な立場の人が直接・間接的に学生と関わっており、それを通して得た情報を、どのように共有・連携して学生のより良い大学生活に役立てていくか（ハードとしてのシステム作りと、ソフト面としての各教職員の学生理解や関わり方の両方）が今後の課題だと思います。
- ・日々、たくさんの学生の対応をしていますが、事務職員の立場からみた学生たちの問題点などを教員に伝える機会がほとんど無いので、大変貴重な体験でした。また、教員と事務職員、立場が違っても同じような思いを学生に持っていることを確認できたことがおおきな収穫でした。このような研修会でなくても、教職協働でさらに情報交換や問題解決のために協力できることができるといいと感じました。
- ・有意義なテーマ、内容でした。そのなかで、「トイレめし」が本学部でも見られることは、ショックでした。A グループで討議された「連携」の必要性を感じました。連携は、学生、教職員、ご家族との連携が大切であり、さらには購買部や警備員、清掃スタッフとの連携・情報共有が欠かせないと教えていただきました。トイレめしは清掃スタッフが松本カウンセラーに教えてくれたとのこと。教員が見えない部分を、スタッフが把握していると教えてもらいました。大学が勉学の間であるとともに、生活や成長の間であるならば、さまざまな情報をキャッチしたり、フォローしたりする仕組みが必要になってくると思います。学業に集中できない要因が複数潜在化しているし、対応のヒントがあると思いました。
- ・安心して一人でもくつろげる場所、一人でも気兼ねなくご飯が食べられる場所が学内に終日確保されるといいなと、つくづく思い、物理的な環境を改善することで、彼女たちを取り巻く状況の変化が見込まれる場合もあるのではないかと思われました。
- ・自分が困った時に何処に行けばよいのかの判断ができない学生への支援として、他大学の「特別支援コーディネーター」や「ワンストップサービス」「お姉さま制度」等があることを知りました。学生の質は下がっていることを思うと、当校も何かしらのシステムを考える必要があるのではないかと。
- ・教員としては、教員の目には入らない、決して見えないところを知ることができました。内容的には、金沢工業大学の実践や、東大のワンストップサービスなど、大学として学生対応のシステムを作ることが必要だと思いました。

(2) 今年度の学部 FD 研修会の実施方法(時期・形式等)についてご意見をお聞かせ下さい。

1) 時期

- ・時期については、この時期で良いと思います。
- ・今年度と同様で結構です。
- ・時期的には1年間の振り返りともなり、適切だと思いました。また、くじ引きでのグループ分けはよかったと思います。
- ・時期としては、特に問題はないと思いますが、いずれに先生も多忙を極める時期ですので11月頃の開催のほうが、負担は軽いのかもしいないと思いました。

2) 形式

①同形式の討議の継続

- ・今年度と同じでよいです。
- ・素晴らしい研修会でした。
- ・現在の形でよいのではと思っています。
- ・昨年も同じような研修会を行ったので、今年はさほど戸惑うことなくディスカッションが始まったと思います。
- ・昨年同様に、各専攻がうまくシャッフルされており、普段なかなか聞けない他専攻の話なども聞けたので良かったと思います。
- ・実施方法は定着しているので、このままで良いと思います。
- ・昨年とほぼ同様の時期・形式でしたが、年度末が近づいてきたこの時期は、これまでの活動を振り返りながら語るにはちょうど良いと思います。学生も私たちも年々状況が変化しますので、その年その年を振り返るという意味で、この形式を毎年の定例テーマとしても良いのではないかと思います。
- ・くじ引きで始まる今回の流れは初めからプレイフルで、大変興味深かったです。
- ・アトランダムな振り分けならではのメンバーで構成されたグループでの情報交換は、結果的に大変有意義なものとなりました。また別のテーマで、同じ形式で体験してみたいとおもいます。
- ・約1時間の分科会は、10数名で意見を出し合うのにちょうどいい時間だったと思います。チーム分けのくじ(書類に番号が振ってある)というのがとてもおもしろかったです。機会があれば、使ってみたいと思います。
- ・時期、形式は適当だと思いました。
- ・実施について、今回のような部会で自由に発言する形式は様々な意見が聞けて良いと思いました。
- ・分科会に分かれて少人数での意見交換会は良いと思います。
- ・何より司会の先生も上手にまとめて下さったことが、充実した研修会につながっていると思います。FD委員会および司会をしてくださった先生方に大変感謝申し上げます。

②今後の工夫

- ・学長や副学長は別々のグループに配置されたほうが、よりいろいろな先生方のご意見を伺うことができたのではないかと思います。
- ・毎回の内容を記録として数年分積み上げて、上記のシステム作りの一助、あるいは今後の教育活動に還元できる報告ができれば良いとも思いました。

- ・私の所属したグループでは、テーマが割と絞られたので、その問題をさらに深めるにはどうしたらよいかという思いが残りました。それが上のシステムづくりが必要だという感想になっています。
- ・今回の研修会については、大学 HP 上でも、「学内教職員対象」という形で PR されていました。他学部の教員の方々の参加が実際あったのかは承知していませんが、次年度以降もさらに多くの他学部関係者が参加できる工夫をしていただいて、全学にこの種の FD 活動が広がる駆動力になることを期待しています。
- ・座談会は様々な意見が聞けることと、今年度は特に FD 委員会の積極的な取り組みで、教員だけでなく事務の方や学生相談のカウンセラーの先生にも参加頂けて、よかったです。
- ・参加者としては、学生の身近な存在の助手や実習助教の方々にも問題提起をして頂けると、FD&SD 活動になるのではないかと思います。また、TA や SA の方のご感想を、科目を担当されている先生からお伝え頂けるとまた違う視点で授業展開の見直しもできるのかと思いました。
- ・全体を総括するテーマとしては、この表題で良いと思います。しかし、各グループに分かれて討議する際には、昨年の研修会での議論のように、もう少し具体的なレベルまで掘り下げたテーマを設定した方が話しやすいと思います（たとえば、「アルバイトに熱中するあまり、学業に身が入らない学生の指導について」、「基礎学力の低い学生のレベルアップをどのように図るか」、「友人との関係をうまく結べない学生をどう支援していくか」etc.）。今回のグループ討議では、与えられたテーマが「学生たちは現在」という抽象的・包括的な設定のままであたっために、話し合いの過程で論点が拡散し、結果的に焦点の定まらない散漫な議論のまま終わってしまった印象があります。

（3）今後、学部 FD 研修会で取り上げたいテーマ、今後の学部 FD 活動の課題についてご意見をお聞かせ下さい。

1) 今回のテーマの継続・深化

- ・また、来年度も、引き続いて「学生たちの現在 3」でお願いします。
- ・「主体的な学修」の実現のためにまずは学部の現状把握をというところから始まった 2 年目の座談会だと思います。A チームでは、先生方からアイデアも出ていたと思います。（なんでも相談窓口やお姉様制度等）
- ・大学への提案を学部からする具体的な検討会等もしてみたいです。また、「主体的な学修」を実現するための教育方法やスキル等についても学習する機会を設けて頂けると勉強になります。
- ・現状についての問題意識の共有は、昨年と今年でかなりできたのではないかと考えています。今後は、それに対しどのような対策がありうるのかについて、よりつつこんだ話し合いができればと思います。
- ・学生達の現在から、仕組みづくりにつながればと考えております。
- ・来年は、各班で出たまとめを元に、さらに掘り下げられるようにテーマ別に戻してもよいと思いました。
- ・今回のような研修会は学部全体、大学全体で学生のことを考えていく大切な時間だと感じます。今後も今回同様のスタイルを続けていくのが良いかと思います。

- ・まったく同じテーマで比較文化と社会情報の先生方も交えて実施してみたらどうでしょうか？
- ・学部 FD 研修会としては、上記の通り、今後も今回のような自由討議形式が良いと思います。テーマは自由でも、大まかに設定しても良いと思います。

2) 新たに取り上げたいテーマ

- ・大学 FD 研修会扱いになるかもしれませんが、高校教育の現状と高校生の学習や進路に対する考えの傾向を聞いてみたいと思います。学生募集、あるいは次年度以降の入学生を受け入れる上での参考になるのではないかと思います。昨年、今年と同じテーマで自由討議をして、大小さまざまな問題を抱える学生の生活背景や高校までのサポート体制などに関心を持ったためです。
- ・学生の大学に対するニーズについて
- ・長い文章の読解が苦手な学生、教師の配布する資料に依存し、ノートももたない学生、教師の説明をメモをとれない学生に対する教材を何を使うことが、最も良いのか。ケースバイケースと言われればその通りではあると思いますが、現在の学生に合わせた教材とは何かについて、改めて考えてもよいのかな？
- ・現代の学生にとって“働くこと”とは何か？
- ・学生のリーダーズキャンプでは、「大妻のためにできること」というテーマで討論をして、アイデアを発表します。教員のみなさんが「～のためにできること」たとえば、学生のためにできることなどのテーマでなにかアイデアを出してみて、それを実践し、その結果を学生に発表されるというのはおもしろいと思います。
- ・全般に大妻の学生は、素直で良い学生さんが多いと思います。18歳人口が増加する要因が今後も見込めない以上「質」をいかに向上されていくかを学部的に曳いては全学的に考えていくことが大切であると考えます。

3) 今後の FD 活動に関する意見

- ・ティーチング・アシスタント・ボランティアに関しても、そろそろ FD 委員会で管轄していただけないだろうかと考えています。

7. 研修会を終えて

学部単位で行う研修会の醍醐味は、日ごろ各自の専門領域に特化した教育活動を行う教員同士が、人間関係学という共通基盤に立ち返って見識を深めることができる点にある。大規模で実施する全学 FD 研修会では今後の大学教育全般に求められる方向性を共有できるが、それを具体化するためには、教育上の視点や課題を共有する学部の教員どうしが小規模で集まって理解を深めることのできる学部 FD 研修会との連動が不可欠である。

今年度の学部 FD 研修会では、前回の形式を引き継いだことでリラックスして参加でき、テーマを設定せずにフリートーク形式にしたことで、前回以上にさまざまな面から「学生たちの現在」が浮き彫りになった。3つの分科会に共通しているのは、かねてより言われている学力、学業への動機づけやリテラシーの低下、人間関係の構築、必要な情報の収集やその活用、手続き方法などソーシャルスキルの低下である。教職員はその現状をどのように改善・向上させる

べきかとそれぞれに頭を悩ませているが、短時間ながらゆったりとした雰囲気の中で議論を重ねていくうちに、それぞれの学生の生い立ちや生活背景、学生自身が社会から突き付けられている将来像と、自らが置かれている現状との間にジレンマを抱えてもがいている姿が浮かび上がってきたように思われる。

大学に求められるのは、このようなジレンマを個々の教職員がどのように受け止めて対応していくかという点と、教職員間で情報を共有し有機的に連携しながら対応すること、将来的には連携体制をシステム化していくことではないだろうか。学生自身が自らのニーズに気づけず、直面する問題を解決することができないまま現状をやり過ごす状況を食い止めることが必要である。他大学で行っている「ワンストップサービス」、「メンター制度」などを参考に、学生の現状をより多面的に把握し、学生がいつでも安心して必要な部署や人材からサポートを受けられるシステム作りが今後の大学及び学部、FD活動の課題の一つと言えるだろう。

前回、今回の研修会をあえて「結論を出さない」ことを重視した。それは、結論を急ぐあまり学生の実態を画一的にしか捉えられなくなることを避けるためであり、長期的にはこのことが、個々の学生がもつ多様なニーズに対し、我々が柔軟に対応するためのヒントを蓄積することにもつながると考えたからでもある。しかし2回の実施の中で少しずつ見えてきた学生の現状から、次回以降はそれらを整理し、それらに対応できる具体的なシステムづくりの必要性が見えてきた。アンケートからも、今後もこの形式を継続しつつ個々の教職員の連携を強めていくと同時に、何らかの形でシステム化することの必要性が指摘されていた。

さまざまな点で学生の資質やニーズ、価値観は多様化しつつあり、しかもそれらの間の格差は広がっている。個々の学生への細やかな対応が求められる現在だからこそ、個々の教職員の高い意識に基づく個別対応（ソフト面）の強化と、教職員間の連携と学生のニーズに対応できるシステム構築（ハード面）の両面から検討していくことが今後のFD活動の課題であると言える。

年に一度の学部FD研修会は微力であるが、私達にさまざまな気づきと建設的な方向性の端緒を気づかせてくれるものである。今後も形式、内容ともにさらに充実させていきたい。

VIII 非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を年1回開催し、教育に関する連携強化を図っている。本学部においては、教育懇談会を学部、学科、専攻の3段階で行っている。昨年度に続き、今年度も、学長の教育に対するメッセージをお伝えするとともに、平成24年8月28日に出された、中央教育審議会の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』も踏まえた懇談会となることを意識して実施した。平成25年5月25日13時から、学部全大会、学科・専攻での懇談会を実施し、その後多摩校舎全体での懇談会を行った。

1. 学部全体会

町田学部長から、以下の3点についての話があった。

(1) 中央教育審議会の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』の中から3つの要点に絞り、大妻女子大学での教育方針とのかかわりを説明した。

(2) 大妻女子大学の教育理念として、「主体的な学び」「生涯学び続ける習慣」「関係的自立」に加え、人間関係学部開学当初からの教育理念としての「共生」について説明した。

(3) 授業アンケートへの回答で、非常勤講師からご指摘を受けている内容について、学部の取り組みを説明した。

2. 学科及び各専攻での懇談会

学部全体を踏まえ、各学科・専攻の現状を報告する機会を設け、意見や感想を伺った。また、実際に、同一科目の複数担当者が一堂に会する機会でもあり、科目の打ち合わせの時間を取る等の充実した時間を過ごすことができた。

懇談会での話題は、授業内容に関する事、教室設備に関する事、学生の様子等、多岐に渡った。ここでは、非常勤講師からの主な意見、要望を取り上げる。

(1) 授業内容に関する事

・授業の録音・録画・ネットへの転用等について、大学として制度的に対応しているのか。

⇒ (回答) 大学として特に制度等はない。必要な場合はシラバス等に記載してください。

・就職活動に関連した欠席はどのようにしているのか。

⇒ (回答) JUMP UP に記載されている欠席届を提出させています。

・セミナー形式の授業において、ディスカッションや学生の発言を促す方法はあるか。

⇒ (回答) ディベートを設定したり、学生を指名して答えさせています。

(2) 施設・設備に関する事

・人間関係学部棟3階南側に窓が面している教室において、パワーポイントを使い授業をしている際に、窓から光がさしスクリーンにプロジェクターがうまく映写できないので、暗幕カーテンを設けるなどの対処をしてほしい。

・教室のチョークが固くて薄いので完全してほしい

・人間関係学部棟7318教室の常設PCの起動がとても遅く時間のロスが大きい。せめて持ち込みPCを繋ぐRPGケーブルを置いてほしい。

(3) 成績・評価に関すること

- ・成績評価はどのようにしているのか教えてほしい。

⇒ (回答) 基本的には絶対評価ですが、S が 10%程度、S と A を合わせて 50%以内でお願いします。

(4) その他

- ・授業が各学年対応ではなく、2～4年生の複数年対応になったため、共通の水準で授業を行うのが難しくなった。

- ・授業担当時の学生の印象、学習上の課題、それに対する対応や工夫などについて

①楽しそう、単位が必要という理由で履修している学生が多いようだが、リアクションペーパーの反応がだんだん良くなってきている。受講人数が予想より多かったが、学生は熱心に楽しく受講してくれている。学生のノートテイクは年度始めに「板書しなかったこともノートを取るように」と指導し、数週間でとれるようになってきている。

②リアクションペーパーの反応がとても良く、毎回刺激的で楽しい。ただ、担当授業の特質上、学生自身の心理的な問題にも触れる内容であり、心理教育的な配慮もしながら進めている。学生たちから専門的なコメントや質問があり、ここまでの先生方の教育効果がうかがえる。

③40人くらいの学生で実際のデータを集計する作業をさせている。最近になってやっとグループ作業ができるようになってきている。出席・受講態度ともにとっても良い。少し考えているが、内容的に積み上げ式のカリキュラムの中で手計算し統計の煩雑な計算をさせることに意味があるかどうか。煩雑なものはコンピュータを使っていいのではないか。これまで担当してきたほかの女子大ではノートパソコンを学生一人1台持たせて、効率的にやっている。

④にぎやかに授業を進めている。グループにうまく入れない学生はTAや助手の力も借りつつ進めている。クラス人数は36人なので、課題の採点や添削もやりやすい。まれに休んだ学生にはTAが資料をしっかりと渡しておいてくれるので、助かっている。事前打ち合わせで聞いていた学生の受身的態度に関しては、今のところ逆に積極的な学生が多いと感じている。

⑤50人前後の講義形式の授業を手探りで進めている。集団討議や実験のデモンストレーションを取り入れて進めている。デモンストレーションは学生が楽しんでいる様子うかがえる。静かには聞いているが、寝ている学生もいる様子である。教室が広すぎて、中央部分に仲の良い学生が集まっておしゃべりしていることが多少あるので、注意もしている。

⑥学生はまじめでおとなしくマナーが良いので教えやすい。小テストなどをまだ実施していないので、学生の理解度は正確には把握できていないが、おそらくついてきてくれている。2年生の授業だが統計に関する知識がどの程度既習であるかこの機会に知りたい。

⑦ビデオ教材を見せると机の上のノート、その他をすべて片付け始める学生が多かったが、だんだんとノートを取りながら見るようになり始めている。一昨年の学生には、他人が作成した課題を授業中に丸写しするような学生が見受けられたが、去年はそれがなかった。出席に関しては、この1,2年で他大学も含めて授業を休まなくなっている。授業終了後にノートを書き漏らしたという質問に何人も学生の来る。

⑧学部の授業は対象学科が多くなると興味の範囲と学生の質の幅が広がって大変である。

(5) 感想

- ・ノートを取る能力は学生によってかなりばらつきがある。

- ・15人のクラスに1,2人ほどいる自己評価が低い学生を指導する場合、彼女らを動機づけする

のがかなり難しい。

- ・授業でパワーポイントを利用する時、学生が受身にならない工夫（映像資料の使用や記入式のレジュメなど）をしている。
- ・基礎ゼミ・相談援助演習は学年ごとにカラーがあり、それに合わせて対応している。また、パワーポイントの使い方等の学習度に学生ごと・学年ごとに違いがある。

3. 今後の課題

年1回の非常勤講師との教育懇談会の機会をより充実していく必要がある。本学の教育方針の実践において、本学の動向や情報の共有等は学生への教育や指導に大きな影響を与えると思われる。また、今後さらに授業の少人数化が実践されることになり、同一科目の複数担当の増加が予想される。

これらのことから、多くの非常勤講師のご尽力なくしては、より良い教育実践は難しい。今後ますます多様化していく学生の状況を共有する機会として、また、大きく動こうとしている本学への理解を深めていただく機会として、今後もこの非常勤講師との教育懇談会に積極的に取り組むことが必要である。

大妻女子大学 人間関係学部
授業担当者懇談会 挨拶

平成25年5月25日(土)

人間関係学部長 町田章一

1

新たな未来を築くための
大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

(答 申)

平成24年8月28日
中央教育審議会

平成24年8月28日
中教審「答申」

2

答申の要点のひとつ

- 予測困難な時代が到来しつつある。(1頁)
- 次代を生き抜く力を学生が確実に身につけるための大学教育改革が必要。(2頁)
- 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材……(9頁)

3

大妻女子大学の教育方針
荻上紘一(2013.4)
+ 「共生」人間関係学部

大妻女子大学

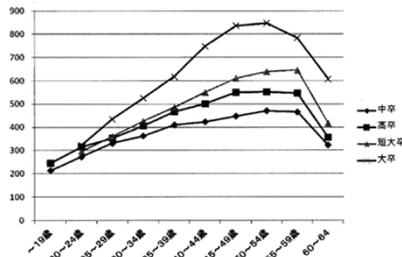
大妻女子大学は、

- 主体的な学び
 - 生涯学び続ける習慣
 - 関係的自立
- を育む空間です。

4

学歴と所得 矢野真和(20130511)

男子の学歴別の所得プロファイル(ボーナスを含む年収:単位万円)
(2011年の「賃金構造基本調査」)



5

学歴と生涯所得 矢野真和(20130511)

表1 学歴別の生涯所得(卒業～65歳まで)と学歴プレミアム

	中卒	高卒	短大卒	大卒
生涯所得	1億8785万円	2億1029万円	2億2575万円	2億8367万円
プレミアム	—	—	4.0%	3.7%

(注) 年齢別年収の補間推計は、60歳までは3次関数。

60～65歳はこの年齢区間の平均額とした。

(例) 大卒の年齢別所得(千円) = $-726t + 28.4t^2 - 0.277t^3 + 8324$
t=年齢、補間式の説明力=98.7%

高卒に対する「大卒プレミアム」=1.35倍=大学に進学すると所得が35%増加する
=一年間の換算:8.7%(35%÷4年間)の増加
=一年間学べば、所得が8.7%増える

6

学歴、所得、納税額

矢野眞和(20130511)

- 高所得の大卒は、直接税(所得税・住民税)を高卒よりも多く納めている
⇒税引き後の本人便益と税収入増加による政府便益が計算できる

表 国私別の費用(4年間)と便益(65歳まで:割引率ゼロのケース)

	国立大学			私立大学		
	家計	政府	計	家計	政府	計
直接費用	216万円	600万円	816万円	480万円	60万円	540万円
機会費用	977万円	65万円	1042万円	977万円	65万円	1042万円
便益	7122万円	1258万円	8380万円	7122万円	1258万円	8380万円
(便益/費用)	(8.0倍)	(1.9倍)		(4.9倍)	(10.1倍)	

- 私立家計/国立家計/政府の便益: 誰が得をして、誰が損しているか?

私立家計: $\frac{\text{費用負担}}{\text{便益}} = \frac{540}{1042} \approx 0.52$ 倍 < 私立助成の政府便益: $\frac{1258}{1042} \approx 1.21$ 倍 : 費用の10.1倍

国立家計: 費用負担の6倍 > 運営費交付金の政府便益: 費用の 1.9倍

大学時代の「学びの習慣」は 所得の向上をもたらすか?

⇒ もらたす

矢野眞和(20130511)

- 大学時代の勉強や読書は、所得の向上をもたらすか?

<答え>

Yes!

「読書習慣」「学び習慣」が生涯の財産になる

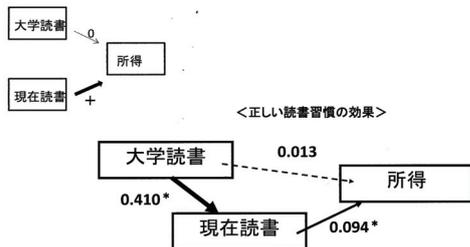
8

「大学時代の読書」と所得

矢野眞和(20130511)

- 読書の効果も勉強の効果も直接効果だけを見ると誤る

<直接効果だけからみると判断を誤る>

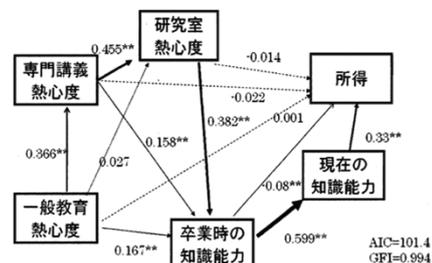


<正しい読書習慣の効果>

「学ぶ習慣」⇒所得の向上

矢野眞和(20130511)

- 「学び習慣」の生涯効果 (パス解析の標準化係数)
-五つの大学のどこでも成り立つ-



AIC=101.4
GFI=0.994

10

大学時代に「学ぶ習慣」を身につけ、

⇒自学自修を可能とし、

⇒社会に出て活躍

⇒所得向上

矢野眞和(20130511)

- 学校時代に学ぶ習慣をつけられ、
生涯学び続けることのできる資本になる

- 変化する職場は、
サラリーマンに毎日の勉強を求めている

11

大妻女子大学の教育方針

荻上紘一(2013.4)

+ 「共生」人間関係学部

大妻女子大学

大妻女子大学は、

- 主体的な学び
 - 生涯学び続ける習慣
 - 関係的自立
- を育む空間です。

12

IX 人間関係学部FD活動の課題

1. 25年度FD委員会からの申し送り事項

これまでの各章においては、平成25年度の間関係学部FD活動を概観してきた。

本委員会は平成25年度FD活動の課題として以下の2点を引き継いできた。一つは(1)クラス指導の在り方の検討であり、いま一つは(2)非常勤講師との教育に関する連携のあり方の検討である。

(1)に関しては、各学科専攻の会議においても繰り返し論じられてきた。とくに本年は社会学専攻に障害をもった学生が入学してきたこともあり、このテーマの重要性は増してきている。この点に関しては、報告書の「各専攻、学科のFD活動の取り組み」に詳しいのでそちらをご覧ください。

また非常勤講師との教育に関する連携のあり方に関する検討については、5月の非常勤講師懇談会以外にも各専攻の教員との頻繁な打ち合わせを行い授業内容の改善に資しているつもりである。

2. FD研修会のテーマについての検討と実施

FD研修会に関しては、平成25年度より「学生たちの現在」というテーマで、多様な問題を抱えた学生たちについて、教員のフリー討論会を行っている。平成25年度に関しては、テーマごとの部会を設けず、くじ引きで各部屋に分かれ討議をするという実験的な試みを行った。荻上学長、伊藤副学長をはじめ多数の事務職員の方々にもご参加をいただき、非常任有益な討論会となった。参加者の満足度も高く、いまや人間関係学部の暮れの風物詩となったと述べても過言ではないと自負している。FD委員会においては、平成26年度においても、この形式の研修会を行っていく所存である。

3. 平成26年度への申し送り事項

①新人教員研修会への参加

荻上学長が館長を務める八王子大学セミナーハウスでは、例年9月に新任教員研修会が2泊3日の日程で開催されている。本学においては、新任教員のこの研修会への参加が推奨することが、大学運営会議において決定されている。人間関係学部FD委員会においても、この研修会はFD活動の一環をなすものであるから、新任の教員にこれへの参加をお願いすることとした。なお参加者のレポートは次年度以降の本報告書に掲載される予定である。

②複数の教員が担当する授業評価の取り扱い

オムニバス形式やグループ・ティーチングの科目を多く設置している社会臨床心理学専攻の教員から、これらの科目の授業評価アンケートが、教員評価において採用されることの疑問が提起されている。現在のところ、教員評価が処遇と結びついていないため、大きな問題とはなっていないが、将来的に処遇に反映される場合にはFD委員会と教員評価運営委員会との間で密接な連絡をとり、複数教員が担当する科目の位置づけについて慎重に検討することが求められよう。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2013（H25）年度前期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①秋山恵美子

②在宅介護論

③全体的に平均点が高い結果であったが、アンケートⅢNo15 の学生自身の予習復習など自習の平均点が低い結果となった。奇数回に小テストを実施し知識の定着を心がけてきたが、継続して実施する意義があることを感じた。授業は大変前向きにまじめに取り組んでいる学生が、小テストや定期テストで点が取れていないことがあったが、復習をしていない結果であるため、声かけを行って不明点などを明らかにできるように心がけていきたい。

④特にございません

⑤みなさん、とてもまじめに後期の授業に出席されています。後期は必修科目ですので休むことのない出席願っています。

①池田琴恵

②基礎統計学 I

③「この授業への取り組みとその成果について」の項目が全体的に低くなっていました。項目 15 の予習・復習については、学部の平均と差はないものの値としては低いと感じました。課題はかなり出していたのですが、自習という課題になっていなかったようです。自分で調べるような自習を促進するような課題の出し方を工夫したいと思います。また項目 16 の積極的な参加については、なるべく実社会、実践と結び付いた内容を加え、授業内に学生が考える時間を設けるようにしたいと思います。

④特になし

⑤授業時間外に自ら学習を深めている学生も見受けられ、グループワークでは学生同士で教え合う姿も見られました。とても一生懸命取り組んでいるようでしたので、今後も頑張りたいと思います。

①池田靖雄

②コンピュータ基礎 A

③資料がほしかったという意見があったので、資料全体の見直しを行う。また、課題が多少詰め込すぎだったと思われるので、これについても見直す。

④特になし

⑤特になし

①伊藤美登里

②身体とファッションの社会学

③板書に関する意見が、相反するものも含めて（板書が多すぎて大変でつらいという意見から、板書が丁寧でよいという意見、板書の時間がもったいないので板書を少なくしてもっと先に進んでほしいという意見など）複数ありましたので、より多くの学生さんが満足できるようなやり方を、後期の別の講義科目のなかで模索してみます。

④部屋が暑すぎたという意見がありました。教員の方でもこまめに温度管理を気をつけたいと思います。

⑤特にありません。

①井上修一

②高齢者に対する支援と介護保険制度 I

③概ね良い評価であった。今後は、授業中に学生に発言を求める機会をさらに増やしたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②成年後見制度

③概ね良い評価であった。今後は、授業中に学生に発言を求める機会をさらに増やしたい。

④特になし。

⑤特になし。

①大出春江

②社会調査講義 I

③教科書は昨年と同じであり、授業内容は、社会調査についての概要・歴史・量的調査法と質的調査法・質的調査法によるモノグラフの検討と比較・調査倫理という流れで、こちらも大きく変更はない。課題はインタビュー調査報告の提出、これと授業内提出物と学期末試験で評価する。この数年続けてきた形だが、今年度の評価は人間関係学部全体平均を下回った。受講生の数が例年より 10 名以上多く、教室の座席はほぼ隙間なく埋まるため、その余裕のなさも影響していたかもしれない。教室も昨年と同じだが昨年よりもポイントが下がっている。2 年生以上が履修できる社会調査及び演習、現代家族論は学部平均をいずれも超えている。なぜ今年は 1 年生の科目でこうした結果が起こったのか。自由回答をみると、課題が多すぎる、課題に関する説明がわからない、ということに集中していた。この結果から来年度にすぐ反映させるのかどうかは、検討を要するが、課題に関する説明については、箇条書きにしてメモを配布するなどしていく必要を認める。この点は教員側の改善点として反省すると共に、学生の理解度が落ちているのではないかという印象が否めない。その意味で、例年と同じように考えず課題分量を減らし、説明をかみ砕いてシンプルにする工夫が必要なのかもしれない。

④現在の教室の縦横のサイズは非常に講義をしやすい。ただし、100 名を超えると余裕がなくなってしまう。とはいえ、7411(7214)では目が届きにくくなる。必修科目のため悩ましいところである。例年並みの 90 名程度なら現在の教室が最適である。

⑤今年は学期末課題の提出内容をみると、真面目に取り組まれていないもの（いずれも書き方が似ている）が 10 本前後みられた。必修科目のため、1 年生の一部にとっては単位だけとればよいという態度の表れなのだろうか。こういう点は是非、改めて授業に臨んで頂きたい。

①小川 浩

②障害理解 A

③全体的に良い評価であった。その中で、「予習・復習」及び「積極的な参加」に関わる項目は低めであった。今後は、事前・事後の学習課題を明示したり、事業中に考えたり発言

する機会を設けるなど、学生が受け身になり過ぎないように工夫したい。

- ④特になし。
- ⑤特になし。

①小川 浩

②障害者に対する支援と障害者自立支援制度

③全体に良い評価であったが、昨年度と比べると若干評価が低くなった。国家試験対策のために法制度に関する内容を増やし、その分、障害のある人の特性や支援の実際的な話を減らしたためかもしれない。学生の積極的な授業参加は低めの評価となっており、今後の工夫が必要であるが、100人近い授業になると双方向型で授業を行うことにも限界がある。クリッカーなど、施設・機器等の導入も必要であろう。

- ④もう少しゆとりのある大きさの教室が望ましい。クリッカーなど、双方向授業のための支援機器。
- ⑤特になし。

①加藤浩治

②コンピュータ基礎A、コンピュータ応用

③毎回、その授業のねらいを学生たちにわかりやすく説明することを忘れないようにし、質問にはできるだけ速やかに対応したいと思います。

- ④ありません。
- ⑤ありません。

①加藤美智子

②臨床心理学概論・基礎セミナー I

③概論の授業をどのように考えればよいのかをもう一度考えてみたいと思います。どこまで簡潔に、何を教えるかを精査しないといけないと考えています。臨床の精神や理念を伝えたいと思うのですが、そのような精神には関心がない学生も多いようです。よく分かる図解方式の簡略な知識だけを学ぶという授業だけにはしたくないと思っています。学生の評価が高い授業というのは、本当の意味でよい授業なのかと考えてしまいます。

- ④ぎっしり空き席がない状態で100人の学生が講義を受ける環境は、教育条件として良いとはいえないでしょう。固定式ではなく、稼動式の机の方が授業はやりやすいと思います。
- ⑤おしゃべりへの注意は「沈黙」で行ないました。なぜ、あれほどまでにおしゃべりをするのかを自分に自身に問いかけてもらいたいと思います。

①門林道子

②老いと死の社会学

③今年度前期、初めて受け持った科目、授業でした。学生に知ってもらいたいということが多く、多少授業時間ぎりぎりというのはあったかなと思います。次年度はもう少し内容を整理し、レジユメの書き込み量等も減らし、じっくり取り組み、より学生の理解度を高められるよう目指したいと考えます。また、自宅での予習、復習などの状況がほとんどみら

れないので、今後はこれらについても自宅での課題を授業の中で提示するなど工夫していきたいと思っています。

- ④初めての教室で 100 名を超える学生がいて、しかも 1 限目。電車の遅延もあるのか、遅刻者が目立ち、授業開始時に朝 1 限大教室多人数の授業にありがちなバタバタした状況がみられることもありました。幸い機材などの設備環境はとても整っていて、使用についても困ることはほとんどありませんでしたが、やむを得ず遅刻せざるを得ない場合は、授業の迷惑にならないよう、静かに速やかに着席し、授業終了後に連絡事項などで必要があれば教壇へくるようにするなどの遅刻者の周囲への配慮が重要だと考えます。空調にしても、事後アンケートに「いつも寒い」等と書くのではなく、その状況で自ら調整する、もしくは教員に連絡するなど基本的なことで環境はかなり改善されと考えます。次年度はこのような点に私の方でも留意していきたいと思っています。
- ⑤授業は、教員側のみでつくるのではなく、学生と教員の相互作用でつくっていくものです。益々のより主体的積極的な授業への参加、取組みを期待しています。

①亀山晶子

②人間の成長と心理

③興味を持って受講していただけているようでよかったです。ただ、大教室のため、私語がうるさいなどの問題については、適宜厳しく対処していきたいと思っています。

④周りの受講者の迷惑にならないよう、授業に関係のない私語を控えていただきたいです。

①亀山晶子

②態度変容論

③総合的に高い評価をいただき、ありがとうございます。自宅での予習復習をもっと促進できるよう工夫していきたいと思っています。

④とくにありません。

①河上睦子

②女性史

③アンケートの設問事項の評価点が、ほとんどの項目について、昨年度より上がったのはよかったと思う。評価の低かった予習・復習の自習については、今年度はコメントの題をだし、次週に提出するように工夫したが、回数が少なかったのか成果が上がらなかったようである。コメントの内容や回数を増やすなどの工夫をしたい。私語についてはその都度、可能な範囲で注意をしたが、それでも教室の後半座席ではなくならなかったことが残念である。私語学生に対する授業停止の措置などを要求するほど授業に熱心な学生がいたが、多人数のため、私語を特定できなかったため、今後は座席指定などを考えたい。講義内容の理解のために、今年度は画像入りのパワーポイントを使用したり、配布資料に空欄を設けて書き込んだりするように工夫をしたことは好評だった。しかし配布資料をほとんど読まないで、ただ授業中聞くだけの学生が少しみられた。そうした態度が授業内容の理解度に関わっているように思うので、より配布資料の内容の工夫をしていきたい。

④今年の教室（6113）は縦長教室で、学生の授業理解状況や私語などについて把握しにく

かった。学生の顔が見える教室（7127 など）を要望したい。受講生数は 200 名以下にお願いします。

- ⑤授業について受け身の学生がいます。授業への主体的な参加態度を望みます。配布資料の空欄を授業中に書き込むことや配布資料をきちんと読むこと、そのうえで疑問を整理し提示したり、興味をもつことを調べたり、まとめたりをすることを要望します。

①川上るり子

②相談援助演習Ⅲ・Ⅴ、相談援助実習事後指導

- ③演習Ⅴについては、難易度の高いものを行いました。学生の反応から、もう少しわかりやすい内容でかつ国家試験対応に役立つものにして考えています。

④特にありません。

⑤特にありません。真面目で純粋な学生さんと一緒に成長していけたらと願っています。

①菊住 彰

②人間の成長と心理

- ③大教室の授業中に闊達な意見交換をするのは、ハーバードの「白熱講義」のように実現しません。しかしあえて 1 年前の本アンケート後に、「学生の声を極力拾い集め、フィードバックしたり、共有したりする新しい方法を導入します」という改善公約を回答しました。これまでも授業後に配布してきた感想レポートの内容を、本人の不許可がない場合に限って、授業にできるだけ取り入れてみました。視聴者による投稿番組やリクエストカードを使った音楽番組のようにです。質問に答える形で臨床現場の実践例を紹介したりすると、さらに反応が返ってくることもあり、実は学生のみなさんは教員とのコミュニケーションを求めているのだということ、あらためて感じました。ただし、授業中に 100 枚前後のすべてのレポートの内容に触れるわけにはまいりません。学期末にこれらのレポートを返却する際に、簡単なコメントを添えるようにしましたが、それでも全員にメッセージをお返しすることができなかつたことが心残りです。さらなる工夫を試みます。

- ④履修を希望してくださる学生が多いのは嬉しいことです。極力多くの学生を受け入れたいと思いますが、上記の改善を実現するためには、適正な規模を維持する必要があります。毎年のお願いではありますが、現状の 100 人前後の定員設定を維持していただきたい。

- ⑤＜要望 1＞ シラバスをよく読んでください。科目名だけで発達心理学だけの専門科目であるかのように想像して受講すると、この講義で扱う分野の広さに、戸惑うことになりかねません。＜要望 2＞ 以前はスライドを印刷した資料を配布していませんでした。資料を入手することで講義に参加したと錯覚してほしくなかったからです。しかし昨年度はついに、ノート作りのスキルに個人差があることが見過ごせなくなり、講義の内容に専念していただくために、今年度からスライドの資料を配るようになりました。ただし、プロジェクターに投影する画面をすべて印刷したものではありません。本来ノートに書き留めてほしい重要な箇所を、必要に応じて抜粋した要約版です。その流れは口頭で適宜お伝えしながら進めているので、資料の中のどこを解説中なのかがわからなくならないように、しっかりついて来てください。＜要望 3＞ 大教室とはいえ、受講生の皆さんの表情からも、理解度を把握しながら進めているので、教員の“つつこみ”を恐れずに、なるべく前列か

ら着席してください。

①金 美辰

②介護の基本 C、生活支援技術 C、介護総合演習 I

③今回の「授業に関するアンケート」の結果から、「話し方は明瞭で聞き取りやすかった」、「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」、「質問や意見を引出、学生の積極的な参加を促した」、「十分な準備と熱意をもって授業を行なわれた」の項目が評価されています。ただし、すべての科目において、「毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という項目が、少しではありますが低く評価されています。大学改革において、予習・復習の重要性が強調されているなか、今後は学生がより予習・復習できるように工夫していきたいです。

④特にありません。

⑤特にありません。

①久米秀作

②スポーツ A、スポーツ C、スポーツと健康

③スポーツ A：本授業において、特に平均を上回る質問項目に着目してみると、NO.16 がの項目特に目立つ。本授業が実技であることを考慮すると、この質問項目が平均点を大きく上回ったことは意義深いと考える。

スポーツ C：本授業も実技授業であり、前項同様に NO.16 の質問項目が大きく平均を上回った。同時に、本授業では、NO.17、18 においても同様の傾向が見られたが、これは授業内容としてほとんどの学生が未体験のゴルフを取り入れたことが大きく影響していると考え。学生に対して、このような授業で生涯楽しむことができるスポーツの萌芽を育てることができたことは、指導者として無上の喜びとするところである。

スポーツと健康：当授業では設問についてはほぼ平均的な数字であったが、フリーアンサーのところ目移すと、内容的には学生への満足を与えられたように感じる。常に、授業テーマを日常生活の目線に合わせたことが好印象につながっているのではないかと。ただし、主な伝達方法であるパワーポイントについては、さらに改良が必要であると痛感した次第である。

④特に「スポーツと健康」授業は履修者が多く、教室前方と後方ではやや授業環境が異なる。学生の私語も後方で多くみられるのは常であるので、熱心で聞いている学生の権利を擁護すべく頻繁に注意を促した。できればクラスを2クラスに分割して、半分の学生数での授業が望ましい。

⑤とくにはありません。

①藏野ともみ

②精神保健福祉論Ⅱ、精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

③担当の多くが歴史や制度を教授することを目的とした科目ですが、可能な限り双方向で展開するように心がけています。少人数だからこそできる一人一人の学習成果を把握、評価できるように理解度を学生自身も実感できるように小テストやコミュニケーションで捉え

て貰えるようにしています。少人数でも確認しながら進めると時間的に十分ではない点が出ています。国家試験指定科目故に求められる教授範囲もあり、そのバランスに苦慮している点が課題としてあげられます。また、現在は自主学習も仕掛けが必要で、毎週の提出物と一人一人への課題のフィードバックをしています。今後はもっと学生自身が目標を明確に持って自主学習できるような工夫を考えたいと思います。

④特にありません。

⑤授業は学生自身の参加が必要な形式を可能な限りも受けています。個別、隣と確認する、グループで作業する、授業全体で進める等のいくつかのバリエーションを必ず 1 コマの中に取り入れています。形は整えても、受講生の皆さん自身が自分のこととしてどのように参加されるかが大切なところです。自ら参加されると、理解する楽しさを共有できると思います。

①小谷 敏

②人間関係総論Ⅰ・子どもの世界・社会学基礎セミナーⅠ・社会調査および演習Ⅰ

③大人数の人間関係総論と子どもの世界は学部の平均を下回り、少人数クラスの社会学基礎セミナーと社会調査および演習Ⅰは平均を大きく上回りました。人数が少ないほど学生の満足度が高いことは疑いをえません。大人数のクラスは私語がたえず、座席指定を求める声がいっつかありました。しかし座席指定については、「自分たちがダメ学生だと思われるようで屈辱的」と以前に書いていた学生もいて、私自身も好きにはなれず、当面採用する気はありません。授業中におしゃべりをしてはいけないなどという、小学生でもわかりそうなことが身につけていない人間を入学させているところに大きな問題があると思います。

④設備に不満はありませんが、授業は少ない人数でやりたいものです。

⑤「私語は犯罪です！」と怒った後でも平気でおしゃべりをしている学生がいるので、手ごわいなあと感じました

①後藤かおる

②家族心理学

③アンケートをふまえ、より積極的に充実と改善を図りたいと思います。とりわけ、

●質問や意見はリアクション・ペーパーで提出してもらった形式だったが、グループでの話し合いや発表を充実を図り、より積極的に学生が参加できるように工夫する。

●授業の構成を、より体系的にわかりやすく提示する。

●予習・復習等の自習が少なかったとの指摘があるので、講義内で課題を提示する等、学生が積極的に自習を行えるよう働きかける。

●字体を大きくする等、パワーポイントが見やすくなるようにする。

●配布資料のなかの空欄を大きくして書き込みやすくする（この要望が多かった）。

●学生によっては、進度が早いと感じるものもいたので、理解度を確認しながら講義を進める。

●上記に限らず、学生の意見や要望を確認しながら、改善を図っていく。

●具体例があってわかりやすかったという指摘等、良い点としてあげられたものについて、

今後もその充実を図る。

④特にありません。たいへん授業をしやすい環境を整えてくださったことに、感謝しております。

⑤特にありません。

①佐々木 幸

②相談援助演習Ⅴ、介護の基本 A、こころとからだのしくみ A、社会福祉学基礎セミナーⅠ、社会福祉学概論Ⅰ

③1クラス程度の人数が履修する科目ではどの項目でもおおむね高い評価を受けたが、それ以外では平均～やや低い評価の科目もあった。大規模かつ講義系科目では私語等への対応が適切とのコメントもあった反面、授業の流れが中断したり個々の学生への対応が公平性を欠いたりするという指摘（評価、コメント）もあった。講義系科目では視覚教材を多用したことで学生の関心は高まったようだが、同じテーマでも学生が関心を持つところ、受け取り方はさまざまなので、できるだけ多くの学生が主体的に関心をもって授業に臨み続けられるようなバランス、工夫が必要と感じる。次年度以降も工夫を重ねていきたい。

④特にありません。今年度からパソコンや AV 機器が一新されたので使いやすくなりました。

⑤特にありません。

①佐藤富士子

②認知症の理解

③科目「認知症の理解」は、介護福祉学専攻は専門必修の科目（国家試験科目）、人間福祉学専攻は専門選択科目であるが、両専攻とも学生の授業態度は熱心であり、授業科目平均より高い値を示していた。学生からも「15 回では物足りない。もっと講義を聞いたかった」という要望があった。介護福祉学専攻の学生に対し、国家試験を強調するような態度が見られたらしく、福祉学専攻の学生と接し方に差があるという意見があったことは反省点である。

④配布資料を縮小しすぎ、文字が小さすぎるといった意見があった。

⑤なし

①島津 淳

②福祉サービスの組織と経営

③今期で退任するので、特に意見はない。ただ、資料に基づいた板書を中心に授業を行ったことは、前回の社会福祉士国家試験では、電子化を進めていた大学の合格率が 15・20 ポイント下がっていた。本務校は、教科書・資料・板書・小テストを実施して、全国的には厳しい合格率のなか、20 ポイント以上前年比合格率が上昇し、東洋大・明学大並みとなった。アナログと言われるが、授業の電子化は、学力向上に結びつくのだろうか。

④特にないが、一般的に言えるのだが、沢山のサービスを享受してきた若い世代の学生にとって、いつもお客様、評価者であることは、特に主導的な担い手である福祉の分野に入って、困ることになると思われる。

①嶋貫真人

②社会保障 I

③全体の平均値を下回ったのは、質問 3（私語への対応）、質問 5（授業の中で質問や意見を促したか）、質問 16（授業への積極的参加）の 3 項目。質問 3・5 については、前年も平均値より低い評価だったので、改善に向けた工夫（話がひと区切りつくごとに学生からの質問を促す）を試みたが、次年度は、さらにその機会を増やしてみたい。私語については、TA ボランティアに頼り過ぎた点を反省。教師自身による静粛化に向けた働きかけを増やす。質問 16 については、質問 5 と一体的に取り組むべき課題と考える。

④特になし

⑤①前の授業で配布したプリントを持参せず、次回の授業の時に再度もらいに来る学生がかなりいた。そのため、ときに受講生の人数以上印刷してあるはずの資料が、足りなくなることも。配布済の資料は必ず持参して欲しい。②私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人

②低所得者に対する支援と生活保護制度

③全体の平均値を下回ったのは、「社会保障 I」と同じ項目である。したがって、改善策も上記①と同じ。

④特になし

⑤私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人

②社会福祉現場実習事前指導

③学生の出席状況は比較的良好で、主体的・積極的に取り組んでくれたと思う。授業評価もおおむね良好で、特に改善すべき点は見当たらない。

④特になし

⑤本授業の運営自体には、まったく問題はないのだが、そもそも「自分はなぜ、社会福祉士の資格を取得するのか？」という出発点の動機があいまいなまま、実習に臨む学生が依然として多く見られる。この点が長期的な課題であると思う。

①嶋貫真人

②福祉行財政と福祉計画 A

③全体の平均値を下回ったのは、「社会保障 I」と同じ項目である。したがって、改善策も上記①と同じ。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①田中 優

②ファッションの社会心理学

③「この授業への取り組みとその成果について」の評価が低いので、学生の授業への取り組みの動機付けを高める工夫を検討したい。

④特にありません

⑤日常生活の中で、授業内容と関連する事柄に目を向けて、単なる知識ではなく、授業内容の理解を広げてほしい。

①田中 優

②対人関係

③授業の進め方については、高い評価を得ているので、現在のやり方をより良いものにしていきたい。「この授業への取り組みとその成果について」の評価が低いので、学生の授業への取り組みの動機付けを高める工夫を検討したい。

④特にありません

⑤日常生活の中で、授業内容と関連する事柄に目を向けて、単なる知識ではなく、授業内容の理解を広げてほしい。

①丹野真紀子

②相談援助演習Ⅲ

③学生が予習復習も含め、とても頑張って授業の望んでくれていたのが、よくわかりました。これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－A

③私語に対する注意をしてくれてよかったとのコメントもあり、静かに授業を受けられたことがわかりました。マイクの声がこもっている時もあったとのことでしたので、気を付けたいと思います。基本的には、しっかり授業をしたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助実習事前指導

③学生が熱心に取り組む様子がわかりました。個別対応をすることも多く、その重要性もわかりましたので、しっかり学生一人一人を大切に指導していきたいと思います。

①丹野真紀子

②保健医療サービス

③テストを授業最終日に希望する声が多かったので、次に活かしたいと思います。

①丹野真紀子

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③概ね学生の評価もよく、このまま来年度も続けていきたいと思います。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－A

③学生が集中して授業を受けている様子が見受けられ、とてもよかったと思います。専門科目として難しい科目ですが、学生がより理解しやすい授業を続けたいと思います。また、

試験を授業最終日に希望する意見がありましたので、来年度活かしたいと思います。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術専門実習

③学生が熱心に授業に臨んでいただいたのがよくわかりました。丁寧な指導を続けたいと思います。

①角田みすゞ

②社会福祉学基礎セミナー I

③大学生活へのスムーズな適応を図る：今年度は、クラスの中から 2 名、授業に参加しなくなった学生があった。担任の先生やゼミのとりまとめの先生等学年全体の先生方と連携していただいたが結果として単位を落とすこととなってしまった。

→学生のニーズや能力は多様化し、又、初期には学生生活に不安を感じている学生も見受けられた。少人数の利点を活かし、学生一人ひとりのニーズに対し、より一層丁寧に関わりたい。

→授業内のコミュニケーションにとどまらず、学生からの授業フィードバックに対して、次回授業でフィードバックをするなど、より、双方向のコミュニケーションを検討したい。

→授業を通して、学部仲間と出会い、新しい解決方法を体験する機会を提供したい。

授業のための予習復習：昨年度来、自主学習の必要を認識し、今年度も引き続き、学生の興味を引き出し、できるだけ負担なく取り組めるよう、毎回小さな課題を出した。

→授業から発展的に興味をもつ学生と、授業のための課題になってしまう学生がいたように見受けられた。学生一人ひとりが、それぞれの興味に関連づけられる題材を探索したい。

④基本的に不自由はございませんでした。

⑤特にございません。

①寺島拓幸

②現代社会論セミナーIV

③学生による報告とディスカッションを主としているため、どのように学生の発言を積極参加を促すかが毎年の課題となる。昨年度からファシリテーターやコメンテーターなどの役割制を導入したが、それに加えて今年度からグループワークを導入してみた。フリーライダーを出すこともなく、うまく機能したように思われる。一方で、役割に当たっていない学生やグループはまったく発言しなかつたりするため、今後は全員の参加を促すしくみづくりが課題である。

④特になし。

⑤成績を落とさない程度に要領よく欠席する学生が散見されるが、全部出席して議論に参加してほしい。

①中嶋洋介

②消費行動論

- ③1) 消費行動論には2つの側面があり、授業ではこの2つの側面を取り上げている。
- 2) マーケティングの一分野としての消費行動論：この科目が生まれた契機は、『マーケティングを成功させるためには、消費者の意思決定過程を知る必要がある』と考えにある。社会心理学の応用分野です。しかし、消費行動論を理解するには、マーケティング、企業経営、販売行動などの理解が不可欠になるのですが、学生の中には着いて来れない人がいます。※今年は、3名が「難しくてついて行けません、有り難うございました」と言って脱落した。
- 3) 消費者の行動という側面：消費者についての理解、賢い消費者となるための課題に取り組む必要があります。たとえば、企業のマーケティングを理解した上で、企業との交渉についての理解、企業が提供する商品の品質、安全について、理解する必要があります。さらに、消費者と企業との情報力・技術力・資金力・交渉力における非対称問題も理解する必要があります、これらを整理して学生に伝える必要がある。
- 4) 世の中にある教科書は企業のマーケティングの立場から書かれたものが殆どであり、企業活動などについての知見のある学生向けのものが多いため、適当な教科書が見当たらない。
- 5) 現在は、PPTの資料を配布し、参考図書を示し、授業に使用している。
- ④1) 特に要望はありません。
- 2) 基礎的な知識と理解を目的にしているので、多くの学生に受講して欲しい。
- 3) ディスカッションを取り入れたいので、今の授業時間では足りない。
- ⑤1) 予習の課題を与えるので、学生には読んで、ディスカッションできるようにしてきて欲しい。授業で使用するPPTを事前配布（前の授業で配布）し、読んでくることを前提に、授業では、テーマを与えて、ディスカッションできる時間を増やす。現在は、すべてを事前配布している訳ではない。
- 2) 復習については、テーマを与えて、次回の授業で「小論文（自分の考えを纏める）」を提出してもらいたいようにしたい。※小論文以外に、質問他自由意見を書いて良いことにする。
- 3) 現在、出席カードをA4の用紙に印刷して、余白に自由意見、質問など何を書いても良いようにし、それに私がコメントを返しているが、これを廃止して、小論文提出に切り替える。※この小論文を学生とのコミュニケーションツールに利用する。

①西川千登世

②レジャーの社会心理学

- ③初年度授業と言うことで詰め込みすぎたテーマがあったと思われます。もう少し余裕を持たせつつ、学生とのディスカッションが出来るような授業を目指したいと考えます。配布資料についてパワポ資料の書き込み式のもの（ドリル形式）を希望する学生がいましたが、現時点として対応するつもりはありません。初回授業で伝えていますが、「要点をまとめてノートをとる」という作業が社会に出てから必要なスキルだと考えているからです。ただし、次年度からはさらにフォローアップができるようノートをとる時間を調整したり、

質問をしやすい環境づくりをしていきたいと思ひます。

- ④本年度は、昨年度開講していない授業と言うこともあり、受講者数が多く、大教室になってしまひましたが、学生ももう少し小さい教室で先生と話したかったというような意見も頂いているので、もう少し小さい教室でできるとよいと思ひております。
- ⑤大妻の学生はとても素直で楽しく授業させていただいております。選択科目と言うことで学生の熱心さには差がある部分がありますが、知らない世界と出会い、考えることの大切さが少しでも伝わればよいと思ひていますので、なるべく休まないでくれると嬉しいです。

①長谷川万希子

②医療社会学

- ③「この授業にどの程度出席しましたか。」の得点が学部平均よりも低いため、授業出席のインセンティブを工夫するようにします。「学習の目標」と「授業の構成」を学期途中で時々再確認できるようにしたいと思ひます。
- ④ディスカッションを行いたいのですが、机が固定されていて難しいです。少人数で 100 人規模の教室は必要ありませんが、視聴覚器機が装備されている教室の選択肢はあまりないのでしょうか。
- ⑤教科書を購入して、持参してください。

①林原玲洋

②現代社会論セミナー III

- ③以下の項目が——相対的には学部全体平均と同程度ではあるものの——絶対的にはかなり低い結果になっていました。設問 15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」予習のための宿題は適宜課しているのですが、どうやら復習をする習慣が身につけてないようです。新たに復習のための宿題を課すかどうか、検討したいとおもいます。
- ④今年度の受講者数は 15 名ですが、ちょうどよい人数です。
- ⑤レポートなどを書く際にわからないことがあったら、事前に質問・相談するようにしましょう。試験とは異なり、レポートは、教員を利用して完成度を高めることができます。

①平野恵子

②現代社会論セミナーI

- ③講読予定文献を記載するなど、シラバスの内容を授業内容に沿って詳細に記すように致します。
- ④特になし
- ⑤特になし

①福島哲夫

②社会・臨床心理学基礎セミナー I

- ③ほぼすべての項目にわたって学部平均を上回っていたため、概ね授業の評価は高いと思ひていいと思う。ただし項目 15 の予習・復習については、学部の平均をわずかに上回って

いたものの値としては低いと言わざるを得ない。課題はかなり出していたのに、自習という課題になっていなかったようで、自分で調べるような自習を促進するような課題の出方を工夫が必要と思われた。また、今年度は、最終授業後の補講を希望者のみ参加としたら、熱心な学生のみが集まった。それはそれで有意義ではあったが、肝心の心配な学生や欠席が 2、3 回あった学生はほとんど参加しなかった。学生の学ぶ意欲の差は想像以上に大きく、対応の難しさを痛感させられた。

④特になし

⑤特になし

①古田雅明

②社会・臨床心理学基礎セミナー I および カウンセリング A (傾聴訓練)

③社会・臨床心理学基礎セミナー I ⇒ 受講生の評価は概ね好評であった。しかし、予習と復習がなどの自習が少なかつたとの評価であった。カウンセリングのロールプレイなど基礎的な実習を担当したので、予習の課題はなかなか出しにくい、今後は復習ができるように工夫してみたい。とはいえ、毎回のように実習後にレポートを書かせて提出させる負担の大きい授業であるので、全体のバランスを見ながら他の担当教員と調整しながら進めたい。

カウンセリング A (傾聴訓練) ⇒ 受講生の評価は概ね好評であったが、私語への対処が不十分だったので来年度は気を付けたい。しかし、カウンセリングのロールプレイ中心の授業で、しかも毎回 50 名程度参加しているので、学生がきちんとロールプレイをしているのか、雑談や私語をしているのか、教員 1 人での机間巡回だけでは、判断しにくい面もあった。今年度から、2 コマ開講にしたのだが、それでも受講生が多いので TA をつけてもらうなどの工夫が必要かも知れない。

④社会・臨床心理学基礎セミナー I ⇒ 1 教室だけは椅子が稼働可能な広い教室を確保して欲しい。

カウンセリング A (傾聴訓練) ⇒ こちらもなるべく椅子が稼働可能な広い部屋にして欲しい。

⑤特にありません。

①干川剛史

②社会学概論 I (火 1)・(木 1) / 社会調査及び演習 I / 社会学基礎セミナー I

③受講者数の多い授業 (社会学概論 I (火 1) (106 人) / 社会学概論 I (木 1) (94 人)) については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、同じ内容でも、社会学専攻必修の社会学概論 I で低いのが、原因を究明すべき点である。また、自由回答を読むと、話し声が聞きづらいなど、改善すべき点があることも反省すべき点である。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学生の扱いが公平である、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。学生の興味を持てるように講義内容を工夫するだけでなく、話し方に改善が必要であり、さらに、授業の復習・導入・展開それぞれの部分に簡単な課題を入れるなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び

演習Ⅰ／社会学基礎セミナーⅠは、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

- ④講義形式の授業は、100人前後になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。
- ⑤私語を防止するために座席指定で授業を行っているが、一部の受講生ではあるが、指定された座席に座らずに仲間と隣り合って私語をしており、他の受講生に迷惑なので、決められた席に座って静粛に授業を受けてほしい。また、教科書を読んで予習してほしい。次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀米史一

②相談援助演習Ⅲ、相談援助演習Ⅴ

③今回のアンケートは良い結果を頂いておりますが、さらに授業をよくするために輪講教員とさらに検討を深められればと思います。

④特になし

⑤特になし

①町田章一

②人間関係総論Ⅲ

③今年を受講生が170人程に減ったが、人数の多過ぎる授業であることに変わりはなく、どうしても一方通行になり易い。そこで、出席カードの裏に学生が書いたコメントを1行データにして資料(A4版4~6枚)を作り、毎回、配布して、コメントをしている。大部分の学生には好評のようだが、これを実行するには1回の資料作成に2時間ずつ4回に分けて行っても8時間以上かかる。今年をそれを14回やり、全部で146頁になった。しかし、その労力の割には、学生の授業評価は悪く、平均以下である。もっと良い方法が無いか、考えている。■学生に見せたいビデオがあるが授業中にはさわりの部分(5~10分)しか見せられない。この授業は朝1時間目(9時始まり)なので、8時半頃から学生が集まる。授業前にビデオを放映し、早く来ればオプションで見られるようにしている。時には8時頃に来る学生もいるので、教員は8時には教室に居て、一人でも来たらビデオを始めるようにしている。これも労力の割にはイマイチの感がある。

④この授業では折に触れてマナーについても話したり、指摘したりしている。大方の学生には好評だが「ほうずえについてはいけないのがいやだった。少しはゆったりしてききたかった」というアンケート結果には驚いた。

⑤自分を統制する力を高めましょう。

①松下武志

②社会問題の社会学

③授業の進め方について：明瞭で聞き取りやすい話し方に努めます。

私語等への措置：適切な注意を行うように努めます。

学生の積極的参加の促し：意欲的な参加を引き出すよう努めます。

授業内容について

授業構成：もう少し体系性を高めるよう工夫します。

授業の意味：学生の将来にとってこの授業が意味を持つように工夫します。

授業への取り組みについて：学生が予習復習し積極的に参加するよう授業に工夫を加えたいと思います。

①松本圭子

②英語ⅢA

③今期が、大妻女子大での初めての授業でした。事前に人間関係学部の先生からは「シラバスに拘らず、実際に集まった学生たちの希望を聞き、取り入れられる点は取り入れてほしい」と伝えられておりました。蓋をあけてみると、学生数は 3 名のみであり、金曜夕方まで残って英語を勉強しようという学生は皆もともとやる気がありました。また彼女たちの希望（TOEIC 対策）も取り込んだ授業をこちらが熱心に行った結果ですので、当然、アンケート結果は好結果がでないとおかしいような条件でした。全項目平均値以上でしたが、1 点考えさせられたのは、「授業のための予習復習」項目に対してどう対応するかです。私も、相対的にこの項目の満足度は低く（この項目のみ 3.0）、しかし全体平均値も 2.0 と更に低いことがわかります。適量、適レベルの宿題をだし、宿題をやってきた達成感を持ってもらうための仕組み（小テスト等）をする、ということしか現在は思いつきません。毎回の小テストは実際に実施しておりました。もう少し宿題量が多かったり、複雑な内容であっても（モチベーションの高い学生たちだったので）良かったのかもしれないと思っています。

④特にありません

⑤特にありません

①松本葉子

②相談援助演習Ⅴ、相談援助演習Ⅲ

③演習Ⅴ：教員が 2 週ごとに代わるので、クラスごとに試験の予告や内容についての連絡がばらばらだったのが課題だと思う。各教員の専門の事例を教授できるのでメリットもあると思うので、統一の試験についての連絡をきちんとすればよりよいと思う。

演習Ⅲ：グループワークの演習だったが、学生が主体的に取り組んでいた。学生の主体性やグループ分け、モチベーションの維持に今後も努めたい。

④特になし

⑤特になし

①宮脇文恵

③(1) 授業冒頭の、学生からのリアクションペーパーへのフィードバックの時間を 5 分程度短縮する。

(2) レポート提出について、授業内の提出とするかどうか、検討する。

(2)については、15回しかない授業回数を減らしたくない、という思いもあります。「学校がないのに、レポート提出のためだけに学校に来るなら、授業中の提出が良かった」との声も分かりますが、検討させて下さい。

①向井敦子

②心理学概論Ⅰ 教育心理学 社会心理学実験研究法 社会・臨床心理学研究法

③心理学概論Ⅰ：今年から受講生がこれまでの約半数になったので、フィードバック用紙等に対してこれまで以上にきめ細かく対応できるようになった。アンケート結果は、これまでは学部平均より低いことが多かったが、今年はほぼ学部平均と同値になり、200名以下の人数が授業内容に対して有効に作用することが明らかである。授業への積極的な取り組みを行うように、課題等を工夫したが、まだ十分ではない。特に授業中の発言が少ない点が問題である。事前の予習と、意見を述べやすい状況を構成することが課題である。

教育心理学：今年は昨年の3分の2程度の受講生で、心理学に関する基礎知識にばらつきがあっても参加者は好意的に評価していた。特に授業内容に関する評価が高いことは教育問題への関心と興味を掘り起こした効果であろう。今後はもう少し自主的に学習する態度を高める工夫が必要である。

社会心理学実験研究法：学生たちが主体的に取り組みことを強調して授業だったにもかかわらず、授業内容に関する評価がやや低かった。2年レベルでは、「教えてもらうこと」に依存している結果であろう。授業への積極的取り組みは、学部平均より高いことは、この授業の特徴と有効な点を表している。今後は自立的に学習する態度をさらに高めていく工夫が必要である。

社会・臨床心理学研究法：3年生の演習科目である本授業は、学生の主体的な取り組みに重点を置いている。アンケート結果も、学生の取り組み方は学部平均よりかなり高い。それでも教員の目配りを求める声があるので、今後は個別の対応も考慮していく必要があるだろう。

④受講者が200名以下に抑えられたことは、とてもよかったが、できれば100名以下が望まれる。教室のPC等はかなり改善されてきている。

⑤まだまだ「待ち」の姿勢の学生が多い。ノートもとらず居眠りしている学生も見受けられる。主体的に学習に取り組むことを意識してほしい。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2013（H25）年度後期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①秋山恵美子

②こころとからだの理解B

③科目平均点が 4.50 の結果より、知識の定着をめざすための小テストをこれまで通り実施します。授業開始より興味を引くことに心掛けるため、これまで通りトピクスや私の直近の体験談を多く取り入れた授業を展開します。そのため自己研鑽は常に心掛けて参ります。Q15 の値に関しては、予習復習を兼ねた小テストへの準備不足からの結果と思えます。テスト回の時には、予習している学生さんと、準備せずに望む学生さんがはっきり二極化されていますので、意識向上に向けた声かけや時間配分にも配慮していきたいと思えます。Q16 では、授業態度はみなさん大変真面目に聴いてくださり、内面に秘めた積極的な授業態度で授業に参加していました。

④可能であれば、学生さんの席を定着してくださるとお名前が早く覚えることができ、双方向の授業が可能になると思えます。⇒名前でお呼びしたいです。

⑤ございません。

①足立英彦

②心理学特別セミナーB

③人間関係学部全体の平均値と比較して、「学生の理解度を考慮した授業進行」と「出席率」に関する評定値が低いため、来年度の授業に向けた課題であると把握致しました。本年度は、分からないことなどあれば提出する小論文の用紙の余白に質問を書くよう依頼し、書かれた質問に対応するという措置をとりました。来年度は、「質問欄」を設けた用紙を小論文の回答用紙として用いるなどの対策をとり、より質問しやすい状況を作り出すことで、授業内容のよく分からなかった点について受講生からフィードバックを受け取れるようにしたいと考えております。出席率に関しては、講義内容を聴くことの重要性を十分に説明し、出席率が成績に反映されるという点をこれまで以上に強調するといった対策を考えております。

アンケートの自由記述部分について：心理系の大学院受験を目指す受講生と、就職の採用試験を目指す受講生の課題内容を分けて欲しいという要望がありましたが、現在でも別々の課題を用意しております。初期の段階では、論理的な文章を組み立てるための練習がどちらのグループにも共通して必要であるとの考えに基づき、同一の課題に取り組む形をとっております。受講生の皆様にはご理解をいただきたいと考えております。また、「負担を減らしてほしい」という要望がありましたが、小論文の訓練を行い、論理的な文章を構成する能力を高めることを目標とした授業ですので、実際に文章を書く練習はおろそかにできません。「課題が多く、力がつきそうな内容でよかった」という感想もありました。この点につきまして、訓練の重要性をお伝えしたつもりでしたが、説明が不十分だったかもしれません。訓練を行うことが必要な理由と、そこから得られるメリットについて、より丁寧に説明をしていきたいと考えております。

④特にありません

⑤特にありません

①足立英彦

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③人間関係学部全体の平均値と比較して、「質問や意見を引き出し積極的な参加を促進する」という点と、「自習」に関する評定値が特に低いため、来年度の授業に向けた課題であると把握致しました。質問や意見に関しては、数回に1回リアクションペーパーの提出を求めるなどの対策をとり、受講生からのフィードバックを受け取れるようにしたいと考えております。また、授業内で小テストを行うなどして、自習率を高めることを検討したいと思います。

アンケートの自由記述部分について：受講生の私語に関する苦情が複数ありましたので、来年度は、「私語をした受講生の退室」を含めた、より厳正な対処をしていきたいと考えております。

④授業中、机間巡視をし、私語をしている学生の注意をしてくださるアシスタント・ティーチャーの導入は可能でしょうか。ご検討いただけますよう、お願い申し上げます。それが難しいようでしたら、講師自身が机間巡視をしながら授業進行を行うこととなりますが、その場合は授業の進行が遅れたり、講師が説明に集中できないといった問題が生じる可能性もあり得ます。また、講師が机間巡視を行うために、ワイヤレスマイクが毎回使用できるようご準備いただければと考えております。本年度はワイヤレスマイクがある時と、すぐに見当たらない時があり、試してみてもうまく音が出ないことがあったため、使用しておりませんでした。

⑤受講生の大変多い授業になりますので、少しの私語が大変迷惑になります。「私語をしない」という最低限のマナーを守れない方には受講を控えていただきますようお願いいたします。

①池田靖雄

②コンピュータ基礎 B

③各回の授業内容について休んだ時のために授業資料がほしいという意見があったが、資料を用意しなかった回があったので、できるだけ資料を作成するとともに、現在作成したものの充実を図る。また、授業内容の定着が悪いようなので、課題内容に復習となるものを増やす。

④特にない

⑤特にない

①池見正剛

②環境の社会心理学

③全項目中、半数が平均程度、残りの半数が平均より多少低かった。特に低かった項目がNo16（授業への積極的参加）、No5（学生の積極的参加を促した）であった。講義形式ながら、多少演習形式も織り交ぜた授業を行ったが学生から意見を積極的に引き出すに至らなかった。内容の専門性が高いこと、学生の消極的態度、情報の伝達を最優先したことなども原因と考えられるが、学生の思考力や知識水準に配慮して、たとえナイーブな意見でも積極的に引き出す努力をしていきたい。No17（発展的に学びたいと思った）の評価

も平均より低かったのは非常に残念であった。専門的内容ながら学生の興味を惹くような意外性の高いトピックスを丹念に織り交ぜプレゼンテーションも画像を多く用意し、具体性の高い説明を行ったつもりなので、この点に関しては、学生側にもう少し、社会や世事への関心を日ごろから持ってもらい、知識欲と問題意識を養ってもらうようお願いしかない。

- ④ダウンライトがあると、プロジェクターの画面を鮮明に映しながら、手元も明るく筆記しやすくなります。現状は画面を鮮明に映すために、手元が暗くなって、学生への負担が大きいです。
- ⑤上述しましたが、授業への積極的参加態度と、社会的な問題意識を身に付けていただきたいです。

①伊藤美登里

②恋愛と結婚の社会学

③引き続き、板書やパワーポイントの提示の仕方の改善を図ります。

④ありません

⑤ありません

①浦尾和江

②介護技術

③科目の選択や学習の参考になるようにシラバスに分かりやすく表示する。

④社会福祉実習等で高齢・障がい者施設の実習に行く学生は、初任者研修または介護技術を受講することとなっているが、介護実習室のベッド数が8、履修者の上限は40名まで。

⑤2コマ続きの授業であり、実技については休まず出席のこと。

①江川直子

②社会理論と社会システム

③受講生122名のうちアンケート回答者は97人で、回答率は約8割(79.5%)であった。

以下、特に気をつけたい項目について記していきたい。設問1「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」について。声が小さく聞き取りづらいとあったので、今後は大きな声ではっきりと授業するように気をつけたい。設問11「授業の内容はよく理解できるものであった」について。各項目の説明をより詳しくして、学生の理解度を考慮しながら進めていきたい。設問15「この授業のために予習、復習合わせてどの程度自習しましたか」について。今年度は、この項目の平均点が極端に低かった。授業における内容の理解が、その科目に対する興味・関心を引き起こして、自然と予習、復習に結びついていく。その意味で、授業の内容に興味をもてるように工夫をしていきたい。自由記述に、黒板に書く字が小さい、見えづらいというのがあった。今後はパワーポイントを使っていきたい。

④昨年要望しておりました7127教室の黒板が塗りなおされていきました。有難うございました。

⑤授業で使用するテキストは、必ず持ってきてほしい。

①大島隆代

②相談援助演習 I

③1限からの授業で遅刻が多かったが、定時から出席している学生への配慮のためにも、遅刻に関する指導を行う。

④冬季には1限からのため、教室内で寒さを訴える学生が多数いた。

⑤特になし。皆さん真面目に取り組んでいました。

①大橋邦吉

②キャリア・ディベロップメントプログラム I

キャリア・ディベロップメントプログラム II

③グループワーク中心の授業なので、学生にまかせっきりになっている部分が多かったためもう少し積極的に各グループに関わり、グループワーク中の相談にのるなどしていきたいと思う。

④施設や設備に関しては改善点はありません。教室がパソコン室に近かったため、グループワークの最中に調べ物をするためにパソコン室に行けたので、来年度もパソコン室の近くの教室で行わせていただきたい。

⑤グループワーク中心の授業のため、欠席すると他のグループメンバーに迷惑がかかるため、なるべく欠席をしないようにしてもらいたい。また、積極的にグループメンバーと関わり、お互いからも学ぶ意識を持ってもらいたい。

①小川 浩

②障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II

③評定が低かったのが「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」の項目である。次回の範囲、予習すべき内容、自主的に学ぶべきポイントなどを示すように心がけたい。また、「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」の項目もやや低くなっているが、なかなか双方向授業の行うゆとりがない。リアクションペーパーなどで質問を引出し、次の授業で回答するなどの方法を試みていきたい。

④特になし

⑤特になし

①小野智明

②コミュニケーション技術 A

③本授業は1年生を対象にコミュニケーションの大切さを実体験を元に学ぶ目的で実施したものである。その内容はグループに分かれてのワークを通じて対人援助の基本的なスキルの習得を目指したものとして設定している。クラスの人と仲良くなれたという意見もあり、話し合うこと、意見を述べ合い、認め合うという体験の大切さを学んだものであると受け止めてくれたことは喜ばしいことであった。今後は主体的な学びにつなげ、さらにお互いの価値観を認め合えるようなワークを取り入れていく予定である。

①小野智明

②コミュニケーション技術 B

③本授業は3年生を対象に、コミュニケーションの大切さを実体験をもとに学ぶ目的をもって実施したものである。その内容はグループに分かれてのワークを通じて対人援助の基本的なスキルの習得を目指したものとなっている。学生の様子からは、概ね主体的に学んでいた様子が伺えるが、自分の意見を述べ合い、意見を収斂させていく経験をさらに積み上げる必要性はあるだろう。そのためにはワークを行うだけでなく、対人援助のスキルを高めるために振り返りの時間を多くとり入れた授業構成を考えていきたい。

①香月菜々子

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③出席のカウンターの仕組みについて、前年度はくりかえし説明を求める人が多かったため今年度、全体に対して説明する機会をやや増やしたところ、「その時間に授業を進めてほしい」との意見が学生から寄せられた。毎年の受講生の性質も異なるので一概には言えないが、来年度の受講生の状況を見ながら、回数を減らす方向で検討しつつ、一方でリアクションペーパーをじっくり書く時間を確保できるのではないかと考えている。

④PCの立ち上がりが遅いので、毎回講義が終わるために電源を切るのではなく、できれば一日中、PCは立ち上げたままにしていただけるとありがたいです。本講義は大教室での授業となりますが、受講生が今回のように100~120名前後ですと150名や200名規模に比べ、情報の伝わりが格段によく、学生の学習環境としてほどよいと感じました。

⑤私語は、ほかの受講生の迷惑になるので、講義が始まったら謹んで欲しいと思います。

①加藤浩治

②コンピュータ基礎 B、コンピュータ応用

③できる限りゆっくりと説明が出来るように心がけたい。また、毎回授業のねらいを学生たちに説明することは達成できたようだが気をぬかないようにしたい。

④教育設備はたいへん整っていて必要十分です。また、3225室のコンソールが施錠不要となり助かっています。

⑤ありません。

①亀山晶子

②自己過程の心理学

③進め方、授業内容、総合印象において高い評価をいただき、ありがとうございます。ただ、取り組みについて「予習・復習」や積極的参加が低かったため、今後は自主学習の方法を明示し、授業内でも積極的に参加してもらえるような構成にしていきたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①亀山晶子

②臨床社会心理学

③総合的に高い評価をいただきありがとうございます。授業のための予習・復習や積極的な参加が低かったため、補足資料などを用意し、各自が自習できるように工夫していきたいと思います。また、授業内容に関連したワークや作業を取り入れ、実践的に学べるような構成にしていきたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①川廷宗之

②「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ」「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助演習Ⅳ」「教職実践演習」「社会調査実習」「教育実習指導Ⅰ」

③少人数のクラスでは、個別指導をもう少し重視していきたい。多人数のクラスでは、一部力量の低い学生への対応も踏まえて、自己学習課題の工夫を一層進めたい。

④多人数のクラスでのレポートの点検や変化様には非常の手間がかかる。T.A.が活用出来るように、積極的に進めてほしい。

⑤私の担当科目に関しては、よく頑張っていると思う。出来ればもう少し指示待ちではない積極的な学習活動を期待したい。なお、今後これらの授業で行なってきたような予習や復習などの学習を、他の授業でも行ってほしい。大学なのだから多少難しいのは当然。努力すれば理解で来たり成長の実感を味わうことで報われる。

①金成陽一

②地域と文化

③この点に関して、もう三十年以上も前にある大学の検討メンバーになって、苦勞した記憶があります。いま、私が切実に思っているのは、こうしたアンケートは無記名ではいけないということです。学生は既に大人（しかもインテリ）なのですから、十分に責任を持って発言すべきでしょう。教師が自分の著書を紹介したり、印刷物を配っても「単なる自慢」と受け取る学生は、恐らく学問云々以前の問題があるのではないのでしょうか。つまり、質問をするとか、（これは講義終了後でもいいのです）、そうしたレベルではなく、「話が長い」とか「うっとうしい」とか、「意味のない課題を出すな」、というのは（私などどうでもいいけど）学生の教師に対する建設的な提言とはとても思えません。私にはそこに悪意しか見いだせないのです。

④以前、本務校（いわき明星大）で何年間か 350 名ほどの学生を受け入れたことがあります。階段教室だったので、教師には学生の動向が良く把握できました。7127 教室は奥行きがあり、後ろの学生たちは（何度注意しても）平気で出入りを繰り返しておりました。少なくとも一番後ろのドアは外側から施錠しておいたら如何でしょうか。教務課に依頼もしたのですが、そのようなことは出来ぬとの回答でした。一回だけでもどなたかが外で頻繁に出入りする学生に注意するだけでも、大いに改善するのではないかと愚考しているのですが・・・。

⑤私が一番驚いたのは（これも教務課には申し上げましたが）、講義中に堂々と食事をしている学生が（二人も）いたことでした。しかも一人は、怒られたことに驚いていたので、更に驚きました。恐らく、注意なされない先生がいらっしやったのかもしれませんが、残念

ながら、ガイダンスでは小学生に聞かせるようなマナーについて話さなければならないの
かもしれませんね。

①金 美辰

②介護の基本 B、介護過程Ⅱ－B、介護総合演習Ⅱ、社会福祉学基礎セミナーⅡ

③全体的に高い評価を頂きました。講義科目では、「先生の話し方は明瞭で聞き取りやす
かった」「この授業は自分の将来にとって意味があると思う」「授業の内容はよく理解でき
るものだった」「総合的にこの授業を受けて良かったと思う」の項目が高く評価されてい
ます。演習科目においては、「授業の目標がはっきり示された」「授業の内容は興味深いも
のだった」などが高く評価されています。今回の結果を踏まえ、授業内容や課題を工夫し
ながら、学生の将来にとって意味のある授業、わかりやすい授業を展開していきたいです。

④特にありません。

⑤特にありません。

①久米秀作

②A:スポーツ C B:レクリエーション実技 C:レクリエーション論

③A:スポーツ C では、屋外種目（テニス、ゴルフ）を中心におこなった。両種目とも初心
者に対する指導を重点的に実施したが、このことが質問項目 10. 11 そして特に 16 にお
いて学部全体平均を上回った理由であると考えられる。

B:レクリエーション実技では、本授業の目的を指導者養成においていることから、授業形
態はグループワーク中心で行われた。ここでは質問項目 13. 16 が特に学部全体平均を上
回る結果になったが、確かに実際の授業風景を見ている、参加した学生が授業を進める
ごとにチームワークを良くしていくことが読み取れた。今回受講した学生たちの積極的な
姿勢・態度に賛辞を送りたい。

C:レクリエーション理論では、上述のレクリエーション実技の理論的背景を学ぶことを目
的としているが、レクリエーション指導への関心度には各学生に温度差があるように思え
る。その結果が質問項目 16～19 において学部平均を下回る結果としてできたと考える。

④③に関連して、昨年もこの欄で書かせていただいたが、できれば受講生数を限定して講義
を実施することはできないだろうか。例えば、現在 1 クラスで実施している授業を 2 ク
ラス二分割するなどをご検討いただきたい。

⑤特にありません。

①倉田量介

②現代社会論セミナーⅡ

③特に批判的なコメントはなかったが、より知的欲求に合ったテーマを設定し、自発的な学
習意欲を向上させたい。

④やはり半期ごとの受講者異動も認めたほうが、需要と供給のバランスをとりやすいと思
います。人数的には私語も少なく、適切と考えます。設備や環境への不満はありません。

⑤感想紙やレポートを介する記述にはみるものがあつた。ただ、口頭の議論に参加する積極
性も欲しい。

①藏野ともみ

②精神保健福祉論Ⅱ、社会福祉学基礎セミナーⅡ、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助実習事後指導、社会調査実習

③学生との双方向の授業を心がけていると、授業の進み方が遅くなることがあります。そのことを事前に学生に周知はしていますが、特に国家試験の指定科目については進めていくことも大切な要素です。今後もバランスを常に意識して授業に取り組んでいきたいと思えます。また、講義と位置づけられている科目もロールプレイを取り入れる等、学生に取り組んで貰う形態で進めています。50人規模では受講生全てにフィードバックができていないこともあると思えます。学習効果を考えながら工夫していきたいです。

④特にありません。

⑤講義・演習・実習に関わらず、全ての科目で毎回課題を提示しています。授業と課題の一つ一つの積み重ねで半期の科目として成り立たせています。学年が上がるにつれて、その課題も自己管理が必要になってくるように組み立てています。中期的に取り組む力、予測する力、全体を捉える力を付けて貰いたいからです。自分で成果を実感するには少し時間がかかりますが、サポートは惜しみませんから一緒に学びましょう。

①小谷 敏

②人間関係総論Ⅰ

③「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という項目の評価が極端に低かったことが反省点です。今年からクラスを社会学とそれ以外の二つに分けた結果、静粛な空気のなかで授業を行うことができたのは非常によかったです。しかし、福祉心理の学生さんに十分興味のある内容であったかは反省すべき点もあります。

④特になし

⑤私の体調を気づかうコメント多く、さすがにケアを学ぶ学生たちは優しいなと思えました

①佐々木宰

②生活支援技術E

③今回は都合により、標記1科目しかアンケートを実施できませんでした。カテゴリー別にみると、4項目ともほぼ平均並みで、「授業への取り組み」がやや平均を上回っていました。介護福祉士が身につける生活支援技術のうち、食事、入浴などの基礎を終え、終末期や重度要介護状態にある利用者への介護を、医学的側面だけでなく福祉職として「尊厳を守る」という点に主眼を置いて進めました。視覚教材を使用してイメージを膨らませたことや、技術演習時のアドバイスが的確であったことを評価するコメントがありました。反面、医学的な知識やテクニックだけでなく介護に取り組む自らの基本姿勢（介護観）を含めて身につけ、そのために自身の態度、技術を自ら繰り返し振り返る必要があると繰り返し投げかけてきたため、学生からは「とても熱心」という声とともに「学生のためとはわかっているが、くどくど言われるとやる気が低下する」という声もあった。この科目は今年度初めて担当したが、これまで他科目においてもこのような指摘はされており、まだまだ改善のための工夫が必要と思われる。

④現在のところ、特にありません。

⑤現在のところ、特にありません。

①佐藤富士子

②人間関係総論Ⅳ、生活支援技術 A-1、介護過程Ⅰ

③④ 受講者数が人間関係総論（191名）、生活支援技術 A-1（25名）、介護過程Ⅰ（25名）と受講者数に幅がある。人間関係総論のアンケート結果は人間関係学部全体平均とほぼ同じ数値を示していた。学生は受講生が多い、パワーポイント等で室内が暗くなること、室内が暑い等で居眠り多くなると話しており、当科目も該当している。学生から「身近な話題について学べて、とても楽しかったです。知識を日々の生活に生かせればよいなあと思いました」というコメントがあり、もう少し改善が必要と思われます。一方、生活支援技術や介護過程は少人数であり、学生の顔を一人ひとり見ながら反応を確認しながら授業を進めることができる利点があり、学生の学生評価も高かったと思われる。

⑤「教室寒いです」というコメントがあり、冬の1限は早めに当校してくる学生には寒く、授業後半になると暑く等、大きな部屋の室温調整は配慮が必要です。受講者数は、100人以下がベストだと思います。

⑥「どのような条件でも眠らないで頑張りましょう」と言いたいです。

①嶋貫真人

②社会保障論Ⅱ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低い項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目No.3）」と、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同No.5）」の2つであった。前者に関しては、本授業が TA ボランティア（以下「TA」と略す）を導入している科目であることから、開講前に TA の方との間で、授業中の私語等の問題への対応方法に関して、一定の打ち合わせをして授業に臨んだつもりであった。しかし、実際の授業の中では、問題への対応が両者の狭間に落ちてしまう場面が多く見られた。たとえば、教師の耳には授業中にかすかな私語が聞こえてくるのだが、それが教室のどこで発生しているのか教壇からは特定することができず、かといって TA の方も同時にその私語が聞こえているとは限らないというような場面である。次年度においては、上記のような反省に基づき、私語への対応については、基本的に教員の責任で行うという方針で臨むことにしたい。後者に関しては、過去度の授業アンケートにおいても指摘されたことがある項目で、例年かなり意識して「何か質問はありませんか？」という、こちらからの問いかけの機会を設けているが、まだそれが不足していたということであろう。次年度においては、さらにこのような時間を多くつくっていく必要があると考えている。

④特になし

⑤疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人

②更生保護制度

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低くなった項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目No.3）」、「学生の理解度を考慮した授業進行（同No.4）」、

「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同No.5）」、「授業への積極的参加（同No.16）」の4項目であった。No.3の原因分析・今後の改善策に関しては、上記「社会保障Ⅱ」と同じ。No.4に関しては、今年度の本授業では最近の制度改正の動き等、従来の授業で取り上げなかった新しい項目を盛り込んで、密度が濃くなりすぎたことが原因ではないかと思われる。次年度は授業内容の精査を行なう必要があると考えている。No.5の原因分析・今後の改善策に関しては、上記「社会保障Ⅱ」と同じ。No.16に関しても、No.5と一体の問題としてとらえるべきであると思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉援助技術現場実習事後指導

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低くなった項目は、「授業出席率（質問項目No.14）」であった。しかし、この点については、教員の側で改善に向けた工夫ができる余地は少なく、現行の授業スタイルのまま進めるしかないと思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低くなった項目は、「予習・復習等の自習をしたか（質問項目No.15）」であった。しかし、本科目は、そもそも自宅学習を求めるような内容の授業ではないので、上記のアンケート結果は、授業内容の性格上やむをえないものであると思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会調査実習

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低くなった項目は、「授業出席率（質問項目No.14）」、および「予習・復習等の自習をしたか（質問項目No.15）」の2項目であった。No.14に関しては、学生の就職活動のピークと授業期間が重なったことによるもので、ある程度仕方ない結果であろう。No.15に関しては、「毎回予習をしてから授業に臨むように」と、本ゼミがスタートした3年次の4月に指導を行ったときの「初心」を、いつの間にか失ってしまったことの結果であろう。残念なことではあるが、前記No.14と同じく、今期の学生の主たる関心事が就職活動の方に向けてしまっていたこともあって、ある程度やむをえない結果であるとも思える。

④特になし

⑤特になし

- ①関田 誠
- ②英語ⅢB
- ③自学習をより促すような授業の組み立てをしていきたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

- ①関田 誠
- ②社会福祉学基礎セミナーⅡ
- ③予習・復習をさせるように授業を再構築していきたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

- ①高橋克典
- ②精神保健福祉論Ⅲ
- ③精神保健福祉士の受験資格取得を目指す3年生が主な受講生だったため、講義による知識学習を基本とした。加えて知識を応用する応用学習的な演習を取り入れた。それは具体的な制度やサービスの活用により如何に精神障害者が地域で生活するシステムが必要であるかを理解できるようになるためである。一方で、受験資格取得を目指している訳でない学生もおり授業に対する主体的な取り組みに課題が残った。前者の学生もそうであるが、予習、復習、毎回の授業のポイントを整理させることが次年度に向けての改善点である。
- ④教室は AV 機器の関係で教室変更してもらった。迅速な対応していただき感謝している。12名という受講生は、講義としては展開しやすい人数であった。
- ⑤特に要望はなし。しっかりと授業に取り組んでくれた印象である。

- ①高橋克典
- ②精神保健Ⅱ
- ③精神保健Ⅰの講義を担当してない分、学生の理解度、関心度など随時学生の反応を見ながらシラバスの内容に修正を加えた。その点は、昨年度の課題であったが、今年度はその点が改善できたと振り返る。一方、受講生は2名で2名とも精神保健福祉士の受験資格取得を目指している学生ではなかったため、如何に関心を持って主体的に授業に取り組んでもらえば良いかが課題ではあった。次年度は、受講人数も変わってくるだろうが、予習、復習、毎回の授業のポイントを整理させることは改善点としたい。
- ④上記とも関連するが多様な精神保健の課題とその支援について取り上げていく科目である。講義が中心であるが演習的な要素を取り入れた問題解決型の学習も取り入れたい。そのためには、受講者数が10名程度はいると望ましい。
- ⑤特に要望はなし。精神保健福祉士の資格取得を目指しているわけではない2名学生だったが、積極的に参加してくれていたのはとても印象的だった。

- ①竹田幸司
- ②介護の基本 E

③本科目は新たに知識を学ぶことは少なく、これまでの学習や実習を通した学びを再確認し考えることで自分なりの介護観を構築していくことに主眼をおいた。そのため、内容が漠然としていたり、答えがはっきりと見える性質の学習ではないため、わかりにくく感じたり、とまどいを覚える学生もいたように思われる。このあたりが、アンケート項目Ⅱ、授業の内容についての評価に現われているように思う。次年度は、内容を体系的に整理するとともに学習の到達度を示し取り組むとともに、リアクションペーパーを活用し学生の理解度、疑問、要望を取り入れながら授業内容の質を高めていきたいと思う。

④特になし

⑤積極的な授業参加を期待します。

①田中 優

②対人行動セミナー

③概ね、よい評価であったと思う。

1) 良かったと思う点の自由記述から、授業のねらいについて、しっかりと学生が把握していることがわかった。

2) 改善した方が良いと思う点、および、3) その他の意見や要望などについては、「記述なし」であったことから、大きな問題がないように思われる。

④学生の発表を中心としている授業のため、学生が病気等で欠席した場合、授業が次の週に繰越となる。受講者数 26 人であったため、補講を 2 時間ほど追加する形で授業を行った。受講者数については、22~24 名程度が望ましいと思う。

⑤平成 25 年度の受講生は、非常にプレゼンテーション能力が高かった。発表の準備、発表時の創意工夫を十分に行って発表を行い、質疑応答もしっかりと行い、発表後のリアクションペーパーの内容を今後に生かせるように、積極的な受講を求める。

①田中 優

②社会心理学概論

③概ね、よい評価であったと思うが、学生の授業に対する動機づけを少しでも高める工夫は今後も続けていきたい。具体的には、授業の説明の仕方、学生がより理解しやすい事例、視聴覚資料等を工夫して使いたい。

④前の方は、席が空いているのに「後ろの方の席だと声が聞き取りづらい」「あまりうるさい生徒には退室するなどの処置をとってほしい」という意見があった。座席指定にすれば、問題は多少解消するかもしれないが、学生の授業態度の改善を促すようにしたい。

⑤毎回、授業の感想をリアクション・ペーパーに書くことを求めているが、殆ど内容が無い、数行程度の感想の学生がいる。授業への積極的、主体的な取り組みを求めたい。

①玉置佑介

②現代社会理論

③設問 No.5 が全体的に低い数値であったため、今後は「参加型」の講義内容を重点的に増やす予定です。ただし、当方は毎講義、リアクションペーパーの提出を求めており、その内容（全文を文書化）を次週の講義時に配布してあります（講義の導入として使用）。そ

の結果を元に前回講義で不足している説明について補足し、学生の誤解などをその都度、解消してきたつもりであります（簡単な復習の実施）。本年度は「無記名」でリアクションペーパーを配布しておりましたが、次年度では氏名を提示し、記述内容について数名の学生に毎講義、直接質問してみたいと思います。また、設問 No.15 および 16 についての数値も低かったと思われます。No.15 につきましては予習・復習と自習に関する項目であり、たしかに当方の講義では特別そのようなアナウンスをして参りませんでした。次年度では、講義毎の重要ポイントについて、次週までの確認事項として復習する旨、学生たちに伝達を徹底したいと思います。また、No.16 につきましては、講義中の質問などの項目ではありますが、先の No.5 の設問とも関連する事柄であると思われますので、次年度では「参加型」の講義内容の重点的增加とともに自発的な「質問」がなされるような学生との「距離感」も意識しながら講義に取り組んで参りたいと思いますので、今後とよろしくお願ひ申し上げます。

- ④施設・設備に関する問題はまったくございません。受講者数につきましても、当方の開講時限が 5 時限目ということで 15 名前後となっており、致し方ないと思っております。逆にいえば、この少人数受講を活かした「参加型」学習の可能性を今後は模索して参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
- ⑤とくにはありませんが、相対的に出席して下さった学生さんの出席率と欠席しがちな学生さんがはっきりと分かれたように見受けられました。担当講義は、毎回のオムニバス形式ではなく、前週の講義内容をベースにした講義を展開しております。そのため、継続的な出席が前提である事をもう少し意識的に自覚してくださればと思います。また、受講態度につきまして、当方からの「投げかけ」や「質問」などへの積極性があまり見受けられなかったと思われます。当方との「距離感」も問題としてはあると思われますので、次年度以降、学生とのコミュニケーションを多くとっていき、講義時の「投げかけ」や「質問」への積極性を発揮できる講義環境の整備に努めて参りたいと思っております。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－B

- ③この科目から TA ボランティアを導入しました。学生からは賛否両論の意見がありました。これを受け止めつつ、講義の質の向上を考えた授業に取り組んでいきたいと思っております。また、リアクションペーパーで書かれた質問を次の授業で回答しました。これは、前回の復習にもなり、学生自身がどこを聞き漏らしたか、また、学生自身の苦手な部分を自分で気づくことができたとのコメントもありました。これからも双方向の授業を目指す一環として続けていきたいと思っております。

④特になし

- ⑤対人援助の実践を目指すうえでの基本的な科目です。課題に対する取り組みに、多少差が出てきました。実習に行くかどうかを迷う時期でもありますが、福祉的思考を身に着ける意味でもしっかり取り組んでほしいと思います。わからない、不安があるときには、是非聞きに来てください。しっかりサポートしたいと思っております。

①丹野真紀子

②相談援助実習事後指導

③学生の取り組む姿勢が素晴らしいと思います。特に、全体平均で低い 15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」 16「授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した」 17「この従業をうけて、さらに発展的に学びたいと思った」の項目も全て 4.0 以上です。現場実習を終え、それを踏まえて学んだことが定着するように授業も行いました。授業中に出来ることが限られており、学生には自宅でまとめる作業もたくさんしてもらいましたが、それを熱心に取り組んだ結果と考えます。これからも、しっかり学生一人一人を大切に指導していきたいと思います

④特になし。

⑤社会福祉の現場で学んだことをいかに身に着け、今後に生かすかを学べる授業です。に見つけたことを定着させるためには、学生自身の努力も必要です。躓いたり、わからないことがあったときには相談に来てほしいと思います。実際今年度、多くの学生が尋ねてくることで、立ち止まることなく前に進めていました。積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－B

③今年度の、この科目をソーシャルワークの集大成と位置づけ、実践力を身に着ける、また、社会福祉の援助の考え方を身に着けることを目標に授業を行いました。結果、多くの事例を使用し、学生に考えてもらうよう工夫したところ、100 人を超す講義科目ではありますが、15「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」が 3 ポイント近くになっていました。この経験を活かし専門科目として難しい科目ですが、学生がより理解しやすい授業を続けたいと思います。

④特になし

⑤課題の取り組みに差が出てきたと感じています。事例を読み、考えることは、国家試験にもつながることです。考える力をつけてほしいと思っていますので、しっかり取り組んでほしいと思います。また、サポートが必要なときは支援しますので、リアクションペーパーなどを積極的活用するとともに尋ねてきてほしいと思います。

①辻 泉

②風景論

③特になし

④7247 教室で、プロジェクターの光源について、電源を切らずにブラインドにできる機能があるとうれしい。いったんプロジェクターの電源を落としてしまうと、再び立ち上げるのに時間がかかる。それで、授業の話の流れが中断するのがいやなので、授業開始時にいったん立ち上げておいて、そのまま授業をして、映像使用時にプロジェクターを使うようにしている。だが、開始時に立ち上げておくと、その光が黒板に当たって、不快に感じる学生が一部いるようである（昨年、一昨年はいなかったが）。なので、こうした学生に対応する必要があるのであれば、プロジェクターの光源を電源を切らずに、ブラインドにする機能があるとありがたい。

⑤学生証の携帯を徹底していただきたい。出席管理システムを使っているが、毎回、学生証を忘れた学生の対応に追われることになり、かえって不便である。非常勤の教員が授業中に指摘してもよいことがらだが、学生生活全体にかかわることであれば、貴学で日頃ららご指導いただきたい。

①寺島拓幸

②現代社会論セミナーⅣ

③個々の学生が主体的にテーマ設定、調査、報告、ディスカッションをするゼミのようなスタイルで授業をおこなっている。そのため、項目Ⅲが平均よりも相対的に高くなり、項目Ⅰ-2、Ⅱ-8、Ⅱ-9が低くなると思われる。今後は、初回のオリエンテーションだけではなく各回の授業で学習の目標を繰り返し提示したい。また、講義的な内容を少し挟むことで体系的に把握しやすい授業を目指したい。

④履修者数に応じたちょうどよいサイズである。

⑤毎年繰り返しているが、他学生の報告のときであっても積極的に発言してほしい。

①長坂和則

②精神保健福祉援助演習Ⅱ

③教材に関してプリントによる授業の際、プリントでの意図や授業展開を明確にすべきであったと考えます。今度は一人ひとりの理解を高めるよう配慮して臨みたい。

④パソコンが使用できる環境があればパワーポイントによる授業が可能となりました。

⑤特になし

①長坂和則

②精神科リハビリテーションⅡ

③学生一人ひとりに対して配慮が足りなかったのではないかと考えます。学生の個性をみつめながら、授業内容に興味を深められるように臨みたい。

④パソコンが使用できる環境があればパワーポイントによる授業が可能となりました。

⑤特になし

①長坂和則

②精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

③新カリキュラムと旧カリキュラムの狭間によってテキストの内容とシラバスの記載に統一がはかれなかったかと思えます。精神保健福祉士の国家試験を意識した結果であると考えます。国家試験を受けない学生に対する配慮を考えながら授業を展開すべきであると考えます。

④パソコンが使用できる環境があればパワーポイントによる授業が可能となりました。

⑤特になし

①中野陽子

②相談援助演習Ⅰ

③多くの項目で平均以上の結果をいただき、特に、授業内容が将来に意味あるものだと捉えている学生が多かったことが嬉しく感じております。反面、演習の授業であるにもかかわらず、出席の項目では平均を下回ってしまい、もう少し意識づけさせるような声掛けを行えばよかったと思いました。

④特になし

⑤みなさん、真剣に取り組んでくださいました。

①西河正行

②臨床心理学セミナー

③質的研究法の代表例として **KJ** 法を取り上げている。毎年、分かりやすい授業になるように工夫を重ねてきた。その結果、初めてどの項目も学部の平均値に並んだことは良かったと思う。しかし、**KJ** 法を自力で使えるようになるまで教えるのは難しく、**KJ** 法の考え方、使い方の概略を教えるにとどまる。自力で使えるようにするためには、35 人ほどの学生の理解状況に合わせた個別指導をしなくてはならない。現状は、レポート返却と授業での説明だけであり、個々人に合わせた手取り足取りの指導はできないでいる。そのため、教員の期待ほどに授業内容を理解した人は多いとは言えない。その背景に、学生の基礎学力の問題がある。**KJ** 法はデータをカード化することから始まるが、経験を文章化してデータ化することそのものが難しいという根本的な問題点がある。そこで、授業目標をやや修正して、経験を文章化すること、それを簡潔に要約することを丁寧にしていく必要があると思う。

④現状の授業目標を前提とすると、上記の問題を解消するために受講者数を 15 人程度にしてほしい。ゼミ室で机を寄せさせてグループ学習をしているが、プロジェクター設備がない部屋を使っているので難儀をしている。設備のある教室は机の移動ができない。

⑤毎月数冊の読書とか、毎日、新聞を読む習慣を付けるなど、日ごろの積み重ねをしてほしい。

①林原玲洋

②現代社会論セミナー IV

③前期に比べて改善しているものの (1.85→2.79)、依然として以下の項目の得点が低い結果となっています。設問 15 「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」このような結果になったのは、学生による個人発表を中心に進めた後半の授業が、「発表者以外は予習・復習を必要としない形式」だったからではないかと考えています。来年度は、「まとまった発表を各回数人おこなう形式」から、「小さな発表を毎回全員おこなう形式」に近づけることで、授業に緊張感をもたせたいとおもいます。

④講義室のディスプレイはスライドを映すには小さいようなので、スクリーンとプロジェクターを設置していただくと助かります。

⑤レポートなどを書く際にわからないことがあったら、事前に質問・相談するようにしましょう。試験とは異なり、レポートは、教員を利用して完成度を高めることができます。

①平野恵子

②現代社会論セミナー II

③受講者の興味関心に沿うような文献選択をおこないたい。ワークショップの回数を増やすなど、授業中の積極的参加をさらに促すような方策を講じたい。

設問 15 について：毎回講読文献感想を前日に送付してもらっていましたが、予習ととらえられていないようなので、感想送付の意味が明確になるよう受講者に提示する。

④なし

⑤なし

①福島哲夫

②臨床心理学セミナー

③セミナー科目であったので、質問 2 の「資料提示」、質問 4 「学生の理解度の考慮」、質問 9 「授業の構成」等は、やや低い点数となった。その逆に学生の積極的な参加、接し方の公平さ等は高い得点となった。今後は、セミナー科目でありながらも、上記の項目である程度高い評価を得られるように工夫していきたい。

④教室が狭すぎた

⑤特になし。

①古田雅明

②臨床心理学セミナー

③学生の評価はかなり高かった。去年まで課題であった、私語の注意などの項目も高い評価となっていた。本授業は今年度で終了となり、他の必修科目に統合されるが、今年と同様に学生が受講して満足できるような授業を行いたい。

④教室が狭くて苦勞した。受講生が 36 名であり、教室のキャパシティも 36 名であった。秋は空調を最大パワーにしても猛烈に熱く、冬になっても空調をせずとも暑いと学生が言うくらいであった。

⑤非常にまじめにしっかりと課題に取り組んでいたのがやり易かった。今後の卒論に向けて、もう少し予習だけでなく、復習もするようにして欲しい。

その他：社会・臨床心理学専攻がオムニバス形式で担当している人間関係総論Ⅱの授業アンケートはどのように実施すれば良いのか、教えていただきたいと思っております。これは、8 人の専任教員が 1 から 2 回ずつ専門領域について講義しているものです。この授業アンケートの結果は、各教員に配分されるのか、あるいは、一人の代表の先生に帰属するのかなどがよく分かりませんでした。今後、この授業アンケートが教員評価とリンクする可能性があるようですので、オムニバスの場合、どうなるのか、明確にさせていただけると助かります。

①干川剛史

②社会学概論Ⅱ（火 1）／社会調査及び演習Ⅱ（火 4）／社会学基礎セミナーⅡ（水 3）／情報社会論（木 2）

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火 1）（107 人）／情報社会論（木 2）（65 人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低いが、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学

生の扱いが公平である、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。しかし、遅刻者に対して何らかの措置をしてほしいという要望があった。また、学生の興味を持てるように講義内容を工夫するだけでなく、話し方に改善が必要であり、さらに、授業の復習・導入・展開それぞれの部分に簡単な課題を入れるなど、多くの学生に満足のあるような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅱ／社会学基礎セミナーⅡは、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

- ④講義形式の授業は、100人前後になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。
- ⑤私語を防止するために座席指定で授業を行っているが、一部の受講生ではあるが、指定された座席に座らずに仲間と隣り合って私語をしており、他の受講生に迷惑なので、決められた席に座って静粛に授業を受けてほしい。また、教科書を読んで予習してほしい。次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀米史一

②相談援助演習Ⅰ

③授業の進め方や内容については良い評価を頂けたと思いますが、学生の予習・復習の項目が低かったことから今後学生にその点を促すような仕組みを構築する必要があると考えます。

④特になし

⑤特になし

①堀 洋元

②<対人行動セミナー>、<社会・臨床心理学基礎セミナーⅡ>、<人間の成長と心理>

③<対人行動セミナー>20名程度と比較的少人数の授業のため、質疑などの発言をしやすい環境にあったが、それでも消極的な受講生が若干みられた。発表者のプレゼンをもとに質疑や討論をするスキルを習得できるよう、視聴覚機器の利用環境を整えた上でその促進と向上に努めたい。

<社会・臨床心理学基礎セミナーⅡ>受講生が主体的に心理学実験に取り組み、心理学研究の枠組みを修得できるような授業進行をしていきたい。

<人間の成長と心理>大教室の授業で、かつ3学部の学生が受講する授業であったため、受講生の興味や関心の幅が広く、その分授業内容を絞り込むのが難しかった。しかし、PowerPoint や配布資料、視聴覚教材を使用した授業展開を受講生は肯定的にとらえていたので、manabaによるリアクションペーパーの活用も含めて来年度もよりよい内容へと改善していきたい。

④<人間の成長と心理>スクリーンが前方1ヶ所しかないため、字幕付きの映像資料を使用しづらかった。字幕を配布資料にするなどの対応も可能ではあるが、設置の必要性が感じられた。

⑤とくになし。

①町田章一

②社会調査実習

③アンケートの対象となっている学生が 9 名でなので、回答の内容は比較的良い評価が多く、総合的な評価も学部の平均を少し上回った。特に、「さらに発展的に学びたい」「新しいものの見方ができるようになった」という項目に比較的良い評価をした学生が多かった点は嬉しい。今後とも学生の好奇心、学習意欲、自立心を高めるような授業をして行きたいと考える。

④物理的な条件はほぼ備わっていると考ええる。

⑤今後とも自主的に考え、判断し、行動して行くよう希望しています。

①三橋真人

②「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助演習Ⅳ」

③両科目ともについて、「授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」という点で評価してもらったことは良かったと思う。次年度以降、「授業のための毎回予習及び復習」が宿題だからということだけでなく、学習の主体者として、「知る」ことの楽しさ、知的好奇心を引き出せるように、私もさらに努力をして、予習・復習が促進されるように工夫した取り組みを考えていきたい。

④特にありません。

⑤真面目な学生たちだと思いましたが、今後も目標に向けて勉学に頑張ってもらいたいと思います。

①壬生尚美

②「生活支援技術 D」「介護の基本 D」「介護総合演習Ⅳ」

③「生活支援技術 D」では、授業内容によって、実際に効果の検証などを試み、各自の関心を高められるような工夫をした。今後も単に技術習得だけの授業にならないよう、理論学習や実験的な内容を取り入れていきたい。「介護の基本 D」では、多職種連携の理解を習得するにあたり、各自の実習施設の経験を踏まえるなど具体的な内容に結び付くように工夫した。後半は、施設ケアと在宅ケアの特徴について討議し、個人課題で調べ学習を行ったが、学生の個別意見から、授業全体の流れ、毎回の授業の進め方などもう少し整理して授業展開ができる良かったかも知れない。「介護総合演習Ⅳ」は、前年度の成果物もあり、具体的に理解しやすくスムーズに展開できたため、今後につなげたい。

④特になし

⑤特になし

①向井敦子

②心理学概論Ⅱ

③前年度に比較して受講生が約半数の 100 人程度になったので、教室も大講義室ではなくなり、学生の受講態度も良くなり、授業自体はやりやすくなった。前回までは評価が低

かった「授業の進め方」「授業内容」に関しても学部の平均を上回ることができた。教育環境が以下に重要であるかを示すものである。今年度は、予習・復習を課題としてチェックする体制を取ったので、学生からは「大変だったけど身についた」という意見が寄せられた。その結果が「授業への取り組み」へと反映されたと思われる。次年度は、さらに積極的に授業に取り組めるように改善していきたい。

- ④ 1) 机といすが固定式だと、学生同士で話し合う時に制限がある。ぜひ個別式の机といすに改善して欲しい。
- 2) スライドの解像度が不十分である。
- 3) 毎週の課題チェックには相当の労力が必要である。100 人程度の授業であっても、TAをつけていただきたい。
- ⑤ 課題だから仕方なくやるのではなくて、みずから主体的に授業に取り組んで欲しい。授業中に話し合ったりそれを発表する時間を設けているので、積極的に参加して欲しい。

① 八城薫

② 社会・臨床心理学基礎セミナーⅡ、社会心理学調査研究法Ⅰ

- ③ 授業目標や課題内容、授業計画をより具体的に示し、学生が、学習の見通しを付けながら課題に取り組めるようにします。具体的には、実習や課題のメ切等の予定を含んだ詳細な授業計画を初回授業時に配布することにします。
- ④ 必修授業のため、各自 1 台の PC を使用しての授業が出来ない状態であり、この点についての改善要望もありました。学生全員が各自の PC をどの教室でも使用でき、教員 PC と双方向で授業が行える環境が必要です。
- ⑤ 自主的な学習に抵抗感が強いようです。大学の基礎系授業は、単に楽しく聴ける講義ではなく、分からないことを自分で勉強出来るようになる力を身に付けていただくようなプログラムを考えています。授業に対する受け身の姿勢を、是非能動的な姿勢に変えていただきたいと思います。

平成25年度人間関係学部FD委員会

委員長 小谷 敏 (人間関係学科、社会学専攻、教授)

委員 町田 章一 (人間関係学部長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)

西河 正行 (人間関係学科長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)

小川 浩 (人間福祉学科長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)

福島 哲夫 (人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)

丹野 眞紀子 (人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)

佐々木 宰 (人間福祉学科、介護福祉学専攻、助教)

平成25年度 人間関係学部FD活動報告書

平成26年6月発行

非売品

発行 大妻女子大学人間関係学部

ningengakubucho@otsuma.ac.jp

〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部FD委員会

印刷・製本 株式会社相模プリント

〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17

TEL 042-772-1275

FAX 042-774-1913

